

# 島名境松遺跡 島名前野東遺跡

島名・福田坪一体型特定土地地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅤ

平成19年3月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第281集

しま な さかい まつ  
島名境松遺跡  
しま な まえ の ひがし  
島名前野東遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅦ

平成19年3月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団



島名前野東遺跡全景（南西方向から）



方形居館掘立柱建物群完掘状況

## 序

茨城県は、世界的な科学研究の中心であるつくば市において、国際都市にふさわしい街づくりを推進しております。新しい街づくりの一環である「つくばエクスプレス」の新線開通は、つくば市と東京圏を直結させることによって人・物・情報の交流を盛んにし、地域活性化の大きな力になるものです。そこで、平成6年7月に茨城県、つくば市、地権者が三者協議で合意に達したのを受け、新線整備と沿線開発を一体的に行う土地区画整理事業が進められております。

この予定地内に埋蔵文化財包蔵地である鳥名境松遺跡、鳥名前野東遺跡が所在していたため、財団法人茨城県教育財団は茨城県から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け、平成11年4月から発掘調査を実施しました。その成果の一部は、既に当財団の文化財調査報告第191集、第215集として刊行しています。

本書は、平成15・16年度に調査を行った鳥名境松遺跡と平成15～17年度に調査を行った鳥名前野東遺跡の調査成果を取録したもので、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人 茨城県教育財団  
理事長 人見 實 徳

## 例 言

1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成15～17年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市大字島名字漆4034番地ほかに所在する島名境松遺跡、同市大字島名字前野3849番地の2ほかに所在する島名前野東遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調 査	島名境松遺跡	平成15年12月24日～平成16年1月8日 平成16年9月1日～平成16年10月19日
	島名前野東遺跡	平成15年12月1日～平成16年1月31日 平成16年7月1日～平成16年9月30日 平成17年7月1日～平成17年7月31日
整 理		平成18年4月1日～平成18年5月31日 平成18年8月1日～平成19年3月31日

3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下のものが担当した。

島名境松遺跡

平成15年度

首席調査員兼班長	萩野谷 悟	主任調査員	黒澤 秀雄
調査員	梅澤 貴司		

平成16年度

首席調査員兼班長	吉原 作平	首席調査員	横倉 要次
----------	-------	-------	-------

島名前野東遺跡

平成15年度

首席調査員兼班長	萩野谷 悟	主任調査員	黒澤 秀雄
調査員	梅澤 貴司		

平成16年度

首席調査員兼班長	吉原 作平		
首席調査員	横倉 要次	平成16年7月1日～平成16年8月31日	
主任調査員	小松崎和治	平成16年7月1日～平成16年7月31日	
主任調査員	田月 淳一	平成16年7月1日～平成16年7月31日	
副主任調査員	駒澤 悦郎		
調査員	越田真太郎	平成16年9月1日～平成16年9月30日	

平成17年度

首席調査員兼班長	吉原 作平	調査員	小林健太郎
----------	-------	-----	-------

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理第二課長大森雅之のもと、主任調査員小松崎和治が担当した。

5 本書の作成にあたり、方形居館跡については、大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館教授小野正敏氏に御指導いただいた。

## 凡 例

1 2 遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし、鳥名境松遺跡はX軸 = +5,400m, Y軸 = +20,520m, 鳥名前野東遺跡はX軸 = +6,040m, Y軸 = +20,560mの交点を基準点 (A 1a1) とした。なお、抄録には世界測地系に基づく緯度・経度を ( ) を付けて併記した。

この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し、さらにこの大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C……, 西から東へ1, 2, 3……とし、「A 1区」、「B 2区」のように呼称した。さらに小調査区も同様に北から南へa, b, c……j, 西から東へ1, 2, 3……0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1区」、「B 2b2区」のように呼称した。

2 遺構・遺物番号は、第191集、第215集からの継統である。

3 実測図、一覧表、遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 SI-住居跡 SB-掘立柱建物跡 SD-溝跡・堀跡 SK-土坑 SA-欄跡 SE-井戸跡

P-柱穴 PG-ピット群 K-攪乱

遺物 P-土器 TP-拓本土器 DP-土製品 Q-石器・石製品 M-金属製品 G-ガラス製品

土層 K-攪乱

4 土層解説中の含有物については、各々総量で記述した。土層と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

5 遺構及び遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・釉・赤彩

 炉・火床面

 甕部材・粘土・黒色処理

 煤・油煙・柱痕・礎盤石

● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 △ 金属製品 ☆ ガラス製品 --- 硬化面

6 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、500分の1とし、各遺構の実測図は60分の1の縮尺で掲載することを原則とした。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にしたが、種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで示した。

7 「主軸」は、炉・甕を持つ竪穴住居跡についてはそれを通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。「主軸、長軸(径)方向」は主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E)。

8 遺物観察表・遺構一覧表の表記は次のとおりである。

(1) 現存値は ( ) で、推定値は [ ] を付けて示した。計測値の単位はm, cm, g で示した。

(2) 遺物観察表の備考欄は、残存率及び写真図版番号、その他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号については通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号は同一とした。

## 抄 録

ふりがな	しまなさかいついせき	しまなまへのひがしいせき						
書名	島名境松遺跡	島名前野東遺跡						
副書名	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次	Ⅲ							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第281集							
著者名	小松崎和治							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL.029-225-6587							
発行日	2007年(平成19年)3月23日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
島名境松遺跡	茨城県つくば市 大字島名字漆 4034番地ほか	08220 391	36度 02分 54秒  (36度 03分 05秒)	140度 04分 02秒  (140度 03分 50秒)	13 ~ 19m	20031224 20040108 20040901 20041019	973㎡	島名・福田坪一 体型特定土地区 画整理事業に伴 う事前調査
島名前野東遺跡	茨城県つくば市 大字島名字前野 3849番地の2ほ か	08220 389	36度 03分 11秒  (36度 03分 22秒)	140度 03分 44秒  (140度 03分 32秒)	14 ~ 19m	20031201 20040131 20040701 20040930 20050701 20050731	1,726㎡  5,552㎡  2,217㎡	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
島名境松遺跡	集落跡	縄文	堅穴住居跡 土坑	5軒 1基	縄文土器(浅鉢・深鉢・注口土器・ ミニチュア土器)、石器(磨石)、 土製品(管状土製品)			
	その他	時期不明	溝跡 土坑	1条 37基	縄文土器(浅鉢・深鉢)、石器(彫 器・打製石斧・磨製石斧・磨石)、 石製品(石棒)、土製品(土器門板)			
島名前野東遺跡	集落跡	古墳	堅穴住居跡 土坑	25軒 1基	土師器(坏・甕・埴・高坏・鉢・壺・ 甕・瓶・加器台・手捏土器) 須恵器(甕) 土製品(勾玉・白玉・球状土錘・ 支脚・紡錘車) 石器(砥石)、石製品(勾玉・白玉・ 紡錘車・双孔門板・剣形模造品)、 ガラス製品(小玉)			
					奈良・平安	堅穴住居跡	4軒	土師器(坏・甕) 須恵器(坏・長頸瓶・鉢・甕) 石器(砥石)
	居館跡	中世	方形区画堀跡 掘立柱建物跡 欄跡 溝跡 土坑 ピット群	1条 6棟 1条 7条 9基 3か所	土師質土器(小皿・皿)、陶器(壺・ 播鉢) 鉄製品(釘) 古銭			
墓跡	中世	火葬土坑	5基	土師質土器(小皿・皿)				
その他	時期不明	溝跡 井戸跡 土坑 ピット群	24条 1基 78基 1か所	土師器、土師質土器、陶器(碗・鉢)、 磁器(碗)				
要約	島名境松遺跡は縄文時代中期から後期にかけての集落跡である。調査区は地上に広がる大集落跡の縁辺部にあたり、その一部と考えられる。島名前野東遺跡は旧石器時代から中世までの複合遺跡である。特に中世の方形居館跡の全容が明らかになり、1町四方の堀に囲まれた中に主屋と考えられる掘立柱建物跡が確認された。							

# 目 次

序	
例言	
凡例	
抄録	
目次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 鳥名境松遺跡	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	8
1 縄文時代の遺構と遺物	8
(1) 竪穴住居跡	8
(2) 土坑	18
2 その他の遺構と遺物	22
(1) 溝跡	22
(2) 土坑・出土遺物	23
(3) 遺構外出土遺物	31
第4節 まとめ	34
第4章 鳥名前野東遺跡	37
第1節 遺跡の概要	37
第2節 基本層序	37
第3節 遺構と遺物	40
1 古墳時代の遺構と遺物	40
(1) 竪穴住居跡	40
(2) 土坑	113
2 奈良・平安時代の竪穴住居跡と遺物	114
3 中世の遺構と遺物	122
(1) 堀跡	122
(2) 掘立柱建物跡	130
(3) 欄跡	147
(4) 溝跡	148
(5) 土坑	157
(6) 火葬土坑	165
(7) ビット群	169
4 その他の遺構と遺物	173
(1) 溝跡	174
(2) 井戸跡	176
(3) 土坑	176
(4) ビット群	189
(5) 遺構外出土遺物	189
第4節 まとめ	192
写真図版	
付図	



# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

平成6年8月18日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及び取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成6年9月19日～27日に現地踏査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成8年11月18日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県知事あてに、事業地内に鳥名境松遺跡、鳥名前野東遺跡が所在する旨を回答した。

平成11年3月31日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して文化財保護法第57条の3(現 第94条)の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、同日、茨城県知事あてに工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成15年2月26日、平成16年3月24日、平成17年3月9日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成15年2月26日、平成16年3月24日、平成17年3月15日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県知事あてに、鳥名境松遺跡、鳥名前野東遺跡について、発掘調査の範囲及び面積について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、鳥名境松遺跡は、平成15年12月24日～平成16年1月8日、平成16年9月1日～10月19日まで発掘調査を実施することとなった。鳥名前野東遺跡は、平成15年12月1日～1月31日、平成16年7月1日～9月30日、平成17年7月1日～7月31日まで発掘調査を実施することとなった。

## 第2節 調査経過

鳥名境松遺跡、鳥名前野東遺跡の調査経過の概要を表で記載する。

鳥名境松遺跡工程表

工程	平成15年度		平成16年度	
	12月	1月	9月	10月
調査準備 表土除去 遺構確認		■		
遺構調査			■	■
遺物洗浄 注記作業 写真整理			■	■
補足調査 撤収				■

鳥名前野東遺跡工程表

工程	平成15年度		平成16年度			平成17年度
	12月	1月	7月	8月	9月	7月
調査準備 表土除去 遺構確認	■		■			■
遺構調査	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 注記作業 写真整理	■	■	■	■	■	■
補足調査 撤収		■			■	■

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

鳥名境松遺跡は、茨城県つくば市大字鳥名字漆4034番地ほか、鳥名前野東遺跡は茨城県つくば市大字鳥名字前野3849番地の2ほかに所在している。つくば市は、標高25～50mの洪積台地である常総台地の筑波・稲敷台地に占められている。2遺跡が所在する筑波・稲敷台地は、つくば市の西部を流れる東谷田川と西谷田川に挟まれた北西及び南東方向に延びる舌状の台地である。

鳥名境松遺跡の調査区域は、台地の縁辺部に位置している。調査区は標高19mほどから、北東方向に向かって緩やかに傾斜しながら低くなり、最も低い所で標高13mほどである。周辺は主にアカマツやクスギなどの平地林と畑地が分布し、東谷田川沿いに広がる沖積低地には肥沃な水田地帯が広がっている。鳥名前野東遺跡の調査区域は、東谷田川に面した標高18～19mの台地北側の縁辺部に位置している。東谷田川に沿った北側の低地は開発が進み、つくば市と東京を結ぶつくばエクスプレス万博記念公園駅があり、その標高差は6～8mである。

この台地の地質は第四紀更新世の木下層、竜ヶ崎砂層及び常総粘土層、関東ローム層から構成されている。木下層は浅い海の堆積物で、ところにより貝化石を多量に含む砂質な地層である。また木下層にはいくつかの火山灰層があり、約12～13万年前に形成されたものと推定される。それを覆う竜ヶ崎砂層は河川の流路堆積物で、厚さは最大で7mで主に粗粒な砂より形成されている。常総粘土層は竜ヶ崎砂層上部の泥質層で、河川の後背湿地の堆積物である。両層の形成年代は約13～6万年前と推定されている。さらにその上部には関東ローム層が重なり、厚さは1～3mである。常総台地の関東ローム層は、南関東の武蔵野・立川ローム層に相当する<sup>3)</sup>。

### 第2節 歴史的環境

東谷田川、西谷田川流域の筑波・稲敷台地の中央部や縁辺部、東谷田川支流の蓮沼川右岸の台地上には、遺跡が数多く存在している。ここでは、鳥名境松遺跡(1)、鳥名前野東遺跡(2)と同時代の遺跡を中心に、分布状況等の概要を述べることにする。

縄文時代中期には、小貝川左岸の台地及び東谷田川、西谷田川に挟まれた台地で遺跡が確認される。鳥名境松遺跡<sup>2)</sup>では当財団の平成12年度の調査で縄文時代中期の竪穴住居跡32軒、炉跡3基、土器地成遺構1基、土器埋設遺構1基、土坑135基を確認している。時期は阿玉台I b式期から加曽利EⅣ式期までの4期に分けることができる大規模な集落である。特に、土器焼成遺構は住居跡が9廃絶した後に転用されたと考えられ、加曽利EⅢ式期を中心とした土器が多量に出土している。谷田部漆遺跡<sup>3)</sup>(3)は鳥名境松遺跡の南、約1kmに位置している。平成12年度の当財団の調査で陥し穴4基が確認されている。

西谷田川に面した台地の縁辺部に立地している境松貝塚<sup>4)</sup>(38)は、つくば市谷田部の代表的な貝塚であり、中期から後期にかけての土器や石器が出土している。主な貝種は、主に汽水系のオキシジミ、ムラサキガイ、シオフキ、ヤマトシジミなどである。小貝川に臨む台地上に立地する真瀬山田遺跡(6)は、中期から後期の土器が広範囲にわたって出土し、大規模な集落跡の可能性が推測できる。鳥名境松遺跡の周辺では、西側に隣接する鳥名カタド遺跡(28)と北側に隣接する鳥名一町田遺跡(27)が位置し、中期から後期にかけての土

器が出土している。鳥名前野東遺跡の西側に隣接する鳥名前野遺跡<sup>3)</sup>(5)からは中期の陥し穴が確認されており、この台地では、この時期から本格的に人々の生活が営まれるようになったことをうかがい知ることができる。

古墳時代の遺跡は、鳥名関の台古墳群(13)、面野井古墳群(14)、下河原崎古墳群(16)などの中小の古墳群が数多く確認されている。大規模な古墳はなく、その大半が径7～25mの円墳である。鳥名前野東遺跡周辺では、約1km北側の鳥名熊の山古墳群(21)、さらにその1km北側に鳥名関の台遺跡(30)が位置している。集落跡としては、鳥名前野東遺跡、鳥名前野遺跡、谷田部漆遺跡、鳥名熊の山遺跡<sup>7)</sup>(4)、鳥名薬師遺跡(10)がある。鳥名前野東遺跡<sup>6)</sup>では、平成11～13年の当財団の調査によって、中期から後期にかけての竪穴住居跡53軒、方形周溝墓3基、土坑10基が確認されている。今回の調査でも同時代の住居跡が確認されている。谷田部漆遺跡では、当財団の平成12・13年の調査で中期の竪穴住居跡26軒、土坑4基が確認された。古墳時代から奈良平安時代にかけての大規模な集落である鳥名熊の山遺跡<sup>7)</sup>は、集落としての起源は前期に求められ、6世紀後半の大規模開発を契機として、つば市鳥名地区の中心集落として発展したと考えられる。この過程で鳥名前野東遺跡との関連も考えられる。

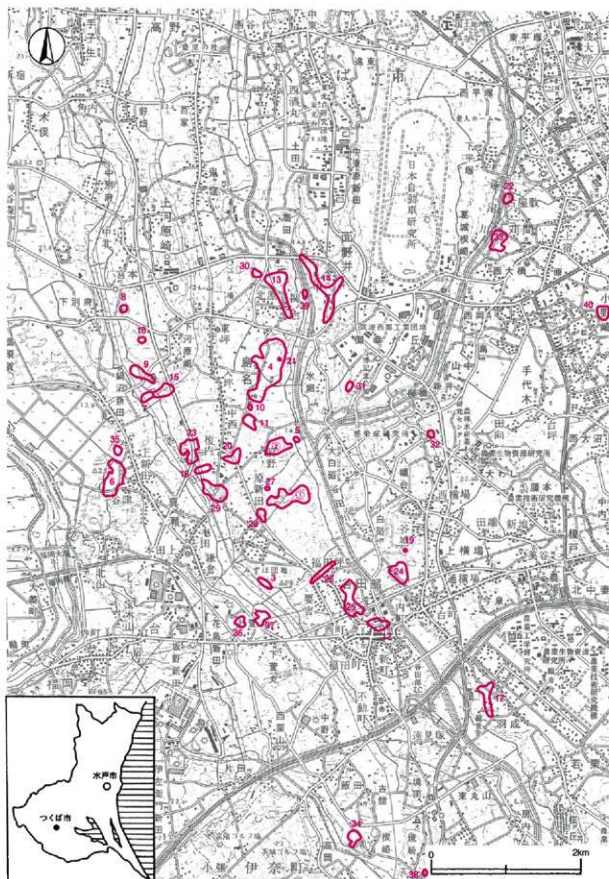
奈良・平安時代には、『和名類聚抄』<sup>8)</sup>によれば、谷田部地区は河内郡八部郷といい、かつて、仁徳天皇の后矢田若郎女のために谷田部を置いたところと言われている<sup>9)</sup>。また、鳥名も『和名類聚抄』にある「嶋名郷」に比定されている。鳥名前野東遺跡では竪穴住居跡16軒、掘立柱建物跡6棟などが確認されている。鳥名熊の山遺跡では平成7年度から平成17年度までの当財団の調査によって、8世紀代の0.7町規模で方形に巡る溝やこの溝を囲むように三つの掘立柱建物群が確認された。さらに、10世紀になると、他の集落が消滅していく中で鳥名熊の山遺跡だけが集落を継続させており、存続期間や集落としての規模が傑出している<sup>10)</sup>。

谷田部地区は12世紀後半、常陸平氏本宗平直幹の支配下であり、常陸西南部をおおう広大な開発地の常安保として南野牧とともに村田荘の一部であった。12世紀末には田中荘、下妻荘を分出し、谷田部地区の大部分は田中荘域に入る。田中荘の下司職は多気義幹に、村田荘、下妻荘の下司職は下妻広幹に伝えられたと推測されている。

中世に入ると、鎌倉幕府の成立後、八田知家の入部により義幹は没落し、田中荘は八田氏(小田氏)の支配下に入る。霜月騒動(1285年)により、一時北条得宗家の支配下になるが、室町時代になり、また小田氏の手に戻っている。当時、小田氏配下の土豪には小野崎の荒井氏、菊間の野中瀬氏、鳥名・面野井の平井出氏がいたと伝えられる<sup>11)</sup>。

中・近世の遺跡は、つば市谷田部では城館跡がほとんどであり、谷田部城跡(12)、小野崎館跡(40)、菊間城跡(22)、面野井城跡(39)、熊の山城跡、高須貫城跡などがある。鳥名前野東遺跡では、平成11～13年度の当財団の調査で、居館跡が2か所確認され、方形に巡る館の堀跡から大量の土師質土器が出土している。東館跡は調査区中央部の標高16～17mの緩斜面部、西館跡は東館西の標高18～19mの台地平坦部に位置している。確認された西館の堀跡は一边が1町(114m)四方で方形に巡っている。今回の調査は西館の西部を調査区に含んでおり、西館の全容をほぼ明らかにするものである。また、利根川、牛久沼を経て移動してきた六軒党という人々が鳥名地区に居を構え、周辺を開拓していったという伝承もある。なお、近世の谷田部地区の大部分は谷田部藩領になっており、鳥名地区は旗本領である。

※文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1の該当番号と同じである。



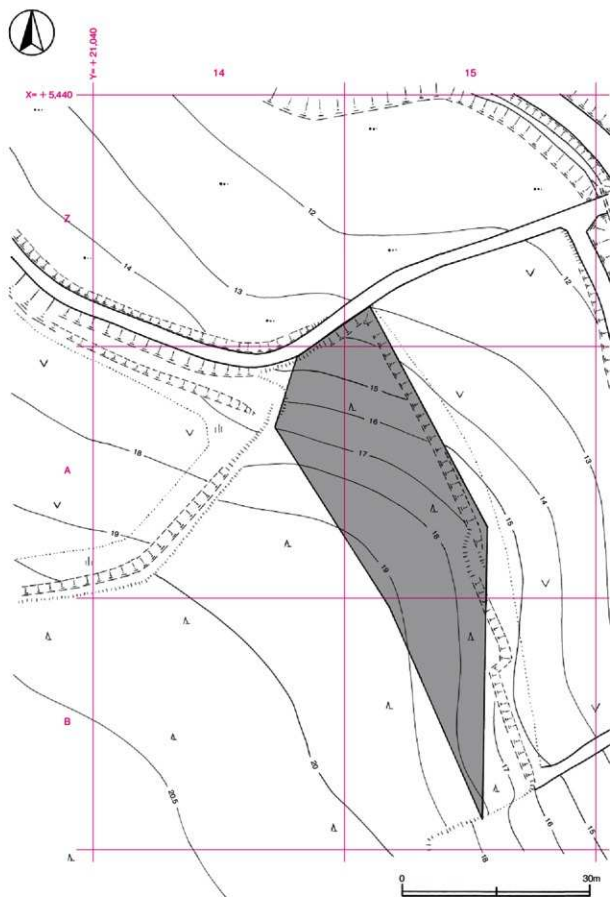
第1図 島名境松遺跡・島名前野東遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院5万分の1「土浦」)

註

- 1) 日本の地質 『関東地方』編集委員会 『日本の地質3 関東地方』 共立出版 1986年10月
- 2) 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司 「鳥名前野東遺跡、鳥名境松遺跡、谷田部漆遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 (財)茨城県教育財団 2002年3月
- 3) 註2に同じ
- 4) 久野俊彦 「主要地方道取手英波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 境松遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第41集 (財)茨城県教育財団 1987年3月
- 5) 福田義弘 「鳥名前野遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 (財)茨城県教育財団 2001年3月
- 6) 飯泉達司 「前野東遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第215集 (財)茨城県教育財団 2004年3月
- 7) 田中幸夫・酒井雄一・田月淳一・松本直人・桑村裕 「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第264集 (財)茨城県教育財団 2006年3月
- 8) 池邊 彌 『和名類聚抄郡縣里驛名考證』吉川弘文館 1981年2月
- 9) 中山信名 『新編常陸国誌』叢書房 復刻版 1978年12月
- 10) 茨城県考古学協会シンポジウム実行委員会 「古代地方官衙周辺における集落の様相—常陸国河内郡を中心にして—」茨城県考古学協会 2005年2月
- 11) 谷田部の歴史編さん委員会 『谷田部の歴史』谷田部町教育委員会 1975年9月

表1 鳥名境松遺跡・鳥名前野東遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世
①	鳥名境松遺跡		○	○				21	鳥名熊の山古墳群				○			
②	鳥名前野東遺跡		○	○	○			22	胡間城跡						○	○
3	谷田部漆遺跡		○	○	○			23	鳥名ツバタ遺跡	○	○					
4	鳥名熊の山遺跡		○	○	○	○	○	24	谷田部台成井遺跡	○						
5	鳥名前野遺跡		○	○	○	○	○	25	谷田部福田前遺跡	○	○	○				
6	真瀬山田遺跡		○					26	谷田部大堰遺跡						○	○
7	下河原崎高山遺跡			○	○			27	鳥名一町田遺跡	○						
8	元宮山前山							28	鳥名タカドロ遺跡	○	○					
9	下河原崎谷中台				○			29	鳥名榎内南遺跡							
10	鳥名栗師遺跡				○			30	鳥名関の台遺跡							
11	鳥名八幡前遺跡				○	○	○	31	水堀遺跡				○			
12	谷田部城跡						○	○	32	柳橋谷津遺跡				○	○	
13	鳥名関の台古墳群				○				33	胡間神田遺跡	○	○	○	○	○	○
14	面野井古墳群								34	根崎遺跡	○	○	○	○	○	
15	下河原崎高山古墳群				○				35	真瀬山田北遺跡	○	○				
16	下河原崎古墳群				○				36	真瀬三度山遺跡	○	○	○			○
17	羽成古墳群				○				37	上堂丸古屋敷遺跡	○	○	○		○	○
18	鳥名榎内遺跡								38	境松貝塚	○	○	○			
19	谷田部カウド塚古墳				○				39	面野井城跡					○	○
20	鳥名榎内古墳群				○				40	小野崎館跡					○	○



第2図 鳥名境松道跡調査区設定図

## 第3章 島名境松遺跡

### 第1節 遺跡の概要

島名境松遺跡は、つくば市大字島名字津4034番地ほかに所在し、東谷田川に面した台地縁辺部の緩やかな傾斜地に位置している。調査前の現況は平地林及び畑地である。調査面積は973㎡である。今回の調査区は、平成12年度の調査区域からは東に約400m離れている。

今回の調査で、縄文時代中期から後期の集落跡であることが判明した。遺構は、縄文時代の堅穴住居跡5軒、土坑1基、時期不明の溝跡1条、土坑37基が確認されている。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に9箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢、浅鉢、注口土器、ミニチュア土器）、石器（彫器、打製石斧、磨製石斧、磨石）、石製品（石棒）、土製品（管状土製品）である。

### 第2節 基本層序

調査区西南部（B15b3区）にテストピットを設定し、基本土層の観察を行った。地表面の標高は18.9mで、地表面から約1.5m掘削し、第3図のような堆積状況を確認した。

第1層は、暗褐色の腐植土層で、ローム粒子・炭化粒子を微量含み、粘性・締まりがともに弱い。層厚は20～32cmである。

第2層は、褐色で、腐植土層とソフトローム層との漸移層である。層厚は4～16cmである。

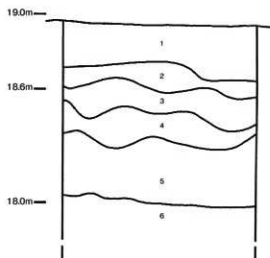
第3層は、にぶい褐色のソフトローム層である。層厚は8～18cmである。

第4層は、明褐色のハードローム層で、粘性が強い。層厚は6～22cmである。

第5層は、明褐色のハードローム層で、粘性が強く、第4層よりも締まりが強い。層厚は26～42cmである。

第6層は、黄褐色の砂質粘土層で、粘性・締まりとともに強い。層厚は下層が未掘のため不明である。

遺構は、第2層上面で確認された。



第3図 基本土層図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

竪穴住居跡5軒、土坑1基が確認された。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

##### (1) 竪穴住居跡

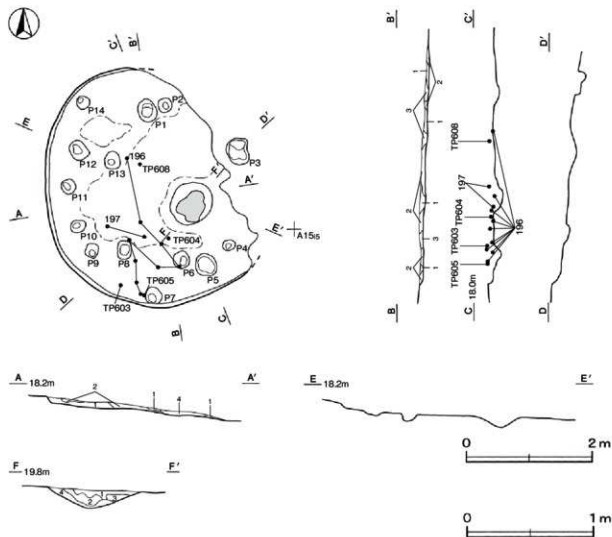
##### 第41号住居跡（第4・5図）

**位置** 調査区中央部のA15b4区で、標高17.5～18.0mの緩やかな斜面部に位置している。

**規模と形状** 東部が削平されており、確認された範囲から判断して径3.8mほどの円形と推定される。壁高は4～10cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、炉の周囲が踏み固められている。

**ピット** 14か所。P1・P3・P5・P8・P13は深さ6～14cmで、炉と硬化面を囲むような配置であることから主柱穴と考えられる。P7・P9～P12・P14は深さ7～20cmで壁に沿って巡っており、その断面は内側に傾いていることから、補助的な柱穴と考えられる。P2・P4・P6の性格は不明である。



第4図 第41号住居跡実測図



炉 中央部からやや南東寄りに位置している。長径72cm、短径64cmの楕円形で、床面をすり鉢状に16cm掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- |          |                     |          |                |
|----------|---------------------|----------|----------------|
| 1 黒暗赤褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 明赤褐色   | ローム粒子・焼土粒子中量   |
| 2 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量        | 4 にぶい赤褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 |

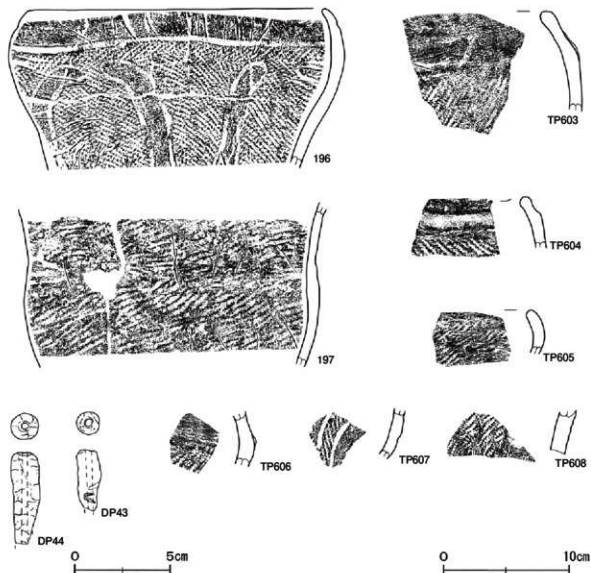
覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                |       |                   |
|-------|----------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量        | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量  |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器深鉢片89点、土製品2点(管状土製品)が出土している。土器は炉の西側を中心に出土している。196・197は、炉の西側の覆土上層から床面に散在していた破片が接合したものである。TP603・TP605は南壁際の覆土上層、TP604は炉の西側の床面、TP608は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第5図 第41号住居跡出土遺物実測図

第41号住居跡出土遺物観察表（第5図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
196	縄文土器	深鉢	23.5 (12.6)	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部は底面より数センチ高 胴部は口の縁線及び縁文	9階覆土上層	30% PL5
197	縄文土器	深鉢	-	(12.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	L Rの単節縄文施文	9階覆土上層	20% PL5

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴			出土位置	備考
DP43	管状土製品	(3.25)	1.20	1.21	(3.8)	長石・雲母	口径 0.3 cm	手捏ね	一部欠損	覆土中	PL8
DP44	管状土製品	(4.90)	1.40	1.60	(7.8)	長石・石英・雲母	口径 0.3 cm	手捏ね	一部欠損	覆土中	PL8

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP603	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部は底面より数センチ高 胴部は口の縁線及び縁文	10階覆土上層	PL7
TP604	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部は底面より数センチ高 胴部は口の縁線及び縁文	10階覆土上層	PL7
TP605	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	L Rの単節縄文施文	10階覆土上層	
TP606	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部より数センチ高 L Rの単節縄文施文	覆土中	
TP607	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	沈線間に単節縄文を充填	覆土中	
TP608	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	R Lの単節縄文施文	中央部覆土下層	

## 第42号住居跡（第6・7図）

位置 調査区中央部のA15h1区で、標高18.5～19.0mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第710号土坑、第712号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認された範囲は長径5.0m、短径4.8mの楕円形で、長径方向はN-34°-Wと推定される。壁高は16～32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、炉の周囲を中心に北部が踏み固められている。

ピット 6か所。P1・P3～P6は深さ10～19cmで、壁に沿って巡っていることから、柱穴と考えられる。P2は深さ9cmで炉の東側に位置しており、性格は不明である。

炉 北部からやや西寄りに位置している。長径84cm、短径61cmの楕円形で、床面を皿状に29cm掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

## 炉土層解説

- |       |                     |       |                     |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 3 赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 明褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

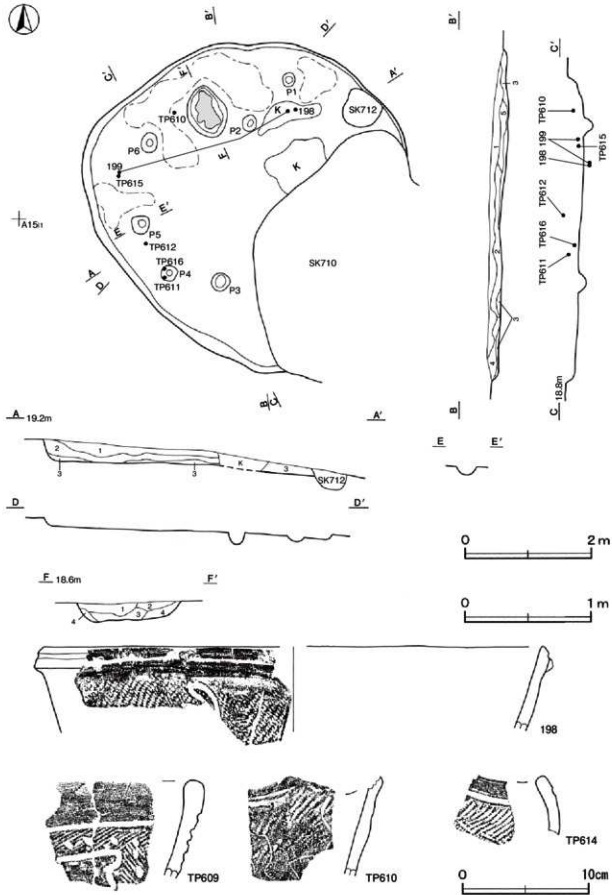
覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

## 土層解説

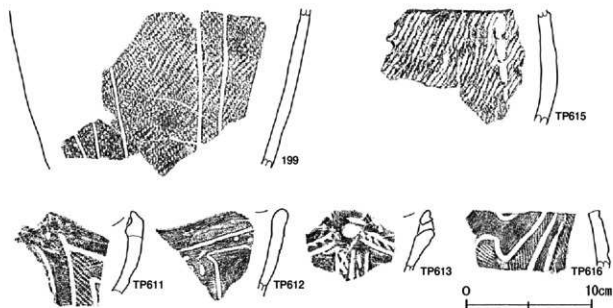
- |       |                  |       |                       |
|-------|------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量   | 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量          |
| 2 褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子微量   | 5 褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 明褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |       |                       |

遺物出土状況 縄文土器深鉢片385点が出土している。土器は炉周辺から南西部にかけて出土している。また、混入したと考えられる弥生土器壺片5点、土師器壺片2点も出土している。199は西部の覆土下層と北部の床面から出土した破片が接合したものである。198は北部の床面、TP611・TP612は南西部の覆土上層、TP616は南西部の覆土下層、TP615は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第6図 第42号住居跡・出土遺物実測図



第7図 第42号住居跡出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表 (第6・7図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文種の特徴	出土位置	備考
198	縄文土器	深鉢	[39.5]	(68)	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	L Rの単節縄文を地文とし、沈線により文様突出	北部床面	10%
199	縄文土器	深鉢	-	(127)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	胴部にL Rの単節縄文を施文 縦方向の沈線により文様突出	西部覆土下層・北部床面	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文種の特徴	出土位置	備考
TP609	縄文土器	深鉢	-	(78)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線間に刺突列を施文	覆土中	PL7
TP610	縄文土器	深鉢	-	(78)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部に沈線 L Rの単節縄文施文	北西部覆土中層	
TP611	縄文土器	深鉢	-	(66)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	沈線により文様帯を区画し、単節縄文を充填	南西部覆土上層	PL7
TP612	縄文土器	深鉢	-	(69)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線間に刺突列を施文	南西部覆土上層	PL7
TP613	縄文土器	深鉢	-	(49)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	波頭部に凹孔を穿つ 沈線区画内に刺突文	覆土中	PL7
TP614	縄文土器	深鉢	-	(46)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部に横位の沈線 胴部にL Rの単節縄文を施文	覆土中	
TP615	縄文土器	深鉢	-	(92)	-	雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	L Rの単節縄文施文 縦方向の押引文	西部覆土下層	
TP616	縄文土器	深鉢	-	(46)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	沈線による区画内に単節縄文を充填	南西部覆土下層	

### 第43号住居跡 (第8図)

位置 調査区中央部のA15g3区で、標高17.6～17.8mの緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 北部から東部にかけて削平されており、確認された範囲から判断して長径3.3m、短径1.5m以上の楕円形又は円形と推定される。壁高は5～15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部及び北部が踏み固められている。

ピット 3か所。P3は深さ27cmで、配置から支柱穴と考えられる。P1・P2はそれぞれ深さ10cmほどで南部に位置し、性格は不明である。

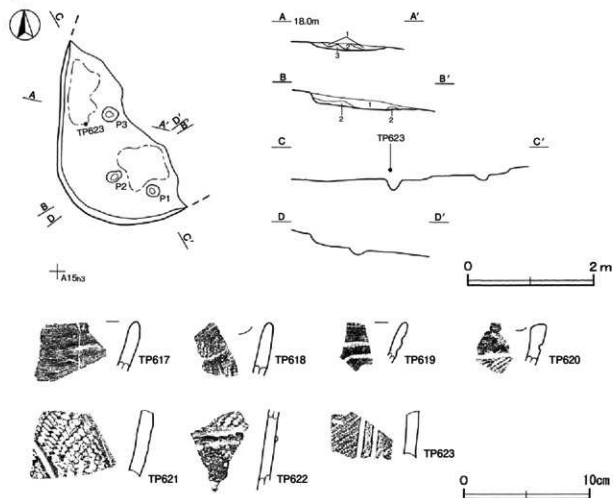
覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示すことから、人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |                     |               |
|---------------------|---------------|
| 1 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 明褐色 ローム粒子多量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |               |

遺物出土状況 縄文土器深鉢片57点が出土している。出土土器は破片が多く、西部の覆土上層から下層にかけて散在している。TP623は西部の覆土上層から出土している。

所見 出土土器は、住居廃絶後に混入したものと考えられる。時期は、出土土器から後期前葉以前と考えられる。



第8図 第43号住居跡・出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP617	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部無文帯	覆土中	
TP618	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	L Rの単節縄文施文	覆土中	
TP619	縄文土器	深鉢	-	(3.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部に棒状工具による横方向の沈線	覆土中	
TP620	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	-	長石・石英	褐色	普通	口縁部は沈線により無文帯を区画	覆土中	
TP621	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	単節縄文施文後 沈線による区画	覆土中	
TP622	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	微隆帯により文様帯を区画	覆土中	
TP623	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	L Rの単節縄文施文後縦方向の沈線	西部覆土上層	PL7

#### 第44号住居跡（第9図）

**位置** 調査区中央部のA140区で、標高17.5～18.0mの緩やかな斜面部に位置している。

**重複関係** 第725号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 中央部から北側が削平されているため、確認された範囲から判断して長径3.6m、短径1.6m以上の円形又は楕円形と推定される。壁高は6～14cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** はほぼ平坦で、南側の一部が踏み固められている。

**ピット** 深さ17cmで、南部に位置し、性格は不明である。

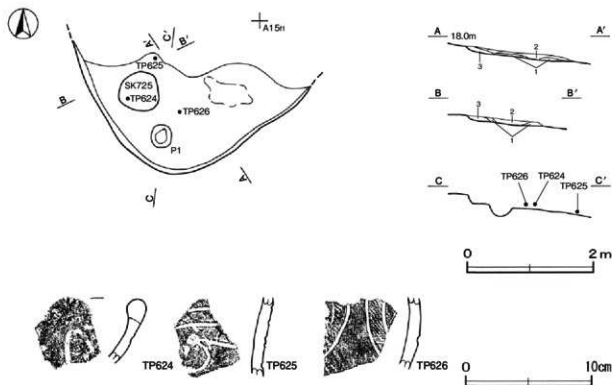
**覆土** 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器深鉢片14点が出土している。出土土器は破片で、南部の覆土上層から下層にかけて散在している。TP624～TP626は、南部の覆土下層から出土している。

**所見** 出土土器は、住居廃絶後に混入したものと考えられる。時期は、出土土器から後期前葉以前と考えられる。



第9図 第44号住居跡・出土遺物実測図

#### 第44号住居跡出土遺物観察表（第9図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP624	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁波頂部肥厚	南部覆土下層	PL7
TP625	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線で垂線的な文様を構成	南部覆土下層	
TP626	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	沈線間に半節縄文を充填	南部覆土下層	PL7

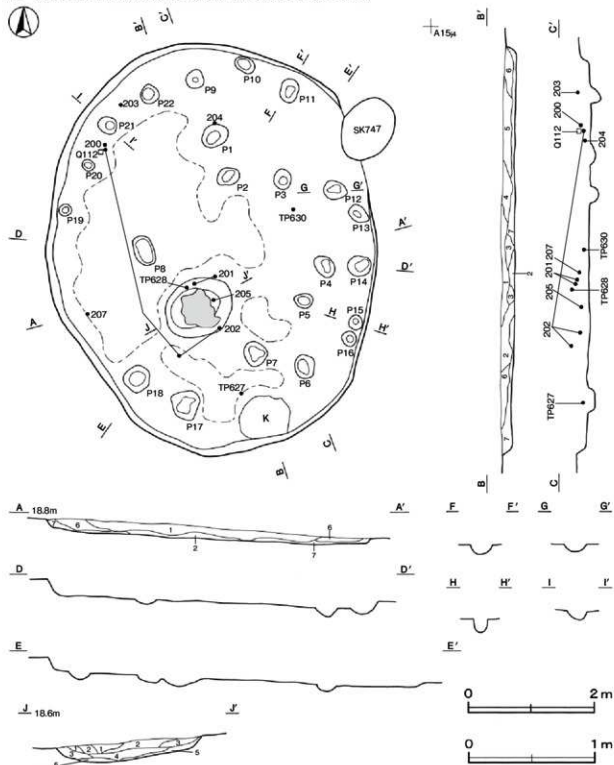
## 第45号住居跡 (第10～12図)

位置 調査区中央部のA15j3区で、標高18.4～18.7mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第747号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径6.5m、短径5.3mの楕円形で、長径方向はN-35°-Eである。壁高は8～21cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、炉の周囲から北部にかけて踏み固められている。



第10図 第45号住居跡実測図

ピット 22か所。P1・P3～P5・P7・P8は深さ11～31cmで、中央部に位置し、規模や配置から主柱穴と考えられる。P6・P9～P22は深さ12～26cmで、壁に沿って巡っており、補助的な柱穴と考えられる。P2・P12は深さ12～20cmで、その性格は不明である。

炉 中央部からやや南西寄りに位置している。長径116cm、短径92cmの楕円形で、床面を皿状に18cm掘り込んだ地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- |                            |                           |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 5 赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量      |
| 3 極暗赤褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量     |                           |

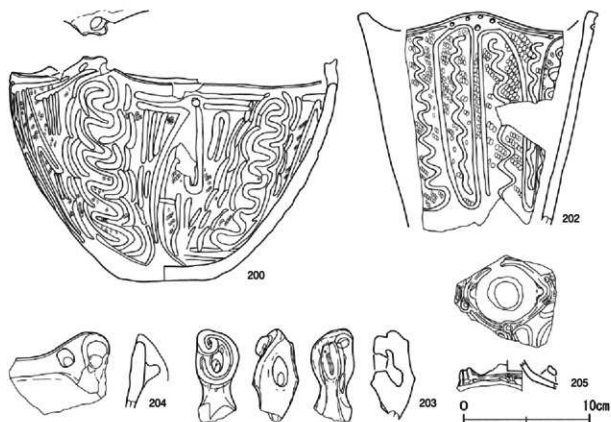
覆土 7層に分層される。ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- |                           |                      |
|---------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量  | 6 暗褐色 ローム粒子少量        |
| 3 灰褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 7 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量  |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |                      |

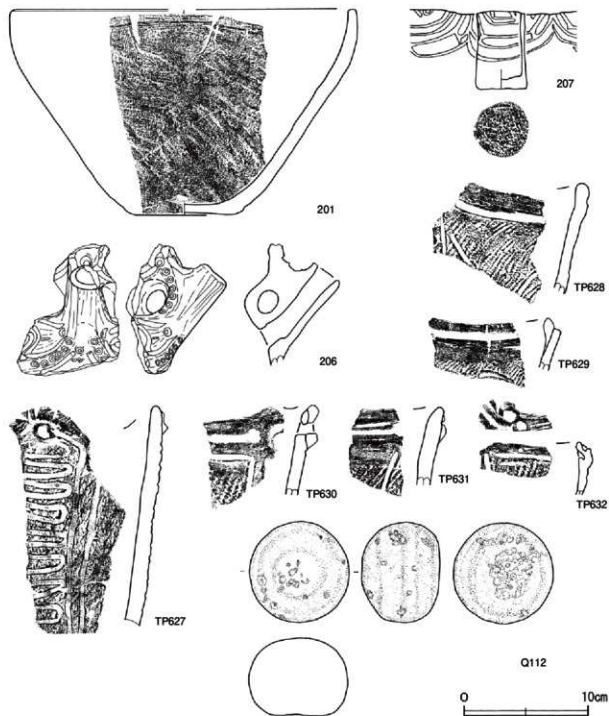
遺物出土状況 縄文土器片1,146点（深鉢1,103点、浅鉢41点、注口土器1点、ミニチュア土器1点）、石器1点（磨石）が出土している。出土土器は全体の覆土上層から下層にかけて散在している。また、混入したと考えられる土器器片2点（高坏、瓶）も出土している。200は北西部の覆土中層から正位でつぶれた状態で出土している。201は炉の周辺の覆土中層から出土した破片が接合したものである。203は北部の覆土上層、204は北部の覆土中層、205は炉周辺の覆土下層、207は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。Q112は北西部の覆土上層、TP627は南部の床面、TP628は炉周辺の覆土上層、TP630は東部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉以前と考えられる。



第11図 第45号住居跡出土遺物実測図(1)





第12図 第45号住居跡出土遺物実測図②

第45号住居跡出土遺物観察表 (第11・12図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
300	縄文土器	浅鉢	25.8	17.5	6.5	長石・石英・雲母	にがい青	普通	L・Rの単節縄文を地文とし総行波縄文の周りに弧状の波線を組み合わせて文様構成	北部葦土中層	80% PL6
301	縄文土器	浅鉢	[27.3]	16.5	(8.0)	長石・石英・砂鉄粒子	赤褐	普通	無文 内・外面削り後増き調整	砂原遺土中層	30% PL6
302	縄文土器	深鉢	[17.9]	(16.9)	-	長石・雲母・砂鉄粒子	明褐	普通	口縁波頂部に内彫刺突文 胴部R Lの単節縄文施文後、総行波縄文と懸垂文により文様構成	北部葦土中層 南部葦土中層	30% PL6

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
203	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	長形器片 内面中央部に円孔を有し、孔に沿って沈線が伸び	北部覆土上層	5%
204	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	波道部下に刺突文 隆帯貼り付け	北部覆土中層	5%
205	縄文土器	蓋型土器	-	(2.4)	-	長石・石英	赤褐色	普通	隆帯貼り付け部に円形刺突文 棒状工具による沈線	伊豆辺覆土下層	10% PL6
206	縄文土器	注口土器	-	(9.8)	-	長石・石英	にぶい	普通	注口部に円形刺突文及び沈線で文様抽出	覆土中	10% PL6
207	縄文土器	口径7.7cm	(3.6)	(6.0)	4.0	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	棒状工具による沈線により文様抽出	西部覆土中層	35% PL6

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP627	縄文土器	深鉢	-	(17.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	波道部外面に円形貼付文 蛇行沈線文抽出	南部床面	PL6
TP628	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	L.Rの卑部縄文施文後沈線により文様構成	伊豆辺覆土上層	PL7
TP629	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部は垂直向の沈線により区画 胴部はL.Rの卑部縄文施文	覆土中	PL7
TP630	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	-	雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部隆帯貼り付け後円孔や沈線により文様構成	東部覆土下層	PL7
TP631	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口縁部は円形刺突文と隆帯の沈線により文様構成	覆土中	PL7
TP632	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部は円形刺突文と沈線により文様構成	覆土中	PL7

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q112	磨石	8.1	8.3	6.3	560	安山岩	周縁に磨痕	北西部覆土上層	PL8

表2 竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設			炉	覆土	出土遺物	備 考 (遺物関係 目→新)	時 期	
							壁溝	支柱穴	竈						
41	A15h4	N-21°-W	[円形]	3.80×(2.80)	4~10	平坦	-	5	-	9	-	1	人為	縄文土器 菅状土器品	中期後葉
42	A15h1	N-34°-W	扇円形	4.98×4.83	16~32	平坦	-	5	-	1	-	1	自然	縄文土器	本跡→SK710・712 後期前葉
43	A15g3	N-35°-W	不明	3.25×(1.53)	5~15	平坦	-	1	-	2	-	-	人為	縄文土器	後期前葉
44	A140	N-7°-E	不明	3.58×(1.60)	6~14	平坦	-	-	-	1	-	-	人為	縄文土器	本跡→SK725 後期前葉
45	A15j3	N-35°-E	扇円形	6.50×5.27	8~21	平坦	-	6	-	16	-	1	人為	縄文土器 磨石	本跡→SK747 後期前葉

## (2) 土坑

### 第746号土坑 (第13～16図)

**位置** 調査区中央部のA15h1区で、標高188～189mの緩やかな斜面部に位置している。

**規模と形状** 径0.89mの円形である。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がり、深さは39cmである。

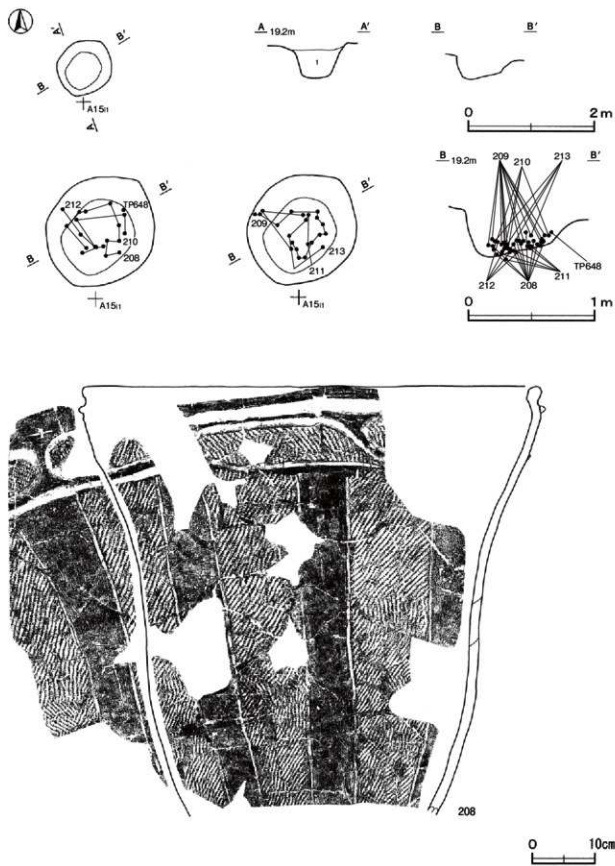
**覆土** 単一層である。ロームブロックの含有状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

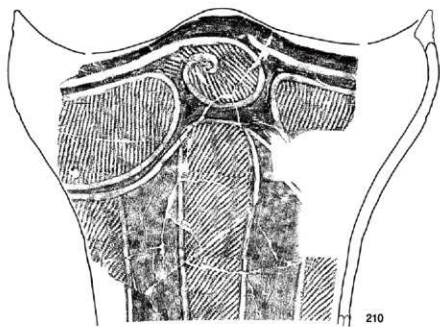
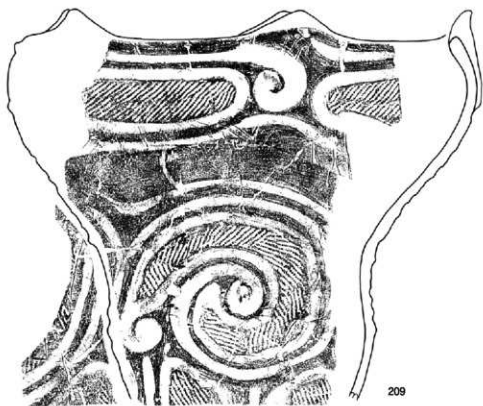
1 褐色 ロームブロック中層

**遺物出土状況** 縄文土器片302点(深鉢297点、浅鉢5点)が出土している。土器は破片の状態で見られ、覆土中層から底面にかけて集中して出土している。208・210～212は覆土中層から底面にかけて出土した破片が接合したものである。208は口径72cmの大型の深鉢で、口縁部から胴部にかけての83点の破片が接合した。209・213は覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。TP648は覆土中層から出土している。

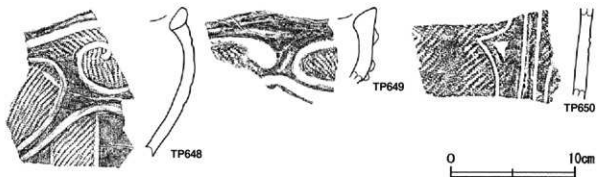
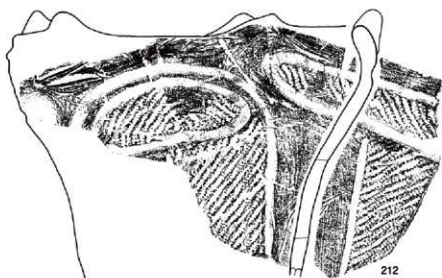
**所見** 遺物出土状況から土器は破砕された状態で一括投棄されたものと考えられる。時期は出土土器から中期後葉と考えられる。



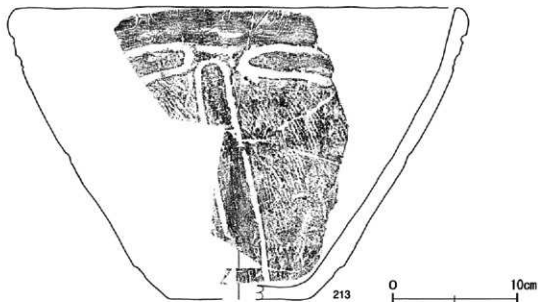
第13図 第746号土坑・出土物実測図



第14图 第746号土坑出土遗物夹测图(1)



第15圖 第746号土坑出土遺物実測図(2)



第16図 第746号土坑出土遺物実測図(3)

第746号土坑出土遺物観察表 (第13～16図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
208	縄文土器	深鉢	[72.4]	(68.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部は区線が白帯帯により渦巻文と区線文で構成。胴部は横巻文帯に区線の準直線文を施される。区線内に区線の準直線文を施される。	腹土中層～底面	4% 7/5
209	縄文土器	深鉢	35.2	(31.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部による渦巻文が帯帯帯に施される。区線内に区線の準直線文を施される。	腹土中層～腹土下層	20% 7/5
210	縄文土器	深鉢	[33.4]	(25.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部は区線が白帯帯により渦巻文と区線文で構成。胴部は横巻文帯に区線の準直線文を施される。区線内に区線の準直線文を施される。	腹土中層～底面	20% 7/5
211	縄文土器	深鉢	[28.9]	(25.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部による渦巻文が帯帯帯に施される。区線内に区線の準直線文を施される。	腹土中層～底面	9% 7/5
212	縄文土器	深鉢	[29.0]	(21.4)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部は区線が白帯帯により渦巻文と区線文で構成。胴部は横巻文帯に区線の準直線文を施される。	腹土中層～底面	5%
213	縄文土器	浅鉢	[35.6]	23.5	[11.0]	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい橙	普通	区線字状の区線により文様構成。胴部は準直線文を施される。	腹土中層～腹土下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP648	縄文土器	深鉢	-	(12.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	沈線により渦巻文や楕円形の文様を編出。	腹土中層	PL7
TP649	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	沈線が白帯帯により文様を区別。区線の準直線文を施される。	腹土中	PL7
TP650	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	腹土中の沈線により文様を区別。区線の準直線文を施される。	腹土中	PL7

## 2 その他の遺構と遺物

溝跡1条、土坑37基が確認された。溝跡、主な土坑について記述し、その他の土坑については全体図、一覧表で記載する。

### (1) 溝跡

#### 第1号溝跡 (第17・全体図)

位置 調査区北部のA14d8区～A15c3区で、標高15.5～16.5mの斜面部に位置している。

規模と形状 A15c3区からN-71°-Wの方向に直線的に延びており、A14d8区で調査区域外に延びている。

規模は上幅0.71～1.32m、下幅0.25～0.52m、深さ28～37cmで、確認できた長さは23.8mである。断面はU字状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

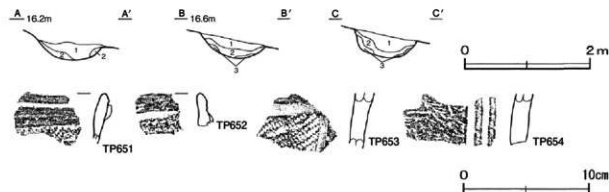
覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量   | 3 褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 |              |

遺物出土状況 縄文土器深鉢片51点、土師器片3点(坏、高坏、甕)が出土している。TP651～TP654は西部の覆土中から出土している。

所見 溝の機能は、標高に沿って位置していることから区画溝の可能性はある。時期は、出土土器が流れ込みと考えられることから、不明である。



第17図 第1号溝跡・出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表 (第17図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP651	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部は沈線に伴う隆帯により文様帯を区画	覆土中	PL7
TP652	縄文土器	深鉢	-	(2.7)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁部は沈線により文様帯を区画	覆土中	
TP653	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	沈線により文様帯を区画 互しの非線織文を光斑	覆土中	PL7
TP654	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	縦方向の平行沈線により文様構成	覆土中	

## (2) 土坑

## 第710号土坑 (第18図)

位置 調査区中央部のA152区で、標高18.8～18.9mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第42号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.96m、短径3.61mの円形である。断面はすり鉢状で、壁は外傾して立ち上がり、深さは205cmである。底面は径0.2mの円形でほぼ平坦であり、深さ18cmのくぼみを有している。北部の上面には長径1.20m、短径0.96m、深さ40cmの楕円形の掘り込みがあり、土層の観察状況から、本跡と関連する施設である可能性がある。

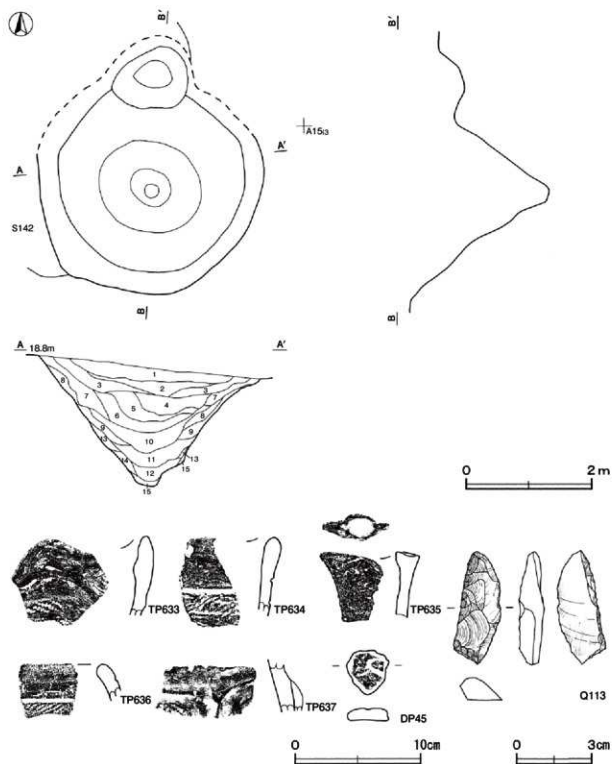
覆土 15層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- |                    |                            |
|--------------------|----------------------------|
| 1 黒色 焼土粒子微量        | 9 暗褐色 ロームブロック・砂粒少量         |
| 2 黒色 ローム粒子微量       | 10 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量      |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量      | 11 暗褐色 ローム粒子少量             |
| 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 12 暗褐色 砂粒中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子少量      | 13 褐色 ローム粒子・砂粒中量           |
| 6 黒褐色 ロームブロック微量    | 14 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂粒中量        |
| 7 黒褐色 ロームブロック少量    | 15 明黄褐色 粘土粒子・砂粒中量          |
| 8 暗褐色 ローム粒子中量      |                            |

遺物出土状況 縄文土器深鉢片169点、土師器片2点(坏、高坏)、石器1点(彫器)が出土している。

所見 本跡は台地縁辺部に立地し、底面にくぼみを持つすり鉢状の形状から、他の土坑とは性格の異なる土坑であると考えられる。時期は、遺物が流れ込みと考えられることから、不明である。



第18図 第710号土坑・出土遺物実測図



## 第710号土坑出土遺物観察表 (第18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP633	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい陶	普通	口縁部に沈線を伴う隆帯を区画	覆土中	PL7
TP634	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい陶	普通	沈線区画内に単筋縄文を充填	覆土中	
TP635	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい陶	普通	口唇部に凹形刺突文	覆土中	PL7
TP636	縄文土器	深鉢	-	(2.9)	-	長石・雲母	明赤陶	普通	口縁部に横方向の沈線	覆土中	PL7
TP637	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・雲母	明赤陶	普通	隆帯により文様帯を区画	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・材質	特徴	出土位置	備考
DP45	土器円板	3.5	3.5	1.0	11.3	長石・石英・雲母	周縁部雑な研磨	覆土中	
Q113	彫器	4.5	1.8	0.9	4.96	黒曜石	片面調整	覆土中	PL8

## 第711号土坑 (第19図)

位置 調査区中央部のA15h2区で、標高18.1～18.2mの緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長径202m、短径151mの楕円形で、主軸方向はN-17°-Eである。底面は皿状で、壁は緩斜して立ち上がり、深さは41cmである。

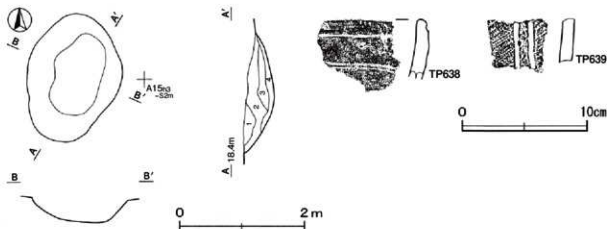
覆土 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 3 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器深鉢片14点が出土している。

所見 時期は、出土土器が流れ込みと考えられることから、不明である。



第19図 第711号土坑・出土遺物実測図

## 第711号土坑出土遺物観察表 (第19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP638	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英・雲母	浅黄緑	普通	口唇部直下に横方向の沈線	覆土中	PL7
TP639	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	L Rの単筋縄文施文後縦方向の沈線	覆土中	

### 第715号土坑（第20図）

**位置** 調査区中央部のA15h3区で、標高18.2～18.3mの緩やかな斜面部に位置している。

**規模と形状** 径0.3mほどの円形である。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、深さは13cmである。

**覆土** 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

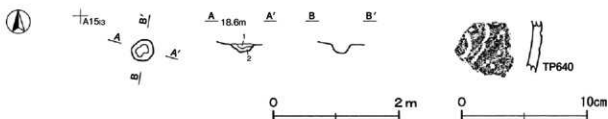
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

2 褐色 ローム粒子中量

**遺物出土状況** 縄文土器深鉢片1点が出土している。

**所見** 時期は、出土土器が流れ込みと考えられることから、不明である。



第20図 第715号土坑・出土遺物実測図

### 第715号土坑出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP640	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線調に列点文を光焼	覆土中	PL7

### 第718号土坑（第21図）

**位置** 調査区中央部のA15h2区で、標高18.2～18.3mの緩やかな斜面部に位置している。

**重複関係** 第719号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径0.53m、短径0.45mの楕円形で、主軸方向はN-78°-Eである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、深さは29cmである。

**覆土** 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

3 明褐色 ローム粒子多量

2 褐色 ローム粒子中量

**遺物出土状況** 縄文土器深鉢片4点が出土している。

**所見** 時期は、出土土器が流れ込みと考えられることから、不明である。



第21図 第718号土坑・出土遺物実測図

## 第718号土坑出土遺物観察表(第21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP641	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	L.R.の単線縄文文	覆土中	

## 第724号土坑(第22図)

**位置** 調査区中央部のA14g0区で、標高182～184mの緩やかな斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径3.05m、短径1.85mの楕円形で、長径方向はN-7°-Wである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、深さは18cmである。

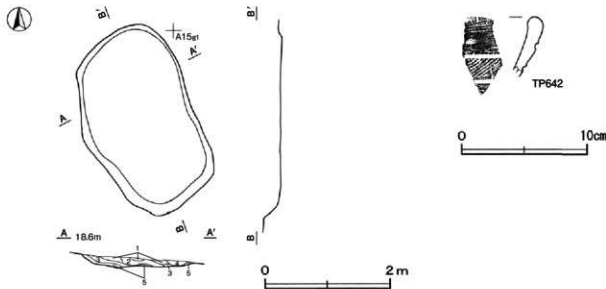
**覆土** 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

## 土層解説

- |       |                |       |                |
|-------|----------------|-------|----------------|
| 1 褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量   | 4 褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子少量  | 5 明褐色 | ローム粒子多量        |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量 |       |                |

**遺物出土状況** 縄文土器深鉢片4点が出土している。

**所見** 本跡は規模が大きく、覆土に炭化粒子や焼土粒子を含んでいる点で周囲の土坑と様相が異なる。時期は、出土土器が流れ込みと考えられることから、不明である。



第22図 第724号土坑・出土遺物実測図

## 第724号土坑出土遺物観察表(第22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP642	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈澱により文様帯を区画し、L.R.の単線縄文を表現	覆土中	PL7

## 第733号土坑(第23図)

**位置** 調査区北部のA15d2区で、標高15.5～15.6mの台地縁辺の緩斜面に位置している。

**規模と形状** 長径1.02m、短径0.70mの楕円形で、主軸方向はN-40°-Wである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、深さは21cmである。

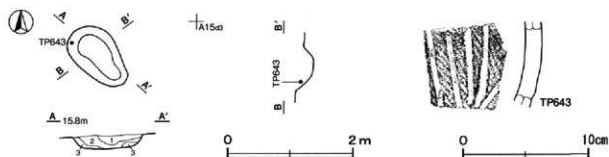
覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック中量  
2 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器深鉢片3点が出土している。

所見 時期は、出土土器が流れ込みと考えられることから、不明である。



第23図 第733号土坑・出土遺物実測図

第733号土坑出土遺物観察表 (第23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP643	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	灰白・灰黄・粘灰	にぶい橙	普通	縄文を地文とし乱線により文様を描出	覆土上層	PL7

第739号土坑 (第24図)

位置 調査区中央部のB15a4区で、標高18.0～18.1mの緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.71m、短径0.57mの楕円形で、主軸方向はN-83°-Wである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、深さは20cmである。

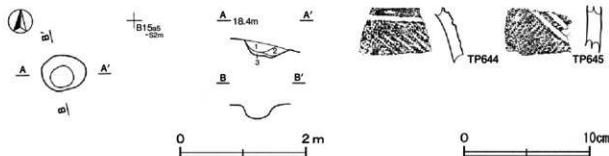
覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック中量  
2 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器深鉢片4点が出土している。

所見 時期は、出土土器が流れ込みと考えられることから、不明である。



第24図 第739号土坑・出土遺物実測図

## 第739号土坑出土遺物観察表（第24図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP644	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	灰白・石灰・雲母・赤色粒子	橙	普通	比喩により文様描出 R Lの単純縄文を施文	覆土中	
TP645	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	灰白・石灰・雲母・赤色粒子	にぶい靑	普通	比喩により文様描出 単純縄文を施文	覆土中	

## 第743号土坑（第25図）

**位置** 調査区南部のB15e5区で、標高17.5～17.6mの緩やかな斜面部に位置している。

**規模と形状** 径1.0mほどの円形である。底面は平坦で、壁は緩斜して立ち上がり、深さは34cmである。

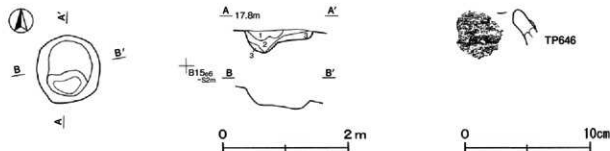
**覆土** 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子中量  
3 褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器深鉢片12点が出土している。

**所見** 時期は、出土土器が流れ込みと考えられることから、不明である。



第25図 第743号土坑・出土遺物実測図

## 第743号土坑出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP646	縄文土器	深鉢	-	(2.8)	-	長石・石英	にぶい黄靑	普通	口縁部に微隆帯貼り付け	覆土中	

## 第744号土坑（第26図）

**位置** 調査区南部のB15e5区で、標高17.5～17.6mの緩やかな斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径0.74m、短径0.67mの楕円形で、主軸方向はN-37°-Eである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、深さは24cmである。

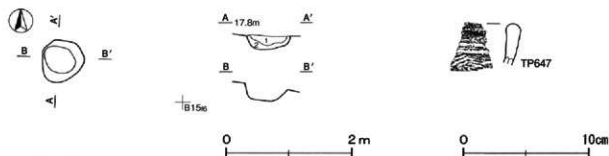
**覆土** 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
2 褐色 ローム粒子中量

**遺物出土状況** 縄文土器深鉢片6点が出土している。

**所見** 時期は、出土土器が流れ込みと考えられることから、不明である。



第26図 第744号土坑・出土遺物実測図

第744号土坑出土遺物観察表 (第26図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP647	陶文土器	深鉢	-	(3.3)	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	口縁部に横方向の沈線	覆土中	PL7

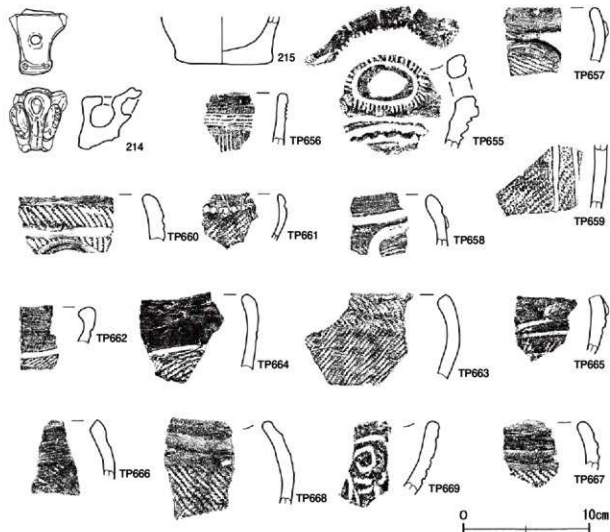
表3 土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)				
710	A1512	N-0°	円形	3.96×3.61	205	外傾	平坦	自然	SI42→本跡
711	A15h2	N-17°-E	楕円形	2.02×1.51	41	緩斜	皿状	自然	
712	A15h2	N-0°	不整形	0.65×0.65	16	外傾	平坦	自然	SI42→本跡
713	A1513	N-0°	不整形	0.53×0.51	11~14	外傾	皿状	自然	
714	A1513	N-24°-E	楕円形	0.42×0.36	14	外傾	平坦	自然	
715	A1513	N-0°	円形	0.35×0.31	13	外傾	皿状	自然	
716	A1513	N-7°-W	楕円形	0.39×0.32	12	外傾	皿状	自然	
717	A1513	N-0°	円形	0.50×0.50	10	外傾	平坦	自然	
718	A15h2	N-78°-E	楕円形	0.53×0.45	29	外傾	平坦	自然	SK719→本跡
719	A15g2	N-11°-E	楕円形	0.85×0.65	32	緩斜	平坦	自然	本跡→SK718
720	A15g2	N-59°-E	楕円形	1.05×0.82	35	緩斜	皿状	自然	
721	A15g2	N-0°	円形	0.52×0.48	25	外傾	皿状	自然	
722	A1514	N-13°-E	楕円形	0.84×0.74	27	外傾	皿状	自然	
723	A14g0	N-2°-E	不定形	0.90×0.86	15	緩斜	皿状	自然	
724	A14g0	N-7°-W	楕円形	3.05×1.85	18	外傾	平坦	人為	
725	A1410	N-0°	円形	0.64×0.64	64	外傾	皿状	自然	SI44→本跡
726	A15c3	N-36°-E	楕円形	0.82×0.69	30	緩斜	平坦	自然	
727	A15c1	N-0°	円形	0.94×0.80	25	緩斜	平坦	自然	
728	A14e0	N-82°-E	楕円形	0.88×0.75	20	外傾	平坦	自然	
729	A14e9	N-0°	円形	0.49×0.47	12	外傾	平坦	自然	
730	A14d9	N-35°-W	楕円形	0.51×0.35	11	外傾	平坦	自然	
731	A14e8	N-57°-E	楕円形	0.86×0.77	15	外傾	平坦	自然	
732	A15d3	N-0°	円形	0.66×0.61	23	垂直	皿状	自然	
733	A15d2	N-40°-W	楕円形	1.02×0.70	21	外傾	平坦	自然	
734	A15h3	N-43°-E	楕円形	0.69×0.61	23	外傾	皿状	自然	
735	A15c2	N-40°-E	楕円形	0.76×0.63	23	外傾	皿状	自然	
736	A15c1	N-70°-E	楕円形	0.93×0.73	19	外傾	平坦	自然	

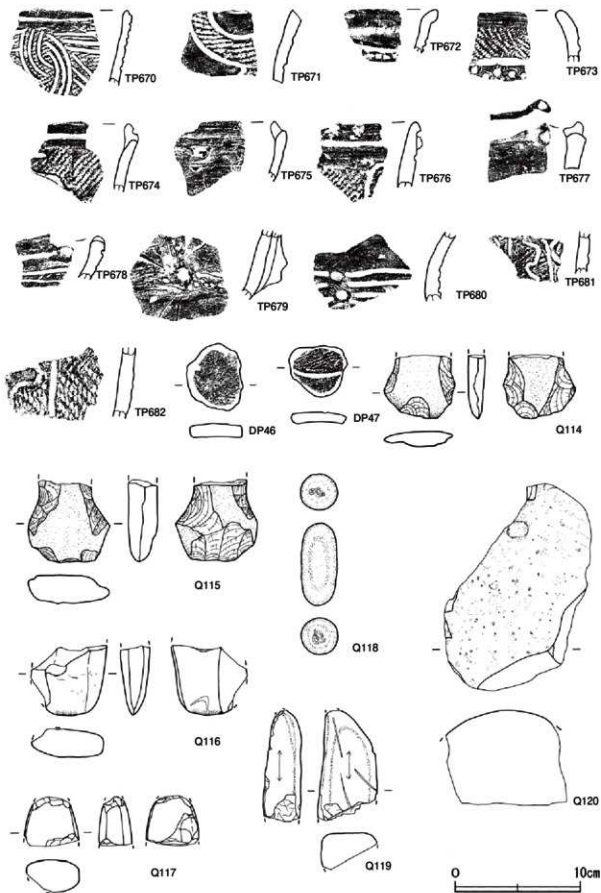
土坑 番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	備 考 遺構番号・新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)				
738	B15a4	N-18°-W	楕円形	0.71×0.60	15	外傾	平坦	自然	
739	B15a4	N-83°-W	楕円形	0.71×0.57	20	外傾	平坦	自然	
740	B15c4	N-13°-W	楕円形	0.68×0.50	10	縦斜	平坦	自然	
741	B15e4	N-12°-W	楕円形	1.30×0.75	25	縦斜	平坦	自然	
742	B15e4	N-10°-W	楕円形	1.30×0.75	23	縦斜	平坦	自然	
743	B15e5	N-0°	円形	1.06×1.02	34	縦斜	平坦	自然	
744	B15e5	N-37°-E	楕円形	0.74×0.67	24	外傾	平坦	自然	
745	B15f5	N-81°-E	楕円形	0.63×0.47	25	外傾	平坦	自然	
746	A15h1	N-29°-E	円形	0.89×0.89	17	外傾	平坦	人為	
747	A15j3	N-39°-E	楕円形	1.10×0.78	32	縦斜	皿状	自然	SI45→本跡

## (3) 遺構外出土遺物

ここでは、調査区内の表土中から出土した遺物や、他時期の遺構への流れ込みと判断された遺物のうち、特徴的なものを実測図と観察表で記載する。



第27図 遺構外出土遺物実測図(1)



第28圖 遺構外出土遺物実測圖(2)



遺構外出土遺物観察表 (第27・28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
214	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい陶	普通	器内面に施され、その間に彫刻されたものと思われる	A15a区表層	
215	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤陶	普通	製部無文	表採	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP655	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	円孔の周囲に沈線と糸形文により文様描出	表採	PL7
TP656	縄文土器	深鉢	-	(4.1)	-	長石・石英	橙	普通	条線文を格子目状に施文	表採	PL7
TP657	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部隆帯貼り付け	表採	PL7
TP658	縄文土器	深鉢	-	(4.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部に沈線と隆帯で文様描出	A15a区表層	PL7
TP659	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	石英・雲母	橙	普通	LⅡの早期縄文を地文とし沈線により文様描出	B15a区表層	
TP660	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	RⅠの早期縄文を地文とし沈線により文様描出	表採	PL7
TP661	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部に円形刺突文を施す	A16a区表層	
TP662	縄文土器	深鉢	-	(2.9)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部は肥厚し、沈線により文様帯を区画	表採	
TP663	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	RⅠの早期縄文を帯状構成に施文	表採	PL7
TP664	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部に沈線により文様帯を区画	B15a区表層	
TP665	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線を伴う隆帯により文様描出	A15a区表層	
TP666	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	雲母・赤色粒子	橙	普通	口唇部直下に沈線により文様描出	B15a区表層	
TP667	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	-	石英・雲母・細礫	橙	普通	沈線により無文帯を区画	A15a区表層	
TP668	縄文土器	深鉢	-	(6.5)	-	長石・雲母	にぶい陶	普通	口縁部は無文、沈線により文様帯を区画	中央部表採	PL7
TP669	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石	にぶい黄橙	普通	沈線により渦巻状の文様を施す	A15a区表層	
TP670	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・細礫	橙	普通	早期縄文を地文とし、沈線により文様を施す	表採	PL7
TP671	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線により文様帯を区画し、早期縄文を施す	表採	
TP672	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部外反、沈線と刺突文により文様構成	表採	PL7
TP673	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	陶	普通	沈線区画内に円形刺突文施文	B15a区表層	PL7
TP674	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	LⅡの早期縄文を地文とし沈線により文様描出	表採	PL7
TP675	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部は内傾する、製部無文	B15a区表層	
TP676	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英	明赤陶	普通	口唇部直下に沈線を伴う隆帯	表採	PL7
TP677	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部は円形刺突文と横方向の沈線により文様構成	B15a区表層	
TP678	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい陶	普通	口縁部は円形刺突文と横方向の沈線により文様構成	表採	
TP679	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英	にぶい赤陶	普通	隆帯上に刺突文を配し文様構成	A15a区表層	PL7
TP680	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄陶	普通	沈線と円形刺突文により文様構成	B15a区表層	
TP681	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・雲母	黒陶	普通	早期縄文を地文とし、沈線により文様を施す	A15a区表層	
TP682	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	RⅠの早期縄文を地文とし沈線により文様を施す	A15a区表層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・材質	特徴	出土位置	備考
DP46	土器円板	5.3	4.4	1.1	30.1	長石・石英・雲母	周縁部雑な研磨	表採	
DP47	土器円板	4.1	4.7	0.9	19.2	長石・石英・雲母	周縁部雑な研磨	表採	
Q114	打製石斧	(5.1)	5.7	1.3	(54.2)	凝灰岩	両面調整	表採	
Q115	打製石斧	(6.5)	6.5	(2.3)	(123.4)	安山岩	両面調整	表採	PL8
Q116	磨製石斧	(5.6)	(6.1)	(2.5)	(88.8)	砂岩	定角式 刃部欠損	表採	PL8
Q117	磨製石斧	(4.0)	(4.2)	(2.7)	(74.5)	凝灰岩	定角式 刃部欠損	表採	PL8
Q118	磨石	6.5	2.9	2.9	85.0	砂岩	両端に使用痕	表採	PL8
Q119	砥石	(8.8)	(4.8)	(3.1)	(140.9)	安山岩	砥面2面	表採	PL8
Q120	石棒	(16.5)	(10.7)	(7.6)	(1380.0)	安山岩	表面研磨	表採	PL8

## 第4節 ま と め

鳥名境松遺跡では、縄文時代の聚穴住居跡5軒、土坑1基、時期不明の大形土坑1基、土坑36基、溝跡1条を確認した。ここでは、「茨城県教育財団文化財調査報告第191集」における時期区分<sup>1)</sup>を基に、遺構と出土土器の検討を行い、まとめとしたい。第191集では時期をI期からIV期の4期に分けている。その中でI期(中期中葉 阿玉台1b～II式期)及びII期(中期後葉 加曾利EⅡ～Ⅲ式期)の遺構は、今回の調査区からは確認されていないため、III期以降の遺構について述べる。また、今回確認された後期前葉の遺構は時期区分に入っていないため、新しくV期(後期前葉 称名寺式期～堀之内I式期)を追加設定することとする。

### 1 III期 中期後葉 加曾利EⅢ式期(第29図)

第746号土坑が該当する。径0.89m、深さ38cmの土坑から大量の縄文土器片が出土した。復元したものが完形品とならないことから、縄文土器片が廃棄された土坑と考えられる。復元できた個体は加曾利EⅢ期の古段階と新段階に細分できる。加曾利EⅢ式古段階のものとして208・210・212の深鉢、213の浅鉢が出土している。208は口径72cmの大型の深鉢である。口縁部は沈線が沿う隆帯により渦巻文と区画で構成されている。210は胴部の磨消垂文が幅広となり、逆U字状文になる段階である。また、210・213は沈線により文様を描出する西関東的な様相が見られる<sup>2)</sup>。加曾利EⅢ式新段階のものとして、209・211の深鉢が出土している。口縁部文様帯と胴部文様帯が一体化し、微隆帯による大振りの渦巻文が器面全体に施されている。今回の調査区には他にIII期の遺構が存在しないことから、調査区域外に当該期の遺構が存在していると考えられる。

### 2 IV期 中期後葉 加曾利EⅣ式期(第29図)

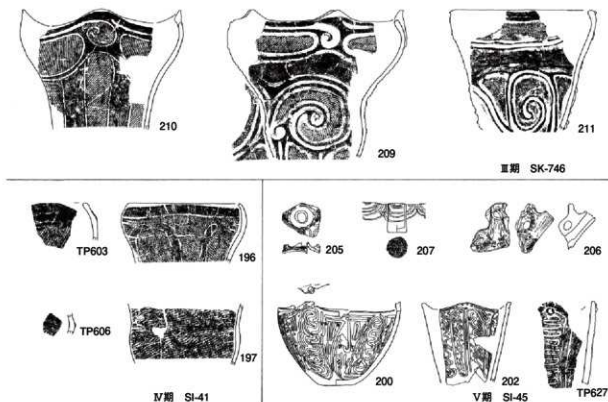
第41・43号住居跡の2軒が該当する。第41号住居跡は径3.8mほどの円形で、第191集における住居跡の分類では小形の規模に分類される。炉は中央部やや南東寄りに位置し、主柱穴とともに壁際に補助柱穴を有する住居跡である。第43号住居跡は北部から東部にかけて削平されているが、長径3.3m以上の円形または楕円形と考えられる住居跡である。両住居跡は、標高17.0～18.0mの緩やかな斜面部に位置している。

出土土器では、第41号住居跡の196は口縁部に沈線で区画した幅狭の無文帯を有し、胴部に沈線によるU字状文を描出している深鉢である。TP604も沈線より口縁部の無文帯を区画している。それに対し、TP603・TP606は口縁部に微隆起線で区画した幅狭の無文帯を有している。第43号住居跡においても、微隆起線による区画を有する土器と沈線による区画の土器が見られる。第41・43号住居跡はともに、微隆起線による区画の西関東的な土器の中に、沈線による区画の西関東的な土器が含まれる組成と考えられる<sup>3)</sup>。

### 3 V期 後期前葉 称名寺式期～堀之内I式期(第29図)

第42・44・45号住居跡の3軒が該当する。第42号住居跡は長径5.0mの楕円形、第45号住居跡は長径が6.5mの楕円形で、中形の規模に分類される。第44号住居跡は中央部以北が削平されており、規模は不明である。第42号住居跡の炉は北東部に位置しているのに対し、第45号住居跡の炉は中央部やや南寄りに位置している違いがみられる。3軒の住居跡は標高17.5～19.0mの緩やかな斜面部に位置しており、IV期の集落よりやや標高が高い地点に位置している特徴がある。

出土土器では、第44号住居跡からは、胴部に沈線区画を施し、区画内に列点文を充填している称名寺Ⅱ式土器が出土している。第42・45号住居跡は堀之内I式土器が出土している。第42号住居跡では沈線描出の起点や交差する部分には円形貼付文を付しているものがある。また、胴部文様帯に沈線による「J」字状文などを配しているものが見られる。第45号住居跡の出土土器は堀之内I式期の豊富な器種構成が見られる。200は



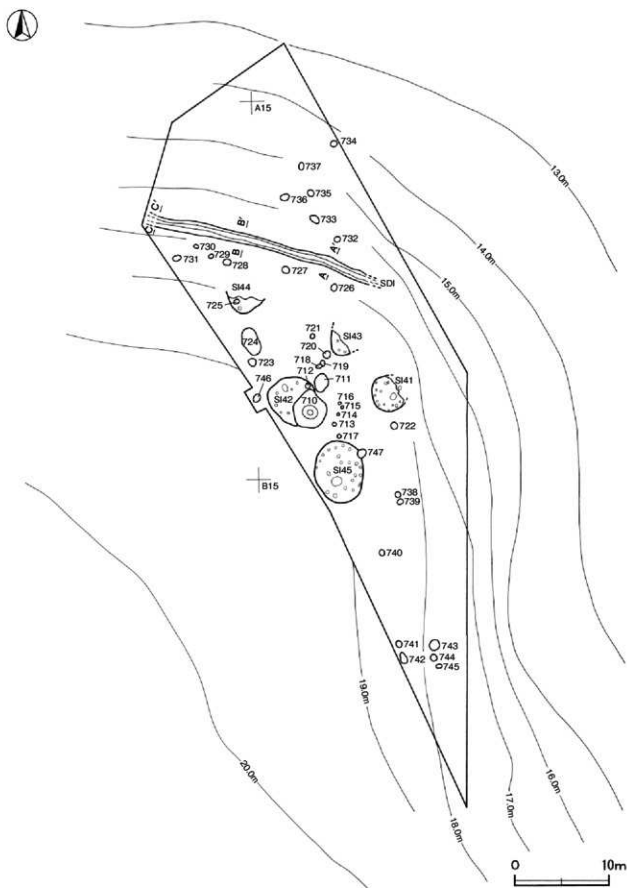
第29図 出土土器の変遷 (S=1/8)

蛇行沈線文に弧状の沈線を組み合わせた文様の精製の浅鉢である。201はほぼ同じ大きさであるが胴部外面には削り後磨き調整が入っている無文の浅鉢である。202は蛇行沈線文の深鉢、207はミニチュアの筒型土器である。206の注口土器は、廻り地A遺跡第250号土坑から出土した個体と文様構成の類似点が見られる<sup>1)</sup>。

前回の調査区からはV期の遺構は確認されておらず、当該期の集落は東谷田川沿いの台地の縁辺部に移動してきているものと想定される。県内の該期の集落規模は廻り地A遺跡の例のように小規模化する事例がみられる<sup>2)</sup>。本遺跡も集落が中期から後期へ継続していく中で、集落規模が台地の東部に小規模化したことが考えられるが、全容の解明については今後の調査の進展を期待したい。

## 註

- 1) 寺門千壽・田原康司・梅澤貴司「島名前野東遺跡、島名境松遺跡、谷田部津遺跡 島名・福田坪一休型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 (財)茨城県教育財団 2002年3月
- 2) 大川清・鈴木公雄・工業善通編『日本土器事典』雄山閣出版株式会社 1996年12月
- 3) 註2に同じ
- 4) 瓦吹堅 桜井二郎 高村勇「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書7-廻り地A遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第15集 (財)茨城県教育財団 1982年3月
- 5) 瓦吹堅「茨城における縄文時代集落の諸様相」『第1回研究会基礎資料集 列島における縄文時代集落の諸様相』縄文時代文化研究会 2001年12月



第30図 烏名境松道跡遺構全体図

## 第4章 島名前野東遺跡

### 第1節 遺跡の概要

島名前野東遺跡は、つくば市大字島名字前野3849番地の2ほかに所在し、つくば市の西部を牛久沼へ南流する東谷田川に面した台地縁部に位置している。平成11～14年度にかけて既に調査され、古墳時代、奈良時代を中心とする集落跡や、中世の堀跡及び掘立柱建物跡が確認されている。今回の調査は、平成15～17年度にわたり、合計9,495㎡を調査した。

今回の調査で、古墳時代、奈良時代の集落跡が広がることが確認された。また、中世の方形居館跡の全容が明らかになり、1町四方の堀に囲まれた中に、中門廊的施設を持つ主屋と考えられる掘立柱建物跡が確認された。遺構は、古墳時代の竪穴住居跡25軒、土坑1基、奈良時代の竪穴住居跡4軒、中世の掘立柱建物跡6棟、欄跡1条、堀跡1条、溝跡7条、土坑9基、火葬土坑5基、ピット群3か所、時期不明の溝跡24条、井戸跡1基、土坑78基、ピット群1か所が確認されている。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に101箱出土している。主な遺物は土師器（杯、碗、埴、高杯、鉢、壺、甕、瓶、和器台、手捏土器）、須恵器（杯、長頸瓶、蓋、壺、甕、甕）、土師質土器（小皿、皿）、陶器（壺、拵鉢）、磁器（碗）、土製品（勾玉、白玉、球状土錘、支脚、紡錘車）、石器（砥石）、石製品（勾玉、白玉、紡錘車、双孔円板、剣形模造品）、鉄製品（釘）、古銭等である。

### 第2節 基本層序

調査区の東南部（D3e8区）にテストピットを設定し、基本土層の観察を行った。地表面の標高は19.3mで、地表面から約2.5m掘削し、第31図のような堆積状況を確認した。

第1層は、黒褐色の腐植土層で、ローム粒子を微量含み、粘性・締まりがともに弱い。層厚は52cmである。

第2層は、暗褐色で腐植土層とソフトローム層との漸移層である。粘性・締まりがともに弱い。層厚は12～41cmである。

第3層は、明褐色のソフトローム層で、粘性が弱く、締まりは強い。層厚は13～56cmである。

第4層は、暗褐色のローム層で、第I黒色帯に相当する。粘性は弱い。層厚は24～47cmである。

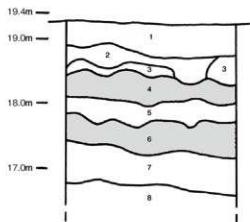
第5層は、褐色のハードローム層である。粘性が強く、第4層よりも締まりは強い。層厚は24～44cmである。

第6層は、暗褐色のローム層で、第II黒色帯に相当する。層厚は30～58cmである。

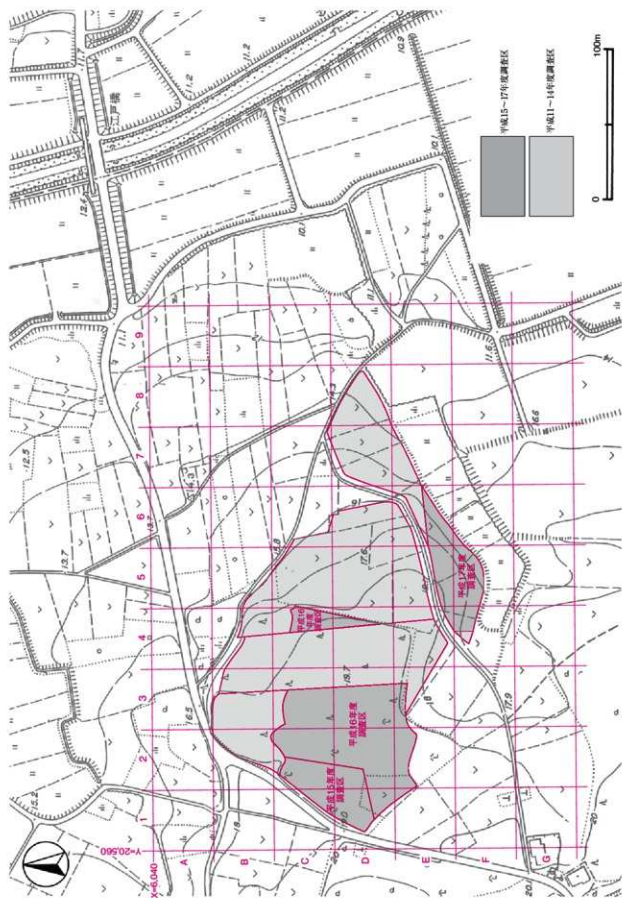
第7層は、褐色のローム層で、締まりが強い。層厚は44～65cmである。

第8層は、浅黄褐色の砂質粘土層で、締まりが強い。層厚は未掘のため不明である。

遺構は、第2層上面または第3層上面で確認された。



第31図 基本土層図



第32図 島名前野東遺跡調査区設定図



第33図 島名境松遺跡・島名前野東遺跡位置図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 古墳時代の遺構と遺物

竪穴住居跡25軒、土坑1基が確認された。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

##### (1) 竪穴住居跡

###### 第66号住居跡（第34・35図）

**位置** 調査区中央部のC3e7区、標高18.7mの台地平坦部に位置している。本跡は平成13年度の調査区域にまたがっている。

**重複関係** 第34号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 一辺6.60mの方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は60～65cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 中央部が踏み固められている。壁溝が西壁際を中心に周回している。

**竪** 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで130cm、袖部幅138cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面及び内壁は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ46cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

##### 竪土層解説

1	明褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量	4	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量
2	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量	5	にぶい赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子微量
3	褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	6	灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量

**ピット** 2か所。P1・P2は深さ68cm・66cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。

**覆土** 14層に分層される。各層ともロームブロックを含む不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

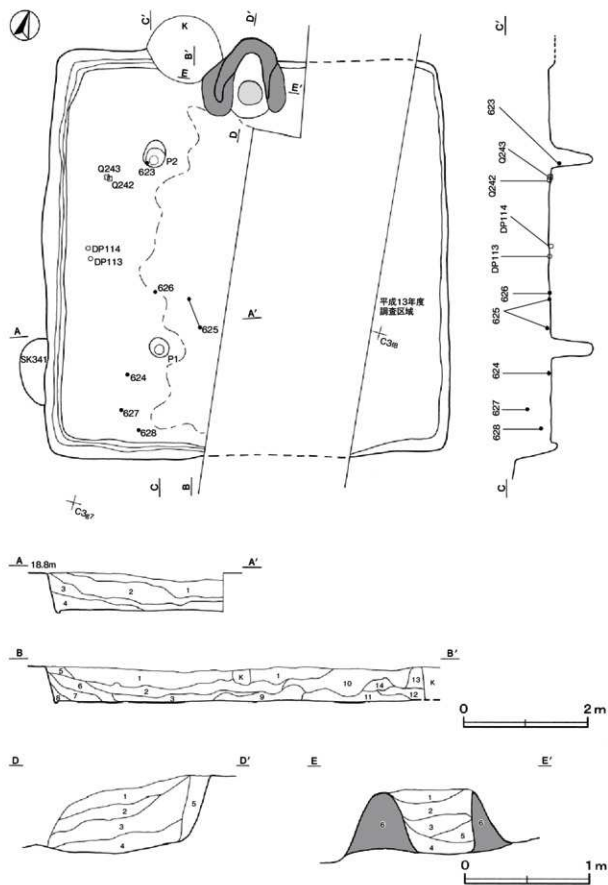
##### 土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	11	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量	12	暗褐色	ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量	13	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
6	褐色	ロームブロック中量			
7	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	14	褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック微量
8	褐色	ロームブロック多量			

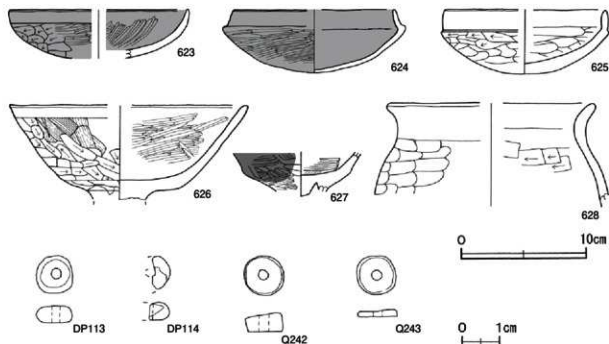
**遺物出土状況** 土師器片154点（坏53、高坏5、甕96）、土製品2点（白玉）、石製品2点（白玉）が出土している。また、混入した土師質土器2点も出土している。624は南部、625・626は中央部、DP113・DP114、Q242・Q243は西部の床面からそれぞれ出土している。623はP2、627は南部の覆土中層、628は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡の東部が平成13年度の調査区域に位置し、今回の調査区域は西部のみであった。時期は、文化財調査報告第191集で、出土土器から6世紀後半と考えられており、今回の出土土器はそれを裏付けるものである。





第34図 第66号住居跡実測図



第35図 第66号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表（第35図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
623	土師器	環	[142]	(3.9)	-	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面へラ削り後へラ磨き	P2 覆土上層	40%
624	土師器	環	[128]	5.0	-	長石・石英	黒	普通	体部外面へラ磨き	南部床面	30%
625	土師器	環	[128]	5.1	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ	中央部床面	30%
626	土師器	高環	[190]	(7.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後へラ削り	中央部床面	40%
627	土師器	高環	-	(3.5)	-	長石・石英・雲母・粘石	にぶい橙	普通	体部外面へラナデ後へラ磨き	南部覆土中層	20%
628	土師器	甕	[163]	(8.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラナデ 体部内面へラ削り	南部覆土下層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土・材質	特徴	出土位置	備考
DP113	白玉	0.96	0.45	0.18	0.54	長石	側面が膨らむ太鼓状 片面穿孔	西部床面	PL40
DP114	白玉	(0.87)	0.47	-	(0.20)	長石・石英	側面が膨らむ太鼓状 孔一部残存	西部床面	
Q242	白玉	1.08	0.47	0.29	0.75	滑石	側面が収縮的な円筒状 片面穿孔	西部床面	PL40
Q243	白玉	1.02	0.18	0.28	0.26	滑石	厚みはほとんどない円盤状 片面穿孔	西部床面	PL40

第71号住居跡（第36図）

位置 調査区中央部のC3g7区、標高18.7mの台地平坦部に位置している。本跡は平成13年度の調査区域にまたがっている。

重複関係 第335号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.90m、短軸4.80mの方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁高は43～48cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、軟弱である。

貯蔵穴 平成13年度に調査している。

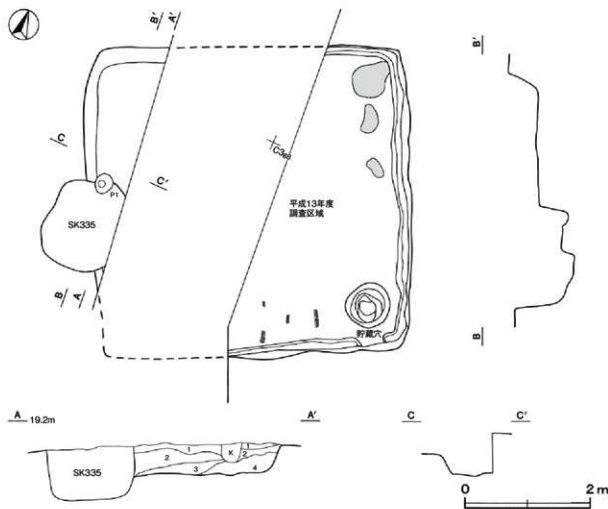
覆土 4層に分層される。各層ともロームブロックを含んでおり人為堆積と考えられる。

## 土層解説

- |                            |                             |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量     | 3 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量        |
| 2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量、炭化物・粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片18点(埴2, 壺1, 甕15)が出土している。出土土器のほとんどが細片のため、図示できない。

所見 本跡の大半が平成13年度調査区域に位置し、今年度は狭小であった。時期は、文化財調査報告第191集で、出土土器から5世紀前半と考えられており、今回の出土土器は少量であるがそれを裏付けるものである。



第36図 第71号住居跡実測図

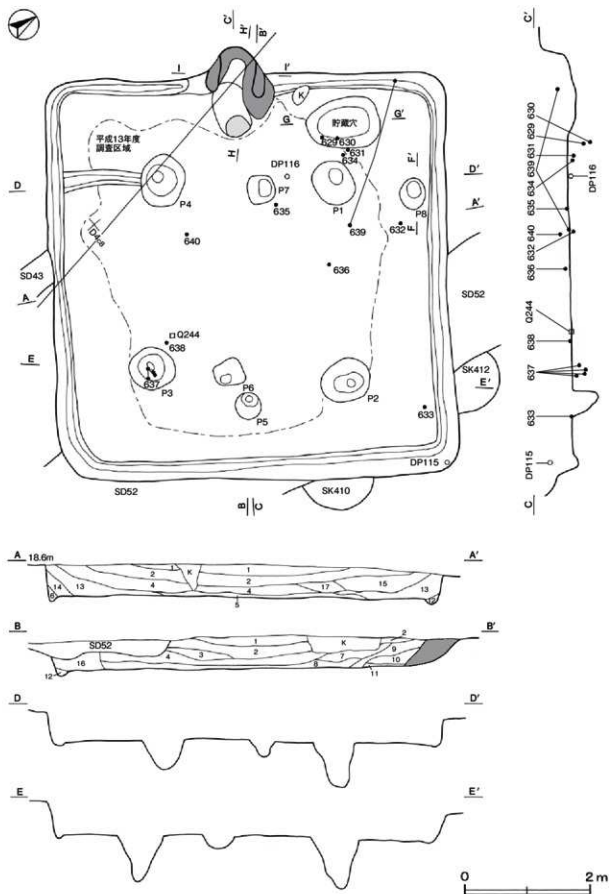
## 第84号住居跡 (第37～39図)

位置 調査区東部のD4b8区、標高18.4～18.6mの台地緩斜面部に位置している。本跡は平成13年度調査区域にまたがっている。

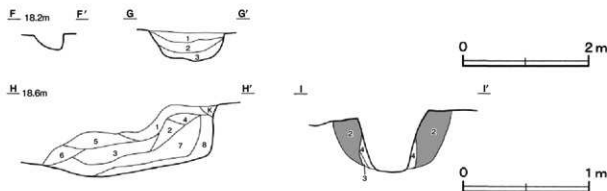
重複関係 第43・52号溝、第410・412号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.50m、短軸6.42mの方形で、主軸方向はN-51°-Wである。壁高は33～52cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。間仕切り溝が、西壁からP4にかけて1条確認された。



第37图 第84号住居跡実測图(1)



第38図 第84号住居跡火測図(2)

竈 北壁中央部に付設されている。西部は平成13年度に調査されている。規模は焚き口から煙道部まで144cm、袖部幅133cmである。袖部は、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部も地山面をそのまま使用し、火床面は火熱により赤変している。煙道部は壁外へ58cm掘り込み、外傾して立ち上がっている。

## 竈土層解説

- |        |                      |          |                     |
|--------|----------------------|----------|---------------------|
| 1 灰 褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量    | 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量  |
| 2 灰 褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量      | 6 暗 褐色   | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量   |
| 3 黒 褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量 | 7 褐色     | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗 褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量  | 8 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子微量  |

ピット 8か所。P1～P4は深さ53～83cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ40cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P8は深さ20～30cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径118cm、短径82cmの楕円形で、深さは45cmである。底面はやや凹凸があり、壁は外傾して立ち上がっている。

## 貯蔵穴土層解説

- |        |                     |      |                  |
|--------|---------------------|------|------------------|
| 1 暗 褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量  | 3 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |      |                  |

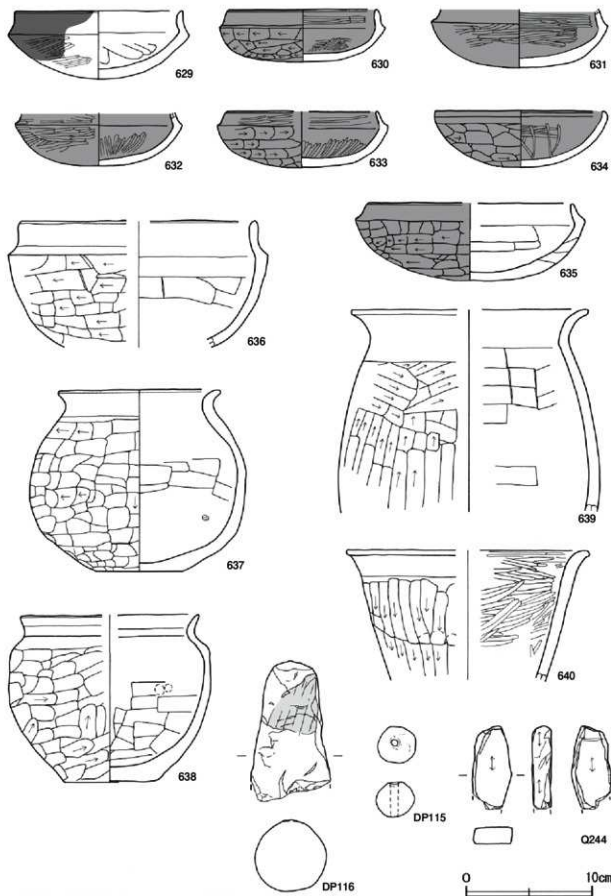
覆土 17層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- |        |                       |         |                     |
|--------|-----------------------|---------|---------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     | 10 暗 褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量   |
| 2 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量          | 11 暗 褐色 | 砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量     |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量        | 12 暗 褐色 | ロームブロック微量           |
| 4 暗 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 13 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量      |
| 6 褐色   | ロームブロック中量             | 15 黒 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 褐色   | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 暗 褐色 | ローム粒子中量             |
| 8 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 17 暗 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量        |
| 9 灰 褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |         |                     |

遺物出土状況 土師器片590点(坏198, 柄4, 高坏15, 甕371, 瓶2), 土製品2点(球状土錘, 支脚), 石器1点(砥石), 鉄滓3点が出土している。また、流れ込んだ縄文土器2点, 弥生土器4点, 剥片1点, 混入した須恵器7点, 土師質土器28点, 磁器1点も出土している。629・630は貯蔵穴の覆土中層からそれぞれ出土している。639は北部壁際覆土中層と中央部床面から出土した破片が接合したものである。631・632・634, DP116は北部, 633は東コーナー部, 635・638, Q244は中央部の床面からそれぞれ出土している。637はP3の覆土上層, 636・640は中央部の覆土下層, DP115は東コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。床面及び貯蔵穴から出土している土器は、住居廃絶時に遺棄されたものと推測される。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第39圖 第84号住居跡出土遺物実測圖

第84号住居跡出土遺物観察表（第39図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
629	土師器	環	13.3	5.4	-	長石・細礫	黒	普通	体部外面へう磨き 内面へうナデ	貯蔵穴覆土中層	10% PL3
630	土師器	環	10.8	4.1	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へう磨り 内面へう磨き	貯蔵穴覆土中層	95%
631	土師器	環	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	体部内・外面へう磨き	北部床面	10% PL3
632	土師器	環	-	(4.2)	-	長石・石英	橙	普通	体部内・外面へう磨き	北部床面	80%
633	土師器	環	[12.0]	4.4	-	長石・石英・雲母	黒濁	普通	体部外面へう磨り 内面へう磨き	薬コーナー部床面	60%
634	土師器	環	13.3	4.4	-	長石・石英・雲母	黒	普通	体部外面へう磨り 内面へう磨き	北部床面	50%
635	土師器	環	[16.3]	6.1	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へう磨り 内面へうナデ	中央部床面	30%
636	土師器	輪	[18.6]	(10.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面へう磨り 内面へうナデ	北部覆土下層	10%
637	土師器	甕	12.8	14.4	7.0	長石・石英・雲母・絶乾子	にぶい赤濁	普通	体部外面へう磨り 内面へうナデ	P 3 覆土上層	85% PL3
638	土師器	甕	[14.0]	13.2	7.3	長石・石英	明赤濁	普通	体部外面へう磨り 内面へうナデ	中央部床面	65%
639	土師器	甕	[18.8]	(16.0)	-	長石・石英・細礫	にぶい黄橙	普通	体部外面へう磨り 内面へうナデ	北部覆土中層・中央部床面	5%
640	土師器	甕	[19.2]	(10.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へう磨り 内面へう磨き	中央部覆土下層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP115	埴状土師	3.1	2.8	0.6	21	長石	ナデ	薬コーナー部覆土上層	PL40

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・材質	特徴	出土位置	備考
DP116	支脚	(11.1)	6.3	5.6	(294)	長石・石英・雲母・細礫	表面に二次焼成痕 下部欠損	北部床面	PL40
Q244	砥石	(6.5)	3.2	1.5	(399)	滑石	砥面3面	中央部床面	65%

## 第85号住居跡（第40～42図）

位置 調査区東部のD4e9区。標高18.6～18.8mの台地緩斜面部に位置している。本跡は平成13年度調査区域にまたがっている。

重複関係 第86号住居、第406号土坑、第36・43・44号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.90m、短軸7.65mの方形で、主軸方向はN-22°-Wである。壁高は40～57cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

炉 3か所。炉1は北壁際の中央に位置している。径84cmの円形で、床面を16cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。炉2・3は中央部から東壁際寄りに位置している。炉2は長径40cm、短径32cmの楕円形で、床面を4cm掘りくぼめた地床炉である。炉3は長径49cm、短径36cmの不整形円形で、床面を4cm掘りくぼめた地床炉である。炉2・3の炉床は部分的に火熱を受けて赤変している。炉2・3の規模は炉1の半分程度であり、掘り込みも浅いことから、炉1が主に使われていたと考えられる。

## 炉土層解説

1 暗褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量

ピット 4か所。P1～P4は深さ38～66cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は北壁際のやや西寄りに位置している。長径92cm、短径74cmの楕円形で、深さは66cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は南東コーナー部に位置している。長径112cm、短径96cmの楕円形で、深さは74cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

## 貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

4 暗褐色 ローム粒子中量

2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

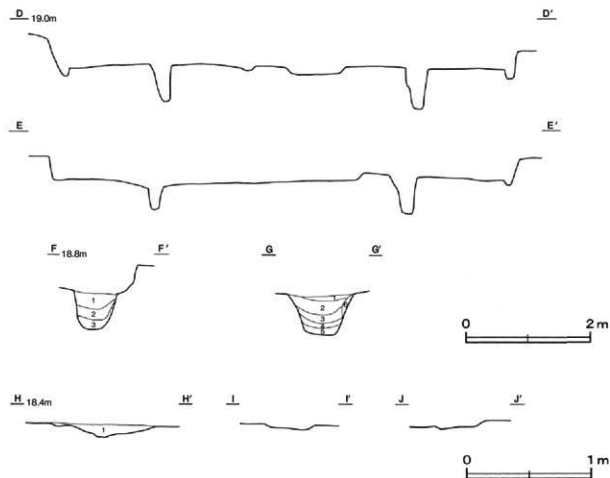
5 暗褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量

3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

6 暗褐色 ローム粒子少量







第41図 第85号住居跡実測図2)

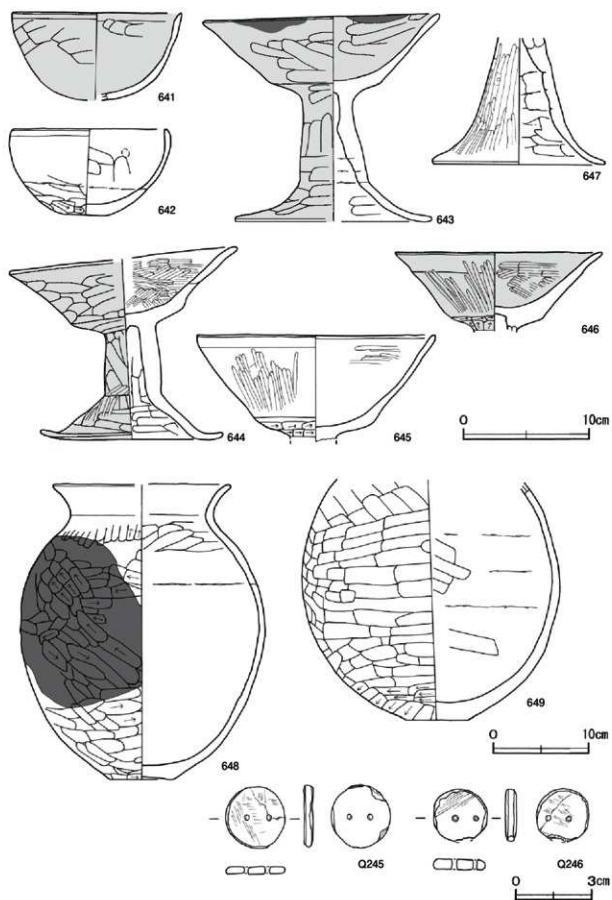
**覆土** 6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                       |       |                       |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     | 4 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量         |

**遺物出土状況** 土師器片600点（坏86、碗17、埴35、高坏82、壺4、甕376）、石製品2点（双孔円板）が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片5点、混入した須恵器壺片1点も出土している。遺物は覆土下層から床面にかけて主に出土している。641は炉1の覆土中と貯蔵穴2の覆土中の破片が接合したものである。642は貯蔵穴2の覆土上層から出土している。644・645は北壁際床面から正位で出土している。646・648は南部の床面、647は南壁際の覆土下層、649、Q245・Q246は東壁際の床面からそれぞれ出土している。643は北壁際と南部の床面の破片がそれぞれ接合したものである。これらの出土遺物は住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 床面積が60㎡を超える大形住居である。時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第42图 第85号住居跡出土遺物実測図

第85号住居跡出土遺物観察表（第42図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
641	土師器	椀	13.5	(6.9)	-	長石	にぶい黄褐色	普通	体部内・外面ヘラナデ	伊・貯蔵穴覆土中	器底に内面磨削
642	土師器	椀	12.1	7.2	3.2	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外面下縁ヘラ削り調整	貯蔵穴2層土上層	7% P.28
643	土師器	高坏	18.7	16.4	[15.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	坏部内・外面ヘラナデ	北壁際床面・南面床面	8% P.28
644	土師器	高坏	[18.0]	15.4	14.5	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	坏部外面ヘラナデ、内面ヘラ磨き	北壁際床面	7% P.28
645	土師器	高坏	18.9	(8.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	坏部内・外面ヘラ磨き	北壁際床面	50%
646	土師器	高坏	10.5	(6.3)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	坏部内・外面ヘラ磨き	南面床面	40%
647	土師器	高坏	-	(10.0)	13.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	脚部外面ヘラ磨き	南壁際覆土下層	40%
648	土師器	甕	[18.3]	30.9	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	南面床面	器底に内面磨削 器底に土粒付
649	土師器	甕	-	(25.1)	6.4	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外面下縁ヘラ削り 内面ヘラナデ	東壁際床面	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q245	双孔円板	2.5	2.4	0.3	3.20	滑石	孔径0.13cm 両面平削 斜方向の研磨 片側穿孔	東壁際床面	PL40
Q246	双孔円板	3.1	2.2	0.4	(3.10)	滑石	孔径0.12cm 両面平削 斜方向の研磨 片側穿孔	東壁際床面	PL40

## 第86号住居跡（第43・44図）

**位置** 調査区東部のD4 e8区。標高18.7mの台地平坦部に位置している。本跡は平成13年度の調査区域にまたがっている。

**重複関係** 第85号住居跡を掘り込み、第43号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸5.12m、短軸5.00mの方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は30～40cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が西壁際から南壁際にかけて周回している。

**竈** 北壁中央部に付設されており、平成13年度に調査している。

**ピット** 6か所。P1～P4は深さ41～79cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5・P6は深さ47cm・21cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

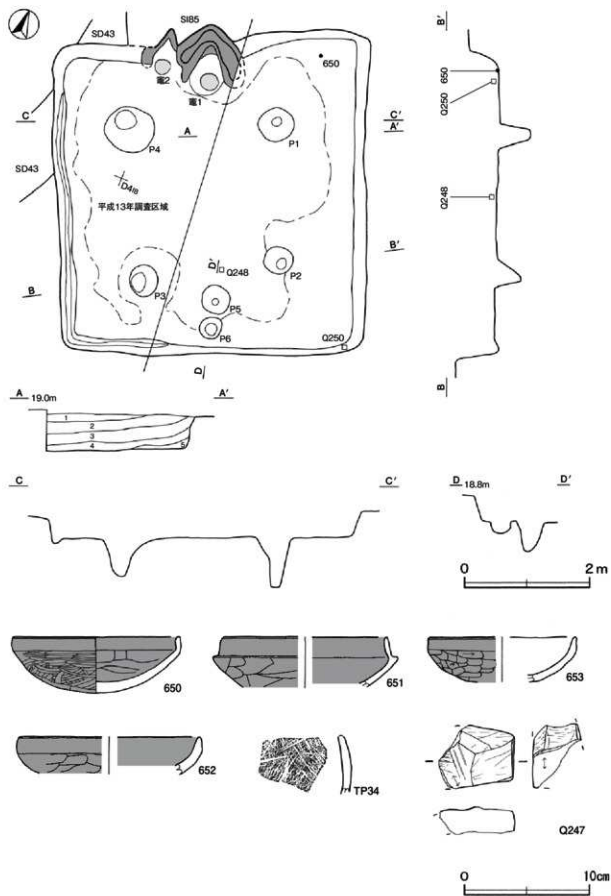
**覆土** 5層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

## 土層解説

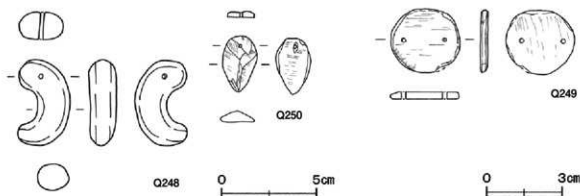
- |       |                     |       |                      |
|-------|---------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量        | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量    |       |                      |

**遺物出土状況** 土師器片525点（坏101、椀3、埴3、高坏6、甕8、甕3、瓶1）、石器1点（砥石）、石製品3点（勾玉、双孔円板、剣形模造品）が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片12点、混入した須恵器片4点、土師質土器片2点も出土している。650は北東コーナ部、Q250は南東コーナ部の床面からそれぞれ出土している。Q248は中央部の覆土下層、651～653、TP34、Q247・249は覆土中から出土している。

**所見** 本跡の西部は平成13年度に調査されており、今回の調査区域は東部のみであった。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第43図 第86号住居跡・出土遺物実測図



第44図 第86号住居跡出土遺物実測図

第86号住居跡出土遺物観察表 (第43・44図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
650	土師器	坏	13.2	4.5	-	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	北東コーナー部床面	90% PL3
651	土師器	坏	[13.0]	(4.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ	覆土中	15%
652	土師器	坏	[14.5]	(3.0)	-	長石・石英・雲母・鉄屑子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ	覆土中	10%
653	土師器	坏	[11.8]	(3.5)	-	長石・石英・雲母	灰青濁	普通	体部外面ヘラ磨り	覆土中	10%
TP34	土師器	甕	-	(4.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	覆土中	90% 灰赤濁孔口

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q247	砥石	(5.1)	(6.0)	(2.2)	(749)	滑石	砥面2面	覆土中	
Q248	勾玉	4.5	2.8	1.5	23.5	黒色頁岩	片面穿孔 孔径0.25 cm	中央部覆土下層	PL40
Q249	双孔円板	2.5	2.8	0.3	(3.78)	滑石	両面平坦 片面穿孔	覆土中	PL40
Q250	磨石類	3.0	1.9	0.6	3.80	滑石	片面に磨有り 上部穿孔 孔径0.11 cm 斜方向の研ぎ	南東コーナー部床面	PL40

## 第105号住居跡 (第45・46図)

位置 調査区東部のD4 8区。標高18.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第405・421号土坑。第44号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第44号溝に掘り込まれているため、確認できた範囲は南北5.25m、東西3.07mである。平面形は方形又は長方形と推測され、主軸方向はN-75°-Wである。壁高は16~25cmで、外傾して立ち上がった。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

炉 中央部西寄りに位置している。長径52cm、短径42cmの楕円形で、床面と同じ高さの地山面をそのまま使用した地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変している。

## 炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量

覆土 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

## 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

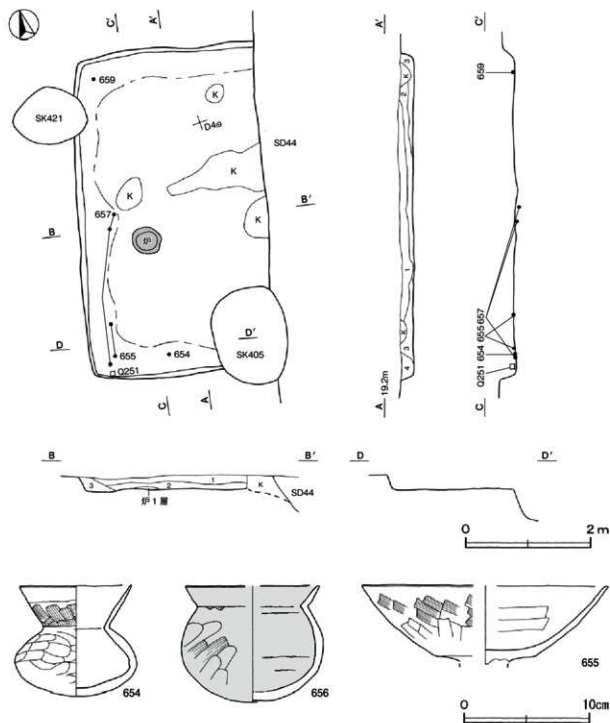
3 暗褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック少量

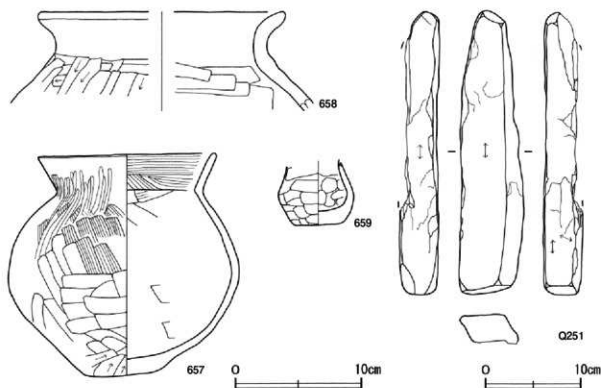
4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片188点（坏6，椀3，埴43，器台1，高坏14，壺13，甕107，ミニチュア土器1），土製品1点（支脚片），石器1点（砥石）が出土している。遺物は壁際の床面及び覆土下層から主に出土している。654は南壁際，655・Q251は南西コーナー部，659は北西コーナー部の床面からそれぞれ出土し，遺棄されたと考えられる。657は西部の床面と南西コーナー部の床面の破片が接合したものである。656・658は覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は，出土土器から5世紀前葉と考えられる。



第45図 第105号住居跡・出土遺物実測図



第46図 第105号住居跡出土遺物実測図

## 第105号住居跡出土遺物観察表 (第45・46図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
654	土師器	埴	8.9	8.7	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面ハケ目	南壁礎床面	60% PL29
655	土師器	高坏	[19.5]	[6.2]	-	長石・礫	橙	普通	坏部外面ハケ目後ヘラナデ	南西コーナー部床面	40%
656	土師器	小形壺	[10.6]	9.2	3.1	長石・石英	赤褐	普通	体部外面ハケ目後ヘラナデ	礎土中	30%
657	土師器	甕	13.9	17.8	5.8	長石・礫	橙	普通	体部外面ハケ目後ヘラナデ	南壁礎・南西コーナー部床面	60% PL29
658	土師器	甕	[19.2]	(7.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ製り 内面ヘラナデ	礎土中	10%
659	土師器	にぶい埴	-	(5.1)	3.7	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	北西コーナー部床面	70% PL29

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q251	砥石	29.7	6.8	4.1	(1150)	粘板岩	砥面3面	南西コーナー部床面	PL40

## 第106号住居跡 (第47～50図)

**位置** 調査区東部のC49区、標高181～184mの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第52号溝、第404・413・419・420号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸7.75m、短軸7.55mの方形で、主軸方向はN-36°-Wである。壁高は45～70cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで156cm、袖部幅128cmである。袖部は地山を床面より19cmほど高く掘り残して基部とし、その周りに砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は焚き口部に近いところに位置し、地山面を5cmほど掘りくぼめて使用しており、火床面及び内壁は火熱で赤変硬化

している。煙道部は壁外へ34cm掘り込まれ、直立している。

遺土層解説

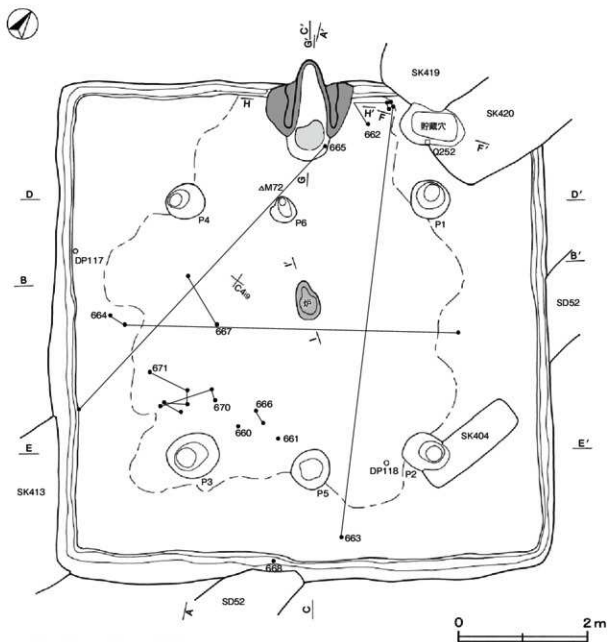
- |          |                      |          |                       |
|----------|----------------------|----------|-----------------------|
| 1 黒 褐色   | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量    | 7 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量       |
| 2 褐 色    | ロームブロック・砂質粘土粒子少量     | 8 灰 褐色   | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗 褐色   | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 9 褐色     | ロームブロック・砂質粘土粒子少量      |
| 4 褐色     | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量   | 10 灰 褐色  | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量       |
| 5 暗 赤褐色  | 焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子微量   | 11 褐色    | ロームブロック・砂質粘土粒子中量      |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子微量   |          |                       |

炉 中央部やや北寄りに位置している。長径62cm、短径36cmの楕円形で、床面を皿状に11cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。

炉土層解説

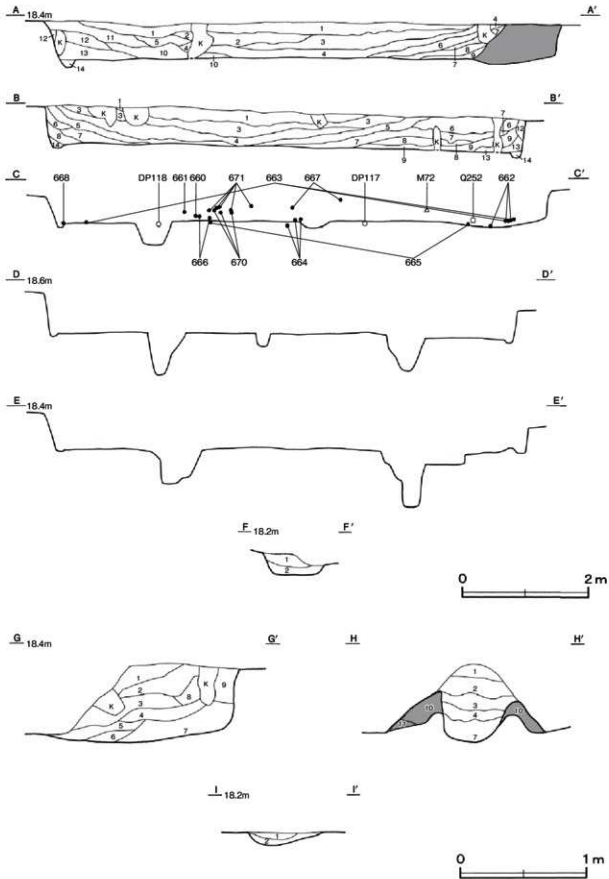
- |         |               |        |                  |
|---------|---------------|--------|------------------|
| 1 暗 赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量 | 2 暗 褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
|---------|---------------|--------|------------------|

ピット 6か所。P1～P4は深さ41～79cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ47cmで南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ21cmで性格は不明である。



第47図 第106号住居跡実測図(1)





第48図 第106号住居跡実測図(2)

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径100cm、短径62cmの楕円形で、深さは38cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量      2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

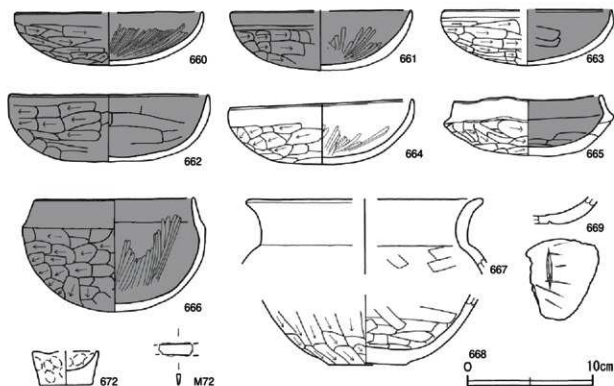
覆土 14層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

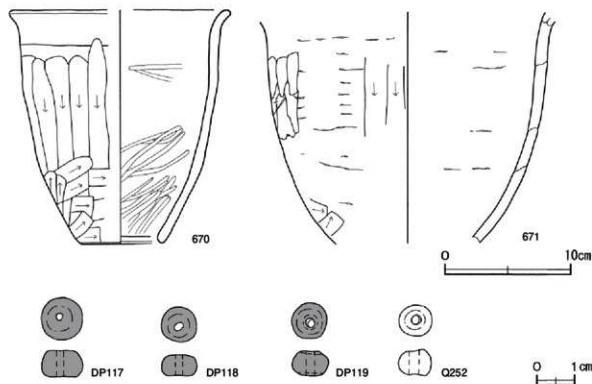
- |        |                       |        |                       |
|--------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     | 8 暗褐色  | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 9 灰褐色  | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色  | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量    | 10 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量  | 11 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量    |
| 5 黒褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量        | 12 褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子微量        |
| 6 暗褐色  | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量    | 13 褐色  | ロームブロック中量、炭化物微量       |
| 7 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック少量             |

遺物出土状況 土師器片1,016点(坏194, 碗5, 高坏49, 鉢3, 壺14, 甕713, 甔37, 手握土器1), 土製品3点(白玉), 石製品1点(白玉), 鉄製品2点(刀子, 不明鉄製品), 鉄滓51点が出土している。また、混入した土師質土器片32点, 陶器1点, 石1点も出土している。662は北東部, DP117は西部の床面, DP118は中央部の床面, Q252は貯蔵穴の覆土上層からそれぞれ出土している。663は南部と北東部の床面, 664は東部と西部の床面, 665は竈焚き口部と西壁際床面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。660・661・666・667・670・671は中央部の覆土上層から下層にかけて, それぞれ出土している。668は南壁際の床面, M72は北部の覆土中層, 669・672, DP119は覆土中からそれぞれ出土している。鉄滓は細片のため, 図示できなかった。

所見 面積が58㎡を超える大形住居跡である。竈と炉を併設しており, 鉄滓が出土していることから, 工場的な性格を持っていた可能性が推定される。時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第49図 第106号住居跡出土遺物実測図1)



第50図 第106号住居跡出土遺物実測図2)

第106号住居跡出土遺物観察表 (第49・50図)

番号	器種	器高	口径	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
660	土師器 環	[14.8]	4.2	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面へう割り 内面へう巻き	中央部覆土下層	55%
661	土師器 環	[14.4]	4.7	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう割り 内面へう巻き	中央部覆土下層	45%
662	土師器 環	15.8	5.3	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう割り 内面へう巻き	北東部床面	70%
663	土師器 環	[13.4]	4.5	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう割り 内面へう巻き	南部床面・北東部床面	50%
664	土師器 環	14.5	5.1	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう割り 内面へう巻き	東部床面・西部床面	95% PL30
665	土師器 環	11.6	5.0	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面へう割り 内面へう巻き	西側部床面・竈突き口部	83% PL31
666	土師器 碗	12.7	9.0	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう割り 内面へう巻き	中央部覆土下層	80% PL30
667	土師器 蓋	[18.6]	(6.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面へう巻き	中央部覆土上層	10%
668	土師器 蓋	-	(5.6)	6.2	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へう割り 内面へう巻き	南側部床面	10%
669	土師器 蓋	-	(2.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう巻き	覆土中	5% 破損
670	土師器 瓶	[17.0]	18.5	6.3	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へう割り 内面へう巻き	中央部覆土中層	15%
671	土師器 瓶	-	(16.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へう割り	中央部覆土中層	30%
672	土師器 手捏土器	[5.0]	2.7	4.2	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄橙	普通	体部内・外面指頭ナデ	覆土中	45%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP117	白玉	1.09	0.73	0.17	1.00	長石	ナデ 外面黒色処理 片面穿孔	西部床面	PL40
DP118	白玉	0.93	0.58	0.24	0.59	長石	ナデ 外面黒色処理 片面穿孔	中央部床面	PL40
DP119	白玉	0.93	0.65	0.20	0.64	長石	ナデ 外面黒色処理 片面穿孔	覆土中	PL40
Q252	白玉	0.82	0.63	0.22	0.45	砂岩	片面穿孔	貯蔵穴覆土上層	PL40

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M72	刀子	(2.7)	0.9	0.3	(3.04)	鉄	刃部の破片	北部覆土中層	PL39

第107号住居跡 (第51・52図)

位置 調査区西部のC2d3区、標高18.3～18.4mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第3・64号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.40m、短軸3.96mの長方形で、主軸方向はN-47°-Eである。壁高は24～30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が周回している。また、丸材と考えられる炭化材と、茅の炭化物が一面に確認された。

炉 中央部に位置している。径52cmの円形、床面を4cm掘りくぼめた地床炉で、炉床は火熱で赤変している。

炉土層解説

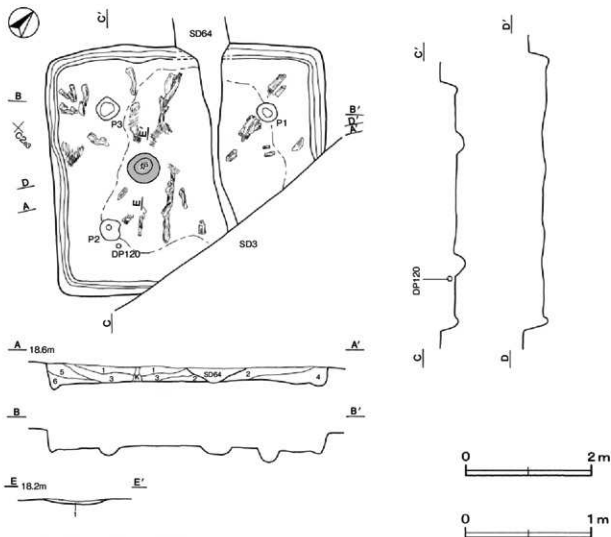
1 におい赤褐色、焼土粒子中量、炭化材少量

ピット 3か所。P1～P3は深さ13～23cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土 6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

- |        |                      |       |                     |
|--------|----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒色   | 炭化物中量、焼土粒子微量         | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量     |
| 2 稀暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量     | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量     |
| 3 黒褐色  | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |



第51図 第107号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片7点(坏1, 高坏1, 甕5), 土製品1点(球状土錘), 炭化材が出土している。出土した土器はほとんどが細片である。673・674は覆土中, DP120は南部の覆土下層から出土している。炭化材と茅の炭化物が, 床面全体から折り重なって確認された。

**所見** 床面から確認された炭化材は, 丸材であることから棟木と推測される。また, 屋根の構築材と考えられる炭化材が一面に見られることから, 焼失住居と推測される。時期は, 出土土器から5世紀前半と考えられる。



第52図 第107号住居跡出土遺物実測図

第107号住居跡出土遺物観察表(第52図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
673	土師器	高坏	-	(4.2)	-	長石・細礫	にぶい黄緑	普通	脚部外面ヘラナデ	覆土中	5%
674	土師器	甕	[22.0]	(2.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面ナデ	覆土中	5%
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴		出土位置	備考	
DP120	球状土錘	2.8	3.0	0.4	18.7	長石	ナデ		南部覆土下層	PL40	

第108号住居跡(第53図)

**位置** 調査区西部のC2c7区, 標高18.8mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸5.02m, 短軸4.11mの長方形で, 主軸方向はN-83°-Eである。壁高は36~43cmで, 外傾して立ち上がっている。

**床** はほぼ平坦である。貯蔵穴の周囲に, 幅17~40cm, 高さ6~8cmのY字状の高まりが確認されている。

**炉** 中央部やや北寄りに位置している。径42cmの円形で, 床面と同じ高さの地山面をそのまま使用した地床炉である。炉床は火熱により赤変している。

**炉土層解説**

- 1 赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量

**ピット** 3か所。P1~P3は深さ10~22cmで, 規模と配置から主柱穴と考えられる。

**貯蔵穴** 南東コーナー部に位置している。長軸80cm, 短軸74cmの方形で, 深さは42cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

**貯蔵穴土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量      2 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量

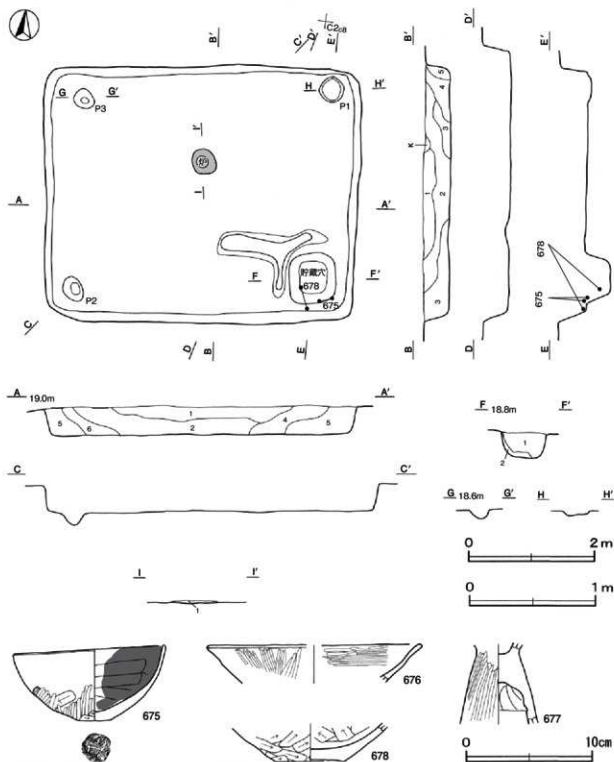
**覆土** 6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量      4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量  
2 暗褐色 ローム粒子少量      5 褐色 ローム粒子多量  
3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量      6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片82点(坏13, 碗5, 高坏8, 壺1, 甕55), 炭化材が出土している。また, 流れ込んだ縄文土器片7点, 混入した須恵器甕片1点も出土している。土器は主に貯蔵穴内及びその周辺の覆土中から出土している。675は貯蔵穴の覆土上層から出土している。678は貯蔵穴の覆土中層と, 南壁際床面の破片が接合したものである。676・677は覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 貯蔵穴の周囲の高まりは, 貯蔵穴に伴う施設であると推測される。時期は, 出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第53図 第108号住居跡・出土遺物実測図

## 第108号住居跡出土遺物観察表 (第53図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
675	土師器	椀	11.9	6.0	2.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい濁	普通	体部内面ヘラナデ	貯蔵穴覆土上層	75% PL29
676	土師器	高坏	[168]	[30]	-	長石・石英・雲母	澄	普通	坏部内・外面ヘラ磨き	覆土中	5%
677	土師器	高坏	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	坏部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土中	10%
678	土師器	甕	-	[30]	[5.4]	長石・石英・赤色粒子	にぶい濁	普通	体部内・外面ヘラ磨り	貯蔵穴覆土中層・南壁部床裏	5%

## 第109号住居跡 (第54～56図)

**位置** 調査区西部のC2e8区、標高18.7～18.9mの台地緩斜面部に位置している。

**規模と形状** 一辺6.10mの方形で、主軸方向はN-18°-Wである。壁高は40～52cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで128cm、袖部幅118cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面及び内壁は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ58cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

**竈土層解説**

1 暗褐色	砂質粘土粒子少量、炭化物微量	5 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
2 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量	6 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量	7 褐色	ロームブロック中量
4 灰褐色	炭化物・灰中量、焼土粒子微量	8 暗褐色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量

**ピット** 8か所。P1～P4は深さ34～64cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5・P6は深さ53cm・14cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P7・P8は深さ29cm・32cmで、竈と貯蔵穴の間に位置しており、性格は不明である。

**貯蔵穴** 北東コーナー部に位置している。長軸82cm、短軸78cmの方形で、深さは41cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

**貯蔵穴土層解説**

1 暗褐色	ロームブロック少量	3 暗褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ローム粒子少量	4 褐色	ロームブロック中量

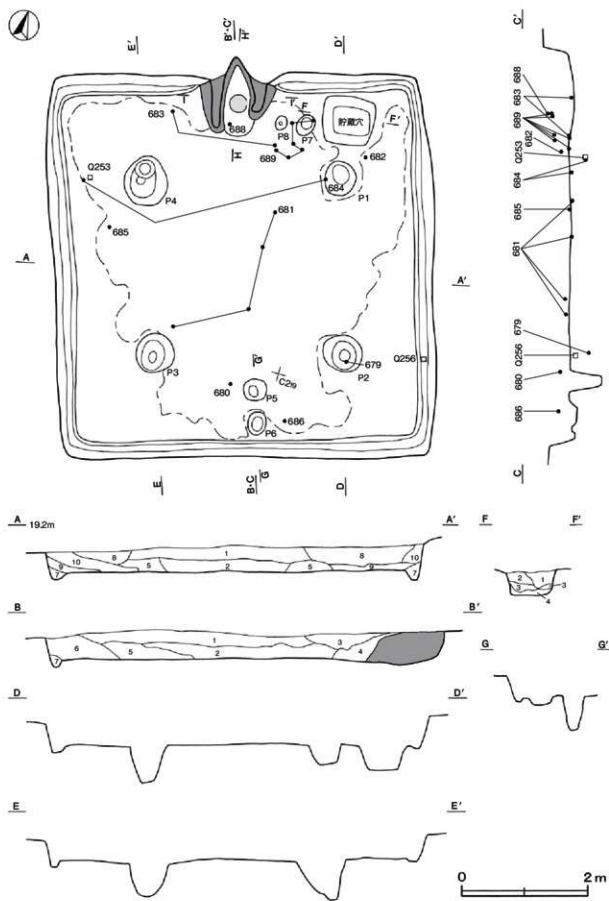
**覆土** 10層に分層される。ロームブロックを含む不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黒褐色	ローム粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック少量	7 褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量	9 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

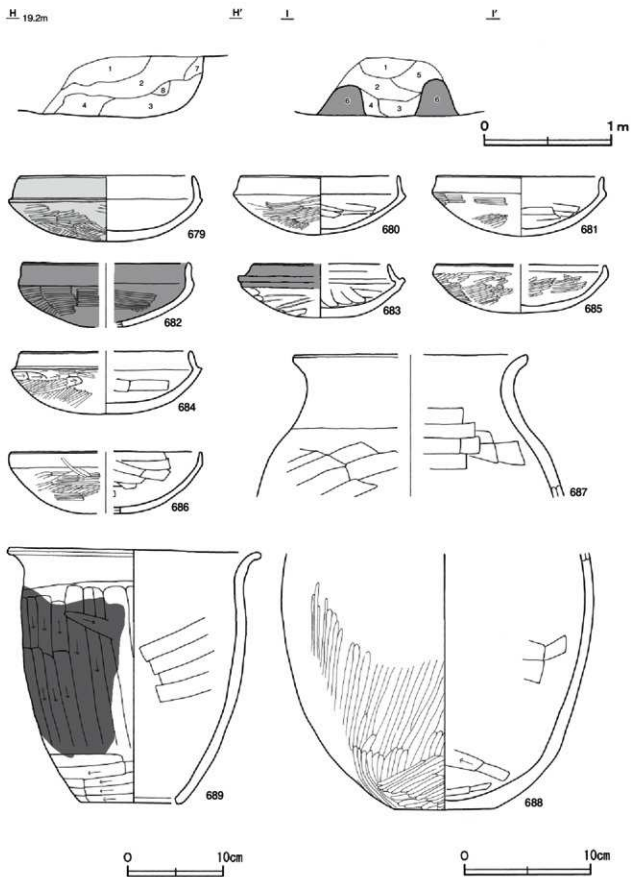
**遺物出土状況** 土師器片637点（坏114、椀5、高坏67、壺27、甕399、甌19、手捏土器6）、土製品1点（支脚片）、石器2点（砥石）、石製品2点（白玉、石製模造品）が出土している。また、混入した土師質土器片11点も出土している。679はP2の覆土中層から出土している。681は中央部、685・Q253は西部、689は北東部、Q256は東部の床面からそれぞれ出土している。竈からは、687が覆土中、688が覆土上層、690が火床部からそれぞれ出土している。683は北部覆土下層から床面、680・686は南部の覆土中層、682は北東部の覆土中層、691、Q254・Q255は覆土中からそれぞれ出土している。684は西部の床面と中央部の床面の破片が接合している。床面及び竈の覆土中から出土している土器は、遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。

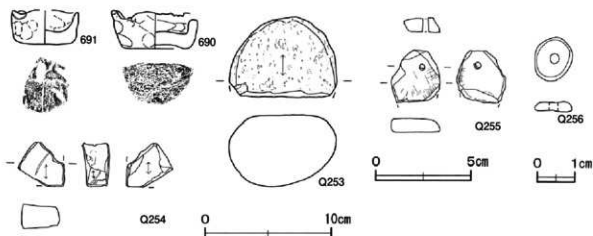


第54图 第109号住居跡実測图





第55図 第109号住居跡・出土遺物実測図



第56図 第109号住居跡出土遺物実測図

第109号住居跡出土遺物観察表 (第55・56図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
679	土師器	坏	13.8	5.2	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ磨き	P.2覆土中層	95% PL31
680	土師器	坏	12.5	4.7	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ磨き 内面ヘラナデ	南部覆土中層	95% PL31
681	土師器	坏	13.1	4.9	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ磨き 内面ヘラナデ	中央部床面	90% PL31
682	土師器	坏	[13.2]	(5.1)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面へラ磨き	北東部覆土中層	45%
683	土師器	坏	[10.7]	4.3	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	北部覆土下層～床面	80%
684	土師器	坏	[13.4]	5.0	-	長石	橙	普通	体部外面へラ磨り後へラ磨き	西部床面・中央部床面	35%
685	土師器	坏	[13.4]	3.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面へラ磨き	西部床面	65%
686	土師器	坏	[15.1]	(4.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨き 内面ヘラナデ	南部覆土中層	30%
687	土師器	甕	[18.5]	(11.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	竈覆土中	15%
688	土師器	甕	-	(20.3)	8.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨き 内面ヘラナデ	竈覆土上層	30%
689	土師器	甕	25.9	26.4	10.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨り 内面ヘラナデ	北東部床面～覆土中層	80% PL32
690	土師器	手捏土器	6.7	3.1	5.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面指ナデ	竈火床部覆土中	50%
691	土師器	手捏土器	(5.2)	2.7	4.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面指ナデ	覆土中	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q253	砥石	(6.4)	8.6	5.8	(222)	安山岩	砥面1面	西部床面	PL41
Q254	砥石	(3.5)	(3.6)	1.9	(16.7)	凝灰岩	砥面3面	覆土中	
Q255	磨製道具	(2.8)	2.6	0.8	(6.55)	滑石	両面平滑 上部穿孔 孔径0.31cm 下部欠損	覆土中	PL40

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q256	白玉	1.12	0.26	0.22	0.55	碧玉	厚みのはとんどない円盤状 片面穿孔	東部床面	PL40

### 第110号住居跡 (第57・58図)

位置 調査区西部のC2d0区、標高18.9～19.0mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸6.85m、短軸4.90mの長方形で、主軸方向はN-68°-Eである。壁高は45～60cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦である。炬から貯蔵穴にかけての西部を中心に踏み固められている。

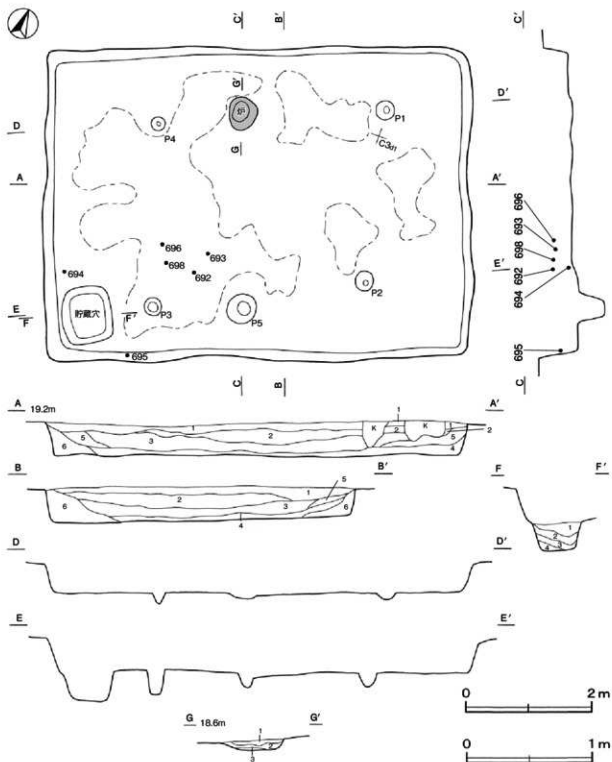
炉 北壁際の中央部に位置している。長径52cm、短径44cmの楕円形で、床面を8cm掘りくぼめた地床炉である。

知床は火熱により赤変硬化している。

伊土層解説

- 1 黒 褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 にふい赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量
- 3 赤 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量

ピット 5か所。P1～P4は深さ14～41cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ49cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第57図 第110号住居跡実測図

**貯蔵穴** 南西コーナー部に位置している。長軸90cm、短軸80cmの長方形で、深さは47cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

**貯蔵穴土層解説**

- |        |                    |         |                     |
|--------|--------------------|---------|---------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量     | 3 濃い赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 4 褐色    | ローム粒子中量             |

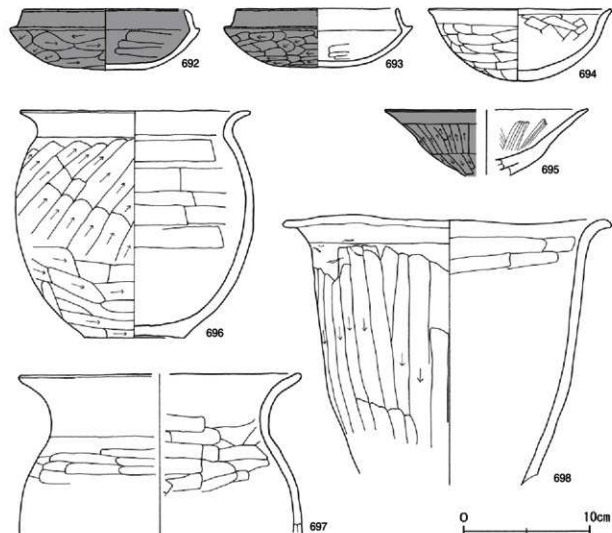
**覆土** 6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                   |       |                     |
|-------|-------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量           | 4 褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量      | 5 褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子少量    |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 明褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量      |

**遺物出土状況** 土師器片461点（坏42、椀5、埴8、高坏20、壺3、甗7、甕376）、土製品2点（支脚片）が出土している。また、混入した須恵器甕片1点も出土している。土器は主に南西部から中央部にかけて散在している。692は中央部の覆土上層、694は西壁際の覆土下層、695は南西壁際の覆土中層、697は覆土中、693・696・698は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

**所見** 長軸と短軸の差が約2mある長方形の住居である。土器は覆土上層から下層にかけて出土しており、住居廃絶後に投棄されたと推定される。時期は、出土土器から5世紀後葉以前と考えられる。



第58図 第110号住居跡出土遺物実測図

第110号住居跡出土遺物観察表（第58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
692	土師器	環	12.8	4.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	中央部覆土上層	100%
693	土師器	環	12.8	4.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	中央部覆土中層	70%
694	土師器	輪	14.4	5.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	西壁際覆土下層	90% PL29
695	土師器	高環	[16.0]	(5.2)	-	長石・細礫	橙	普通	環部外面ヘラ削り 内面内面ヘラナデ	南西壁際覆土中層	40%
696	土師器	甕	18.1	18.0	8.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	中央部覆土中層	60% PL30
697	土師器	甕	[22.0]	(12.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	覆土中	10%
698	土師器	甕	24.8	(21.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	中央部覆土中層	55%

## 第111号住居跡（第59・60図）

位置 調査区西部のC2b0区、標高19.0～19.1mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第112号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.59m、短軸4.82mの長方形で、主軸方向はN-63°-Eである。壁高は11～20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほぼ平坦で、軟弱である。

炉 北壁際の中央部やや東寄り位置している。長径68cm、短径58cmの楕円形で、床面を6cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。

## 炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量

ピット 5カ所。P1～P4は深さ13～81cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ12cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

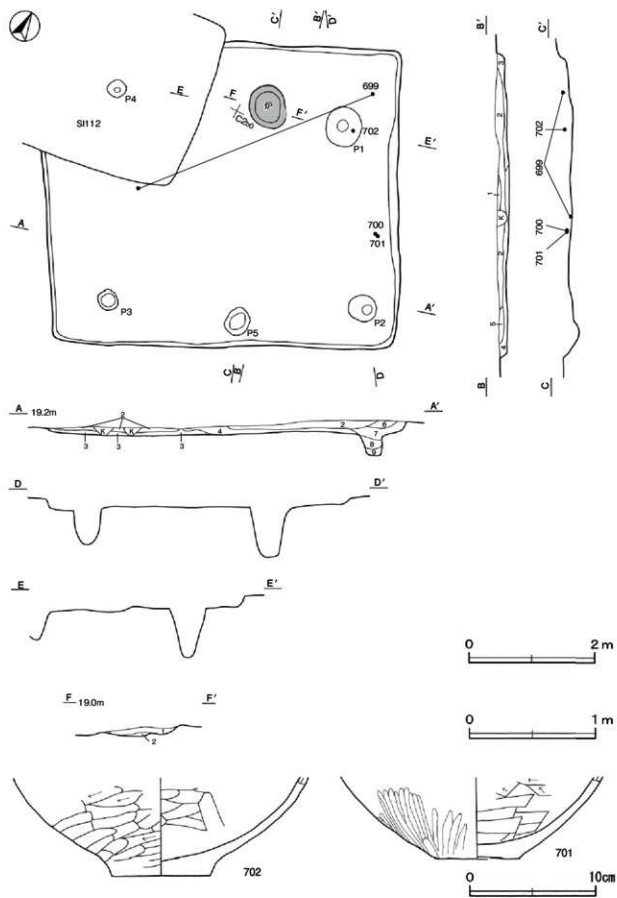
覆土 9層に分層される。各層ともロームブロックを含み、不規則に堆積していることから人為堆積と考えられる。

## 土層解説

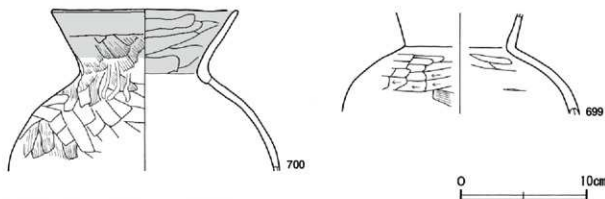
- 1 暗褐色 ロームブロック少量 6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量  
2 黒褐色 ロームブロック微量 7 褐色 ロームブロック中量  
3 暗褐色 ロームブロック少量 8 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子微量  
4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 9 暗褐色 ローム小ブロック中量  
5 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片272点（環16、埴47、高環15、壺2、甕192）、土製品11点（支脚片）が出土している。また、混入した須恵器1点、土師質土器片2点も出土している。出土土器は炉の周辺及び東壁際を中心に、覆土上層から下層にかけて散在しており、ほとんどが細片であることから、住居廃絶時に主に東側から投棄されたと推測される。699は北東コーナー部の覆土下層と中央部の床面の破片が接合したものである。700・701は東壁際の覆土下層、702は北東部の覆土下層から出土している。

所見 長軸と短軸の差がある長方形の住居である。炉が北壁の中央部寄りに位置し、形状が長方形の住居形態は第110号住居跡と類似している。廃絶時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第59图 第111号住居跡・出土遺物実測図



第60図 第111号住居跡出土遺物実測図

第111号住居跡出土遺物観察表 (第59・60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
699	土師器	埴	-	(79)	-	長石・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面ハケ目後ヘラ削り	北東コーナー部下層・中央部圧面	20%
700	土師器	壺	14.6	(128)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラナデ後磨き	東壁際下層	30%
701	土師器	甕	-	(6.5)	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部外面下端磨き	東壁際下層	20%
702	土師器	甕	-	(7.8)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	北東部覆上下層	10%

## 第114号住居跡 (第61図)

位置 調査区中央部のC3c6区、標高18.8～18.9mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸4.48m、短軸4.36mの方形で、主軸方向はN-36°-Eである。壁高は5～10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、軟弱である。

炉 中央部のやや西寄りに位置している。長径59cm、短径48cmの楕円形で、床面を8cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。

## 炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量

2 赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は深さ11～14cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ22cmで、東壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分類される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

## 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

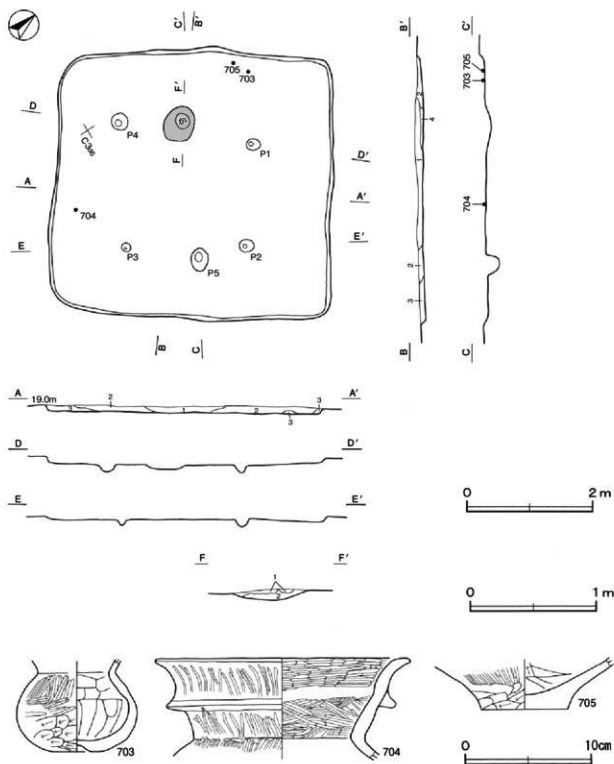
3 褐色 ローム粒子中量

2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

4 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片94点(坏3、埴10、高坏21、壺1、甕59)が出土している。土器は主に北西部から南部にかけて出土している。703・705は北西部の覆土下層から出土している。704は南部の床面から口縁部が逆位で出土しており、住居廃絶時に遺棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から5世紀前葉と考えられる。



第61図 第114号住居跡・出土遺物実測図

第114号住居跡出土遺物観察表 (第61図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
703	土師器	埴	-	(7.8)	-	長石・石英	明赤陶	普通	体部外面下端ヘラ削り	北西部覆土下層	55%
704	土師器	皿	30.0	(8.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面ヘラ磨き	南西部床面	10%
705	土師器	甕	-	(4.0)	6.9	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り	北西部覆土下層	5%



## 第115号住居跡 (第62・63図)

位置 調査区中央部のC3c3区、標高18.8～18.9mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第113号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北部が第113号住居に掘り込まれているため、確認できた範囲は東西3.04m、南北2.21mである。平面形は方形又は長方形と推測され、主軸方向はN-33°-Wである。壁高は30～36cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 深さ27cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径66cm、短径58cmの楕円形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

## 貯蔵穴土層解説

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量      |              |

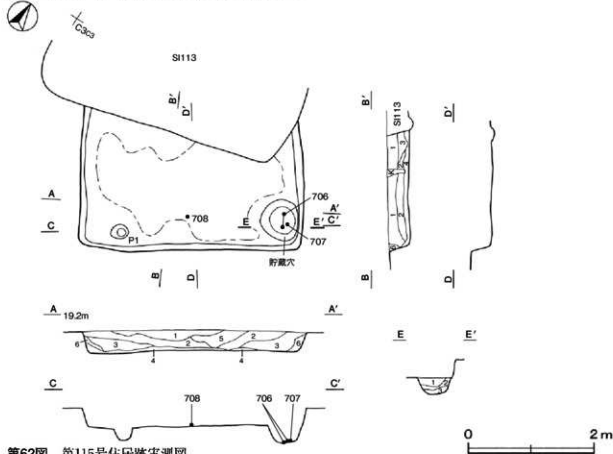
覆土 6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量        | 4 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量   | 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 明褐色 ローム粒子中量          |

遺物出土状況 土師器片46点(坏3、埴6、高坏6、甕35)が出土している。土器は主に貯蔵穴及びその周辺から出土している。706・707は貯蔵穴の底面、708は南部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第62図 第115号住居跡実測図



第63図 第115号住居跡出土遺物実測図

第115号住居跡出土遺物観察表 (第63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
706	土師器	高坏	16.9	(5.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい靑	普通	坏部外面へう割り 内面へラナテ	貯蔵穴底面	35%
707	土師器	高坏	-	(3.1)	-	長石・石英	明赤陶	普通	坏部外面へう割り	貯蔵穴底面	5%
708	土師器	甕	-	(4.0)	7.0	長石・石英・細礫	にぶい黄靑	普通	体部外面下層へう割り 内面へラナテ	南部床面	5%

### 第116号住居跡 (第64～67図)

位置 調査区中央部のC343区、標高18.7～18.9mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第336～338号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.06m、短軸6.97mの方形で、主軸方向はN-22°-Wである。壁高は43～50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで128cm、袖部幅118cmである。袖部は、床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面及び内壁は火熱で赤変硬化している。煙道部は壁外へ30cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。天井部が良好な状態で残存しており、煙道の内部に灰が多量に確認された。

#### 竈土層解説

1 暗褐色	砂質粘土粒子少量、炭化物微量	6 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック少量
3 暗赤褐色	焼土ブロック中量、焼土粒子少量	8 暗褐色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量
4 灰褐色	炭化物・灰中量、焼土粒子微量	9 赤灰色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量		

ピット 5か所。P1～P4は深さ56～65cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ53cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径114cm、短径66cmの楕円形で、深さは22cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

#### 貯蔵穴土層解説

1 褐色	ロームブロック少量	3 明褐色	ローム粒子多量
2 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量		

覆土 10層に分層される。ロームブロックを含む不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

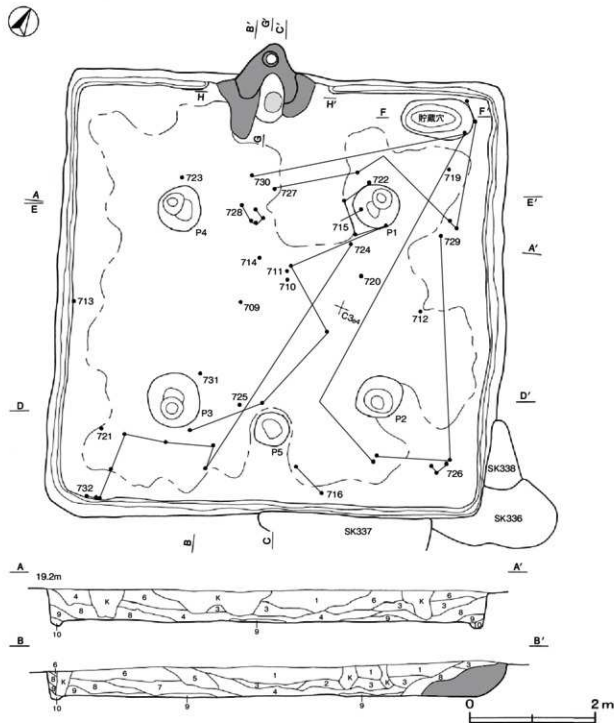
#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック少量	7 褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量	9 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

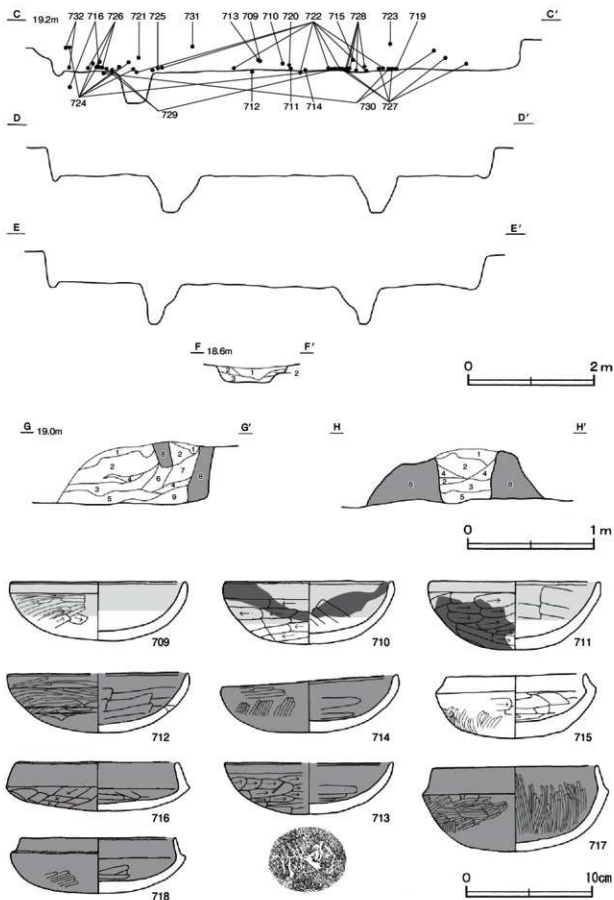
遺物出土状況 土師器片885点(坏250, 碗3, 高坏25, 鉢2, 壺3, 甕521, 甕78, 手捏土器3), 土製品1点(文

脚片)が出土している。また、混入した須恵器片5点、土師質土器片7点、鉄製品1点、石2点も出土している。土器は北部から中央部の覆土下層から中層を中心に出土している。712・726・727は東部、709・711・714・720・725・728・DP121は中央部、719は北東部、723は西部、716は南部、724・732は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。722は中央部床面、729は南部と東部の覆土下層、730は南部と北部の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。715は中央部の覆土中層、731は中央部の覆土上層、713は西部の覆土中層、718は覆土中、721は南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。散乱した土器の破片が広い範囲で接合していることから、住居廃絶時に投棄されたものと推測される。

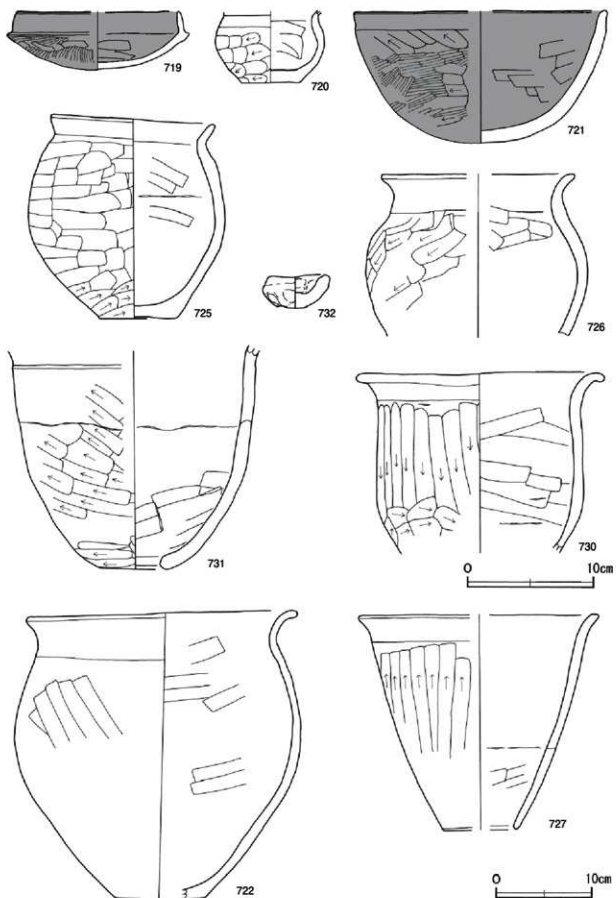
所見 廃絶時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。



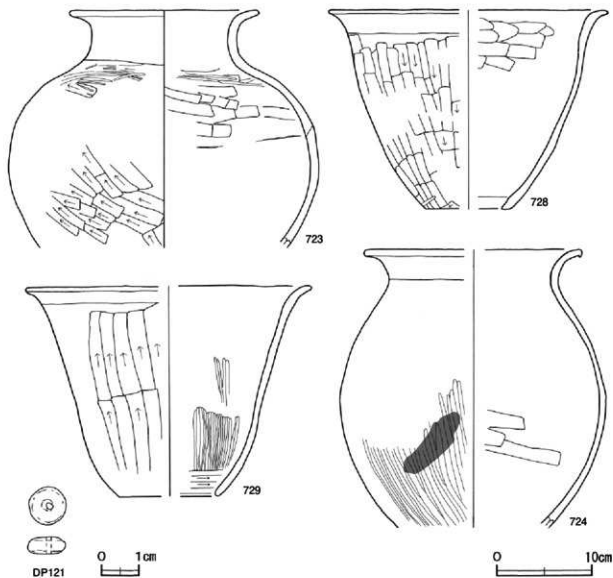
第64図 第116号住居跡実測図



第65图 第116号住居跡・出土遺物実測図



第66図 第116号住居跡出土遺物実測図(1)



第67図 第116号住居跡出土遺物実測図(2)

第116号住居跡出土遺物観察表 (第65～67図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
709	土師器	坏	13.8	4.8	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後へラ磨き	中央部覆土下層	80% PL3
710	土師器	坏	13.2	5.0	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ	中央部覆土下層	85%
711	土師器	坏	13.4	5.5	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ	中央部覆土下層	90% PL2
712	土師器	坏	[14.3]	4.7	-	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面へラナデ後へラ磨き	薬部床面	65%
713	土師器	坏	[13.4]	4.0	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ	西部覆土中層	80%
714	土師器	坏	13.8	4.2	-	長石・石英	浅黄橙	普通	体部外面へラ磨き 内面へラナデ	中央部床面	90% PL2
715	土師器	坏	11.1	5.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り後へラ磨き	中央部覆土中層	95% PL2
716	土師器	坏	12.8	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ	南部覆土下層	90% PL2
717	土師器	坏	13.0	6.7	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面へラ磨き	西壁階壇遺覆土中	70%
718	土師器	坏	12.2	4.4	-	長石・黒色粒子	浅黄	普通	体部外面へラ磨き 内面へラナデ	覆土中	80%
719	土師器	坏	[12.8]	4.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラナデ後へラ磨き	北東部床面	55%
720	土師器	小形壺	-	(5.7)	4.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ	中央部床面	90% PL2

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
721	土師器	碗	[19.7]	10.5	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へう割り後へう磨き	東西コーナー・壇土中層	50%
722	土師器	甕	27.7	32.0	[9.4]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面へうナデ	中央部覆土下層	70% PL3
723	土師器	甕	19.2	(24.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へう割り後へう磨き	西部床面	40%
724	土師器	甕	[22.0]	(29.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう磨き 内面へうナデ	南西コーナー部床面	30%
725	土師器	小形甕	12.8	16.2	6.1	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面下へう割り 内面へうナデ	中央部床面	70% PL3
726	土師器	甕	[15.2]	(13.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面へう割り 内面へうナデ	東部床面	55%
727	土師器	瓶	[24.5]	22.5	[7.5]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう割り 内面へうナデ	東部床面・中央部下層	20%
728	土師器	瓶	[28.8]	20.9	(9.0)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へう割り 内面へうナデ	中央部床面	25%
729	土師器	瓶	[29.3]	22.2	[10.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面へう割り 内面へう磨き	東部床面・南部床面	50%
730	土師器	瓶	18.7	(14.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へう割り 内面へうナデ	南西部床面・北下部	40%
731	土師器	瓶	-	(17.4)	5.3	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面へう割り 内面へうナデ	中央部覆土上層	55%
732	土師器	手取土器	4.0	2.7	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内・外面削ナデ	南西コーナー部床面	100% PL2

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP121	白瓦	0.96	0.44	0.12	0.49	長石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	中央部覆土下層	PL40

## 第118号住居跡 (第68図)

位置 調査区中央部のC36区、標高18.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.42m、短軸4.18mの方形で、主軸方向はN-63°-Eである。壁高は30～35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から東部にかけて踏み固められている。

炉 中央部やや北寄りに位置している。長径54cm、短径42cmの楕円形で、床面を14cm掘りこぼめた地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。

## 伊土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量

3 暗赤褐色 焼土粒子中量

ピット 2か所。P1・P2は深さ22～24cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は北東コーナー部に位置している。径58cmの円形で、深さは50cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は南東コーナー部に位置している。径54cmの円形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

## 貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 灰褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

4 褐色 ロームブロック中量

5 褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量

覆土 8層に分層される。各層ともロームブロックを含み、不規則に堆積していることから人為堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

6 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

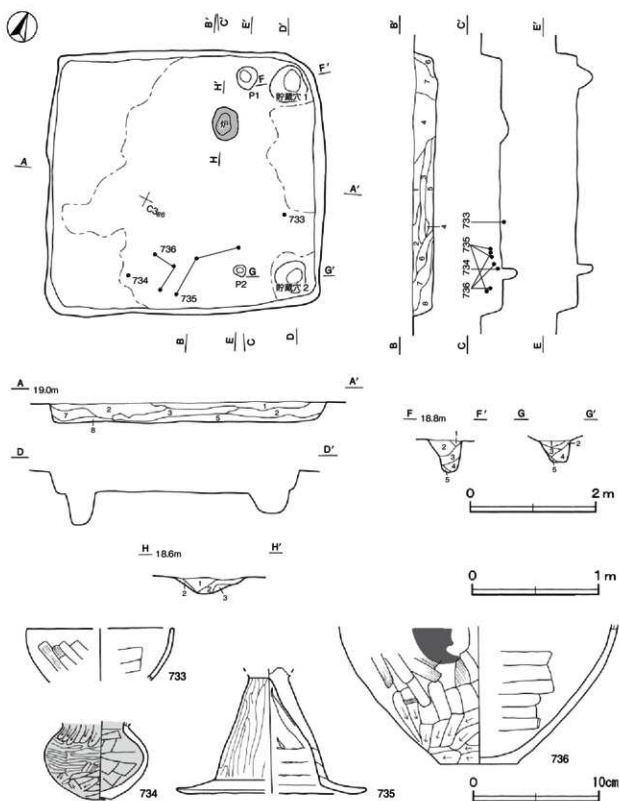
7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

8 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片128点(環1、碗1、高杯16、埴3、甕73)が出土している。また、混入した土師質土器片24点(小皿)も出土している。出土土器はほぼ全域に散在しており、そのほとんどが細片である。733

は東部の床面、734は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。735・736は南部の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第68図 第118号住居跡・出土遺物実測図



第118号住居跡出土遺物観察表 (第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
733	土師器	甕	[116]	(4.1)	-	長石・石英	赤褐色	普通	体部外面ハケ目後ヘラナデ	東部床面	10%
734	土師器	埴	-	(6.2)	17	長石・石英	赤褐色	普通	体部外面磨き後ヘラ削り	南部覆土下層	40%
735	土師器	高坏	-	(10.0)	[15.1]	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部外面磨き	南部覆土中層～下層	40%
736	土師器	甕	-	(10.9)	6.0	長石・石英・細礫	明褐色	普通	体部外面下端ヘラ削り	南部覆土中層～下層	20%

## 第120号住居跡 (第69～71図)

**位置** 調査区中央部のC315区、標高18.7～18.8mの台地緩斜面部に位置している。

**規模と形状** 長軸7.59m、短軸7.21mの方形で、主軸方向はN-27°-Wである。壁高は58～75cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで174cm、袖部幅144cmである。袖部は地山を床面より11cmほど高く掘り残して基部とし、その周りに砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ20cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

## 竈土層解説

1	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	6	明褐色	ローム粒子多量
2	褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量	7	にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子中量
3	にぶい褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量	8	褐色	ローム粒子多量、砂質粘土粒子少量
4	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量	9	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量
5	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量			

**ピット** 6か所。P1～P4は深さ43～71cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5・P6は深さ36cm・37cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴** 北壁際の竈東側に位置している。長軸112cm、短軸84cmの長方形で、深さは33cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

## 貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	3	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量			

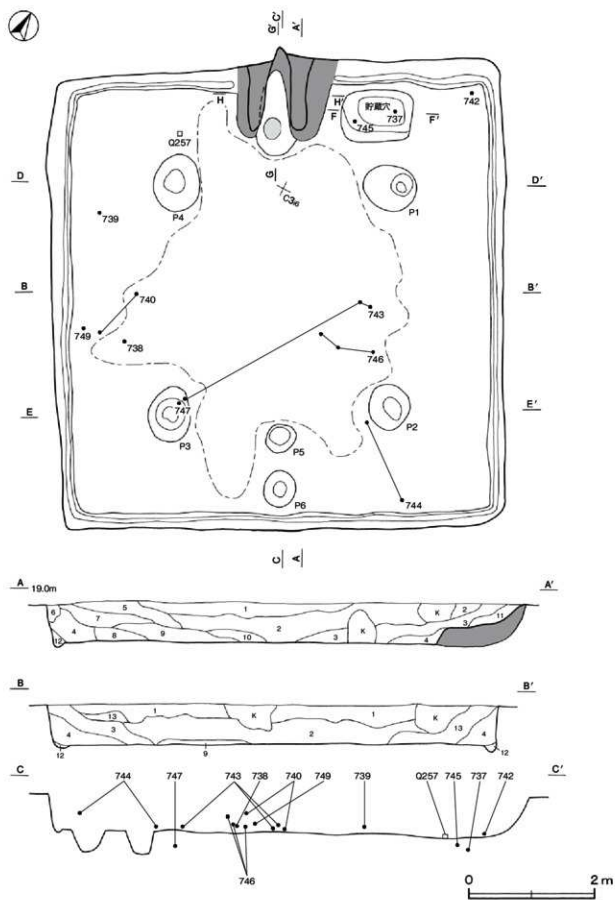
**覆土** 13層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

## 土層解説

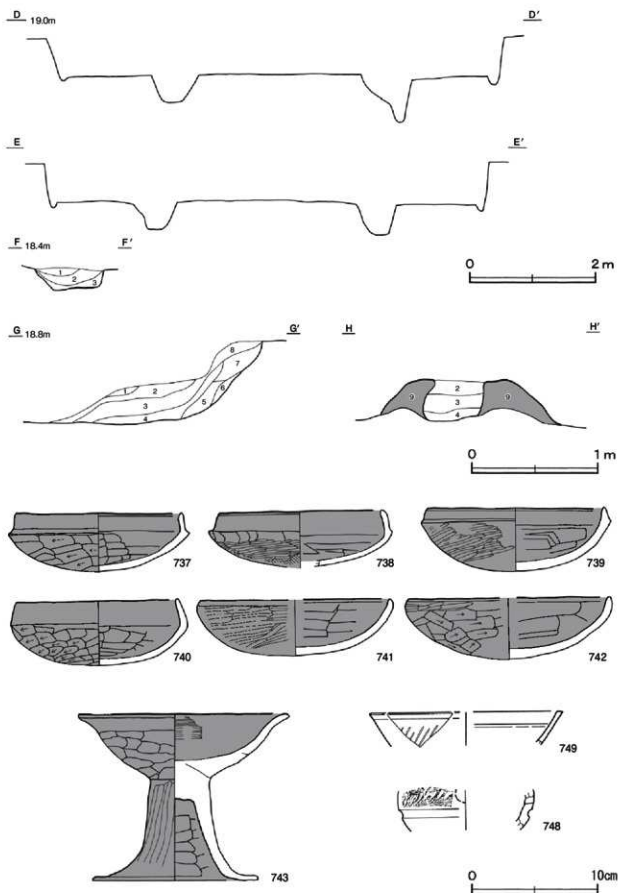
1	黒褐色	ローム粒子少量	8	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	9	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック中量
4	褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量	11	褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量
5	暗褐色	ローム粒子少量	12	褐色	ロームブロック多量
6	暗褐色	ロームブロック少量	13	黒褐色	ローム粒子微量
7	褐色	ロームブロック中量			

**遺物出土状況** 土師器片907点(坏226、甕8、高坏33、鉢1、壺60、甕573、甌5、手捏土器1)、須恵器片2点(甌)、石製品1点(白玉)が出土している。また流れ込んだ縄文土器片2点、混入した須恵器片14点、土師質土器片78点、鉄滓3点も出土している。738～740・749は西部、Q257は北西部、742は北コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。737・745は貯蔵穴の覆土上層、747はP3の底面、741・748は覆土中からそれぞれ出土している。西部と中央部の覆土下層から出土した破片が接合するなど、離れた場所から出土した土器が接合していることから、これらの土器は住居廃絶後に投棄されたと考えられる。

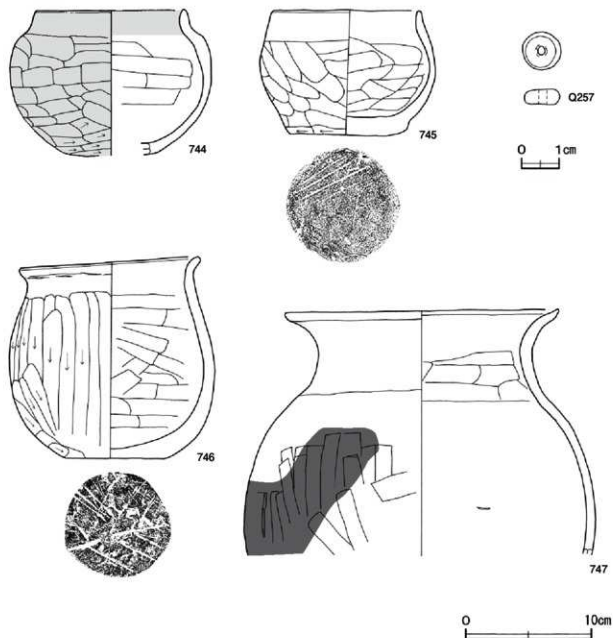
**所見** 廃絶時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第69图 第120号住居跡実測图



第70図 第120号住居跡・出土遺物実測図



第71図 第120号住居跡出土遺物実測図

第120号住居跡出土遺物観察表 (第70・71図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
737	土師器	坏	13.1	4.5	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へう割り 内面へうナデ	貯蔵穴覆土上層	50% PL33
738	土師器	坏	12.9	(3.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へうナデ後へう磨き	西部覆土下層	90% PL33
739	土師器	坏	14.0	5.0	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へう磨き 内面へうナデ	西部覆土下層	90% PL33
740	土師器	坏	12.7	5.1	-	長石・石英	明黄褐	普通	体部外面へう割り 内面へうナデ	西部覆土下層	50%
741	土師器	坏	[15.0]	4.3	-	長石・赤色粒子・細礫	明黄褐	普通	体部外面へう磨き 内面へうナデ	覆土中	50%
742	土師器	坏	[16.0]	4.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面へう割り 内面へうナデ	北コーナー部覆土下層	50%
743	土師器	高坏	16.4	13.2	13.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部外面へうナデ 内面へう磨き	香部内面・中央部内面	80% PL33
744	土師器	鉢	11.8	11.5	[7.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう割り 内面へうナデ	南部覆土下層	80% PL33
745	土師器	鉢	11.6	10.0	9.1	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面下縁へう割り	貯蔵穴覆土上層	70% PL33

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
746	土師器	甕	14.0	16.1	8.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ刮り 内面ヘラナデ	中央部覆土下層	80% PL33
747	土師器	甕	21.6	(19.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	P 3 底面	30%
748	須恵器	甕	-	(3.1)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄	不良	体部外面横方向の沈痾	覆土中	5% PL39
749	須恵器	甕	[15.4]	(2.7)	-	長石・石英・黒色粒子	灰褐	不良	ロクロナデ	西部覆土下層	748と 同一体部

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q257	白玉	0.96	0.43	0.16	0.48	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	北西部覆土下層	PL40

## 第121号住居跡 (第72・73図)

位置 調査区中央部のC34区、標高18.7～18.8mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸5.85m、短軸5.80mの方形で、主軸方向はN-25°-Wである。壁高は45～50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が、北東コーナー部を除き周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで152cm、袖部幅118cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を12cm掘りくぼめ、ローム土を埋め戻して使用している。火床面及び内壁は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ28cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

## 竈土層解説

1	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	7	赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量
2	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	8	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
3	赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量	9	赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子微量
4	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量	10	にぶい赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量
5	暗赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量	11	灰褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子微量
6	にぶい赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量	12	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量

ピット 13か所。P1～P4は深さ53～68cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ51cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P13は深さ11～43cmで、壁際に位置し、性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸110cm、短軸78cmの長方形で、深さは43cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

## 貯蔵穴土層解説

1	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	3	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4	褐色	ローム粒子多量

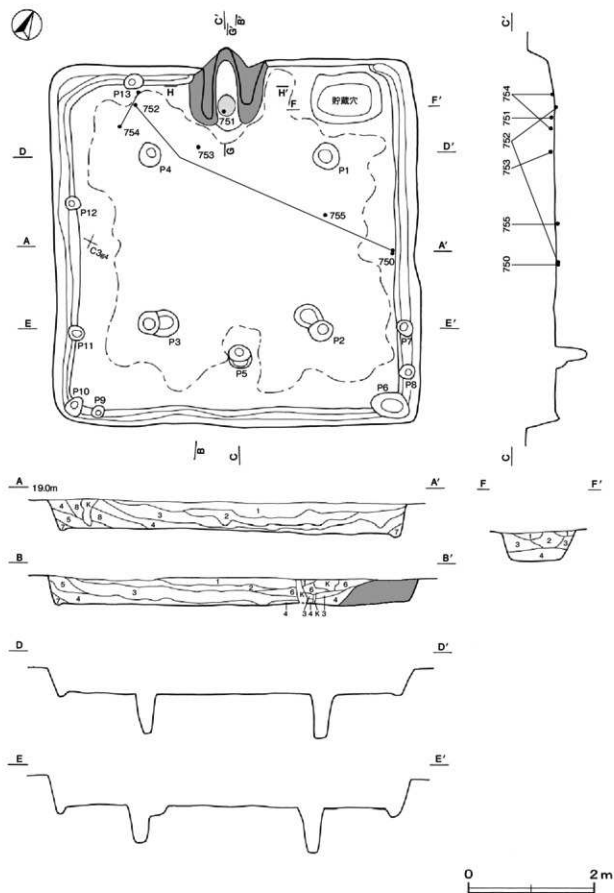
覆土 8層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

## 土層解説

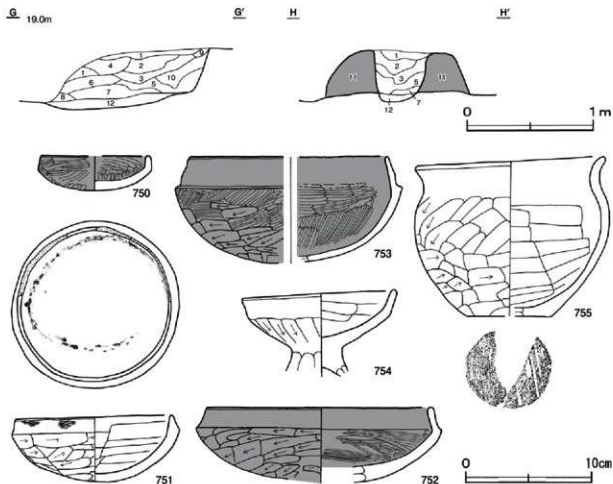
1	黒褐色	ローム粒子微量	5	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック微量	6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3	褐色	ローム粒子中量	7	褐色	ロームブロック中量
4	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	8	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片201点(坏57、碗7、高坏9、鉢1、甕125、甔2)が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片1点、混入した須恵器片2点、土師質土器片13点、鉄滓2点も出土している。751は竈の火床面から正位で出土し、口縁部及び内面に漆が付着している。750は東壁際、754は北西部、755は中央部の床面からそれぞれ出土している。752は北西部の覆土下層と東壁際床面の破片が接合したものである。753は北部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第72图 第121号住居跡実測图



第73図 第121号住居跡・出土遺物実測図

第121号住居跡出土遺物観察表 (第73図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
750	土師器	坏	[8.5]	2.8	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面へラ磨き	東壁際床面	3% P12
751	土師器	坏	12.3	5.3	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨り 内面へラナデ	竈火床面	95%
752	土師器	坏	17.8	(6.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨り 内面へラ磨き	北西部覆土下層・東部床面	6% P12
753	土師器	坏	[15.7]	8.3	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面へラ磨き 外底へラ磨り	北西部覆土下層	40%
754	土師器	高坏	12.0	(6.8)	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	坏部外面へラ磨り 内面へラナデ	北西部覆土下層	35%
755	土師器	小形类	14.7	12.7	[6.7]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨り 内面へラナデ	中央部床面	8% P12

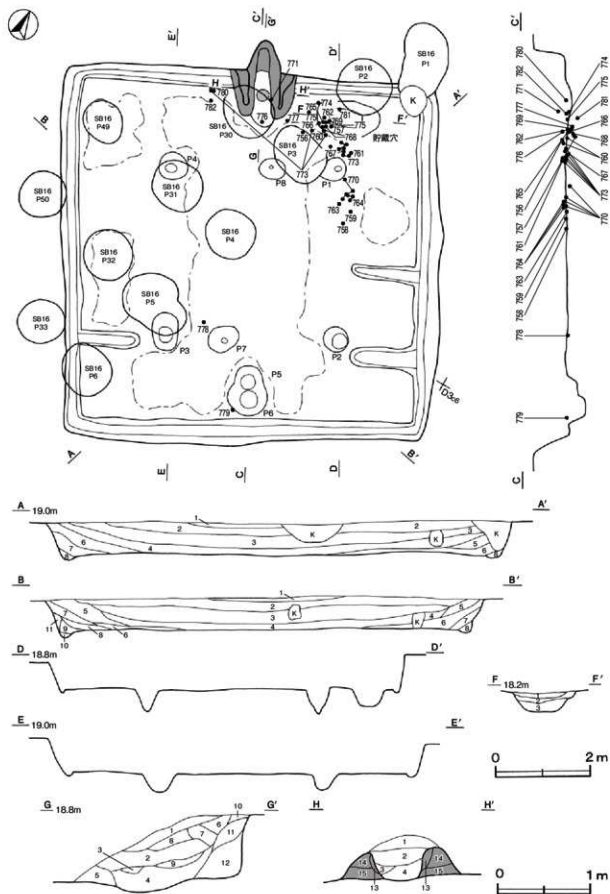
## 第123号住居跡 (第74～78図)

位置 調査区中央部のD3b4区、標高18.6～18.8mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第16号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.11m、短軸8.01mの方形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁高は48～70cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が全周している。間仕切り溝が、東壁から2条、西壁から1条確認された。



第74图 第123号住居跡実測图



**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで152cm、袖部幅118cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面及び内壁は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ28cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

**竈土層解説**

1 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	9 にぶい黄褐色	粘土ブロック・焼土粒子中量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	10 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
3 赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	11 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、粘土ブロック少量
4 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量	12 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
5 暗褐色	焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量	13 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
6 にぶい赤褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子少量	14 灰褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子少量
7 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック微量	15 褐色	ロームブロック多量
8 にぶい黄褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子微量		

**ピット** 8か所。P1～P4は深さ35～58cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5・P6は深さ24cm・37cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P7・P8は深さ46cm・48cmで、性格は不明である。

**貯蔵穴** 北東コーナー部に位置している。長径118cm、短径76cmの楕円形で、深さは40cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

**貯蔵穴土層解説**

1 暗褐色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量	3 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		

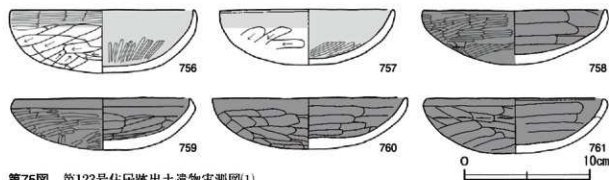
**覆土** 11層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

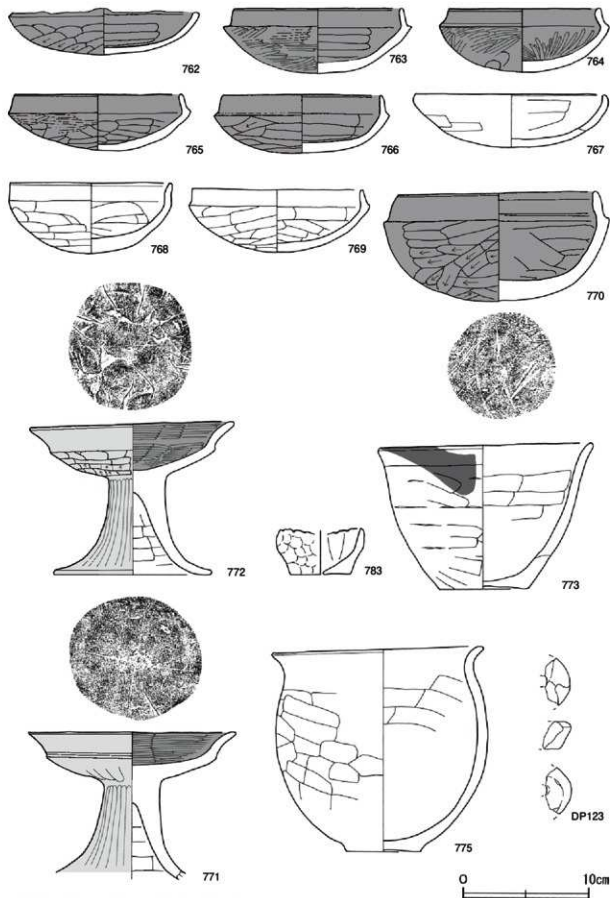
1 暗褐色	ローム粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量	9 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ローム粒子中量	11 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器片955点（坏229、高坏30、鉢1、壺12、甕665、瓶7、手握土器11）、土製品2点（紡錘車）が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片1点、石器1点（磨石）、混入した須恵器片14点、土師質土器片84点、鉄洋1点も出土している。遺物は竈周辺の床面及び貯蔵穴内を中心に出土している。757・765・769は逆位、762・768は正位、766は横位で貯蔵穴西部の覆土上層から重なって出土している。760・781は貯蔵穴の覆土上層から出土している。773～775は貯蔵穴西側、777は北部、778・779は南部の床面からそれぞれ出土している。758・759・763は東部の床面から正位で出土している。771は竈、776は竈前面、780は竈左袖部付近、761は東部、756・782は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。764・767・783、DP123、Q258は覆土中からそれぞれ出土している。床面及び竈の覆土中から出土している土器は、住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

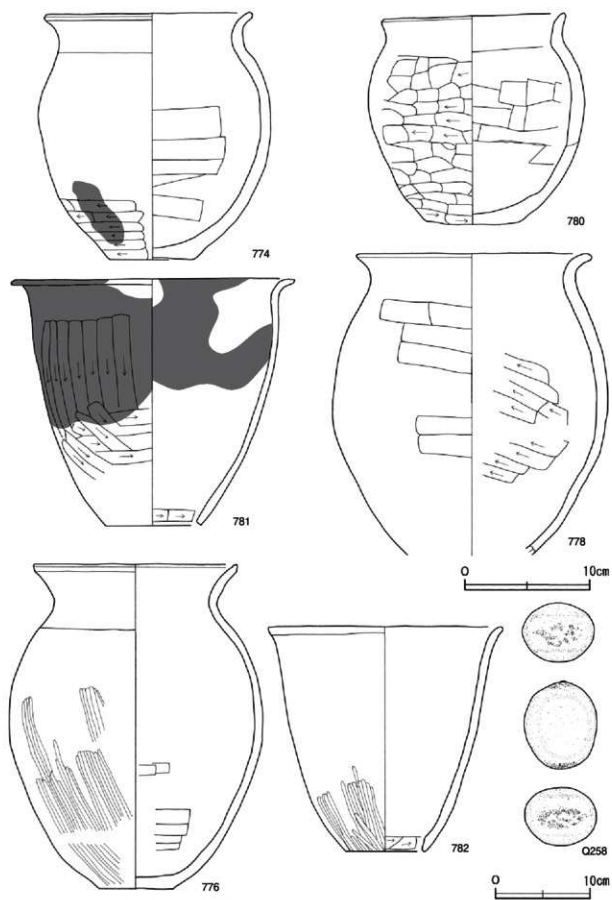
**所見** 面積が60㎡を超える大形住居跡である。時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。



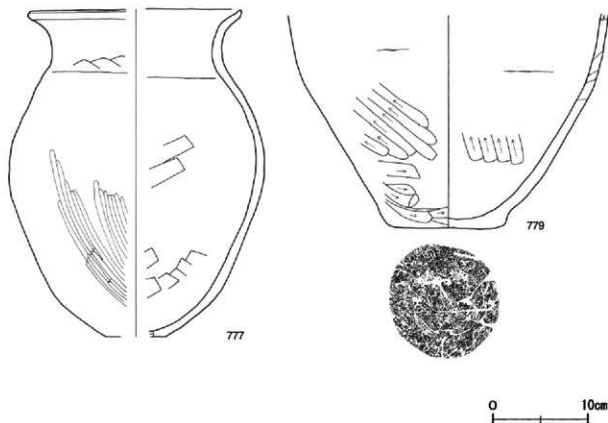
第75図 第123号住居跡出土遺物実測図(1)



第76图 第123号住居跡出土遺物実測図(2)



第77図 第123号住居跡出土遺物実測図(3)



第78図 第123号住居跡出土遺物実測図(4)

第123号住居跡出土遺物観察表 (第75～78図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
756	土師器	坏	14.5	5.0	-	長石・石英	橙	普通	体部外面へラナゲり 口部外面・体部内面へラナゲり	北部覆土下層	75% ⅡL3
757	土師器	坏	13.8	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラナゲり 内面へラナゲり	貯藏穴覆土上層	90% ⅡL3
758	土師器	坏	14.5	4.4	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラナゲり後へラナゲり	東部床面	90% ⅡL3
759	土師器	坏	14.0	4.1	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラナゲり 内面へラナゲり	東部床面	90% ⅡL3
760	土師器	坏	15.4	4.1	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面へラナゲり	貯藏穴覆土上層 貯藏穴西側床面	75% 75%
761	土師器	坏	14.1	4.3	-	長石・石英	橙	普通	体部内・外面へラナゲり	東部覆土下層	75%
762	土師器	坏	14.5	3.6	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラナゲり 内面へラナゲり	貯藏穴覆土上層	80% ⅡL3
763	土師器	坏	13.3	5.0	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部外面へラナゲり 内面へラナゲり	東部床面	95% ⅡL3
764	土師器	坏	12.0	5.0	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部内・外面へラナゲり	東部覆土下層	80%
765	土師器	坏	13.3	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面へラナゲり 内面へラナゲり	貯藏穴覆土上層	95%
766	土師器	坏	12.6	4.6	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラナゲり 内面へラナゲり	貯藏穴覆土上層	100% ⅡL3
767	土師器	坏	15.0	4.3	-	石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面へラナゲり	東部床面	90%
768	土師器	坏	12.8	5.6	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面へラナゲり	貯藏穴覆土中層	90% ⅡL3
769	土師器	坏	13.5	5.0	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面へラナゲり	貯藏穴覆土上層	95% ⅡL3
770	土師器	坏	15.8	8.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	体部外面へラナゲり 内面へラナゲり	東部床面	80% ⅡL3
771	土師器	高坏	16.5	(11.8)	-	長石・石英・雲母・雜礫	橙	普通	坏部外面へラナゲり 内面へラナゲり	覆土中層	80%
772	土師器	高坏	16.6	16.4	6.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	坏部外面へラナゲり 内面へラナゲり	覆土中	85%
773	土師器	鉢	16.9	11.6	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面へラナゲり	貯藏穴西側床面	70% ⅡL3
774	土師器	壺	16.2	19.7	6.8	長石・石英・雲母・雜礫	にぶい橙	普通	体部外面へラナゲり 内面へラナゲり	貯藏穴内側床面	100% ⅡL3
775	土師器	壺	16.6	16.4	6.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面へラナゲり	貯藏穴内側床面	85%
776	土師器	壺	21.0	34.1	7.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラナゲり 内面へラナゲり	壺焚き口部覆土下層	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
777	土師器	甕	[22.1]	34.7	[6.3]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラナナ 内面へラナナ	北部床面	40%
778	土師器	甕	18.2	(24.1)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラナナ 内面へラナナ	南部床面	60%
779	土師器	甕	—	(22.8)	10.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面へラナナ	南部床面	30%
780	土師器	小形甕	14.3	16.9	7.7	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラナナ 内面へラナナ	竈左袖部付近	95%
781	土師器	甕	29.0	25.9	10.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラナナ 内面下層へラナナ	貯蔵穴覆土上層	95% PL5
782	土師器	甕	24.5	23.6	8.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラナナ 内面下層へラナナ	北部覆土下層	95% PL5
783	土師器	片型土器	[6.4]	3.7	[4.6]	長石・石英・雲母	明赤陶	普通	体部内・外面指ナナ	覆土中	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・胎土	特徴	出土位置	備考
DP123	柄鉢車	(3.8)	(2.2)	2.2	(11.9)	長石・石英・雲母	一部残存	覆土中	
Q258	磨石	9.2	7.6	6.1	5.38	石英炭岩	両端に縁打痕	覆土中	PL41

## 第124号住居跡（第79～81図）

**位置** 調査区中央部のD3a7区。標高18.7～18.8mの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第17号掘立柱建物、第343・344号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 東部が調査区域外に延びているため、確認できた範囲は南北5.61m、東西4.84mである。平面形は方形もしくは長方形と推定され、主軸方向はN-9°-Wである。壁高は30～45cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。間仕切り溝が、東壁に1条、西壁に1条確認された。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで126cm、袖部幅120cmである。袖部は地山を床面より8cmほど高く掘り残して基部とし、その周りに砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ28cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

## 覆土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
2	にぶい褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	9	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
3	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	10	にぶい褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量	11	灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
5	にぶい赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量	12	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量
6	にぶい赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子微量	13	灰褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
7	にぶい赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子微量			

**ビット** 8か所。P1～P4は深さ76～91cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5・P6は深さ43cm・24cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うビットと考えられる。P7・P8は深さ31cm・33cmで、性格は不明である。

**貯蔵穴** 北東コーナー部に位置している。確認できた範囲は長径66cm、短径58cmで楕円形と推定され、深さは42cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

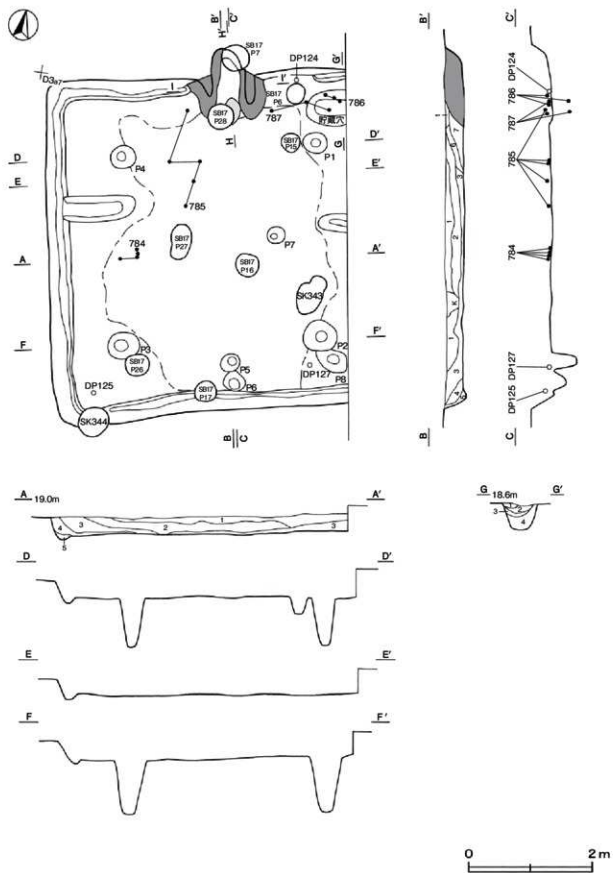
## 貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	3	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック中量

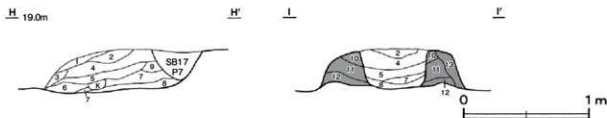
**覆土** 7層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

## 土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	明褐色	ローム粒子多量
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	6	暗赤褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	7	にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量			



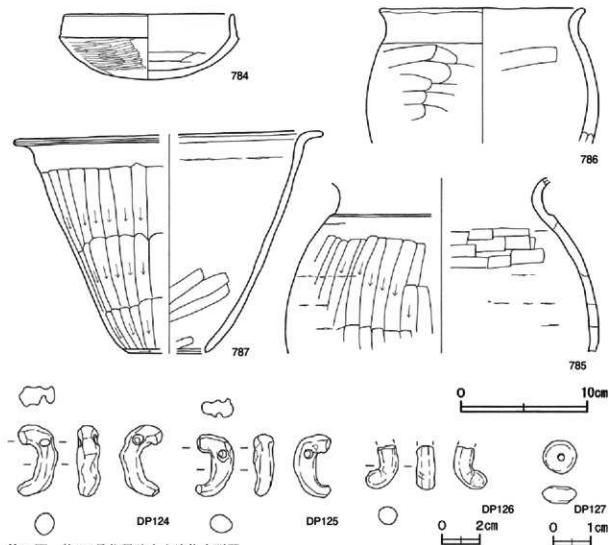
第79図 第124号住居跡実測図(1)



第80図 第124号住居跡実測図(2)

**遺物出土状況** 土師器片276点(坏90, 碗1, 高坏10, 壺2, 甕171, 瓶2), 土製品4点(勾玉3, 白玉1)が出土している。また, 流れ込んだ縄文土器片1点, 混入した土師質土器片120点も出土している。出土土器は覆土下層から床面にかけて散在して出土している。784は西部の床面から出土した破片が接合している。785は中央部から北部の床面から出土した破片が接合している。787は北東部の覆土下層と貯蔵穴の底面から出土した破片が接合している。DP124は北東コーナー部, DP125は南西コーナー部, DP127は南東コーナー部の覆土下層, DP126は覆土中からそれぞれ出土している。覆土下層から床面にかけて出土している土器が広い範囲で接合しており, それらは住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。

**所見** 廃絶時期は, 出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第81図 第124号住居跡出土遺物実測図

第124号住居跡出土遺物観察表 (第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
784	土師器	坏	13.5	5.2	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨き 内面へラナデ	西部床面	8% PL34
785	土師器	壺	—	(18.4)	—	長石・石英・雲母	濁	普通	体部外面へラ磨り 内面へラナデ	中央部床面・北部床面	10%
786	土師器	壺	16.1	(10.6)	—	長石・石英・雲母	濁	普通	体部内・外面へラナデ	貯蔵穴	25%
787	土師器	瓶	[31.6]	22.9	[7.7]	長石・石英	橙	普通	体部外面へラ磨り 内面へラナデ	北東部覆土下層・貯蔵穴表面	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP124	勾玉	3.8	2.2	1.3	5.8	長石・石英・雲母	孔径0.55cm ナデ	北東コーナー部覆土下層	PL40
DP125	勾玉	3.4	2.0	1.1	4.7	長石・石英・雲母	孔径0.45cm ナデ	南西コーナー部覆土下層	PL40
DP126	勾玉	(2.2)	(1.8)	0.9	(2.82)	長石・石英・雲母	ナデ 上部欠損	覆土中	PL40

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP127	土玉	0.84	0.41	0.12	0.32	長石	側面が膨らむ太鼓状 片面穿孔	南東コーナー部覆土下層	

## 第125号住居跡 (第82・83図)

位置 調査区中央部のD38区、標高18.7～18.8mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第16号掘立柱建物、第72号溝、第340号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外に延びているため、確認できた範囲は南北5.68m、東西4.42mである。平面形は方形もしくは長方形と推定され、主軸方向はN-24°-Wである。壁高は10～15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで108cm、袖部幅93cmである。袖部はローム土を床面から9cm積み上げて基部とし、その周りに砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は地山面をそのまま使用しており、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ32cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

## 竈土層解説

- |        |                  |       |                     |
|--------|------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量     |
| 2 灰褐色  | 砂質粘土粒子中量、炭化物微量   | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量   | 8 褐色  | ロームブロック多量、焼土粒子少量    |
| 4 赤褐色  | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量    | 9 赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子少量       |
| 5 赤褐色  | 焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量  |       |                     |

ピット 5か所。P1～P3は深さ54～78cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P4は深さ19cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ38cmで貯蔵穴の北側に位置し、性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径67cm、短径54cmの楕円形で、深さは39cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

## 貯蔵穴土層解説

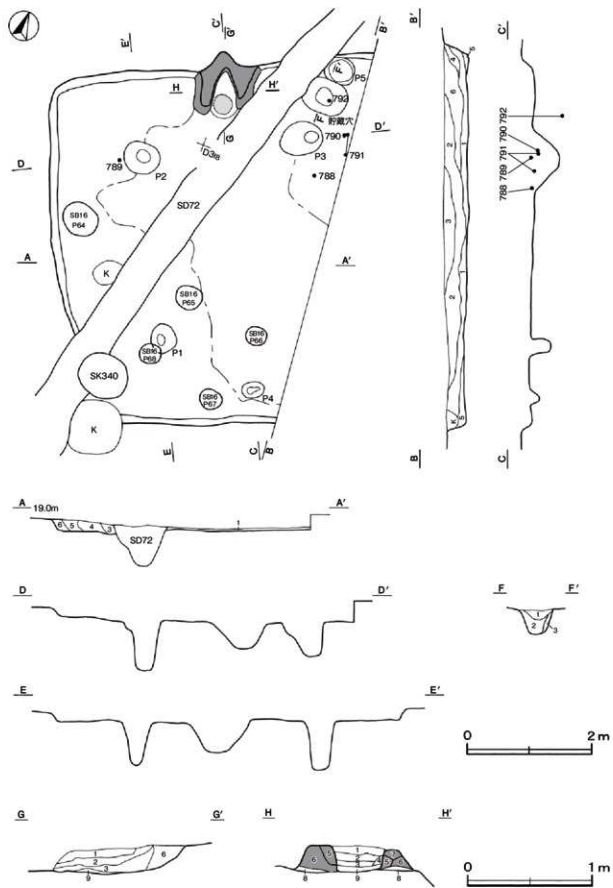
- |       |                  |      |           |
|-------|------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |      |           |

覆土 6層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量   | 4 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 褐色  | ローム粒子中量   |
| 3 褐色  | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |



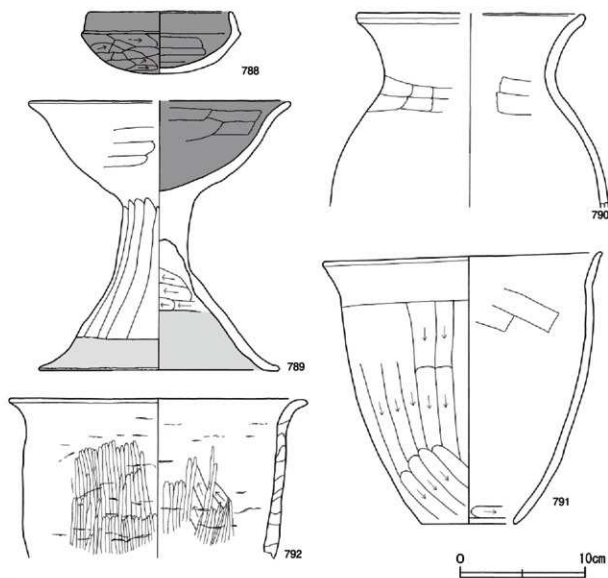


第82図 第125号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片114点（坏14、高坏7、甕75、瓶18）、土製品1点（支脚片）が出土している。また、混入した土師質土器片20点も出土している。788・790・791は北東部の床面からそれぞれ出土している。

789は北西部の覆土下層から横位で、792は貯蔵穴の覆土下層から出土している。床面及び甕の覆土中から出土している土器は、住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第83図 第125号住居跡出土遺物実測図

第125号住居跡出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
788	土師器	坏	11.1	5.0	-	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ	北東部床面	95% PL34
789	土師器	高坏	20.5	21.5	19.1	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	坏部内・外面へラナデ 甕部内面へラ削り	北西部覆土下層	65% PL35
790	土師器	甕	17.9	15.5	-	長石・石英・雲母・黒曜	にぶい黄橙	普通	体部内・外面へラナデ	北東部床面	10%
791	土師器	瓶	22.1	21.7	7.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ	北東部床面	65% PL36
792	土師器	甕	23.3	12.7	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面へラ削り	貯蔵穴覆土下層	40%

## 第126号住居跡（第84～87図）

**位置** 調査区中央部のD3h6区で、標高18.8～18.9mの台地の緩やかな斜面部に位置している。

**重複関係** 第72号溝、第349・362号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 一辺7.66mの方形で、主軸方向はN-25°-Wである。壁高は15～30cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** はほぼ平坦で、中央部から南部が踏み固められている。

**炉** 中央部の北寄りに位置している。長径88cm、短径68cmの楕円形で、床面を6cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。

## 炉土層解説

- |   |       |                    |   |     |                       |
|---|-------|--------------------|---|-----|-----------------------|
| 1 | 灰い赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子微量 | 3 | 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色   | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 |   |     |                       |

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ57～70cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ38cmで、南壁際中央部のやや東寄りに位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴** 南東コーナー部に位置している。長軸116cm、短軸94cmの長方形で、深さは62cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

## 貯蔵穴土層解説

- |   |      |                     |   |     |                     |
|---|------|---------------------|---|-----|---------------------|
| 1 | 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 4 | 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量      |
| 2 | 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 暗褐色 | ロームブロック少量           |
| 3 | 暗褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子微量      | 6 | 褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

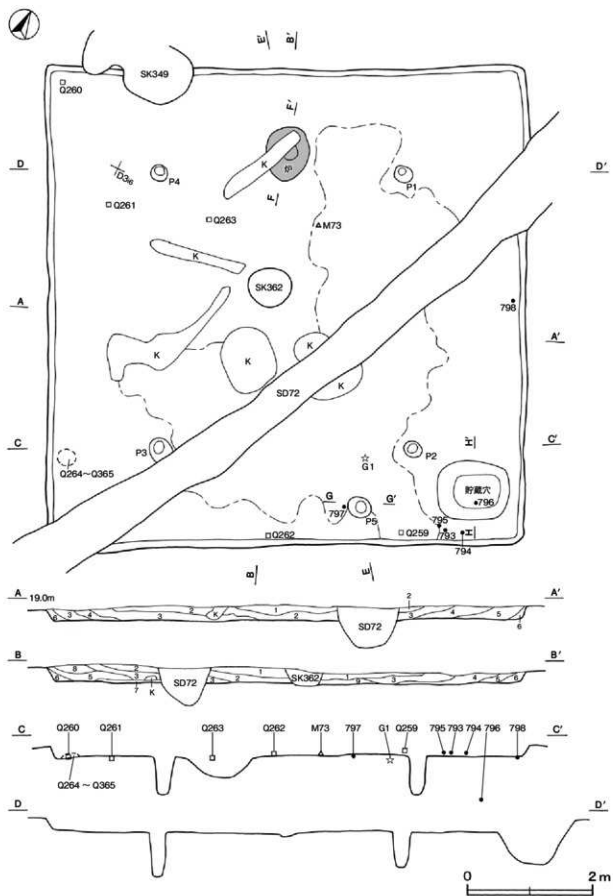
**覆土** 9層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

## 土層解説

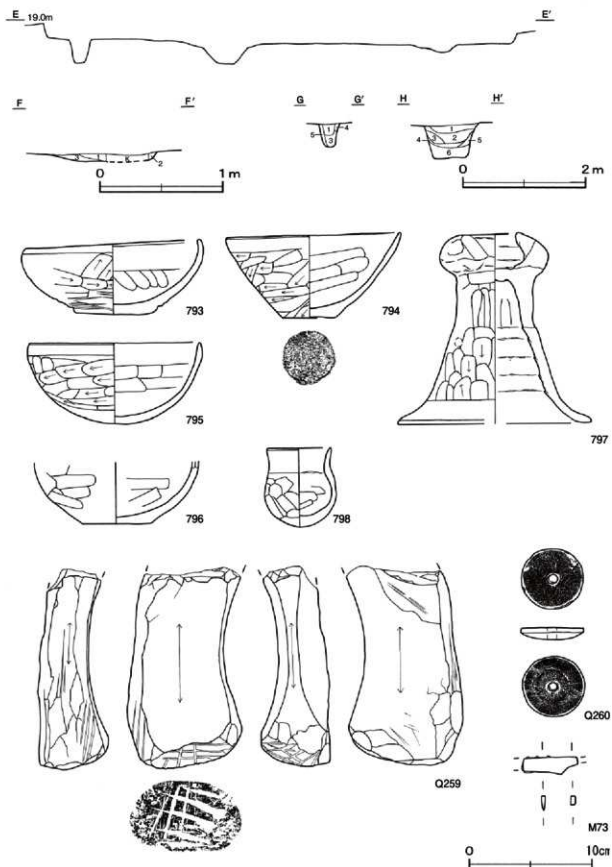
- |   |      |                     |   |     |                       |
|---|------|---------------------|---|-----|-----------------------|
| 1 | 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 6 | 褐色  | ローム粒子中量               |
| 2 | 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 | 褐色  | ロームブロック中量             |
| 3 | 黒褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量      | 8 | 暗褐色 | ロームブロック微量             |
| 4 | 暗褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子微量      | 9 | 褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 | 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量    |   |     |                       |

**遺物出土状況** 土師器片378点（坏61、高坏113、椀7、埴1、壺2、鉢5、甕187、炉器台1、ミニチュア土器1）、石器1点（砥石）、石製品106点（白玉102、双孔円板2、紡錘車1、剣形模造品1）、ガラス製品1点（小玉）、不明鉄製品2点が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片3点も出土している。遺物は主に貯蔵穴内及び壁際から出土している。796は貯蔵穴の底面、797・G1は南部、798は東壁際、Q263は中央部、Q260は北西コーナー部、Q261は北西部の床面からそれぞれ出土している。Q264～Q365は南西コーナー部の床面の1か所から集中して出土している。M73は南東コーナー部、793～795、Q259・262は南壁際からそれぞれ出土している。

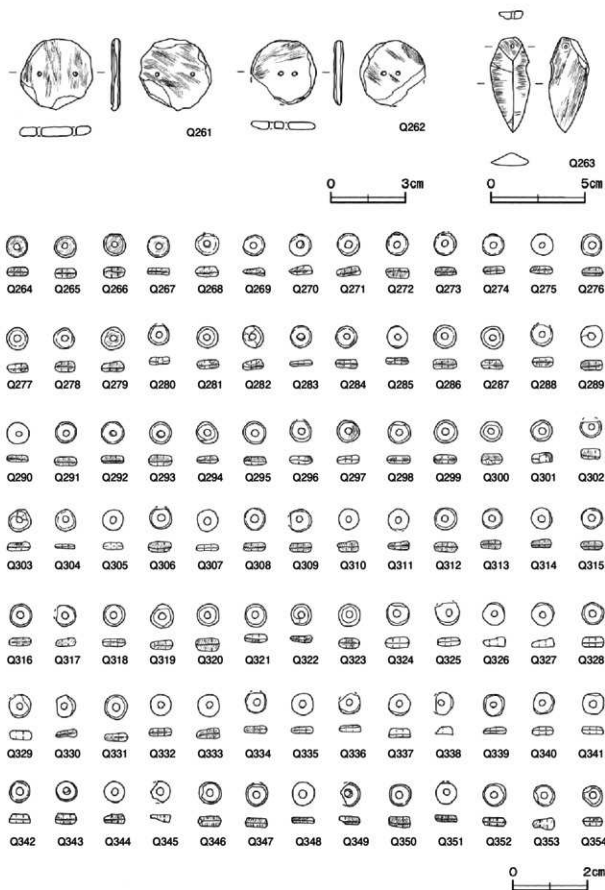
**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。本跡は床面積が58㎡を超える大形住居である。床面からガラス玉、双孔円板、剣形模造品とともに、102個の白玉が集中して出土していることから、住居廃絶に伴う祭祀行為が行われた可能性がある。Q259は滑石製の砥石で、鋭い研磨痕を持っており、本住居跡で石製品の製作が行われていた可能性が考えられる。本住居跡の東約20mには主軸方向を揃える第88号住居跡が位置している。第88号住居跡は床面積が56㎡を超える大型住居で、床面から剣形模造品、双孔円板、管玉、白玉35個が出土した。2つの住居跡には若干の時期差があり、本住居跡から第88号住居跡への住み替えが行われた可能性が考えられる。



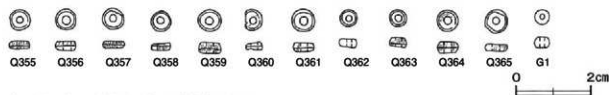
第84图 第126号住居跡実測図



第85図 第126号住居跡・出土遺物実測図



第86图 第126号住居跡出土遺物実測図(1)



第87図 第126号住居跡出土遺物実測図2)

第126号住居跡出土遺物観察表 (第85～87図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
793	土師器	環	14.1	6.0	6.0	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ	南壁階下層	新玉器区 未詳 片断
794	土師器	椀	14.0	6.9	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	体部外面へラ削り	南壁階下層	70% PL30
795	土師器	椀	13.8	6.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ	南壁階下層	70% PL30
796	土師器	椀	-	(5.0)	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	体部内・外面へラナデ	貯蔵穴底面	40%
797	土師器	卍形土台	3.5	15.4	[15.8]	長石・石英	にぶい褐色	普通	脚部外面へラ削り	南部床面	65% PL30
798	土師器	にぶい土	5.2	6.4	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部内・外面へラナデ	東壁階床面	95%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q259	砥石	(16.3)	9.4	5.7	(1010)	滑石	砥面5面 鋭利な研磨痕	南壁階土上層	PL40
Q260	紡錘車	5.0	4.9	1.0	38.1	滑石	孔径0.8cm 表面に渦巻き状の線刻 両面穿孔	北西コーナー部床面	PL40
Q261	双孔円板	(2.8)	2.9	0.4	(4.88)	滑石	一部欠損 斜方向の研磨	北西部床面	PL40
Q262	双孔円板	(2.6)	2.5	0.4	(3.32)	滑石	一部欠損 斜方向の研磨	南壁階土下層	PL40
Q263	磨研製品	5.1	2.2	0.7	8.55	滑石	片面に隔有り 片側穿孔 孔径0.12cm 裏面斜方向の研磨	中央部床面	PL40
M73	刀子	(4.5)	1.5	0.4	(7.15)	鉄	刃部から基部の破片 片側	南東コーナー部土下層	PL39

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q264	白玉	0.57	0.23	0.19	0.12	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q265	白玉	0.60	0.27	0.19	0.16	滑石	側面に横を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q266	白玉	0.60	0.30	0.19	(0.18)	滑石	側面に横を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q267	白玉	0.58	0.16	0.19	0.10	滑石	厚みはほとんどない円盤状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q268	白玉	0.61	0.28	0.20	(0.15)	滑石	側面に横を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q269	白玉	0.57	0.19	0.18	(0.09)	滑石	側面に横を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q270	白玉	0.58	0.22	0.20	(0.11)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q271	白玉	0.61	0.24	0.22	0.14	滑石	側面に横を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q272	白玉	0.59	0.28	0.24	(0.18)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q273	白玉	0.59	0.20	0.18	(0.13)	滑石	側面に横を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q274	白玉	0.58	0.20	0.20	0.13	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q275	白玉	0.59	0.20	0.18	(0.12)	滑石	側面に横を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q276	白玉	0.60	0.21	0.21	0.11	滑石	側面に横を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q277	白玉	0.59	0.27	0.20	0.14	滑石	側面に横を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q278	白玉	0.59	0.29	0.21	0.18	滑石	側面に横を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q279	白玉	0.62	0.29	0.19	(0.17)	滑石	側面に横を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q280	白玉	0.57	0.18	0.21	(0.09)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q281	白玉	0.57	0.21	0.18	(0.12)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q282	白玉	0.59	0.27	0.20	(0.12)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q283	白玉	0.58	0.15	0.20	(0.09)	滑石	厚みのほとんどない円盤状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q284	白玉	0.56	0.22	0.20	0.10	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q285	白玉	0.56	0.13	0.18	0.07	滑石	厚みのほとんどない円盤状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q286	白玉	0.60	0.25	0.20	0.15	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q287	白玉	0.60	0.25	0.20	0.16	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q288	白玉	0.56	0.27	0.15	(0.15)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q289	白玉	0.57	0.24	0.18	0.13	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q290	白玉	0.56	0.17	0.18	0.09	滑石	厚みのほとんどない円盤状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q291	白玉	0.57	0.25	0.18	0.15	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q292	白玉	0.59	0.19	0.20	0.11	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q293	白玉	0.59	0.28	0.18	0.18	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q294	白玉	0.58	0.21	0.22	(0.11)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q295	白玉	0.61	0.23	0.18	0.15	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q296	白玉	0.59	0.22	0.20	(0.13)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q297	白玉	0.59	0.23	0.19	0.12	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q298	白玉	0.60	0.21	0.19	(0.12)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q299	白玉	0.60	0.24	0.22	0.15	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q300	白玉	0.58	0.29	0.20	(0.16)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q301	白玉	0.55	0.26	0.21	(0.13)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q302	白玉	0.56	0.29	0.20	(0.13)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q303	白玉	0.60	0.23	0.16	(0.11)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q304	白玉	0.57	0.18	0.18	0.10	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q305	白玉	0.57	0.18	0.19	0.10	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q306	白玉	0.58	0.25	0.18	(0.13)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q307	白玉	0.57	0.18	0.18	0.11	滑石	側面が直線の凸凹筒状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q308	白玉	0.56	0.20	0.18	0.12	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q309	白玉	0.59	0.25	0.18	(0.14)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q310	白玉	0.55	0.32	0.18	(0.15)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q311	白玉	0.55	0.21	0.18	(0.11)	滑石	側面が直線の凸凹筒状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q312	白玉	0.60	0.25	0.20	0.15	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q313	白玉	0.52	0.25	0.20	0.12	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q314	白玉	0.55	0.20	0.20	0.10	滑石	側面が直線の凸凹筒状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q315	白玉	0.56	0.25	0.17	0.14	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q316	白玉	0.57	0.19	0.18	0.11	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q317	白玉	0.54	0.24	0.18	(0.11)	滑石	側面が直線の凸凹筒状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q318	白玉	0.59	0.21	0.19	0.13	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q319	白玉	0.63	0.26	0.20	(0.16)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q320	白玉	0.60	0.35	0.20	(0.18)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q321	白玉	0.60	0.21	0.20	0.14	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q322	白玉	0.56	0.16	0.19	(0.10)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q323	白玉	0.58	0.30	0.21	0.18	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q324	白玉	0.58	0.27	0.20	(0.18)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q325	白玉	0.57	0.21	0.18	(0.11)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q326	白玉	0.52	0.23	0.19	(0.13)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q327	白玉	0.52	0.25	0.18	0.12	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q328	白玉	0.55	0.25	0.19	0.16	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41



番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q329	白玉	0.51	0.21	0.19	(0.13)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q330	白玉	0.58	0.22	0.18	(0.09)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q331	白玉	0.63	0.21	0.20	0.15	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q332	白玉	0.57	0.21	0.18	0.11	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q333	白玉	0.61	0.27	0.18	0.16	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q334	白玉	0.57	0.29	0.19	(0.11)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q335	白玉	0.57	0.17	0.20	0.09	滑石	厚みのほとんどない円盤状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q336	白玉	0.52	0.15	0.18	(0.07)	滑石	厚みのほとんどない円盤状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q337	白玉	0.56	0.23	0.19	0.14	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q338	白玉	0.41	0.21	0.18	0.08	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q339	白玉	0.55	0.17	0.15	0.11	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q340	白玉	0.55	0.20	0.18	0.13	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q341	白玉	0.57	0.15	0.19	(0.10)	滑石	厚みのほとんどない円盤状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q342	白玉	0.55	0.23	0.18	0.13	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q343	白玉	0.59	0.28	0.20	(0.14)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q344	白玉	0.57	0.27	0.19	(0.13)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q345	白玉	0.54	0.25	0.20	(0.08)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q346	白玉	0.59	0.25	0.19	(0.16)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q347	白玉	0.59	0.25	0.19	(0.16)	滑石	側面に直線の女門筒状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q348	白玉	0.59	0.15	0.18	0.10	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q349	白玉	0.59	0.20	0.19	(0.09)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q350	白玉	0.60	0.30	0.19	(0.17)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q351	白玉	0.56	0.18	0.16	(0.10)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q352	白玉	0.60	0.23	0.19	(0.16)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q353	白玉	0.56	0.23	0.19	(0.14)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q354	白玉	(0.57)	0.23	0.19	(0.12)	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q355	白玉	0.55	0.17	0.18	0.09	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q356	白玉	0.56	0.26	0.23	0.13	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q357	白玉	0.58	0.17	0.19	0.10	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q358	白玉	0.55	0.20	0.18	0.07	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q359	白玉	0.60	0.27	0.19	0.17	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q360	白玉	0.57	0.20	0.18	(0.07)	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q361	白玉	0.59	0.20	0.20	0.11	滑石	側面が彫らむ太鼓状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q362	白玉	0.46	0.25	0.15	0.08	滑石	側面に直線の女門筒状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q363	白玉	0.45	0.27	0.20	0.07	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q364	白玉	0.56	0.27	0.21	0.14	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
Q365	白玉	0.60	0.18	0.20	0.11	滑石	側面に稜を持つ算盤玉状 片面穿孔	南西コーナー部床面	PL41
G 1	小玉	0.38	0.29	0.20	0.07	ガラス	側面が彫らむ太鼓状	南部床面	PL40

## 第131号住居跡（第88～91区）

位置 調査区東部のC4e8区。標高17.9～18.1mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第409号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺5.83mの方形で、主軸方向はN-6°-Wである。壁高は37～53cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで156cm、袖部幅112cmである。袖部は床

面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面及び内壁は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ58cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 に近い赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
5 暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	10 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量

ピット 6か所。P1～P4は深さ55～65cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ56cm、P6は深さ30cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径102cm、短径74cmの楕円形で、深さは44cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

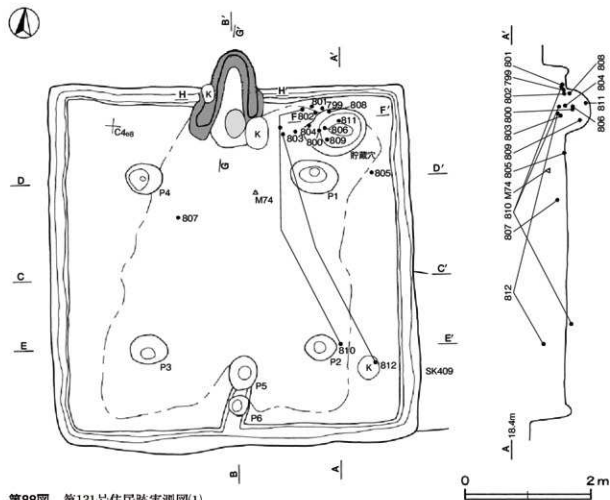
#### 貯蔵穴土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量

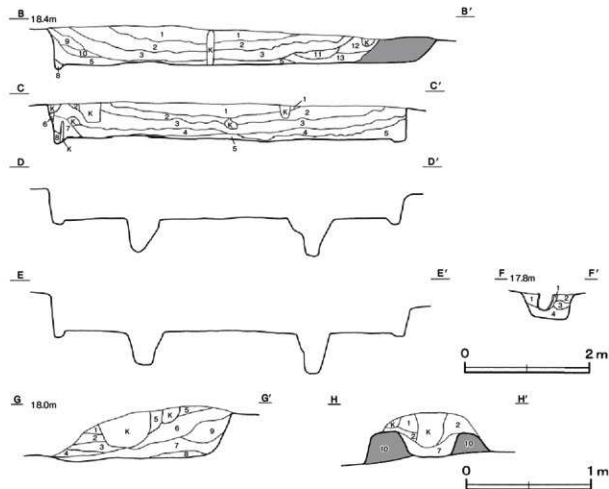
覆土 13層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック多量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	9 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	10 褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ローム粒子中量、炭化物微量	11 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	12 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
6 褐色	ロームブロック中量	13 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
7 暗褐色	ローム粒子中量		



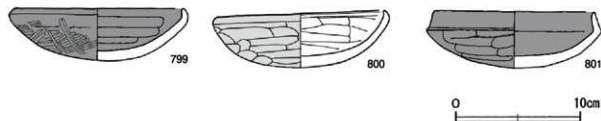
第88図 第131号住居跡実測図(1)



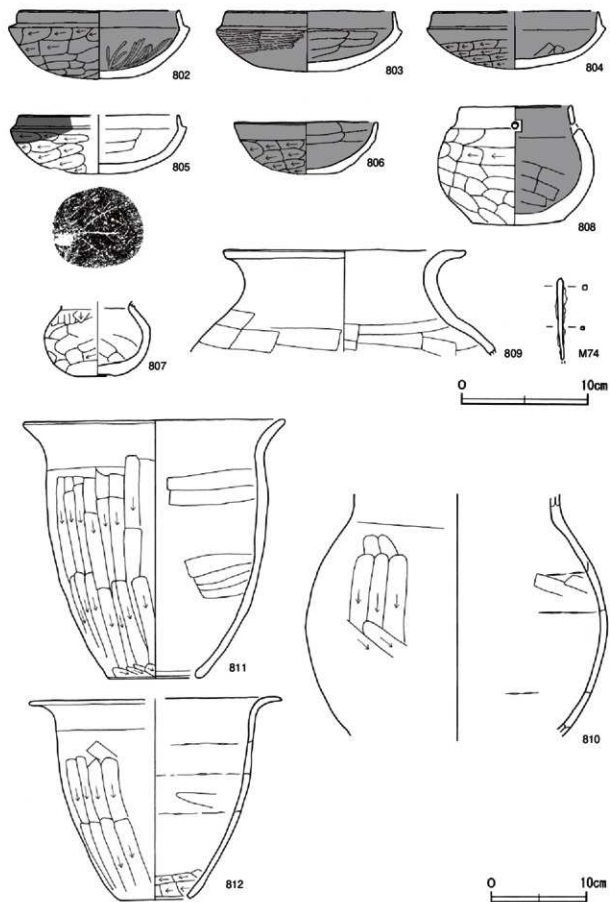
第89図 第131号住居跡実測図(2)

**遺物出土状況** 土師器片765点(坏236, 高坏18, 壺1, 埴2, 甕505, 瓶3), 土製品1点(支脚片), 鉄製品1点(釘)が出土している。また、混入した須恵器片40点, 土師質土器片13点も出土している。遺物は主に貯蔵穴の覆土中及びその周辺から集中して出土している。799~802・804・806・808は貯蔵穴の覆土上層から正位で重なった状態で, 811は貯蔵穴の覆土下層からそれぞれ出土している。803は貯蔵穴西側の覆土下層から出土している。810は南東部覆土上層と貯蔵穴西側の床面から出土した破片が接合したものである。807・M74は中央部の覆土中層から出土している。床面及び貯蔵穴の覆土中から出土している土器は、住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



第90図 第131号住居跡出土遺物実測図(1)



第91图 第131号住居跡出土遺物実測図(2)

第131号住居跡出土遺物観察表 (第90・91図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
799	土師器	坏	13.6	4.2	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨き 内面へラナデ	貯蔵穴覆土上層	95% PL30
800	土師器	坏	13.5	4.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面へラナデ	貯蔵穴覆土上層	95% PL20
801	土師器	坏	12.9	4.5	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	体部外面へラナデ	貯蔵穴覆土上層	95%
802	土師器	坏	12.6	5.4	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨り 内面へラ磨き	貯蔵穴覆土上層	90%
803	土師器	坏	13.3	4.3	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ磨き 内面へラナデ	貯蔵穴西側覆土下層	90%
804	土師器	坏	[13.1]	4.6	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨り 内面へラナデ	貯蔵穴覆土上層	60%
805	土師器	坏	[12.5]	4.7	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ磨り 内面へラナデ	貯蔵穴南側床面	60%
806	土師器	坏	11.3	4.1	-	長石・赤色粒子・磁珠	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ磨り 内面へラナデ	貯蔵穴覆土上層	95% PL20
807	土師器	小形壺	-	(5.9)	2.8	長石・石英	橙	普通	体部外面へラ磨り 内面へラナデ	中央部覆土中層	40%
808	土師器	小形壺	8.8	9.5	7.1	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口縁部に2孔	貯蔵穴覆土上層	95% PL30
809	土師器	壺	19.1	(8.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部上位内・外面へラナデ	貯蔵穴覆土下層	20%
810	土師器	壺	-	(25.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨り 内面へラナデ	貯蔵穴西側床面・西側壁跡上層	20%
811	土師器	瓶	27.0	27.1	9.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ磨り 内面へラナデ	貯蔵穴覆土下層	95% PL30
812	土師器	瓶	[25.0]	21.1	7.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ磨り 内面下端へラ磨り	貯蔵穴西側南東コーナー部床面	55%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M74	釘	(6.5)	0.5	0.4	(3.44)	鉄	頭部及び臀部先端欠損	中央部覆土中層	PL39

## 第132号住居跡 (第92図)

位置 調査区南部のE54区で、標高17.7～17.9mの台地の緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長軸5.57m、短軸5.10mの方形で、主軸方向はN-42°-Wである。壁高は6～20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほは平坦で、西部が部分的に踏み固められている。北コーナー部から大量の焼土とともに、炭化材が出土している。

炉 中央部やや北寄りに位置している。長径80cm、短径42cmの不整楕円形で、床面と同じ高さの地山面をそのまま使用した地床炉である。炉床は火熱により赤変硬化している。

ピット 2か所。P1は深さ63cmで、南壁際中央部のやや西寄りに位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ43cmで、性格は不明である。

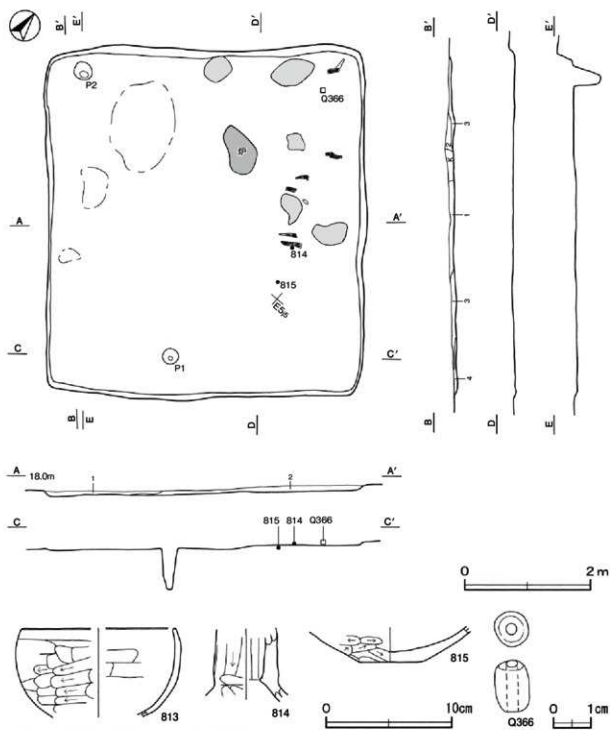
覆土 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- |                           |                    |
|---------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック微量    |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量   | 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片57点(椀14、高坏7、甕36)、石製品1点(霰玉)、炭化材が出土している。814・815は東部の床面、Q366は北部の床面、813は覆土中からそれぞれ出土している。炭化材は焼土中から出土しており、角材と板材の2種類に大別できる。

所見 大量の焼土とともに、住居の構築材と考えられる炭化材が出土していることから、焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第92図 第132号住居跡・出土遺物実測図

第132号住居跡出土遺物観察表 (第92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
813	土師器	碗	12.2	(7.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ	覆土中	10%
814	土師器	高坏	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部外面へラ削り 内面へラナデ	東部床面	10%
815	土師器	甕	-	(2.8)	5.0	長石・石英	橙	普通	体部外面へラ削り	東部床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q366	燧玉	1.26	0.88	0.91	1.62	黒色頁岩	孔径0.24cm	北部床面	PL-40

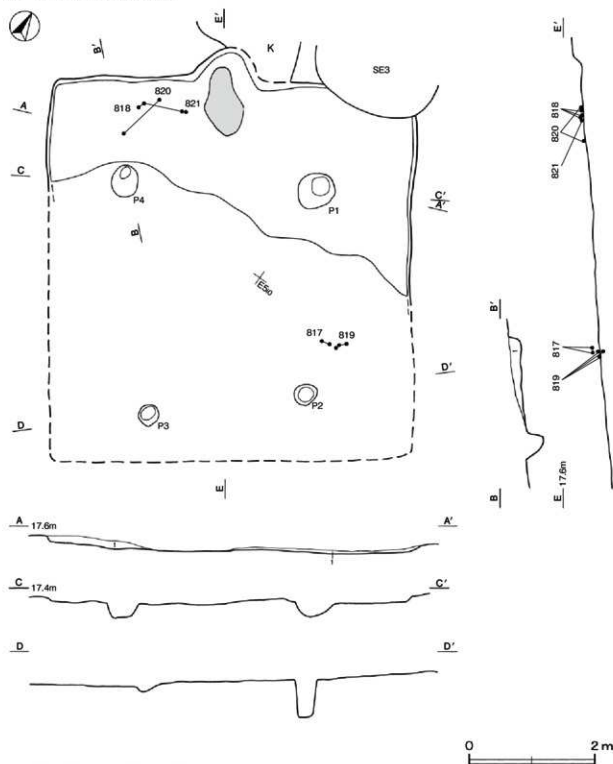
## 第134号住居跡 (第93・94図)

位置 調査区南部のE5h9区、標高17.1～17.4mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第3号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 南部は削平を受けており、確認できた範囲は、東西5.91m、南北3.50mで、平面形は方形もしくは長方形と推定される。主軸方向はN-36°-Wである。壁高は8～16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、軟弱である。



第93図 第134号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口から煙道部まで140cmである。袖部は、残存していない。火床部は地山面をそのまま使用し、火床面は火熱で赤変硬化している。煙道部は壁外へ44cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

ピット 4か所。P1～P4は深さ13～70cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。

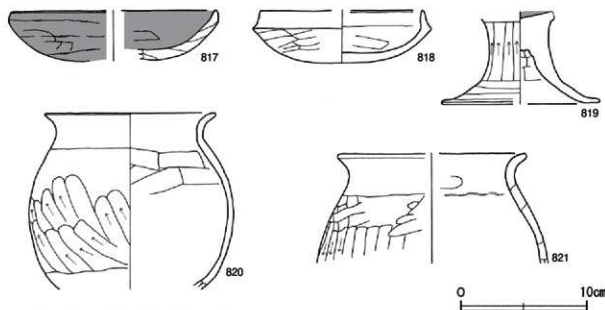
覆土 単一層で、層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

1 期 期 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片32点（坏2、高坏1、甕29）、土製品1点（支脚片）、鉄製品1点（釘）が出土している。817・819は東部の床面、818・820・821は北西部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第94図 第134号住居跡出土遺物実測図

第134号住居跡出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
817	土師器	坏	[16.2]	(3.9)	-	長石	浅黄	普通	体部内・外面ヘラナデ	東部床面	45%
818	土師器	坏	[12.9]	4.0	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	北西部床面	40%
819	土師器	高坏	-	(7.2)	[12.3]	長石・雲母	にぶい陶	普通	脚部外面ヘラ傾り 内面ヘラナデ	東部床面	35%
820	土師器	甕	[13.3]	(14.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ傾り 内面ヘラナデ	北西部床面	45%
821	土師器	甕	[14.6]	(8.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ傾り 内面ヘラナデ	北西部床面	10%



表4 古墳時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設				扉・扉土	出土遺物	時代	備 考 新旧関係 (旧→新)	
							礎	溝	土柱	礎或ピット					出入口
66	C3e7	N-8°-W	方形	6.60×6.60	60-65	平照	全周	2	-	-	-	礎1 丸瓦	土師器、白玉	6世紀後半	本跡→SK341
71	C3g7	N-22°-W	方形	4.90×4.80	43-48	平照	-	-	1	-	-	丸瓦	土師器	5世紀前半	本跡→SK335
84	D4h8	N-51°-W	方形	6.50×6.42	33-52	平照	全周	4	1	3	1	礎1 自然	土師器、赤土、漆、灰石	6世紀後半	本跡→SK010・412、 SD43・52
85	D4e9	N-22°-W	方形	7.90×7.65	40-57	平照	全周	4	2	-	-	伊3 自然	土師器、双孔円板	5世紀中葉	本跡→S86、SK406、 SD36・43・44
86	D4e8	N-17°-W	方形	5.12×5.00	30-40	平照	一部	4	-	-	2	礎2 自然	土師器、瓦、銅製品	6世紀後半	SD5→本跡→SD43
105	D418	N-75°-W	長方形	5.25×(3.07)	16-25	平照	-	-	-	-	-	伊1 自然	土師器、灰石	5世紀前半	本跡→SK405・421、 SD44
106	C419	N-36°-W	方形	7.75×7.55	45-70	平照	全周	4	1	1	1	伊1・伊2 自然	土師器、白玉、刀子	6世紀後半	本跡→SK041・413・ 419・420、SK52
107	C2d3	N-47°-E	長方形	4.40×3.96	24-30	平照	全周	3	-	-	-	伊1 自然	土師器、土瓦、炭化材	5世紀前半	本跡→SD3・64
108	C2e7	N-83°-E	長方形	5.02×4.11	36-43	平照	-	3	1	-	-	伊1 自然	土師器、炭化材	5世紀中葉	
109	C2e8	N-18°-W	方形	6.10×6.10	40-52	平照	全周	4	1	2	2	礎1 自然	土師器、白玉、灰石	6世紀中葉	
110	C2d0	N-68°-E	長方形	6.85×4.90	45-60	平照	-	4	1	-	1	伊1 自然	土師器、支脚片	5世紀後半	
111	C2b0	N-63°-E	長方形	5.59×4.82	41-20	平照	-	4	-	-	1	伊1 丸瓦	土師器、支脚片	5世紀後半	本跡→SI112
114	C3e6	N-36°-E	方形	4.48×4.36	5-10	平照	-	4	-	-	1	伊1 自然	土師器	5世紀前半	
115	C3e3	N-33°-W	長方形	3.04×(2.21)	30-36	平照	-	1	-	-	-	自然	土師器	5世紀中葉	本跡→SI113
116	C3d3	N-22°-W	方形	7.06×6.97	43-50	平照	全周	4	1	-	1	礎1 自然	土師器、白玉	6世紀前半	本跡→SK306・337・ 338
118	C316	N-63°-E	方形	4.42×4.18	30-35	平照	-	2	2	-	-	伊1 丸瓦	土師器	5世紀中葉	
120	C315	N-27°-W	方形	7.59×7.21	58-75	平照	全周	4	1	-	2	礎1 自然	土師器、瓦、高付鉢	6世紀前半	
121	C314	N-25°-W	方形	5.85×5.80	45-50	平照	全周	4	1	8	1	礎1 自然	土師器、須恵器、白玉	6世紀中葉	
123	D3b4	N-28°-W	方形	8.11×8.01	48-70	平照	全周	4	1	2	2	礎1 自然	土師器、須恵器、漆	6世紀中葉	本跡→SD16、SK348
124	D3a7	N-9°-W	長方形	5.61×(4.84)	30-45	平照	全周	4	1	2	2	礎1 自然	土師器、土器与玉、白土	6世紀前半	本跡→SD17、SK343・ 344
125	D318	N-24°-W	長方形	5.68×(4.42)	10-15	平照	-	3	1	1	1	礎1 自然	土師器	6世紀中葉	本跡→SD22→SK349、 SD16
126	D3b6	N-25°-W	方形	7.66×7.65	15-30	平照	-	4	1	-	1	伊1 自然	須恵器、土師器、土器、 灰石、銅製品、石	5世紀中葉	本跡→SK349・362、 SD22
131	C4e8	N-6°-W	方形	5.83×5.83	37-53	平照	全周	4	1	-	2	礎1 自然	土師器、釘	6世紀後半	本跡→SK409
132	E5i4	N-42°-W	方形	5.57×5.10	6-20	平照	-	-	-	1	1	伊1 自然	土師器、葉玉、炭化材	5世紀後半	
134	E5h9	N-36°-W	長方形	5.91×(3.50)	8-16	平照	-	4	-	-	-	礎1 不明	土師器	6世紀中葉	本跡→SE3

## (2) 土坑

## 第416号土坑 (第95図)

位置 調査区南部のE5j6区、標高17.8～17.9mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径2.50m、短径2.42mの円形で、深さは31cmである。底面はやや凹凸があり、壁は外傾して立ち上がっている。

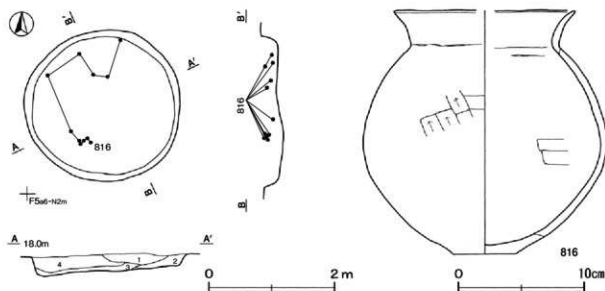
覆土 4層に分層される。各層ともロームブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

## 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
2 褐色 ロームブロック中量 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片9点(葉)が出土している。816は覆土上層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から5世紀代と考えられる。また、5世紀後半と考えられる第132号住居跡が西へ約3mに位置しており、関連性が推測されるが、性格は不明である。



第95図 第416号土坑・出土遺物実測図

第416号土坑出土遺物観察表 (第95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
816	土師器	甕	[18.8]	25.4	6.5	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り 内面ヘラナデ	覆土上層～下層	30%

## 2 奈良・平安時代の堅穴住居跡と遺物

堅穴住居跡4軒が確認された。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

### 第101号住居跡 (第96図)

**位置** 調査区東部のC 4c9区、標高17.7～17.8mの台地緩斜面部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.62m、短軸3.51mの方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁高は45～52cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、竈の周辺を中心に踏み固められている。壁溝が全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されており、平成14年度に調査されている。

**ピット** 2か所。P 1は平成14年度に調査している。P 2は深さ11cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

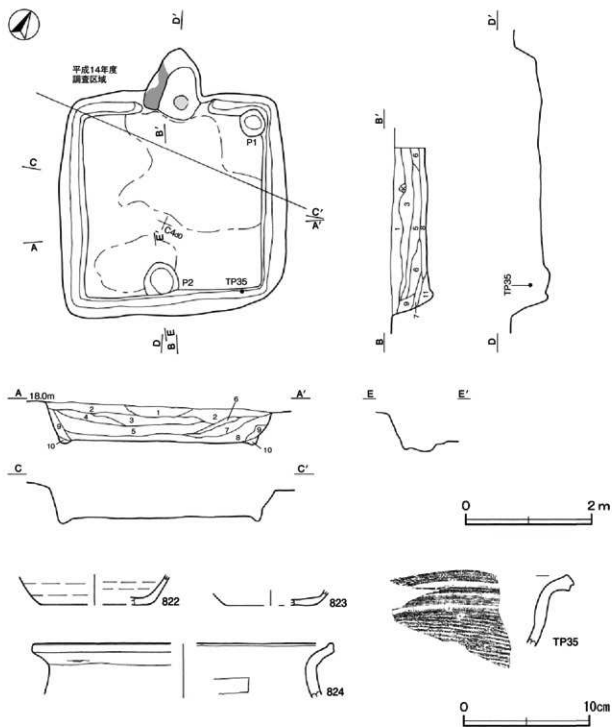
**覆土** 11層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
2 暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量
5 極暗褐色	ロームブロック少量・焼土粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器片58点(坏16、甕42)、須恵器片9点(坏8、甕1)が出土している。また、混入した鉄洋4点も出土している。822はP 2の覆土中、TP35は南壁際覆土中層、823・824は覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡の北部は平成14年度に調査され、今回は南部のみの調査であった。時期は、文化財調査報告第215集で、出土土器から8世紀後半と考えられており、今回の出土土器もそれを裏付けるものである。



第96図 第101号住居跡・出土物実測図

第101号住居跡出土物観察表 (第96図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
822	須臾器	環	-	(2.4)	[8.6]	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ切り	P 2 覆土中	5%
823	須臾器	環	-	(1.2)	[7.0]	長石・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ	覆土中	5%
824	土師器	甕	[23.7]	(4.3)	-	長石・石英	橙	普通	体部内面ヘラナデ	覆土中	5%
TP35	須臾器	鉢	-	(5.7)	-	長石・石英	灰白	普通	体部外面平行叩き 内面ナデ	南壁際覆土中層	PL41

第112号住居跡 (第97・98図)

位置 調査区北部のC2b9区、標高19.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第111号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.93m、短軸2.92mの長方形で、主軸方向はN-6°-Wである。壁高は29～54cmで、外傾して立ち上がっている。

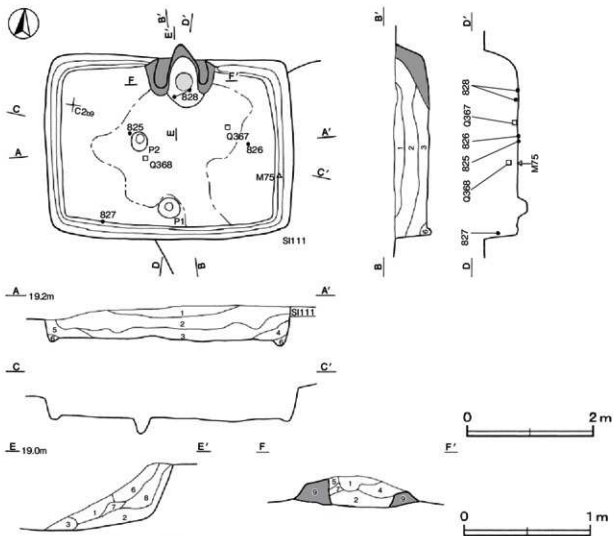
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで112cm、袖幅108cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は地山をそのまま使用しており、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ22cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量        | 6 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子微量   |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量        | 7 灰褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量    |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 灰褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 9 灰黄褐色 砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 5 灰褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量  |                        |

ピット 2か所。P1は深さ18cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ24cmで、性格は不明である。



第97図 第112号住居跡実測図

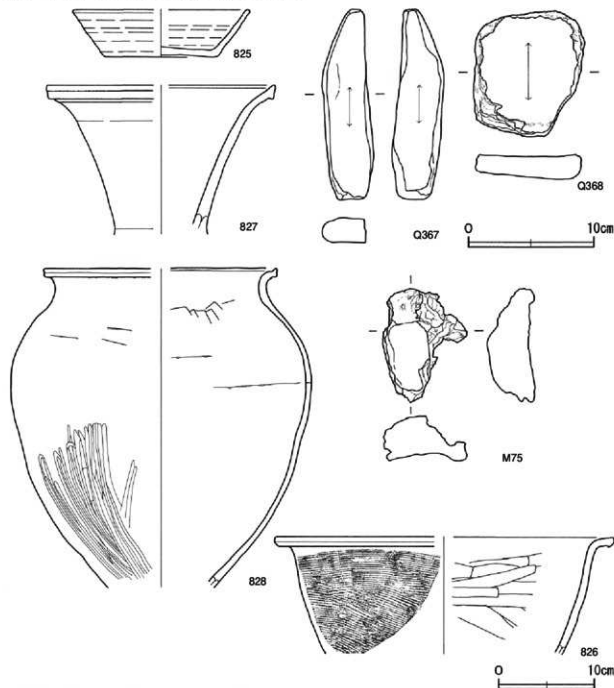
覆土 6層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

## 土層解説

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量        | 4 暗褐色 ローム粒子少量   |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片118点（坏19、高坏3、甕96）、須恵器片21点（坏11、長頸壺2、甕8）、石器2点（紙石）が出土している。また、混入した鉄滓1点も出土している。825は中央部、826は東部の床面、M75は東部壁際の床面からそれぞれ出土している。828は竈の焚き口部から出土した破片が接合している。827は南壁際の覆土中層、Q367は東部、Q368は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第98図 第112号住居跡・出土遺物実測図

### 第112号住居跡出土遺物観察表 (第98図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
825	須恵器	坏	[138]	3.8	[90]	長石・石英	灰黄	普通	体部ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	中央部床面	60%
826	須恵器	瓶	[35.2]	(12.3)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部外面平行明き 内面ナデ	東部床面	20%
827	須恵器	長頸瓶	[18.0]	(11.8)	-	長石	黄灰	普通	頸部内・外面ロクロナデ	南壁溝覆土中層	5%
828	土師器	甕	[24.2]	(33.5)	-	長石・石英・鉄片	明赤黒	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	礎基石口部	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M75	鉄洋	(11.8)	(8.8)	(5.0)	(533.0)	鉄	暗褐色を呈し、表面が瘤状の突起による凹凸あり	東部壁溝	PL39
Q367	砥石	15.0	4.1	2.0	192.0	粘板岩	砥面2面	東部覆土下層	PL40
Q368	砥石	10.0	8.8	1.9	268.0	雲母片岩	砥面1面	中央部覆土下層	

### 第113号住居跡 (第99・100図)

**位置** 調査区中央部のC3b3区。標高19.0mの台地平面部に位置している。

**重複関係** 第115号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸4.02m、短軸3.47mの長方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は32～36cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで98cm、袖部幅108cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面にローム土を埋め戻して基部とし、その上に砂質粘土で構築されている。火床部は地山をそのまま使用しており、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ2cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

- |   |       |                     |   |     |                    |
|---|-------|---------------------|---|-----|--------------------|
| 1 | にぶい褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量    | 5 | 明褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量   |
| 2 | 褐色    | ローム粒子・砂質粘土粒子少量      | 6 | 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量 |
| 3 | 暗赤褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量    | 7 | 褐色  | ロームブロック多量          |
| 4 | 暗赤褐色  | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |   |     |                    |

**ピット** 6か所。P1～P4は深さ32～50cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ23cmで、南壁寄りの中央に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ42cmで、性格は不明である。

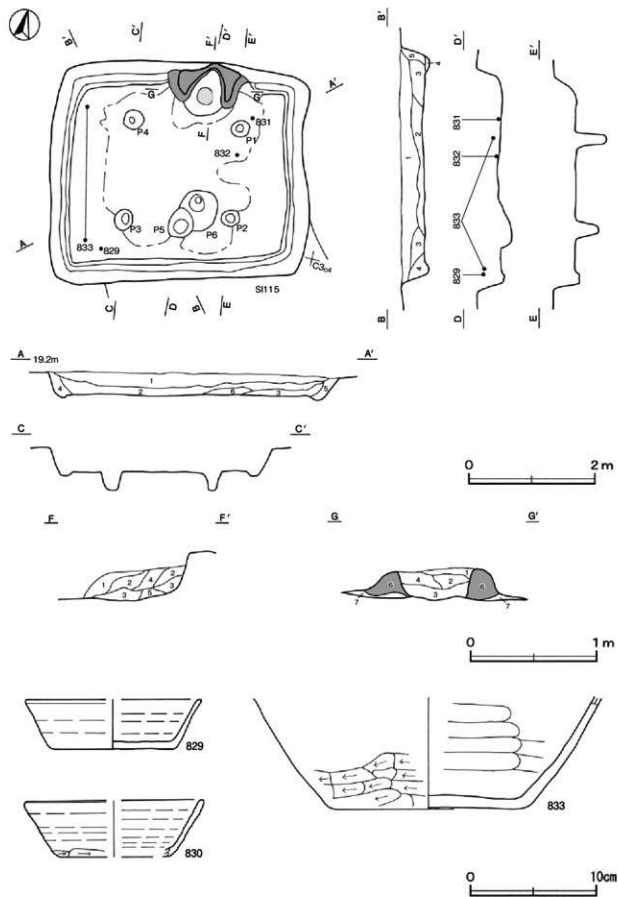
**覆土** 6層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

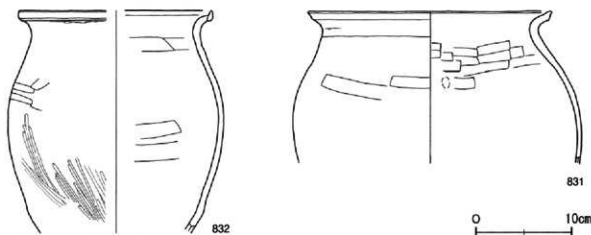
- |   |     |                     |   |     |                |
|---|-----|---------------------|---|-----|----------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量        | 4 | 暗褐色 | ローム粒子少量        |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 6 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量   |

**遺物出土状況** 土師器片246点(坏22、高坏10、甕212、瓶2)、須恵器片17点(坏14、甕3)が出土している。また、流れ込んだ土師器片5点、混入した土師質土器片1点、鉄洋1点も出土している。831は北東部の床面から連位で出土している。829は南西コーナー部の覆土上層、830は覆土中、832は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。833は南西コーナー部覆土中層と北西コーナー覆土下層から出土した破片が接合している。

**所見** 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第99図 第113号住居跡・出土遺物実測図



第100図 第113号住居跡出土遺物実測図

第113号住居跡出土遺物観察表 (第99-100図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
829	須恵器	坏	[13.8]	4.0	[9.4]	長石・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ	南西コーナ部覆土上層	45%
830	須恵器	坏	[14.0]	4.5	[8.8]	長石・雲母	暗灰黄	普通	体部外面下縁ヘラ削り	覆土中	25%
831	土師器	甕	25.2	(16.0)	-	長石・石英・粘土	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	北東部床面	
832	土師器	甕	[20.0]	(23.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	中央部覆土下層	20%
833	須恵器	甕	-	(8.9)	15.6	長石・雲母	灰黄	普通	体部外面下縁ヘラ削り 内面ヘラナデ	南西コーナ部覆土中層 北西コーナ部覆土下層	5%

第122号住居跡 (第101図)

位置 調査区中央部のC3j4区、標高18.7～18.8mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.20m、短軸2.71mの長方形で、主軸方向はN-14°-Wである。壁高は14～20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、竈の周辺が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口から煙道まで90cm、袖部幅96cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面に粘土とローム土の混合土で構築されているが、残存状態は悪い。火床部は地山を5cm掘り込んで使用しており、火床面は火熱により部分的に赤変している。煙道部は壁外へ38cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- |          |                 |        |                     |
|----------|-----------------|--------|---------------------|
| 1 暗赤褐色   | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量   | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量       |
| 2 暗褐色    | 焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量 | 6 黄褐色  | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量    | 7 暗褐色  | ロームブロック少量           |
| 4 褐色     | ローム粒子中量、炭化粒子少量  |        |                     |

覆土 4層に分層される。各層にロームブロックを含み、不規則に堆積していることから人為堆積と考えられる。

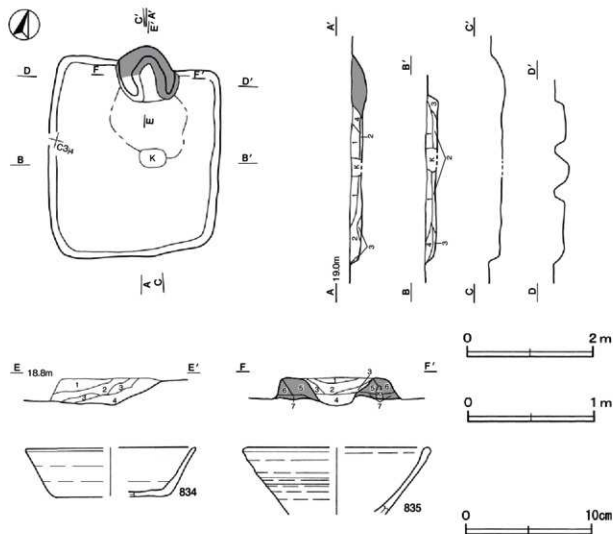
土層解説

- |       |                      |       |                  |
|-------|----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片56点(坏13、甕34、瓶9)、須恵器11点(坏10、甕1)が出土している。また、混入した土師質土器片1点も出土している。834は覆土中、835は竈の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。





第101図 第122号住居跡・出土遺物実測図

第122号住居跡出土遺物観察表 (第101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
834	須恵器	坏	[133]	39	[83]	長石・雲母	黄灰	普通	底部回転へう切り後一方のへう削り	覆土中	30%
835	須恵器	坏	[144]	(5.4)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	10%

表5 奈良・平安時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設				炉・竈・土	出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧→新)	
							壁溝	土柱穴	竈穴	ヒト					
101	C 4 c9	N-23°-W	方形	3.62×3.51	45~52	平照	全周	-	-	1	1	竈1	自然土師器、須恵器	8世紀後半	
112	C 2 b9	N-6°-W	長方形	3.93×2.92	29~54	平照	全周	-	-	1	1	竈1	自然土師器、須恵器、砥石	8世紀中葉	S1111→本跡
113	C 3 b3	N-2°-W	長方形	4.02×3.47	32~36	平照	全周	4	-	1	1	竈1	自然土師器、須恵器	8世紀中葉	S1115→本跡
122	C 3 j4	N-14°-W	長方形	3.20×2.71	14~20	平照	-	-	-	-	-	竈1	人為土師器、須恵器	9世紀代	

### 3 中世の遺構と遺物

今回の調査で、茨城県教育財団文化財調査報告第191集で西館としている方形居館跡の西部から南部を調査し、方形区画堀跡1条、掘立柱建物跡6棟、欄干1条、溝跡7条、土坑9基、火葬土坑5基、ピット群3か所を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

#### (1) 堀跡

##### 第3号溝跡（方形区画堀跡）（第102～105区）

**位置** 今回調査した範囲は、方形区画堀跡の西部（C2b4区）から南部（E3c2区）で、標高18.1～18.3mの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第107号住居跡を掘り込み、第58～60・64・65・67・68号溝、第321・384～386号土坑に掘り込まれている。

**調査方法** 構築状況を観察するため、西部のD2g1区（A-A'）、南西コーナー部のE2a1区（E-E'）、南部のE2b0区（G-G'）に土層観察用のベルトを設定した。

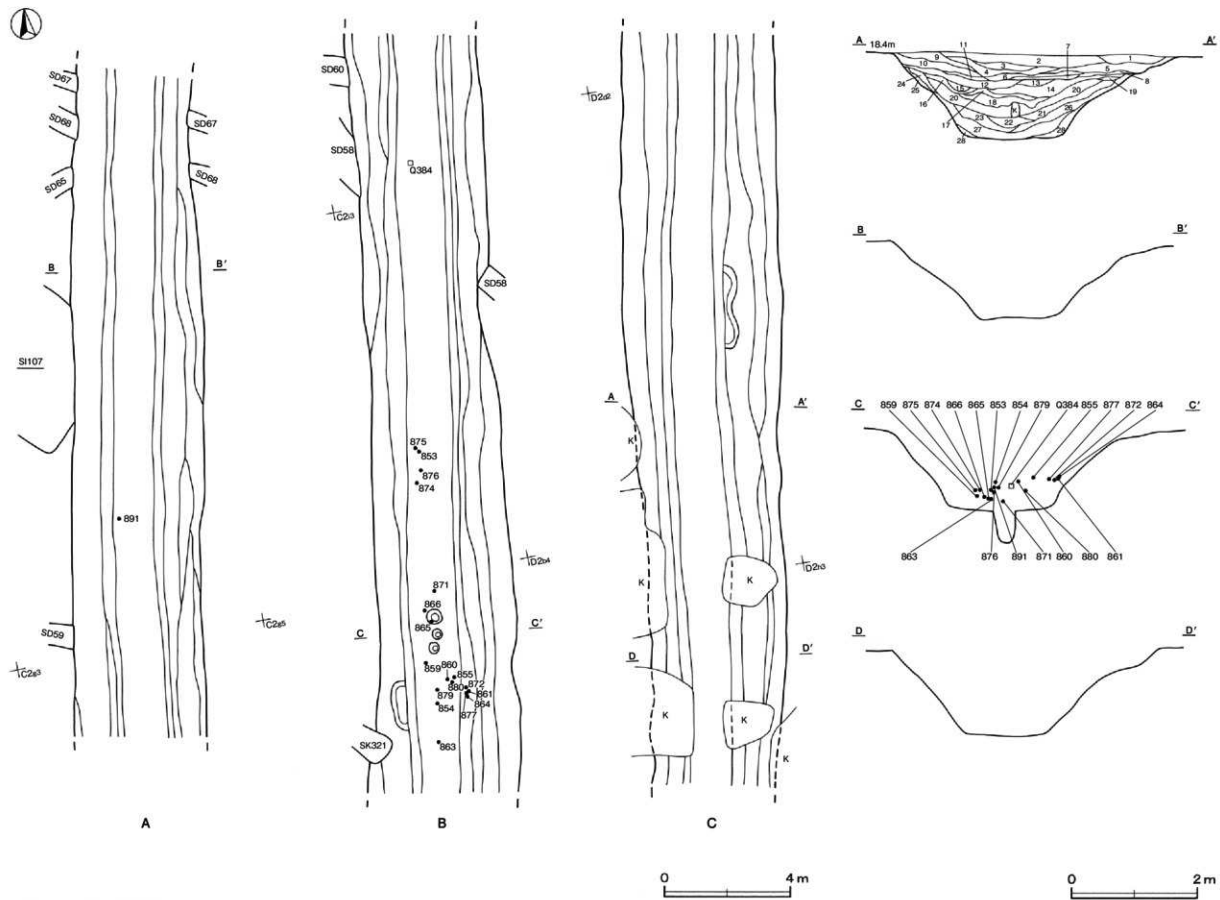
**規模と形状** E3c2区から西方向（N-81°-W）にはほぼ直線的に延び、E2a1区で北方向（N-9°-E）にはほぼ直角に屈曲してC2b4区に至っており、今回調査した範囲の長さは122.5mである。底面は平坦であるが高底差があり、西側堀部で南に45cm、南側堀部で西に10cmほどそれぞれ傾斜を示し、南西コーナー部が低くなっている。覆土は大きくⅢ期に分けることができる。Ⅰ期は、下位の両側の壁が崩れた後に堆積した層と考えられ、ロームブロックや粘土ブロックを多く含んでいる。Ⅱ期は覆土中層から下層の締まりが強い層を下層として、その上に自然堆積している層で、堀浚いが行われた後に堆積した土層と考えられる。Ⅲ期は、覆土上層のロームブロックを多く含み、埋め戻されたと考えられる層である。西部、南西コーナー部、南部の3区に分けて規模と形状及び土層解説を報告する。

#### 西部

A-A'の規模は、上幅4.46m、下幅1.48m、深さ1.32mである。上幅は南部より1mほど広い。断面形状は逆台形状を呈し、底面は平坦である。方形区画外側の壁が約48°の角度で立ち上がっているのに対し、内側の壁は約40°の角度で緩やかに立ち上がっている。D2b3区の底面から長径18～26cm、短径15～24cm、深さ46～52cmのピットが3か所並んでいるのを確認した。覆土下層の第27・28層はⅠ期で、両側の壁が崩れた後に堆積したものと考えられる。覆土中層の第18・20～26層はⅡ期で、レンズ状に堆積しており、自然堆積と考えられる。第23・26層は締まりが強く、堀浚いが行われた時の底面と考えられる。覆土上層から中層にかけての第6～8・11～17・19層はⅢ期で、ロームブロックを多く含み、埋め戻されたと考えられる。覆土最上層の第1～5・9・10層はレンズ状に堆積しており、自然堆積と考えられる。

#### A-A' 土層解説

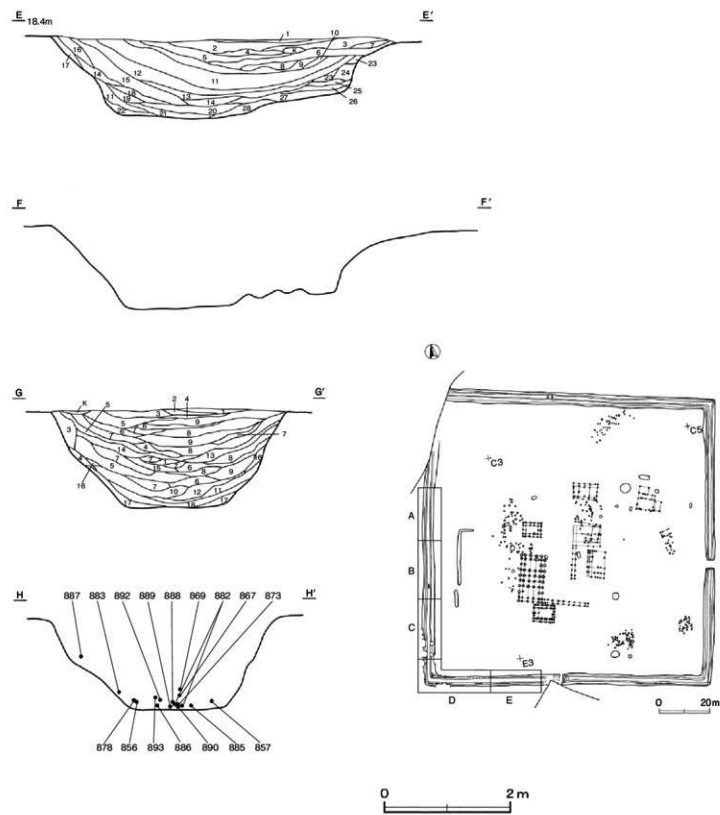
1	暗褐色	ロームブロック少量	15	褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ローム粒子中量	16	黒褐色	ローム粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック微量	17	褐色	ロームブロック少量
4	暗褐色	ローム粒子少量	18	黒褐色	ローム粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック微量	19	極暗褐色	ロームブロック微量
6	にぶい褐色	ローム粒子・粘土ブロック少量	20	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
7	黒褐色	ロームブロック少量	21	黒褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量
8	黒褐色	ロームブロック中量	22	黒褐色	粘土粒子中量、締まり強
9	黒褐色	ロームブロック中量	23	暗褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック微量、締まり強
10	黒褐色	ローム粒子少量	24	黒褐色	ローム粒子少量、粘土粒子微量
11	暗褐色	ローム粒子少量	25	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック微量
12	暗褐色	ロームブロック中量	26	にぶい褐色	ローム粒子中量、締まり強
13	暗褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック少量	27	にぶい褐色	粘土ブロック多量
14	暗褐色	ロームブロック微量	28	にぶい褐色	粘土ブロック多量



第102図 第3号溝跡実測図(1)



第103図 第3号溝跡実測図(2)



南西コーナー部E-E'の規模は、上幅5.42m、下幅1.60m、深さ1.22mである。断面形状は逆台形状を呈し、底面が平坦で、壁は緩斜して立ち上がっている。コーナー部の底面の内側は、平面形状で三角形に掘り込まれ、断面形状では底面より20cmほど高くなった段差となっている。また、この部分から長径32～104cm、短径32～56cm、深さ12～16cmのピットが3ヶ所確認されている。覆土下層の第20～22・26～28層はI期で、両側の壁が崩れた後に堆積したものと考えられる。覆土中層の第11～19・23～25層はII期で、レンズ状に堆積しており、自然堆積と考えられる。第13～15層は締まりが強く、漏洩いが行われた時の底面と考えられる。覆土上層の第1～10層はIII期で、ロームブロックを多く含み、主に東側から人為的に埋め戻されたと考えられる。

## E-E' 土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量	15 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子微量 締まり強
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	16 黒褐色	ローム粒子少量
3 褐色	ローム粒子中量	17 褐色	ロームブロック中量
4 麻褐色	ロームブロック微量	18 褐色	粘土粒子少量、ロームブロック微量
5 黒褐色	ローム粒子中量	19 にふい褐色	粘土粒子中量、ローム粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子多量	20 褐色	粘土ブロック少量 締まり強
7 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック微量	21 暗褐色	粘土ブロック少量 締まり強
8 黒褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量	22 褐色	ローム粒子中量、粘土粒子微量 粘性強
9 黒褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子微量	23 暗褐色	ローム粒子少量
10 黒褐色	粘土粒子微量	24 褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック微量
11 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	25 暗褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック微量
12 黒褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子微量	26 にふい褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
13 黒褐色	粘土粒子中量	27 にふい褐色	粘土ブロック多量
14 灰黄褐色	粘土ブロック少量	28 にふい褐色	粘土ブロック多量

## 南部

G-G'の規模は、上幅3.64m、下幅1.58m、深さ1.54mである。底面は平坦で、北側の壁は67°の角度で外傾して立ち上がっているのに対し、南側の壁は51°の角度でやや緩斜して立ち上がっている。覆土下層の第17・18層はI期で、両側の壁から崩れた後に堆積したものと考えられる。覆土下層の第10～12層はII期でレンズ状に堆積しており、自然堆積と考えられる。第11層はロームブロックを多く含んだ土が、方形館の内側から流れ込んだと考えられる。覆土中層から上層の第1～9・13～16層はロームブロック・粘土ブロックを多く含み、埋め戻されたと考えられる。特に南側の層がロームブロック・粘土ブロックを多く含んでいることから、南側から埋め戻された時期があったと考えられる。

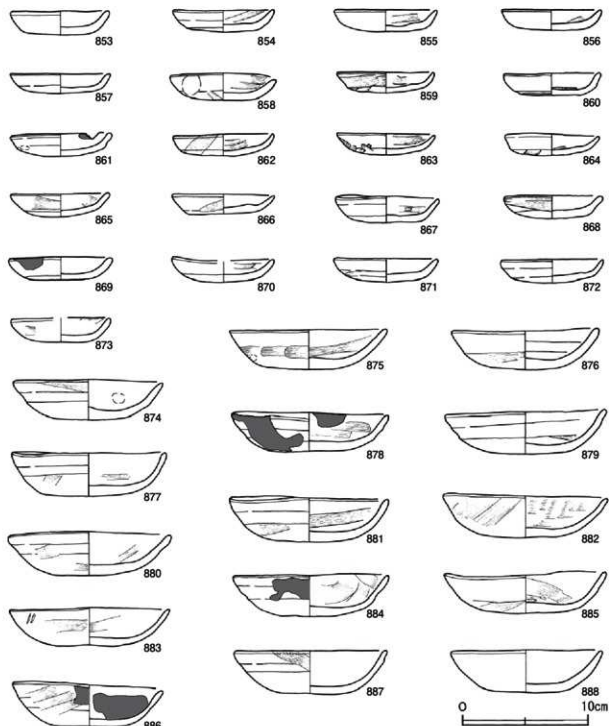
## G-G' 土層解説

1 褐色	粘土ブロック中量	10 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック微量
2 褐色	粘土ブロック多量	11 暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック微量
3 黒褐色	粘土ブロック微量	12 褐色	ローム粒子中量
4 黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子中量
5 暗褐色	粘土ブロック中量	14 灰褐色	粘土ブロック中量
6 褐色	ロームブロック中量、粘土粒子微量	15 黒褐色	粘土ブロック少量
7 黒褐色	粘土粒子微量	16 にふい褐色	粘土粒子中量
8 暗褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック微量	17 にふい褐色	粘土ブロック中量
9 褐色	ロームブロック少量	18 褐色	ローム粒子多量

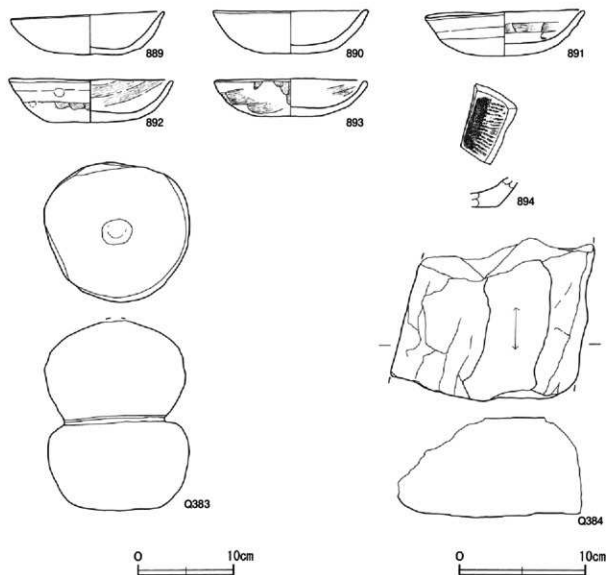
**遺物出土状況** 土師質土器片895点（小皿・皿891、鉢2、内耳鍋2）、陶器1点（播鉢）、石器1点（砥石）、石製品1点（五輪塔）が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片5点、土師器片243点、須恵器片11点、粘土塊1点も出土している。小皿・皿は主に西部と南部の2か所から集中して出土している。854・855・859～861・863・864～866・871・872・877・879・880は、西部（D2 b3～D2 c3区）の覆土中層から下層にかけてそれぞれ出土している。853・874～876・891は、西部の覆土下層から散在してそれぞれ出土している。856・857・873・878・882・883・885・888～890は、南部（E3 b2区）の覆土下層からそれぞれ出土している。867・869・886・892・893は南部の覆土下層から底面にかけて散在してそれぞれ出土している。858・894・Q383・Q384は、覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 今回の調査で堀の西半分を調査したことにより、西館の方形区西堀跡のほぼ全域が確認された。堀は一

辺が約1町(114m)で、方形に廻っており、南西コーナー部の底面は、やや深く掘り込まれていることが確認された。また、南部の土層からは、方形居館の内側からロームブロックを多く含む土が流れ込んだ状況を確認した。西部の堀底のD2b3区から確認された3基のピットは、館内の建物群の延長線上に位置しており、西の入口としての施設があり、その柱穴として掘られた可能性が考えられる。方形区画のコーナー部の内側が掘り込まれている部分は北東コーナー部でも確認されており、北東コーナー部と南西コーナー部が特別な場所として意識されていたことを推測させる。時期は、文化財調査報告第191集で、出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられており、今回の出土土器はそれを裏付けるものと考えられる。



第104図 第3号溝跡出土土器実測図(1)



第3号溝跡出土遺物実測図(2)

第3号溝跡出土遺物観察表 (第104・105図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
853	土師質土器	小皿	7.6	1.9	-	赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナテ	西部覆土下層	100% PL.37
854	土師質土器	小皿	7.9	1.8	-	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	西部覆土中層	100% PL.37
855	土師質土器	小皿	8.0	1.7	-	雲母	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	西部覆土中層	100%
856	土師質土器	小皿	7.8	1.6	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	南部覆土下層	100% PL.37
857	土師質土器	小皿	7.8	1.6	-	雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	南部覆土下層	100% PL.37
858	土師質土器	小皿	8.4	2.1	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	覆土中	100% PL.37
859	土師質土器	小皿	7.6	1.7	-	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	体部内・外面ナテ	西部覆土下層	100% PL.37
860	土師質土器	小皿	7.6	1.8	-	赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	西部覆土中層	100% PL.37
861	土師質土器	小皿	7.8	1.8	-	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	西部覆土中層	95% 石川龍之 として編入 PL.37
862	土師質土器	小皿	7.8	1.8	-	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	覆土中	95% PL.37
863	土師質土器	小皿	7.9	1.7	-	赤色粒子・白色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	西部覆土下層	95% PL.37
864	土師質土器	小皿	7.4	1.7	-	雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	西部覆土中層	95%
865	土師質土器	小皿	7.7	1.9	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	西部覆土下層	100%
866	土師質土器	小皿	8.0	1.6	-	赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	西部覆土下層	90%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
867	土師貫土器	小皿	8.1	2.1	-	赤色粒子	黄橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	南部覆土下層	90%
868	土師貫土器	小皿	7.6	1.8	-	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	覆土中	95%
869	土師貫土器	小皿	8.2	1.8	-	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナゲ	南部覆土下層	95%
870	土師貫土器	小皿	[7.9]	2.1	-	赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	覆土中	90%
871	土師貫土器	小皿	8.1	1.8	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	西部覆土下層	85%
872	土師貫土器	小皿	8.0	1.8	-	赤・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナゲ	西部覆土中層	80%
873	土師貫土器	小皿	[7.8]	1.9	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	南部覆土下層	75%
874	土師貫土器	皿	11.8	3.2	-	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	西部覆土下層	100% PL.38
875	土師貫土器	皿	12.5	3.1	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	西部覆土下層	100% PL.38
876	土師貫土器	皿	11.5	3.3	-	赤・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	西部覆土中層	95% PL.38
877	土師貫土器	皿	12.1	3.5	-	赤色粒子・白色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	西部覆土中層	100% PL.38
878	土師貫土器	皿	12.3	3.3	-	赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	南部覆土下層	100% 口縁部内外面に凹凸付者
879	土師貫土器	皿	12.6	3.5	-	石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	西部覆土下層	100%
880	土師貫土器	皿	12.8	3.5	-	赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	西部覆土下層	100%
881	土師貫土器	皿	12.5	3.2	-	赤色粒子・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	覆土中	100%
882	土師貫土器	皿	12.8	3.5	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	南部覆土下層	95%
883	土師貫土器	皿	12.6	3.0	-	石英・赤色粒子・白色粒子	黄橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	南部覆土下層	95%
884	土師貫土器	皿	12.3	3.5	-	赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	覆土中	100% 体内内外面に凹凸付者
885	土師貫土器	皿	12.6	3.3	-	赤色粒子・白色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	南部覆土下層	90%
886	土師貫土器	皿	11.8	3.5	-	赤色粒子・白色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	南部覆土下層	90% 体内内外面に凹凸付者
887	土師貫土器	皿	12.0	3.5	-	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	南部覆土中層	95%
888	土師貫土器	皿	11.9	3.3	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体内内・外面ナゲ	南部覆土下層	90% PL.38
889	土師貫土器	皿	12.1	3.3	-	長石・石英	明赤褐	普通	体内内・外面ナゲ	南部覆土下層	95% PL.38
890	土師貫土器	皿	12.3	3.4	-	石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体内内・外面ナゲ	南部覆土下層	90% PL.38
891	土師貫土器	皿	12.5	3.4	-	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	西部覆土中層	80%
892	土師貫土器	皿	12.8	3.4	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	南部覆土下層	60%
893	土師貫土器	皿	12.0	3.0	-	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナゲ 体内内・外面ナゲ	南部覆土下層	80%
894	陶器	搦鉢	-	(2.3)	-	長石	にぶい赤褐	普通	10cm 1 単位の掘り目	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q383	五輪塔	(19.9)	15.2	14.2	(5580)	花崗岩	空風輪 先端部欠損	西部覆土中層	PL.40
Q384	砥石	(12.9)	(16.2)	7.9	(2210)	花崗岩	砥面 1 面	西部覆土中層	

## (2) 掘立柱建物跡

### 第16号掘立柱建物跡 (第106～109図・付図2)

位置 調査区中央部のD3a2区で、標高18.5～18.7mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第123・125号住居跡を掘り込み、第342・345号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行9間、梁行5間の総柱建物の主屋の南妻から、東へ延びる中門廊的な施設が付属している掘立柱建物跡である。主屋は桁行7間、梁行3間の総柱の身舎に四面庇又は縁が付属した建物跡で、桁行方向をN-14°-Eとする南北棟である。庇を含めた規模は桁行18.0m (59尺)、梁行9.2m (30尺)、面積約165㎡で、身舎の規模は、桁行15.0m (49.5尺)、梁行6.4m (21尺)である。柱間寸法は身舎が2.1m (7尺)を基調とし、四面庇は1.35m (4尺5寸)を基調としている。中央部の北妻から3間目の2か所と南妻から3間目の2か所には柱穴が確認されていない。中門廊的な施設は桁行10間、梁行1間で、桁行方向をN-76°-Wとしている。規模は桁行18.4m (60尺)、梁行1.35m (4尺5寸)、面積25㎡である。柱間寸法は、2.1m (7尺)を基調とし、身舎接続部



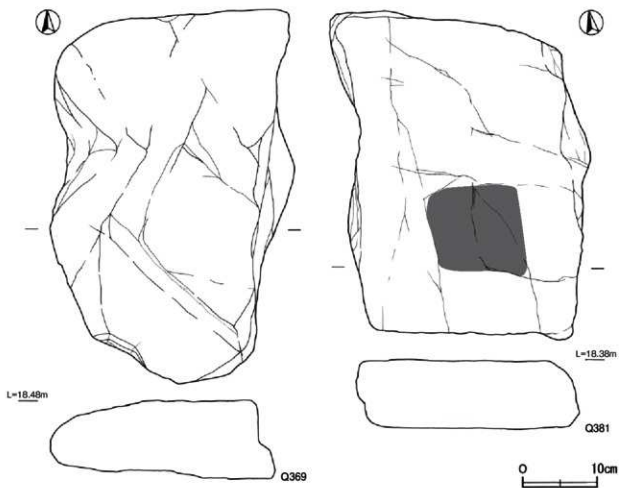
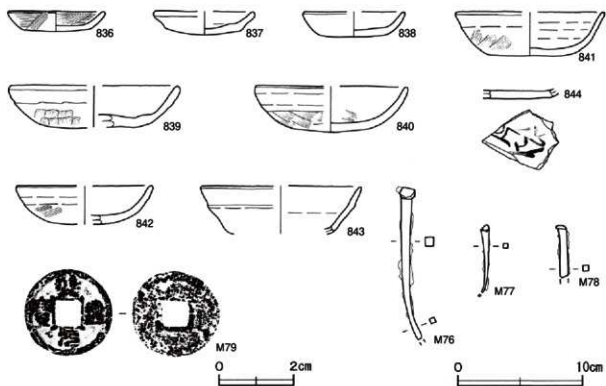
の1間が1.05m（3尺5寸）と先端の1間が1.20m（4尺）と狭くなっている。

**柱穴** 76か所。主屋の柱穴が56か所、中門廊の施設の柱穴が20か所である。主屋の柱穴の平面形は長径0.64～1.97m、短径0.61～1.24mの円形又は楕円形である。断面形はU字状や逆台形状を呈し、深さは16～68cmである。礎盤石が、P1～P4・P6・P7・P9・P10・P14・P19・P47・P53・P55・P56の14か所で確認されている。礎盤石は長さ25.6～51.7cm、幅20.8～42.9cm、厚さ8.3～17.8cmの雲母片岩が使用されている。主屋の柱痕・柱抜き取り痕は土層断面中の第1～13層が相当し、締まりが弱い。第14・19・21・22・26・39・43・46層は礎盤石の下の層で突き固められており、締まりが強い。第14～47層はローム土を主体とした埋土である。中門廊の施設の柱穴の平面形は長径0.28～0.90m、短径0.28～0.86mの円形又は楕円形である。断面形はU字状や逆台形状を呈し、深さは16～68cmである。柱痕・柱抜き取り痕は土層断面中の第48～50層が相当し、締まりが弱い。第51～53層はローム土を主体とした埋土である。

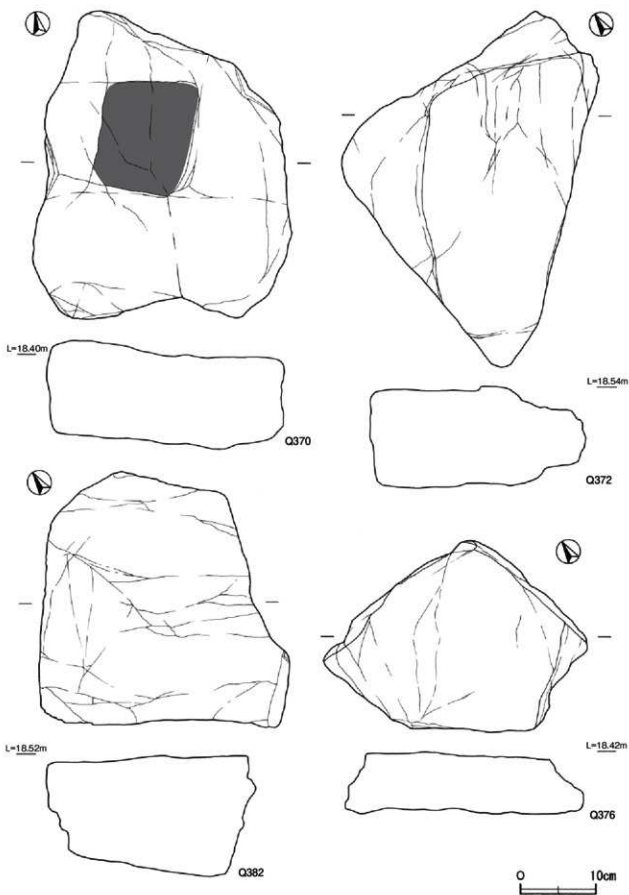
#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	締まり弱	28 柿褐色	炭化物・ローム粒子微量	
2 暗褐色	ローム粒子微量	締まり弱	29 柿褐色	ローム粒子微量	
3 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	締まり弱	30 柿褐色	ロームブロック微量	
4 黒褐色	ローム粒子微量	締まり弱	31 黒褐色	ローム粒子少量	
5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子無微量	締まり弱	32 暗褐色	ローム粒子微量	
6 柿褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	締まり弱	33 暗褐色	ロームブロック微量	
7 暗褐色	ローム粒子少量	締まり弱	34 褐色	ロームブロック少量	
8 暗褐色	ローム粒子少量	炭化粒子微量	締まり弱	35 暗褐色	ロームブロック中量
9 暗褐色	ローム粒子中量	締まり弱	36 黒褐色	炭化物・ローム粒子微量	
10 暗褐色	ロームブロック少量	炭化粒子微量	締まり弱	37 暗褐色	ローム中ブロック微量
11 暗褐色	ロームブロック少量	炭化物微量	締まり弱	38 暗褐色	ロームブロック多量
12 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	締まり弱	39 褐色	ローム粒子中量	
13 暗褐色	ロームブロック少量	締まり弱	40 暗褐色	ローム粒子中量	
14 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量	締まり強	41 柿褐色	ローム粒子少量	
15 褐色	ロームブロック中量		42 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	
16 暗褐色	ロームブロック少量		43 暗褐色	ローム粒子中量	
17 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		44 黒褐色	ロームブロック微量	
18 暗褐色	ローム小ブロック中量		45 褐色	ローム小ブロック中量	
19 暗褐色	ロームブロック少量	炭化粒子微量	締まり強	46 暗褐色	ローム粒子多量
20 暗褐色	ローム粒子少量	炭化粒子微量	締まり強	47 暗褐色	炭化物・ローム粒子少量
21 暗褐色	ローム粒子少量	締まり強	48 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	
22 暗褐色	ロームブロック微量	締まり強	49 暗褐色	ローム粒子中量	
23 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量		50 黒褐色	炭化粒子少量	
24 黒褐色	ローム粒子微量		51 褐色	ローム粒子少量	
25 黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子微量	締まり強	52 明褐色	ロームブロック多量
26 黒褐色	ロームブロック少量	締まり強	53 暗褐色	ロームブロック少量	
27 黒褐色	ローム粒子無微量				

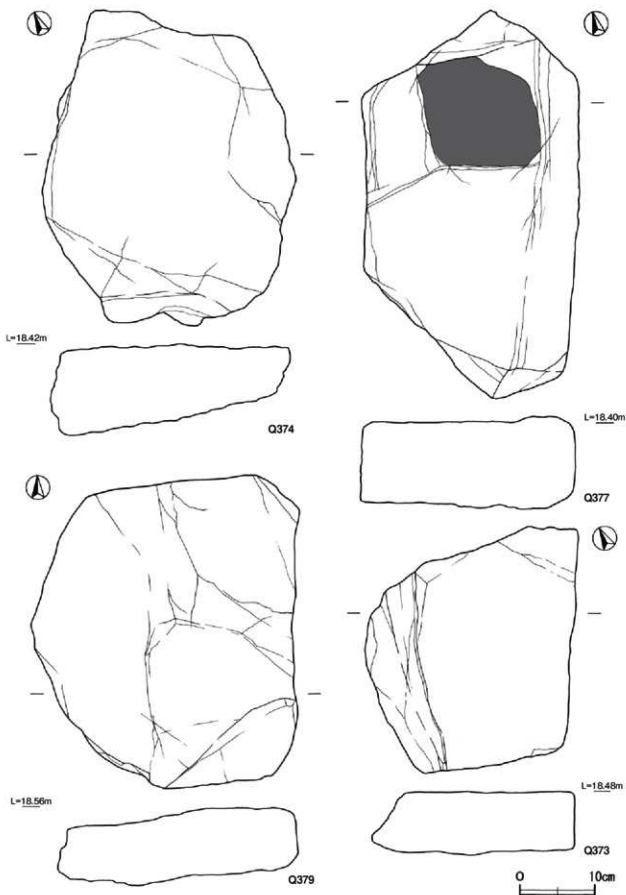
**遺物出土状況** 土師質土器片443点（小皿・皿）、礎盤石14点、鉄製品3点（釘）、古銭1点（熙寧元寶）が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片1点、土師器片226点、須恵器片5点、鉄滓1点も出土している。836・838はP18、837はP8、842はP27、843はP19、844はP1、M78はP7の柱抜き取り痕からそれぞれ出土している。M76・M77はP10の覆土中から出土している。Q369～Q382は、P1～P4・P6・P7・P9・P10・P14・P19・P47・P53・P55・P56の覆土中層から底面にかけて出土している。P2・P14・P55に据えられていた礎盤石には柱のあたりと考えられる微細な木片が残存しており、柱材は一辺約12～15cm（4寸～5寸）の角材と考えられる。礎盤石上面のレベルは、Q371が標高18.24mで、その他は標高18.36m～18.56mである。**所見** 面積が190m<sup>2</sup>で方形居館内で最大の建物であり、中門廊的な施設を持つ構造から、東を正面とする時期の主屋と考えられる。主屋中心部の柱穴が確認されていない部分は、広間であったと推定される。礎盤石として使用されている雲母片岩は雲母の含有状況や変成の度合いからつくばり平沢産と考えられ、長さや幅、厚さに規格性があり、主屋の礎盤石として使用する目的のために加工されたと考えられる。また、礎盤石は柱穴の中に高さを揃えて据えられていることから、柱材も長さを揃えて製材されて運搬されてきたことが推測される。時期は、出土土器から14世紀初頭まで機能していたと考えられる。



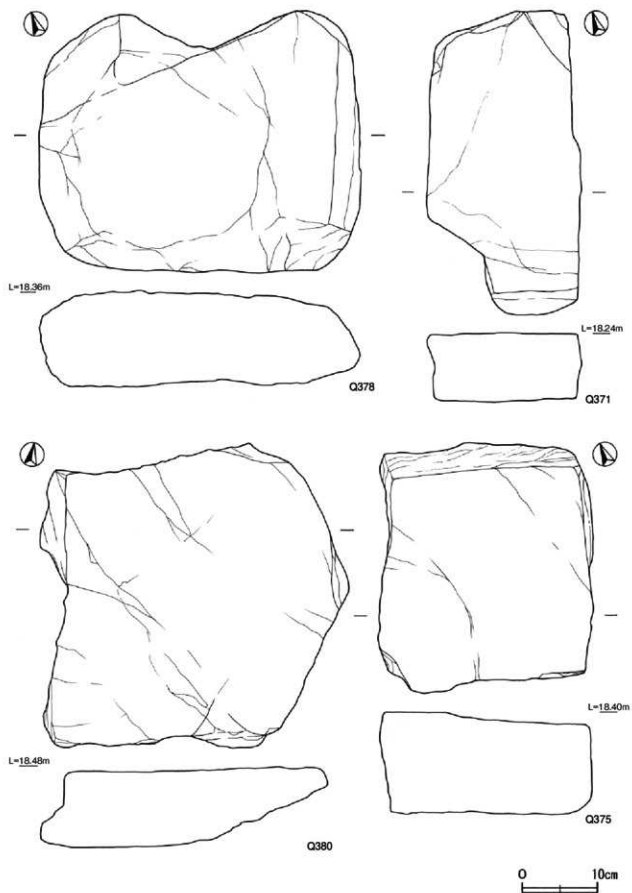
第106图 第16号掘立柱建物跡出土遺物実測図(1)



第107図 第16号掘立柱建物跡出土遺物実測図(2)



第108图 第16号独立柱建物跡出土遺物実測図(3)



第109図 第16号掘立柱建物跡出土遺物実測図(4)

第16号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第106～109図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
806	土質土器	小皿	7.6	1.6	-	雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	P 18 柱抜き取り痕	75% PL37
837	土質土器	小皿	[7.8]	1.9	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	P 8 柱抜き取り痕	30%
838	土質土器	小皿	[8.0]	2.0	-	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ	P 18 柱抜き取り痕	40%
839	土質土器	皿	[13.4]	3.3	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	P 3 覆土	25%
840	土質土器	皿	[12.0]	3.7	-	赤色粒子	にふい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	P 4 埋土	25%
841	土質土器	皿	[12.0]	3.5	-	赤色粒子	にふい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	P 7・17 柱抜き取り痕	25%
842	土質土器	皿	[10.8]	3.1	-	赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	P 27 柱抜き取り痕	30%
843	土質土器	皿	[12.8]	(3.8)	-	雲母	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	P 19 柱抜き取り痕	15%
844	土質土器	皿	-	(0.8)	-	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	体部内面ナデ	P 1 柱抜き取り痕	3% 体部内面 雲母 片断

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q369	礎盤石	50.0	32.6	10.6	28900	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 1 覆土中層	PL42
Q370	礎盤石	41.2	34.6	14.4	31800	雲母片岩	上面に柱材と考えられる彫刻が片残存 側面及び下面に加工痕	P 2 覆土中層	PL42
Q371	礎盤石	40.6	20.8	9.3	13000	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 3 底面	
Q372	礎盤石	47.7	34.2	13.6	25100	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 4 覆土中層	
Q373	礎盤石	32.9	28.5	8.4	13200	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 6 覆土中層	
Q374	礎盤石	42.0	34.0	12.1	21200	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 7 覆土中層	
Q375	礎盤石	33.4	28.9	13.8	24600	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 9 覆土中層	PL42
Q376	礎盤石	25.6	35.4	8.3	10200	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 10 覆土中層	
Q377	礎盤石	51.7	28.9	12.4	29600	雲母片岩	上面に柱材と考えられる彫刻が片残存 側面及び上・下面に加工痕	P 14 覆土中層	PL42
Q378	礎盤石	34.9	42.9	12.9	30800	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 19 覆土中層	
Q379	礎盤石	41.8	35.7	10.5	22400	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 47 覆土中層	PL42
Q380	礎盤石	40.7	41.4	10.7	26900	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 53 覆土中層	
Q381	礎盤石	43.9	35.0	9.5	27300	雲母片岩	上面に柱材と考えられる彫刻が片残存 側面及び上・下面に加工痕	P 55 底面	
Q382	礎盤石	34.2	33.2	17.8	25600	雲母片岩	側面及び上・下面に加工痕	P 56 底面	PL42
M76	釘	(12.2)	1.2	0.7	(31.8)	鉄	脚部先端欠損 頭部は打撃によってやや潰れている	P 10 覆土中	PL39
M77	釘	(5.4)	0.7	0.4	(3.36)	鉄	脚部先端欠損 頭部は打撃によってやや潰れている	P 10 覆土中	PL39
M78	釘	(4.2)	0.9	0.5	(5.43)	鉄	脚部先端欠損 頭部は打撃によってやや潰れている	P 7 柱抜き取り痕	PL39

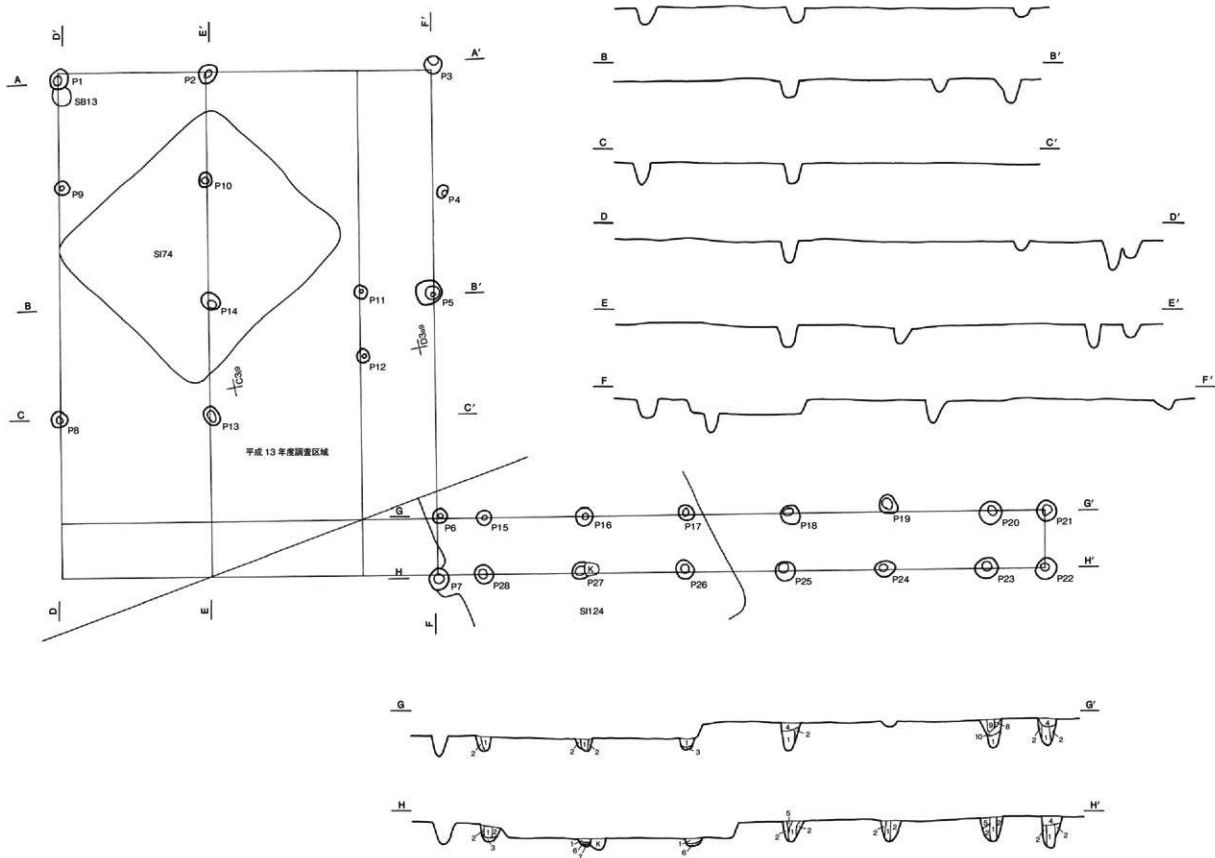
番号	銭種	径	孔	厚さ	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M79	熙寧元寶	2.3	0.7	0.14	2.56	1068年	銅	北宋銭 篆書 無背銭	P 17 柱抜き取り痕	PL39

## 第17号掘立柱建物跡 (第110・111図)

位置 調査区中央部のD3a7区で、標高18.8～18.9mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第74・124号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 平成13年度調査区の境界があり、一部確認されていない部分があるが、桁行5間、梁行3間の総柱建物の主屋の西側に、中門廊的施設が付属した建物跡である。主屋は桁行5間、梁行2間の身舎の南に庇又は縁が付属した建物跡で、桁行方向をN-78°-Wとする東西棟と考えられる。庇を含めた規模は桁行10.5m (35尺)、梁行8.0m (27尺)で、身舎の規模は、桁行10.5m (35尺)、梁行6.0m (20尺)、である。柱間寸法は身舎の桁行が2.1m (7尺)、庇は1.65m (5尺5寸)を基調としているが、柱筋の通りがやや不揃いである。中門廊的施設は桁行7間、梁行1間で、桁行方向をN-12°-Eとしている。規模は桁行12.9m (42尺5寸)、梁行1.2m (4尺)である。柱間寸法は桁行2.1m (7尺)を基調としているが、主屋接続部の1間は0.9m (3尺)、南表側



第110図 第17号掘立柱建物跡実測図

0 4m

の1間は1.2m（4尺）と両端部が狭くなっている。

**柱穴** 28か所。平面形は長径0.48～0.54m、短径0.24～0.30mの円形又は楕円形である。断面形はU字状を呈し、深さは21～72cmである。柱痕・柱抜き取り痕は土層断面中の第1・4層が相当し、締まりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土である。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック微量
2 暗褐色	ロームブロック微量	7 褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック少量	8 暗褐色	ローム粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック中量	9 褐色	ロームブロック少量
5 褐色	ローム粒子中量	10 暗褐色	ローム粒子中量

**遺物出土状況** 土師質土器片42点（小皿・皿）が出土している。また、流れ込んだ土師器片6点も出土している。845はP9、846はP11、847はP10、848はP7の柱抜き取り痕からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡は、第16号掘立柱建物跡の中門廊の施設と構造上の共通点が多く、南を正面とする時期の主屋と考えられる。中門廊の施設の規模は第16号掘立柱建物跡の約3分の2である。時期は、出土土器から14世紀前葉まで機能していたと考えられる。



第111図 第17号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第17号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第111図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
845	土師質土器	小皿	[8.2]	(2.0)	-	雲母・砂粒	橙	普通	体部内・外面ナデ	P9柱抜き取り痕	20%
846	土師質土器	小皿	[8.2]	2.8	-	砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	P11柱抜き取り痕	20%
847	土師質土器	小皿	[7.8]	1.8	-	砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	P10柱抜き取り痕	30%
848	土師質土器	小皿	[7.8]	(1.5)	-	砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	P7柱抜き取り痕	10%

第20号掘立柱建物跡（第112・113図）

**位置** 調査区中央部のD3区で、標高186～188mの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第22・23号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模と構造** 桁行5間、梁行4間の側柱建物の身舎の南北に庇が付属した建物跡で、桁行方向をN-76°-Wとする東西棟である。庇を含めた規模は桁行7.8m（26尺）、梁行6.7m（22尺）で、身舎の規模は桁行7.8m（26尺）、梁行4.3m（14尺）である。柱間寸法は桁行が1.8m（6尺）を基調とし、梁行は1.05m（3尺5寸）を基調としている。

**柱穴** 29か所。平面形は長径0.26～0.88m、短径0.22～0.78mの円形又は楕円形である。断面形はU字状を呈し、深さは12～66cmである。柱抜き取り痕は土層断面中の第3・7・12・14・15層が相当し、締まりが弱い。第19・22層は柱のあたりで締まりが強い。その他の層はローム土を主体とした埋土である。

**土層解説**

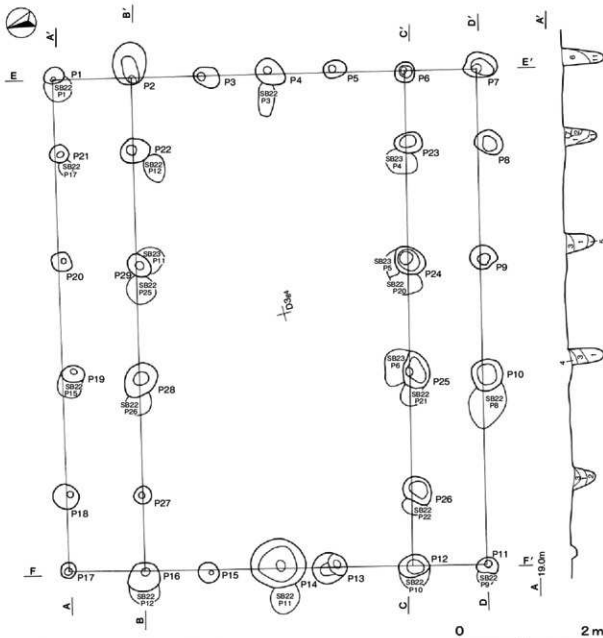
1 暗褐色	ローム粒子中量	3 暗褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ロームブロック少量	4 暗褐色	ローム粒子微量 締まり強



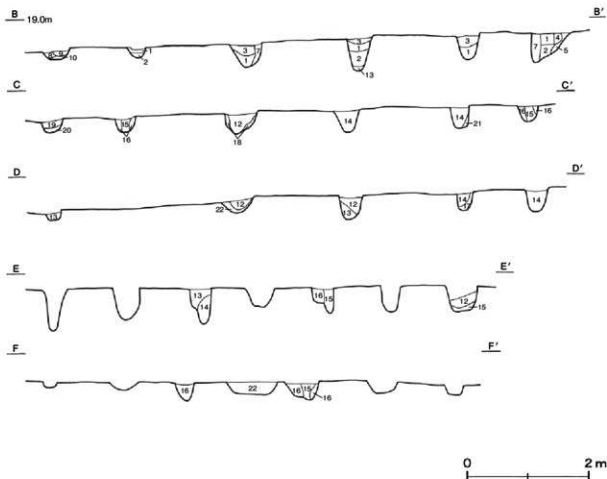
- |        |                |      |         |                  |
|--------|----------------|------|---------|------------------|
| 5 褐色   | ローム粒子中量        | 締まり強 | 14 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量   |
| 6 暗褐色  | ロームブロック極微量     |      | 15 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 7 暗褐色  | ローム粒子中量        |      | 16 極暗褐色 | ロームブロック少量        |
| 8 暗褐色  | ローム粒子微量        | 締まり強 | 17 暗褐色  | ローム粒子少量          |
| 9 暗褐色  | ローム粒子中量        | 締まり強 | 18 褐色   | ローム粒子中量          |
| 10 褐色  | ローム粒子少量        | 締まり強 | 19 黒褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 11 暗褐色 | ロームブロック中量      | 締まり強 | 20 暗褐色  | ローム粒子中量、締まり強     |
| 12 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 締まり強 | 21 褐色   | ローム粒子多量          |
| 13 暗褐色 | ロームブロック少量      |      | 22 暗褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師質土器片30点(小皿・皿)が出土している。また、流れ込んだ土師器片14点も出土している。出土土器は細片のため、図示できない。

**所見** 重複関係から、第23号掘立柱建物跡の規模を大きくして第22号掘立柱建物跡への建て替えを行い、さらに、ほぼ同じ規模と構造で本建物への建て替えが行われたと考えられる。本建物の北側に第16号掘立柱建物跡の南妻が接しており、上屋構造では繋がっていた建物と考えられる。時期は、重複関係及び出土土器から14世紀前葉まで機能していたと考えられる。



第112図 第20号掘立柱建物跡実測図(1)



第113図 第20号掘立柱建物跡実測図2)

## 第21号掘立柱建物跡 (第114・115図)

位置 調査区中央部のC3h2区で、標高188～189mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第9号ピット群P11に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の個柱建物の身舎に四面庇又は縁が付属した建物跡で、桁行方向をN-77°-Wとする東西棟である。庇を含めた規模は桁行7.2m (24尺)、梁行5.5m (18尺)で、身舎の規模は、桁行4.9m (16尺)、梁行3.4m (11尺)である。柱間寸法は身舎が1.65m (5尺5寸)を基調とし、四面庇は1.05m (3尺5寸)を基調としている。

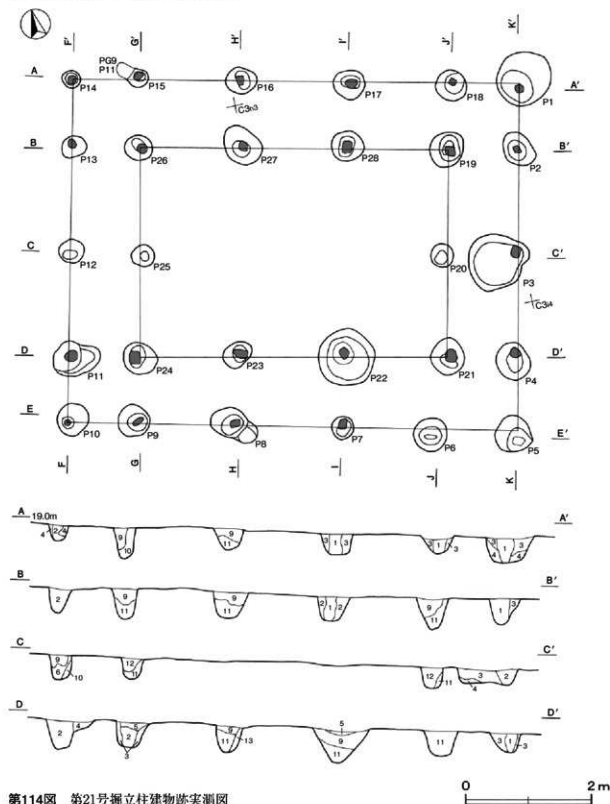
柱穴 28か所。平面形は長径0.30～0.90m、短径0.28～0.88mの円形又は楕円形である。断面形はU字状又は逆台形状を呈し、深さは28～50cmである。柱材は、確認された柱のあたりから一辺10～15cmの角材と考えられる。柱抜き取り痕は土層断面中の第1・2・6・8・9層が相当し、締まりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土である。柱穴の大きさにばらつきが見られるのは、柱を抜き取る時に広げられたものと考えられる。

## 土層解説

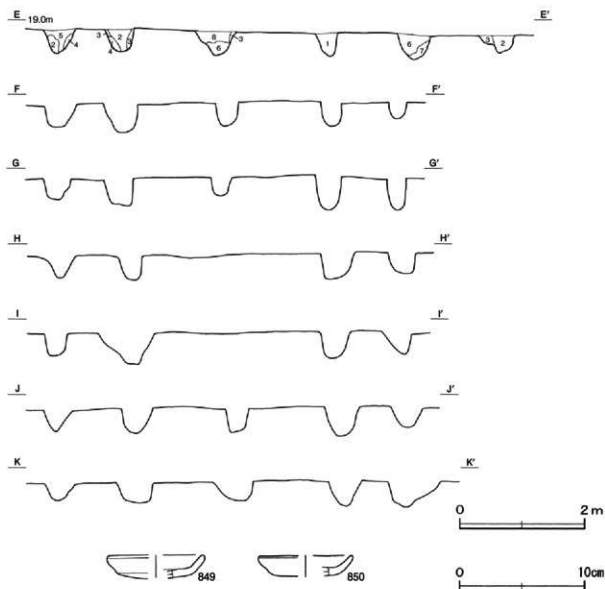
1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 褐色	ローム粒子中量
2 灰褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック少量	10 暗褐色	ローム粒子少量
4 褐色	ローム粒子多量	11 褐色	ローム粒子少量
5 暗褐色	ロームブロック少量	12 に近い褐色	ロームブロック中量
6 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	13 黒褐色	ロームブロック微量
7 褐色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 土師質土器片19点(小皿・皿)が出土している。また、流れ込んだ土師器片23点も出土している。849・850はP1の柱抜き取り痕から出土している。

所見 本建物の南約6mに主屋と考えられる第16号掘立柱建物跡が位置している。本建物の身舎の西妻と第16号掘立柱建物跡の身舎の西平は柱筋を揃えており、関連性のある建物と考えられる。時期は、出土土器から14世紀初頭まで機能していたと考えられる。



第114図 第21号掘立柱建物跡実測図



第115図 第21号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第21号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第115図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
849	土師質土器	小皿	[7.6]	1.8	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体内内・外面ナデ	P 1 柱抜き取り痕	20%
850	土師質土器	小皿	[7.4]	1.6	-	砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体内内・外面ナデ	P 1 柱抜き取り痕	15%

## 第22号掘立柱建物跡（第116～118図）

位置 調査区中央部のD3区で、標高18.6～18.8mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第23号掘立柱建物跡を掘り込み、第20号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行5間、梁行2間の個柱建物の身舎に二面庇が付属した建物跡で、桁行方向をN-77°-Wとする東西棟である。庇を含めた規模は桁行7.8m（26尺）、梁行6.7m（22尺）で、身舎の規模は、桁行7.8m（26尺）、梁行4.3m（14尺）である。柱間寸法は桁行が1.8m（6尺）を基調とし、梁行は1.05m（3尺5寸）を基調とし

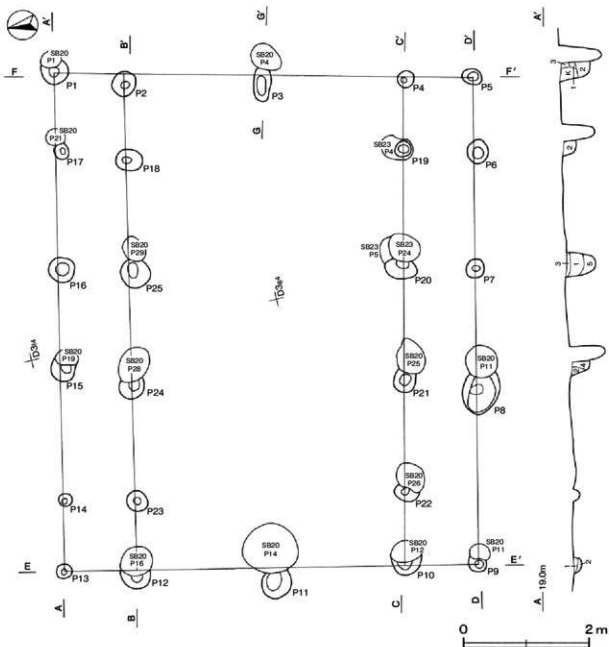
ている。

**柱穴** 25か所。平面形は長径0.26～0.88m、短径0.22～0.78mの円形又は楕円形である。断面形はU字状又は逆台形状を呈し、深さは12～66cmである。柱抜き取り痕は土層断面中の第3・8・9層が相当し、締まりが弱い。

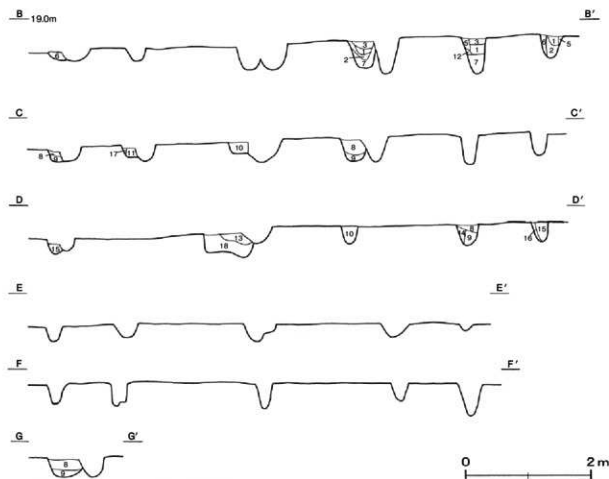
第18層は柱のあたりが確認された層で締まりが強い。その他の層はローム土を主体とした埋土である。

**土層解説**

- |                      |                              |
|----------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量 締まり強   | 10 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量        |
| 2 褐色 ロームブロック少量       | 11 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子微量        |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量        | 12 黒褐色 ロームブロック中量 炭化粒子微量      |
| 4 暗褐色 ロームブロック微量      | 13 暗褐色 ロームブロック中量             |
| 5 褐色 ローム粒子中量 締まり強    | 14 褐色 ロームブロック中量              |
| 6 褐色 ローム粒子少量 締まり強    | 15 極暗褐色 ロームブロック微量            |
| 7 暗褐色 ロームブロック中量 締まり強 | 16 暗褐色 ローム粒子少量               |
| 8 黒褐色 ロームブロック微量      | 17 暗褐色 ローム粒子中量               |
| 9 暗褐色 ロームブロック少量      | 18 黒褐色 ロームブロック少量 炭化粒子微量 締まり強 |



第116図 第22号掘立柱建物跡実測図(1)



第117図 第22号掘立柱建物跡実測図(2)

**遺物出土状況** 土師質土器片30点(小皿・皿), 陶器1点(壺)が出土している。また、流れ込んだ土師器片14点も出土している。851・852はP19の柱抜き取り痕から出土している。

**所見** 重複関係から、第23号掘立柱建物の規模を大きくして本建物への建て替えを行い、ほぼ同じ規模と構造で第20号掘立柱建物への建て替えが行われたと推測される。本建物の北側に第16号掘立柱建物跡の南妻が接しており、上屋構造では繋がっていた建物と考えられる。時期は、重複関係及び出土土器から13世紀後半まで機能していたと考えられる。



第118図 第22号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第22号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第118図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
851	土師質土器	小皿	[7.6]	(1.4)	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	P19柱抜き取り痕	10%
852	陶器	玉縁口壺	[14.0]	(2.1)	-	長石・石英	にぶい赤褐	良好	ロクロナテ	P19柱抜き取り痕	5% 壺型b型式

第23号掘立柱建物跡 (第119図)

位置 調査区中央部のD3区で、標高186～188mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第372号土坑を掘り込み、第20・22号掘立柱建物に掘り込まれている。

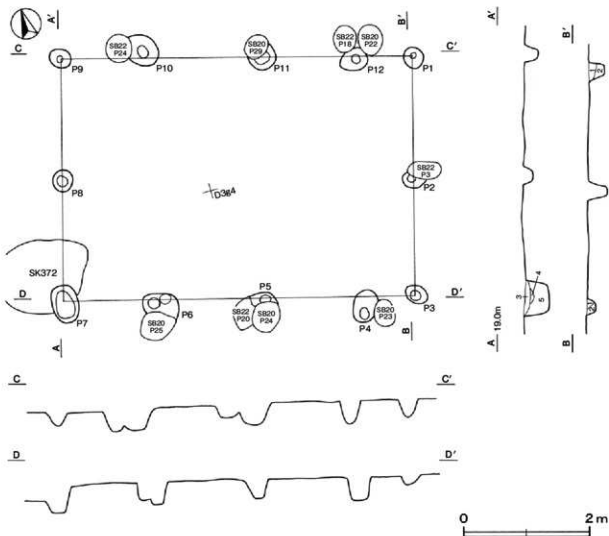
規模と構造 桁行4間、梁行2間の竪柱建物で、桁行方向をN-76°-Wとする東西棟である。規模は桁行5.6m(18.5尺)、梁行3.8m(12.5尺)である。柱間寸法は桁行が1.5m(5尺)を基調とし、梁行は1.8m(6尺)を基調としている。

柱穴 12か所。平面形は長径0.34～0.61m、短径0.28～0.48mの円形又は楕円形である。断面形はU字状又は逆台形状を呈し、深さは15～42cmである。柱抜き取り痕は土層断面中の第3層が相当し、締まりが弱い。その他の層はローム土を主体とした埋土である。

土層解説

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量 締まり強 | 4 暗褐色 ローム粒子微量 締まり強 |
| 2 褐色 ロームブロック少量     | 5 暗褐色 ロームブロック微量    |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量      |                    |

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)が出土している。また、流れ込んだ土師器片1点も出土している。出土土器は細片のため、図示できない。



第119図 第23号掘立柱建物跡実測図

所見 重複関係から、同じ場所で本建物の規模を大きくして第22号掘立柱建物への建て替えを行い、さらに、ほぼ同じ規模と構造で第20号掘立柱建物への建て替えが行われたと考えられる。本建物の北約2mに主屋と考えられる第16号掘立柱建物跡が位置し、ほぼ軸方向を描いている。時期は、重複関係から13世紀後葉まで機能していたと考えられる。

表6 中世掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 (桁×梁)	規模 (m)	面積 (㎡)	構造	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱穴平面型	深さ (cm)	主な出土遺物	時期	備考 ※初期遺構(旧→新)
16	D3a2	N-14°-E	7×3 (9×5)	15.01×6.42 (17.94×9.16)	96.36 (164.33)	総柱 (四面庇)	1.35~ 2.50	1.30~ 2.16	円形、楕円形	16~68	土師瓦土器(小皿・皿・古瓦 壺蓋石・土・古瓦筒型瓦)	13世紀後葉~ 14世紀初期	SI123-125→本跡 →SK362-365
17	D3a7	N-78°-W	5×2 (5×3)	10.50×6.00 (10.50×8.00)	63.00 (84.00)	総柱 (南庇)	0.74~ 3.80	0.80	円形、楕円形	21~72	土師瓦土器(小皿・皿)	14世紀前葉	SI74-124→本跡
20	D3b1	N-76°-W	3×4 (5×6)	7.80×4.31 (7.80×6.70)	33.62 (52.26)	欄柱 (北・南庇)	1.15~ 3.00	0.88~ 1.21	円形、楕円形	12~66	土師瓦土器(小皿・皿)	14世紀前葉	SI22-23→本跡
21	C3k2	N-77°-W	3×2 (5×4)	4.90×3.35 (7.15×3.50)	16.42 (24.93)	欄柱 (西面庇)	1.05~ 1.75	1.05~ 1.65	円形、楕円形	28~50	土師瓦土器(小皿・皿)	14世紀前葉	4跡→PC9 P11
22	D3b1	N-77°-W	3×2 (5×4)	7.80×4.30 (7.80×6.70)	33.54 (52.20)	欄柱 (北・南庇)	1.13~ 1.75	1.05~ 2.25	円形、楕円形	12~66	土師瓦土器(小皿・皿) 陶器(壺)	13世紀後葉	SI22→本跡 →SK29
23	D3c1	N-76°-W	4×2	5.60×3.84	21.50	欄柱	0.81~ 1.95	1.80~ 1.95	円形、楕円形	15~42	土師瓦土器(小皿)	13世紀後葉	SK372→本跡 →SK30-32

## (3) 欄跡

## 第2号欄跡(第120図)

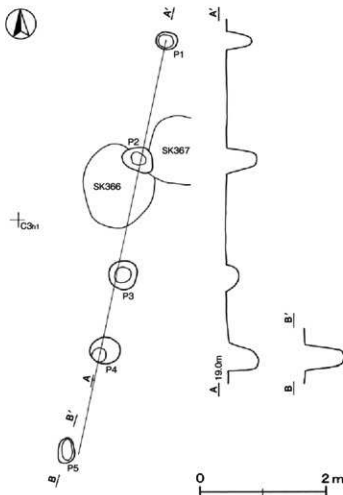
位置 調査区中央部のC3g1区で、標高18.7~18.9mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第366・367号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 長さ6.6mで、列方向はN-13°-Eである。柱間寸法は1.8m(6尺)を基調としている。

柱穴 5か所。径0.38~0.48mの円形である。深さは20~61cmで、断面形はU字状である。土層は暗褐色土で締まりが弱く、すべて抜き取り痕と考えられる。

所見 本跡の東約3.3mに軸方向を描える第21号掘立柱建物跡が位置しており、区間の機能を持っていたと推測される。時期は、周囲の遺構との関連から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第120図 第2号欄跡実測図



(4) 溝跡

第52号溝跡 (第121・122図)

**位置** 調査区東部のC4c0区～D4c9区で、標高18.0～18.5mの台地緩斜面部に位置している。本跡は北部が平成14年度の調査区域にまたがっている。

**重複関係** 第84・106号住居跡、第54号溝跡、第404号土坑を掘り込み、第36号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** D4c9区から北方向(N-12°-E)にはほぼ直線的に延び、C4c0区で平成14年度調査区域に至っている。規模は確認した長さが41.4mで、上幅1.04m、下幅0.22m、深さ28cmである。底面は平坦で、断面形がU字状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 3層からなる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黒褐色 ロームブロック微量

3 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ローム粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片36点(小皿・皿)、縄文土器片1点、土師器片96点、須恵器片1点、石製模造品1点が出土している。896・900は中央部の覆土中層、899は南部の覆土中層、895・897・901は覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡は第54号溝跡を掘り込みながら、同規模ではほぼ平行して延びていることから、掘り直された溝と考えられる。重複関係や遺構の様相から方形居館廃絶後の区画溝と推定される。時期は、重複関係及び出土土器から14世紀後半以降と考えられる。

第54号溝跡 (第121・123図)

**位置** 調査区東部のC4c0区～D4c9区で、標高18.0～18.5mの台地緩斜面部に位置している。本跡は北部が平成14年度の調査区域にまたがっている。

**重複関係** 第84・106号住居跡を掘り込み、第36・52号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** D4c9区から北方向(N-12°-E)にはほぼ直線的に延びている。C4c0区で平成14年度調査区域に至っている。規模は長さが41.4mで、上幅0.68m、下幅0.22m、深さ53cmである。形状は断面形がU字状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 3層からなる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

**土層解説**

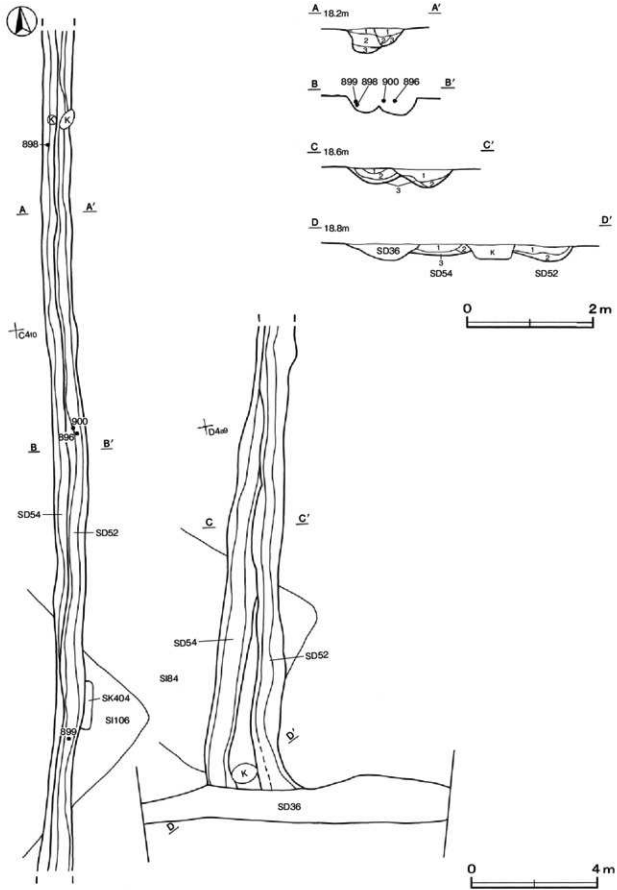
1 褐色 ローム粒子中量

3 褐色 ローム粒子中量

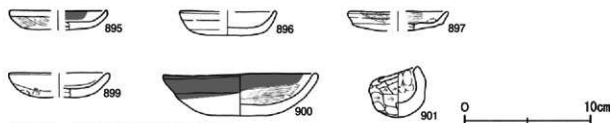
2 褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師質土器片2点(小皿・皿)が出土している。898は北部の覆土中層から出土している。

**所見** 本跡はほぼ同じ規模で平行して延びる第52号溝に掘り込まれており、掘り直しが行われた区画溝と考えられる。廃絶時期は、出土土器から14世紀後半以降と考えられる。



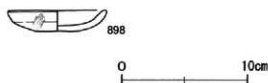
第121図 第52・54号溝跡実測図



第122図 第52号溝跡出土遺物実測図

第52号溝跡出土遺物観察表 (第122図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
895	土師質土器	小皿	[7.6]	1.5	-	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土中	80% 内面煤付着
896	土師質土器	小皿	[7.6]	1.9	-	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	中央部覆土中層	30%
897	土師質土器	小皿	[8.0]	1.5	-	黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	30%
899	土師質土器	小皿	[8.0]	1.9	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	南部覆土中層	45%
900	土師質土器	皿	12.2	3.4	-	赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	中央部覆土中層	80% 内・外面煤付着 PL.38
901	土師器	にがやうい	3.5	4.1	-	灰石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中	90% PL.36



第123図 第54号溝跡出土遺物実測図

第54号溝跡出土遺物観察表 (第123図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
898	土師質土器	小皿	7.6	1.5	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	北部覆土中層	50%

### 第58号溝跡 (第124・125図)

**位置** 調査区西部のC2e1～E3b3区で、標高18.3～18.5mの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第3・71号溝跡を掘り込み、第56・60・61・67号溝、第310号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** E3b3区から北西方向(N-37°-W)にほぼ直線的に伸び、C2e1区で調査区域外に至っている。

**規模**は確認できた長さが82.7mで、上幅0.86～1.52m、下幅0.44～0.78m、深さ48～104cmである。形状は断面形が逆台形を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 3層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

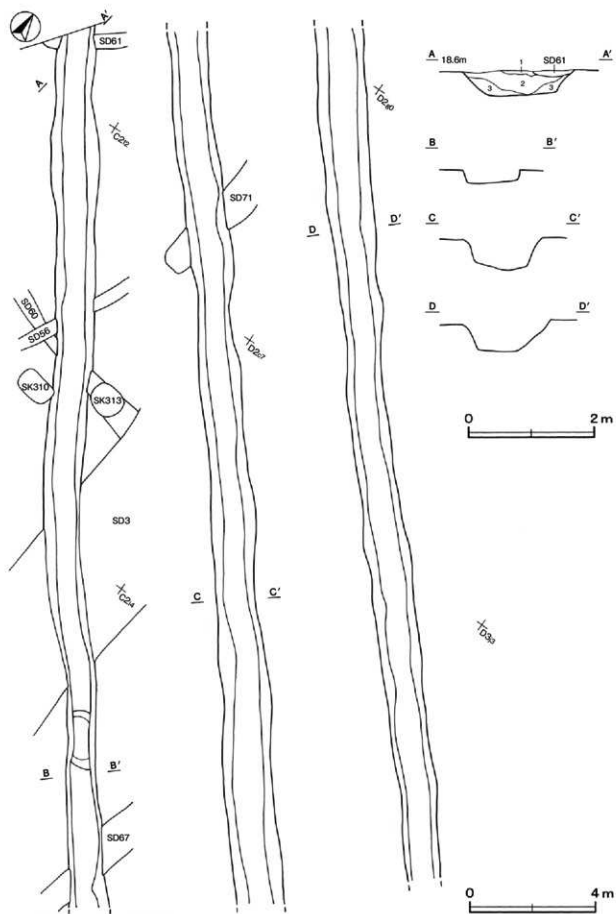
#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

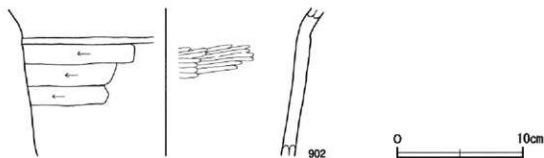
- 3 褐色 ロームブロック多量

**遺物出土状況** 土師質土器片4点(小皿・皿)、縄文土器片3点、土師器片327点、須恵器片8点、鉄滓1点が出土している。902は覆土中から出土しており、流れ込んだものと考えられる。

**所見** 重複関係や道槽の様相から方形居館廃絶後の区画溝と考えられる。時期は、重複関係から中世後半と考えられる。



第124図 第58号溝跡実測図



第125図 第58号溝跡出土遺物実測図

第58号溝跡出土遺物観察表 (第125図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
902	土師器	瓶	-	(11.7)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中	5%

第69号溝跡 (第126図・付図1)

位置 調査区西部のC2g6～E3b4区で、標高185～187mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 71号溝跡、第350・351・354号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 E3b4区から北西方向(N-28°-W)にはほぼ直線的に延び、C2g6区に至っている。規模は確認できた長さ65.6mで、上幅1.10m、下幅0.48m、深さ30cmである。断面形はU字状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

- 3 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片14点(小皿・皿)、縄文土器片2点、土師器片53点、須恵器片1点、細礫3点が混在して出土している。905・906は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 重複関係や遺構の様相から方形居館廃絶後の区画溝と考えられる。時期は、重複関係及び出土土器から14世紀後半以降と考えられる。



第126図 第69号溝跡・出土遺物実測図

第69号溝跡出土遺物観察表 (第126図)

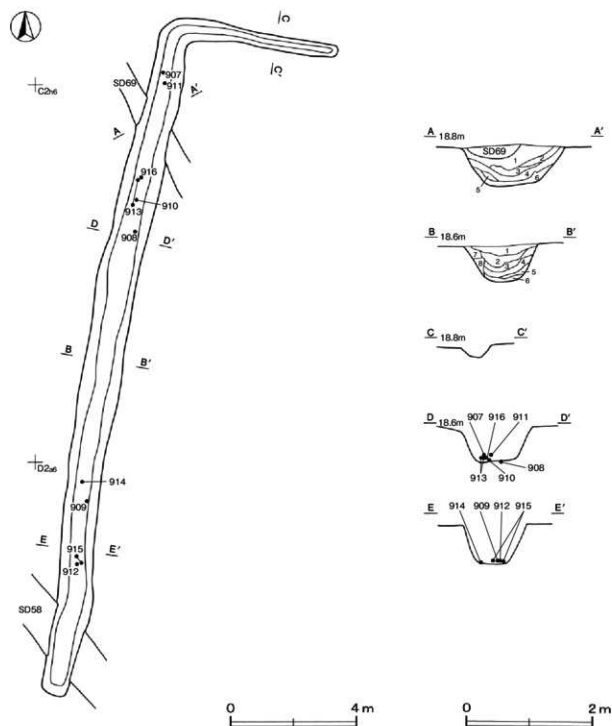
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
905	土師質土器	小皿	[7.8]	(1.8)	-	雲母・赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土中	15%
906	土師質土器	皿	[12.6]	3.3	-	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土中	30%

## 第71号溝跡 (第127・128図)

位置 調査区西部のC2g7～D2b6区で、標高18.4～18.5mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第58・69号溝に掘り込まれている。

規模と形状 D2b6区から北方向(N-12°-E)にはほぼ直線的に伸び、C2g6区で東方向にはほぼ直角に屈曲してC2g7区に至っている。規模は長さが26.7mで、上幅1.14m、下幅0.64m、深さ53cmである。断面形は逆台形状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。



第127図 第71号溝跡実測図

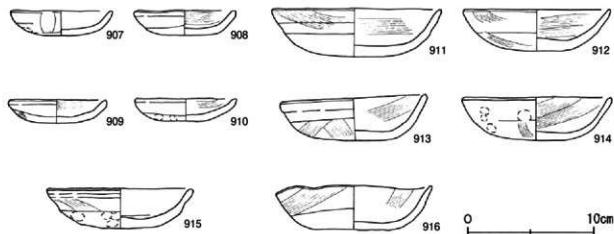
覆土 8層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量	5 暗褐色 ローム粒子少量
2 黒褐色 ローム粒子微量	6 褐色 ローム粒子中量
3 黒褐色 ロームブロック微量	7 暗褐色 ロームブロック微量
4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	8 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片36点（小皿・皿）、縄文土器片1点、土師器片96点、須恵器片1点、石製模造品1点が混在して出土している。907・908・910・911・913・916は北部の覆土下層から底面にかけてそれぞれ出土している。909・912・914・915は南部の覆土下層から底面にかけてそれぞれ出土している。

所見 本跡は方形居館内の掘立柱建物群と方向を揃えており、南に位置する第74号溝とともに建物群と堀の間を区画する機能を持っていたと推測される。2条の溝の間は約18m幅の通路になっていたと推測される。廃絶時期は、出土土器及び東に位置する建物群との関連から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第128図 第71号溝跡出土遺物実測図

第71号溝跡出土遺物観察表（第128図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
907	土師質土器	小皿	8.0	2.0	-	砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	北部覆土下層	100% PL37
908	土師質土器	小皿	7.9	2.0	-	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	北部底面	95%
909	土師質土器	小皿	7.6	1.9	-	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	南部覆土下層	90%
910	土師質土器	小皿	7.9	1.8	-	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	北部底面	60%
911	土師質土器	皿	13.3	3.8	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	北部覆土下層	100% PL38
912	土師質土器	皿	11.5	3.3	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	南部覆土下層	100%
913	土師質土器	皿	11.5	3.4	-	白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	北部覆土下層	95%
914	土師質土器	皿	11.6	3.5	-	赤色粒子・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	南部底面	95%
915	土師質土器	皿	11.4	3.1	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	南部覆土下層	95%
916	土師質土器	皿	12.3	3.5	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	北部覆土下層	90%

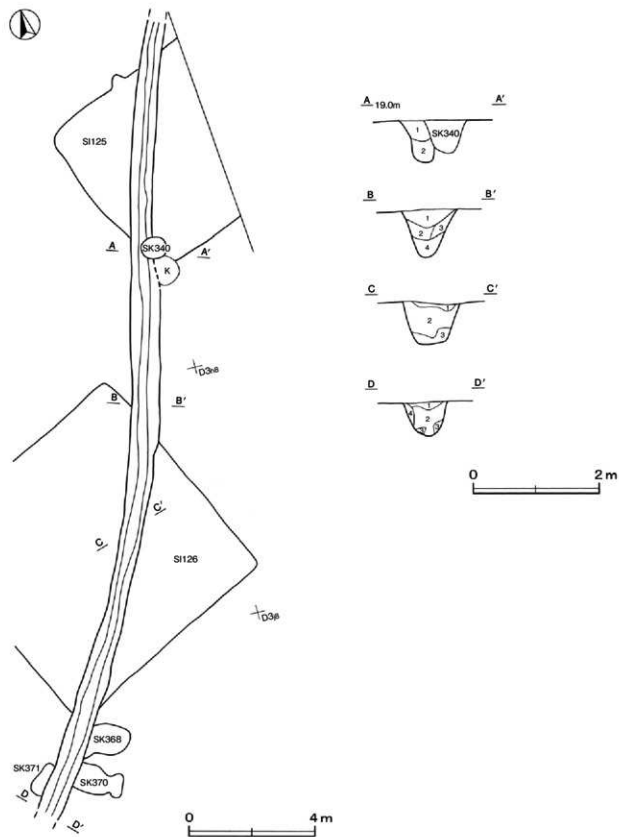
第72号溝跡（第129図）

位置 調査区中央部のD3e8～E3a5区で、標高187～189mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第125・126号住居跡、第368・370・371号土坑を掘り込み、第340号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 E3a5区から北東方向（N-22°-E）にはほぼ直線的に延びている。規模は確認できた長さが

26.8mで、上幅0.60～0.96m、下幅0.18～0.34m、深さ54～76cmである。形状は断面形がU字状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。



第129図 第72号溝跡実測図



**覆土** 4層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1 褐色 ロームブロック少量  | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 褐色 ロームブロック多量 |

**遺物出土状況** 土師質土器片18点（小皿・皿）、陶器片1点、土師器18点、石製品2点、鉄滓1点が出土している。出土遺物は細片のため、図示できない。

**所見** 本跡は方形居館の南の入口である第2号土橋跡付近から北に延びており、重複関係及び遺構の様相から第36号溝とともに、館が廃絶した後に成立した墓域を方形に区画した溝と考えられる。時期は、重複関係から14世紀後半以降と考えられる。

**第74号溝跡（第130図）**

**位置** 調査区西部のD2c5～D2d5区で、標高182～183mの台地緩斜面部に位置している。

**規模と形状** D2d5区から北方向（N-6°-E）にはほぼ直線的に延びている。規模は確認できた長さが6.6mで、上幅1.01m、下幅0.57m、深さ25cmである。断面形はU字状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

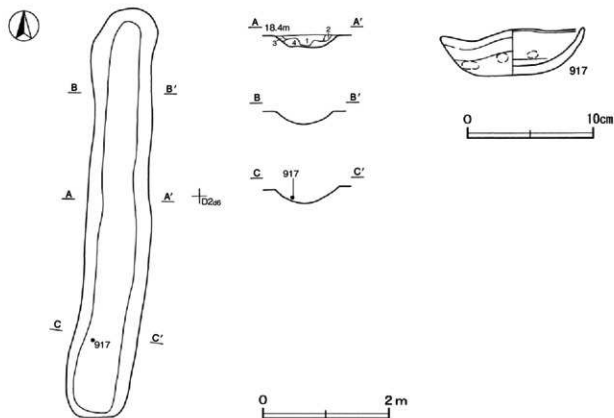
**覆土** 4層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量      | 4 褐色 ロームブロック中量 |

**遺物出土状況** 土師質土器片1点（皿）が出土している。917は南部の覆土下層から出土している。

**所見** 本跡は、北に位置する第71号溝とともに建物群と堀の間を区画する機能を持っていたと推測される。2



第130図 第74号溝跡・出土遺物実測図

条の溝の間は約1.8m幅の通路になっていたと推測される。廃絶時期は、出土土器及び東に位置する建物群との関連から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第74号溝跡出土遺物観察表 (第130図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
917	土師質土器	皿	11.4	3.6	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部傾ナデ 体部内・外面ナデ	南部覆土下層	80%

表7 中世溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模 (m)			断面形	覆土	出土遺物	備考	
				長さ	上幅	下幅					
52	C4e0-D4e9	N-12°-E	直線状	41.4	1.04	0.22	28	U字状	人瓦	土師質土器片, 土師器片	SI84-106, SD54, SK404→本跡→SD06
54	C4c0-D4c9	N-12°-E	直線状	41.4	0.68	0.22	53	U字状	人瓦	土師質土器片	SI84-106→本跡→SD36-52
58	C2e1-E3b3	N-37°-W	直線状	82.7	$\frac{0.86}{1.52}$	$\frac{0.41}{0.78}$	48-104	逆台形	人瓦	土師質土器片	SD3-71→本跡→SD86-60-61-67, SK310
69	C2g6-E3b4	N-28°-W	直線状	65.6	1.10	0.48	30	U字状	人瓦	土師質土器片, 土師器片	SD71, SK350-351-354→本跡
71	C2g7-D2b6	$\frac{N-12°-E}{N-89°-W}$	L字状	26.7	1.14	0.64	53	逆台形	人瓦	土師質土器片, 土師器片	本跡→SD68-69
72	D3e8-E3a5	N-22°-E	直線状	26.8	$\frac{0.60}{0.96}$	$\frac{0.18}{0.34}$	54-76	U字状	人瓦	土師質土器片, 陶器片	SI25-128, SK308-370-371→本跡→SK310
74	D2c5-D2d5	N-6°-E	直線状	6.6	1.01	0.57	25	U字状	人瓦	土師質土器片	

## (5) 土坑

## 第336号土坑 (第131・132図)

位置 調査区中央部のC3e4区で、標高18.8mの台地平坦部に位置している。

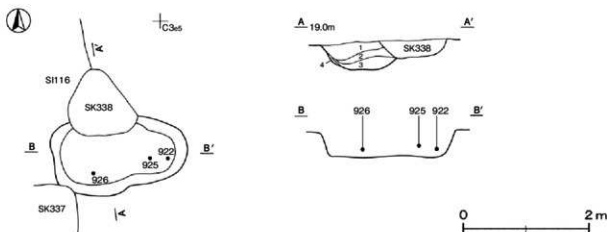
重複関係 第116号住居跡を掘り込み、第337・338号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径21.8m、短径1.10mの楕円形で、長径方向はN-89°-Eである。深さは43cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

## 土層解説

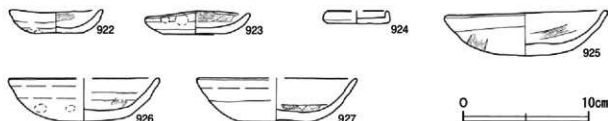
- |       |                   |       |           |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色  | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 4 褐色  | ロームブロック中量 |



第131図 第336号土坑実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片62点（小皿・皿）、炭化物が出土している。また、流れ込んだ土師器片20点も出土している。922・925は東部の覆土下層、926は中央部の覆土下層、923・924・927は覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 第21号掘立建物跡の北約10mに位置しており、同時期の土器が出土していることから関連性が考えられる。時期は、出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第132図 第336号土坑出土遺物実測図

第336号土坑出土遺物観察表（第132図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
922	土師質土器	小皿	7.5	1.9	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	東部覆土下層	100% PL37
923	土師質土器	小皿	8.2	1.8	-	赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	70%
924	土師質土器	小皿	[4.8]	1.0	4.7	赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	30%
925	土師質土器	皿	12.6	3.4	-	赤色粒子・砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	東部覆土下層	100%
926	土師質土器	皿	[11.9]	3.4	-	赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	中央部覆土下層	60%
927	土師質土器	皿	[12.6]	3.4	-	赤色粒子・黒色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土中	50%

### 第343号土坑（第133図）

**位置** 調査区中央部のD3a8区で、標高18.8mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第124号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径2.20m、短径1.25mの楕円形で、長径方向はN-11°-Wである。深さは58cmで、壁は外傾して立ち上っている。底面は南部が平坦で、北部が円形状にくぼんでいる。

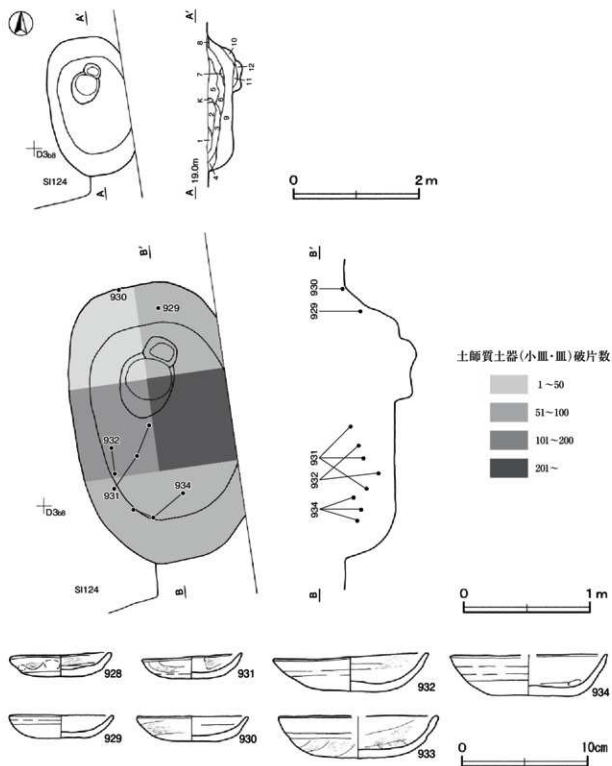
**覆土** 12層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子微量
2 黒褐色	炭化物・焼土粒子微量	8 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
3 黒褐色	炭化物・ローム粒子微量	9 暗褐色	砂粒多量、ローム粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5 褐色	砂粒中量、ロームブロック・炭化物微量	11 黒褐色	砂粒少量、ロームブロック微量
6 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片751点（小皿・皿）、炭化物が出土している。また、流れ込んだ土師器片84点も出土している。多量の小皿片・皿片は、主に中央部と南部の覆土上層から中層にかけて出土している。929は北部の覆土中層、930は北部の覆土上層、928・933は覆土中からそれぞれ出土している。932は中央部の覆土中層、931・934は中央部の覆土上層から中層にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。

**所見** 覆土下層には砂粒が堆積しており、水がたまっていた状況が考えられることから圃池状遺構の可能性が考えられる。廃絶時に使用した小皿等を一括投棄したと考えられる。時期は、出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第133図 第343号土坑・出土遺物実測図

第343号土坑出土遺物観察表 (第133図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
928	土師質土器	小皿	7.8	1.9	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	90%
929	土師質土器	小皿	8.2	1.8	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	北部覆土中層	80% 片立
930	土師質土器	小皿	8.6	2.0	-	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	北部覆土上層	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
931	土師質土器	小皿	7.8	2.1	-	赤色粒子・砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	中央部覆土上層・中層	70%
932	土師質土器	皿	12.3	3.0	-	石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	中央部覆土中層	60%
933	土師質土器	皿	[12.4]	3.4	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土中	50%
934	土師質土器	皿	[12.4]	3.3	-	赤色粒子・砂粒	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	中央部覆土上層・中層	50%

### 第344号土坑（第134図）

**位置** 調査区中央部のD3b7区で、標高18.8mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第124号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 径0.50mの円形で、深さは36cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

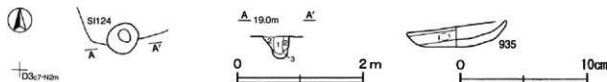
**覆土** 3層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片5点（小皿・皿）が出土している。935は覆土中から出土している。

**所見** 本跡の東約0.6mに第17号掘立柱建物跡が位置し、出土土器が同時期であることから関連性が考えられる。時期は、出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第134図 第344号土坑・出土遺物実測図

### 第344号土坑出土遺物観察表（第134図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
935	土師質土器	小皿	7.9	1.9	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	60%

### 第364号土坑（第135図）

**位置** 調査区中央部のC3h1区で、標高18.9mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径2.16m、短径0.72mの長楕円形で、長径方向はN-10°-Eである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっており、深さは14cmである。

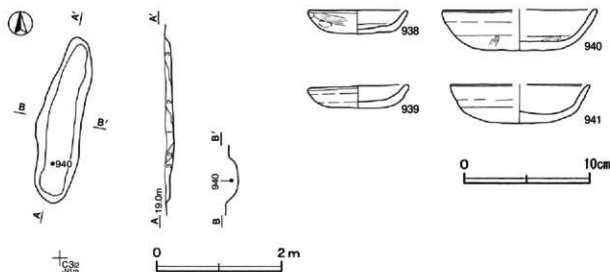
**覆土** 3層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師質土器片44点（小皿・皿）が出土している。940は南部の覆土中層、938・939・941は覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡の東約0.6mに第21号掘立柱建物跡が軸方向を揃えて位置し、同時期の土器が出土していることから関連性が考えられる。時期は、出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第135図 第364号土坑・出土遺物実測図

第364号土坑出土遺物観察表（第135図）

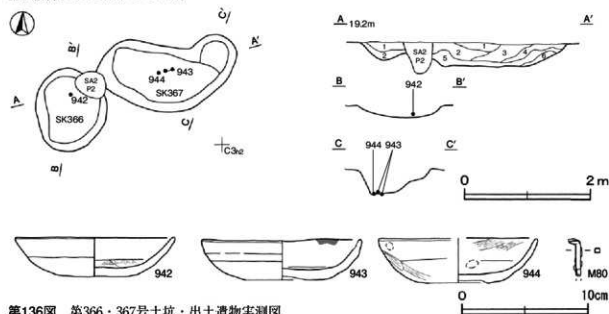
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
938	土師質土器	小皿	7.8	1.9	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	95% PL.37
939	土師質土器	小皿	7.9	1.9	-	長石・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	70%
940	土師質土器	皿	[123]	3.3	-	長石・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	南部覆土中層	75%
941	土師質土器	皿	[111]	3.1	-	赤色粒子・砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	40%

第366号土坑（第136図）

位置 調査区中央部のC3g1区で、標高18.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号欄跡P2に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.31m、短径1.13mの楕円形で、長径方向はN-9°-Eである。深さは26cm、底面は皿状で、壁は緩斜して立ち上がっている。



第136図 第366・367号土坑・出土遺物実測図

覆土 2層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量 2 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片6点(小皿・皿)が出土している。942は北部の覆土下層から正位で出土した。

所見 本跡の東約3mに第21号掘立柱建物跡が位置し、出土土器が同時期と考えられることから関連性が推測される。時期は、出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第366号土坑出土遺物観察表(第136図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
942	土師質土器	皿	125	3.1	-	赤色粒子・砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ	体内内・外面ナデ	北部覆土下層	100%

第367号土坑(第136図)

位置 調査区中央部のC3g1区で、標高18.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号欄跡P2に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.19m、短径1.31mの不整楕円形で、長径方向はN-66°-Eである。深さは32cm、底面は平坦で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 6層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量 4 褐色 ロームブロック中量  
2 暗褐色 ロームブロック中量 5 灰褐色 ローム粒子中量  
3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 6 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師質土器片15点(小皿・皿)、鉄製品1点(釘)が出土している。また、流れ込んだ土師器片9点も出土している。943・944は中央部の底面、M80は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の東約3mに第21号掘立柱建物跡が位置し、出土土器が同時期と考えられることから関連性が推測される。時期は、出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第367号土坑出土遺物観察表(第136図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
943	土師質土器	皿	126	3.3	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	体内内・外面ナデ	中央部底面	80%
944	土師質土器	皿	124	3.5	-	灰石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	体内内・外面ナデ	中央部底面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M80	釘	(29)	0.5	0.4	(202)	鉄	先端部欠損	覆土中	PL39

第375号土坑(第137図)

位置 調査区中央部のD3b1区で、標高18.6mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.31mの円形で、深さは37cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

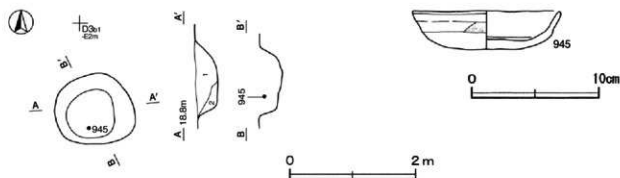
覆土 2層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師質土器片4点(小皿・皿)が出土している。また、流れ込んだ土師器片8点も出土している。945は南部の覆土層から正位で出土している。

**所見** 本跡の東約2.4mに第16号掘立柱建物跡が位置し、出土土器が同時期であることから関連性が考えられる。時期は、出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第137図 第375号土坑・出土遺物実測図

第375号土坑出土遺物観察表(第137図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
945	土師質土器	皿	11.6	3.1	-	石英・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	南部覆土層	95%

第377号土坑(第138図)

**位置** 調査区中央部のC3j1区で、標高188mの台地平坦部に位置している。

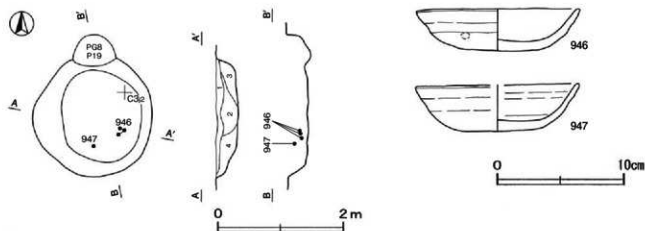
**重複関係** 第8号ピット群P19に掘り込まれている。

**規模と形状** 径1.93mの円形で、深さは33cmである。底面はほぼ平坦で壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 4層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                    |       |                  |
|-------|--------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量      | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |



第138図 第377号土坑・出土遺物実測図



**遺物出土状況** 土師質土器片29点（小皿・皿）が出土している。また、混入した土師器片42点も出土している。946は東部の覆土下層、947は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。

**所見** 第16・21号掘立柱建物跡の間に位置しており、同時期と考えられる土器が出土していることから関連性が考えられる。時期は、出土土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

#### 第377号土坑出土遺物観察表（第138図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
946	土師質土器	皿	130	3.4	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	東部覆土下層	80%
947	土師質土器	皿	[130]	3.6	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	南部覆土中層	40%

#### 第404号土坑（第139図）

**位置** 調査区東部のC4b0区で、標高17.6mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第106号住居跡を掘り込み、第52号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸1.69m、短軸0.57mの長方形で、長軸方向はN-14°-Eである。深さは54cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

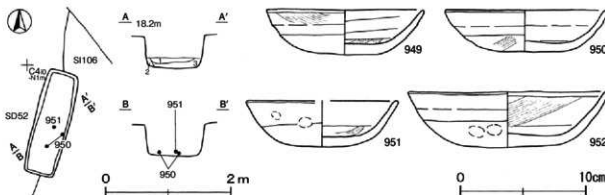
**覆土** 3層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器4点（皿）が出土している。949・952は覆土中、950は中央部と南部、951は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡の西約10mに第10号掘立柱建物跡が位置し、同時期の遺物が出土していることから関連性が考えられる。時期は、出土土器から14世紀前半と考えられる。



第139図 第404号土坑・出土遺物実測図

#### 第404号土坑出土遺物観察表（第139図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
949	土師質土器	皿	12.4	3.7	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土中	100% PL38
950	土師質土器	皿	12.8	3.4	-	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	中央部・南部覆土下層	95%
951	土師質土器	皿	[120]	3.7	-	赤色粒子・砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	中央部覆土下層	60%
952	土師質土器	皿	15.8	4.5	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土中	100%

表8 中世土坑一覧表

土坑番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 新旧関係(旧→新)
				長径×短径×深さ(a)	深さ(cm)					
336	C3e4	N-89°-E	楕円形	218×1.10	43	外傾	平坦	人為	土師質土器片(小皿・皿)	SI116←本跡→SK337・338
343	D3a8	N-11°-W	[楕円形]	2.20×(1.25)	58	外傾	平坦	人為	土師質土器片(小皿・皿)	SI124←本跡
344	D3b7	N-0°	円形	0.50×0.47	36	外傾	皿状	人為	土師質土器片(小皿・皿)	SI124←本跡
364	C3h1	N-10°-E	長楕円形	2.16×0.72	14	外傾	平坦	人為	土師質土器片(小皿・皿)	
366	C3g1	N-9°-E	楕円形	1.31×1.13	26	外傾	皿状	人為	土師質土器片(小皿・皿)	本跡→SA2P2
367	C3g1	N-66°-E	不整楕円形	2.19×1.31	32	外傾	平坦	人為	土師質土器片, 鉄製品	本跡→SA2P2
373	D3b1	N-0°	円形	1.31×1.20	37	外傾	平坦	人為	土師質土器片(小皿・皿)	
377	C3j1	N-0°	円形	1.93×1.93	33	外傾	平坦	人為	土師質土器片(小皿・皿)	本跡→PG8P19
404	C4h0	N-14°-E	長方形	1.69×0.57	54	外傾	平坦	人為	土師質土器片(皿)	SI106←本跡→SD52

## (6) 火葬土坑

## 第342号土坑 (第140図)

位置 調査区中央部のD3e3区で、標高18.6～18.7mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第16号掘立柱建物跡P8・35を掘り込んでいる。

規模と形状 T字状を呈し、長径方向はN-17°-Eである。燃焼部は長径1.24m、短径0.52m、深さ24cmの楕円形で、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は、通気溝との接点となる中央部に径20cm、深さ8cmほどのくぼみがある。通気溝は燃焼部の南壁中央部に設けられ、燃焼部と直交している。南壁からの長さは96cm、幅は56cmである。

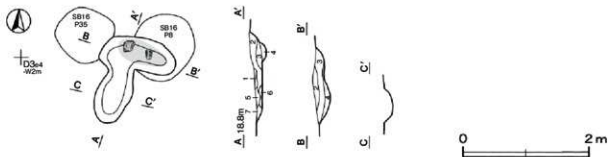
覆土 7層からなる。骨片やロームブロック、炭化材を含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

## 土層解説

- |       |                    |       |                     |
|-------|--------------------|-------|---------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック・焼土粒子中量     | 5 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 赤褐色 | 炭化材中量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量           |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・骨片少量  | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量      |
| 4 褐色  | ロームブロック中量、骨片少量     |       |                     |

遺物出土状況 土師質土器片5点(小皿・皿)、骨片、炭化材が出土している。また、混入した土師器片2点も出土している。出土土器は細片のため、図示できない。

所見 骨片、焼土、炭化材が出土していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は、出土土器及び重複関係から14世紀後半以降と考えられる。



第140図 第342号土坑遺物実測図

### 第349号土坑（第141図）

**位置** 調査区中央部のD3h5区で、標高18.8mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第126号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 楕円形を2つ重ねた不整形を呈し、長径方向はN-87°-Eである。燃焼部は長径0.78m、短径0.48m、深さ43cmの楕円形で、壁は外傾して立ち上がっている。底面は、通気溝との接点となる中央部に深さ10cmほどのくぼみがある。通気溝は燃焼部の東壁中央部に設けられ、燃焼部と直交している。東壁からの長さは30cm、幅は18cmである。

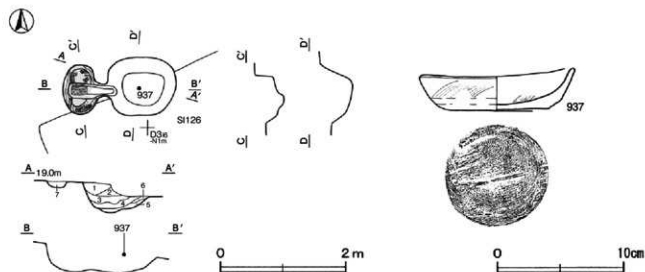
**覆土** 7層からなる。ロームブロックや焼土、炭化物を含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                       |      |                        |
|-------|-----------------------|------|------------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量       |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量    | 7 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・骨片微量  |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量        |      |                        |

**遺物出土状況** 土師質土器1点（皿）、骨片、炭化物が出土している。また、流れ込んだ土師器片1点も出土している。937は東部の覆土上層から出土している。

**所見** 骨片、焼土、炭化物が出土していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は、出土土器から14世紀後半以降と考えられる。



第141図 第349号土坑・出土遺物実測図

### 第349号土坑出土遺物観察表（第141図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
937	土師質土器	皿	122	3.5	8.2	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	東部覆土上層	100%

### 第368号土坑（第142図）

**位置** 調査区中央部のD3j6区で、標高18.8mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第72号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 確認できた燃焼部は長径1.06m、短径0.28mの楕円形で、長径方向はN-79°-Wである。深さは

42cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は、通気溝との接点となる中央部にくぼみがある。通気溝は燃焼部東壁に設けられ、燃焼部とつながっている。東壁からの長さは116cm、幅は96cmである。

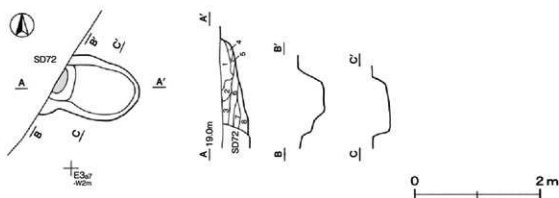
**覆土** 8層からなる。ロームブロックや焼土ブロック、炭化物を含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                         |       |                         |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量   |
| 2 褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量     | 7 赤褐色 | 焼土ブロック中量                |
| 4 褐色  | ロームブロック中量               | 8 黒色  | 焼土粒子・炭化粒子中量             |

**遺物出土状況** 土師質土器片2点（小皿・皿）、骨片、炭化物が出土している。また、流れ込んだ土師器片1点も出土している。出土土器は細片のため、図示できない。

**所見** 骨片、焼土、炭化物が出土していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は、出土土器から14世紀後半以降と考えられる。



第142図 第368号土坑実測図

**第369号土坑（第143図）**

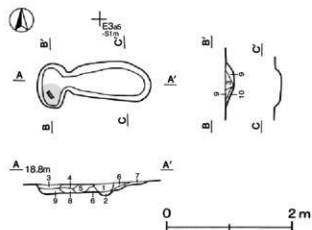
**位置** 調査区中央部のE3a4区で、標高188mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** T字状を呈し、長径方向はN-89°-Wである。燃焼部は長径0.56m、短径0.44m、深さ14cmの楕円形で、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は、通気溝との接点となる中央部が10cmほどぼんでいる。通気溝は燃焼部南壁の中央部に設けられ、燃焼部と直交している。南壁からの長さは132cm、幅は64cmである。

**覆土** 10層からなる。ロームブロックや焼土、炭化物を含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- 暗褐色 ロームブロック少量
- 褐色 ロームブロック少量
- 黒褐色 焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子微量
- 褐色 焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子微量
- 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック極微量
- 暗褐色 ロームブロック微量
- 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 炭化物少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量



第143図 第369号土坑実測図

**遺物出土状況** 骨片、炭化物が出土している。また、流れ込んだ土師器片1点も出土している。

**所見** 骨片、炭化物が出土していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は、遺構の様相から中世と推測される。

### 第370号土坑（第144図）

**位置** 調査区中央部のE3a6区で、標高188mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第72号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 楕円形と隅丸長方形を連結したような不整形で、長径方向はN-63°-Wである。燃焼部は長径0.76m、短径0.48m、深さ54cmの楕円形で、壁は垂直に立ち上がっている。底面は、通気溝との接点となる中央部が10cmほどぼんでいる。通気溝は燃焼部の西壁中央部に設けられ、燃焼部と直交している。確認できた長さは112cm、幅は90cmである。

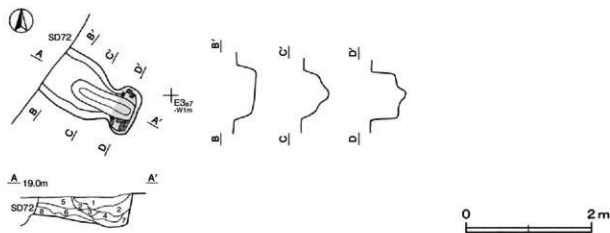
**覆土** 8層からなる。ロームブロックや焼土、炭化物を含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |          |                     |       |                        |
|----------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色    | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 2 暗褐色    | 焼土ブロック少量、炭化物微量      | 6 褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色    | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子少量、骨片微量     |
| 4 に近い赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、骨片少量  | 8 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量  |

**遺物出土状況** 燃焼部から骨片、炭化物が出土している。

**所見** 骨片、焼土、炭化物が出土していることから、遺骸を火葬した土坑と考えられる。時期は、遺構の様相から中世と推測される。



第144図 第370号土坑実測図

表9 中世火葬土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
				長径(縦)×短径(横)(m)	深さ(cm)					
342	D 3 e3	N-17°-E	T字状	1.24×0.52	24	縦斜	凹凸	人為	土師質土師片(小皿・皿)、骨片、炭化材	SB16P 8・P 35→本
349	D 3 h5	N-87°-E	不整形	0.78×0.48	43	外縦	凹凸	人為	土師質土器(皿)、骨片、炭化物	SH26→本跡

土坑 番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 新旧関係(旧→新)
				長径(単位:cm)	深さ(単位:cm)					
368	D3j6	N-79-W	(楕円形)	(1.06)×0.28	42	外傾	平坦	人為	土師質土器片(小皿・皿)、骨片、炭化物	本跡→SD72
369	E3a4	N-89-W	T字状	0.56×0.44	14	緩斜	平坦	人為	骨片、炭化物	
370	E3a6	N-63-W	(不整形)	0.76×0.48	54	外傾	平坦	人為	骨片、炭化物	本跡→SD72

## (7) ビット群

## 第7号ビット群 (第145図)

**位置** 調査区中央部のD2a0～D3d2区で、標高18.4～18.6mの台地緩斜面部に位置している。

**規模と形状** 南北14m、東西8mの範囲にビット11か所が確認された。形状は径27～93cmの円形、深さは10～59cmで、断面形はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕は確認できず、暗褐色土で締まりが弱い。

**遺物出土状況** 土師質土器片4点(小皿・皿)、土師器片6点(甕)が出土している。出土土器は細片のため、図示できない。

**所見** 本跡の東に第16号掘立柱建物跡が位置していることから、関連性が考えられる。時期は、出土土器及び遺構の様相から、13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

## 第8号ビット群 (第146図)

**位置** 調査区中央部のC2h0～C3j3区で、標高18.7～18.9mの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第367・377号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 南北12m、東西16mの範囲にビット30か所が確認された。形状は径20～70cmの円形、深さは9～64cmで、断面形はU字状である。

**覆土** 柱の抜き取り痕は確認できず、暗褐色土で締まりが弱い。

**遺物出土状況** 土師質土器片13点(小皿・皿)が出土している。また、流れ込んだ土師器片12点(坏2、甕10)も出土している。953はP8の覆土中、954はP9の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡は、第16号掘立柱建物跡と第21号掘立柱建物跡の中間に位置し、出土土器が同時期と考えられることから関連性が考えられる。時期は、出土土器及び遺構の様相から、13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

## 第9号ビット群 (第147図)

**位置** 調査区中央部のC3e1～C3g3区で、標高18.7～18.9mの台地緩斜面部に位置している。

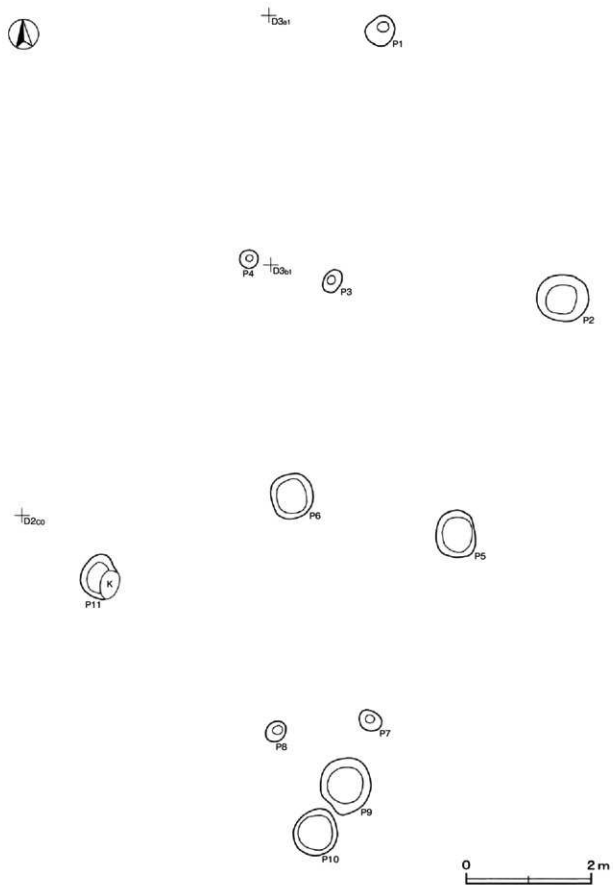
**重複関係** 第21号掘立柱建物跡P15を掘り込んでいる。

**規模と形状** 南北12m、東西8mの範囲にビット23か所が確認された。形状は径24～78cmの円形、深さは12～72cmで、断面形はU字状である。

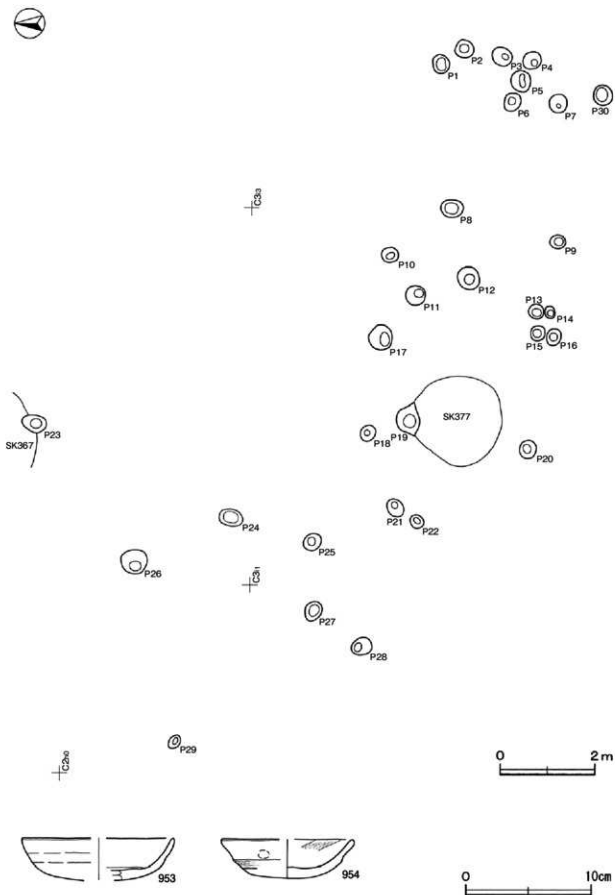
**覆土** 柱の抜き取り痕は確認できず、暗褐色土で締まりが弱い。

**遺物出土状況** 土師質土器片10点(小皿・皿)が出土している。また、流れ込んだ土師器片4点(坏1、甕3)も出土している。出土土器は細片のため、図示できない。

**所見** 本跡の南に、第21号掘立柱建物跡が位置し、出土土器が同時期と考えられることから関連性が考えられる。時期は、重複関係及び出土土器から、13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

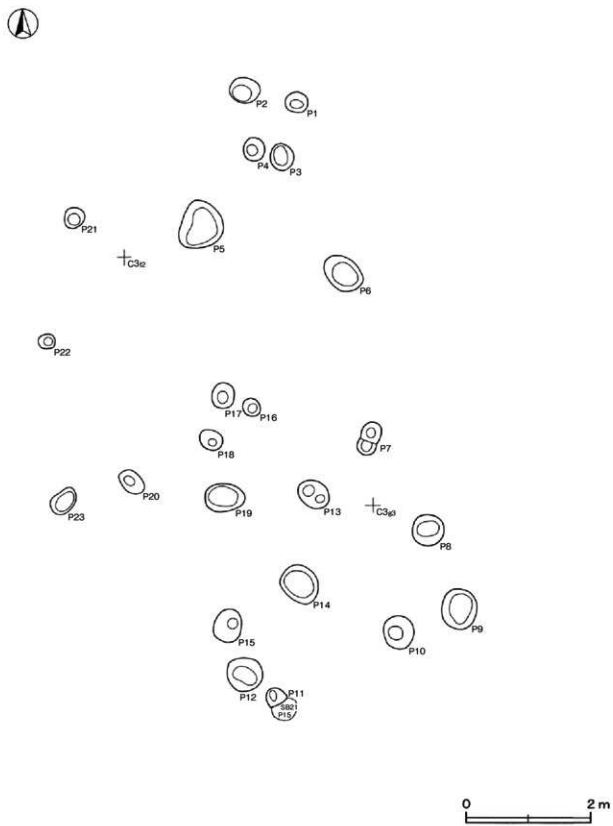


第145図 第7号ピット群実測図



第146図 第8号ピット群・出土遺物実測図





第147図 第9号ピット群実測図

第8号ピット群出土遺物観察表(第146図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
953	土師質土器	皿	[12.0]	3.3	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	P 8 覆土中	60%
954	土師質土器	皿	[10.3]	3.1	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ	P 9 覆土下層	40%

第7号ピット群計測表(第145図)

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	50	44	29	P 5	78	68	20	P 9	93	82	13
P 2	83	76	23	P 6	75	72	27	P 10	75	70	14
P 3	38	27	59	P 7	39	30	24	P 11	69	63	10
P 4	30	29	25	P 8	37	30	46				

第8号ピット群計測表(第146図)

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	41	35	28	P 11	47	44	34	P 21	40	32	35
P 2	41	39	41	P 12	50	45	40	P 22	28	30	31
P 3	43	39	33	P 13	31	30	28	P 23	55	38	27
P 4	41	35	33	P 14	26	20	22	P 24	49	36	9
P 5	49	44	32	P 15	35	33	34	P 25	40	34	38
P 6	43	35	27	P 16	33	31	28	P 26	70	56	64
P 7	40	38	41	P 17	57	50	47	P 27	45	37	41
P 8	47	40	23	P 18	37	31	37	P 28	44	35	31
P 9	34	29	18	P 19	70	49	38	P 29	31	24	55
P 10	36	35	55	P 20	39	36	45	P 30	44	43	17

第9号ピット群計測表(第147図)

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	37	32	22	P 9	66	57	26	P 17	42	35	43
P 2	50	42	16	P 10	54	50	72	P 18	39	31	42
P 3	44	38	22	P 11	57	42	47	P 19	63	47	21
P 4	36	34	21	P 12	59	57	32	P 20	45	32	45
P 5	78	74	14	P 13	54	43	24	P 21	36	32	12
P 6	69	50	37	P 14	66	56	24	P 22	27	24	17
P 7	55	32	53	P 15	53	44	46	P 23	49	34	38
P 8	52	51	29	P 16	31	27	30				

表10 中世ピット群一覧表

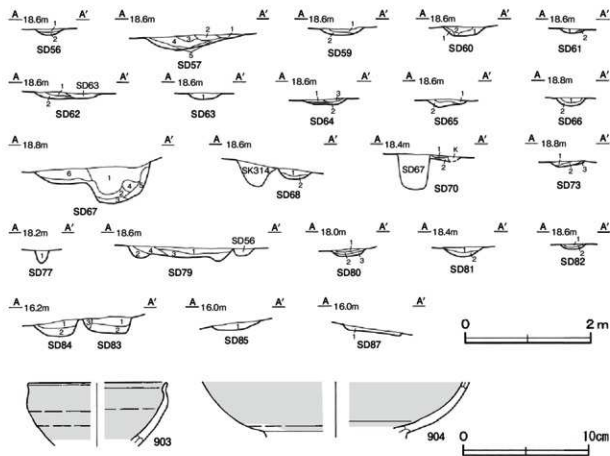
番号	位置	範圍		柱穴数	柱穴平面形	径(cm)	深さ(cm)	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
		南北(m)	東西(m)						
7	D 2 a0-D 3 d2	14	10	11	円形	30-93	10-72	土師質土器片	SR21→本跡
8	C 2 h0-C 3 j3	13	16	30	円形	26-70	9-64	土師質土器片	SK367-377→本跡
9	C 3 c1-C 3 g3	11	8	23	円形	27-78	24-78	土師質土器片	SR21→本跡

## 4 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期不明の溝跡24条、井戸跡1基、土坑78基、ピット群1か所が確認された。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 溝跡 (第148図)

時期不明の溝跡24条を確認した。以下、これらの遺構について、平面図は全体図に示し、土層断面図と一覧表を掲載する。



第148図 時期不明溝跡・出土遺物実測図

第56号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第57号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 灰褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第59号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量

第60号溝跡土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第61号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第62号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第63号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第64号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第65号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量

第66号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第67号溝跡土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ローム粒子多量

第68号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 灰褐色 ロームブロック中量

第70号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

## 第73号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック多量

## 第77号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

## 第79号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 紫褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量

## 第80号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 紅褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

## 第81号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

## 第82号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

## 第83号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

## 第84号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量

## 第85号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

## 第87号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

## 第67号溝跡出土遺物観察表 (第148図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
903	陶器	天目茶碗	[11.0]	(5.1)	-	緻密	黒黒	良好	鉄軸	覆土中	10% 内面茶葉痕 PL39
904	陶器	鉢	-	(4.5)	-	緻密	灰オリーブ	良好	鉄軸, ロクロナデ	覆土中	5%

表11 時期不明溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模 (m)			断面形	覆土	出土遺物	備考	
				長さ	上幅	下幅					
36	C 2 h2-C 1 j 0	N-31'-E	直線状	(21.9)	0.48	0.24	7	U字状	自然	土師器片	SD58-60→本跡→SD59-79, SK308
37	C 1 g9-D 1 b7	N-23'-E	弧状	(24.88)	1.40	0.40	23	U字状	人為	土師質土器片, 土師器片	本跡→SD79
39	C 2 f2-C 2 f3	N-78'-W	直線状	4.83	0.67	0.32	6	U字状	人為	-	SD56→本跡→SD3
40	C 1 f0-C 2 g3	N-70'-W	直線状	12.08	0.69	0.30	18	U字状	自然	土師器片	SD58-63→本跡→SD3-56, SK311
61	C 2 e1-C 2 d2	N-53'-E	直線状	5.73	0.36	0.20	8	U字状	-	-	SD58→本跡
62	C 1 f0	N-65'-E	直線状	2.64	0.46	0.13	10	U字状	自然	-	SD63→本跡
63	C 1 f0-C 2 f1	N-22'-W	直線状	2.00	0.38	0.12	8	U字状	-	-	本跡→SD60-62
64	C 2 e2-D 2 d3	N-49'-W	直線状	4.96	0.73	0.35	10	U字状	人為	-	SI07→本跡→SD3-65
65	C 2 e2-D 2 d2	N-62'-E	直線状	(6.20)	0.63	0.24	11	U字状	自然	-	SD64, SK322→本跡
66	C 2 f5	N-13'-E	直線状	5.34	0.44	0.24	16	U字状	自然	土師器片, 須恵器片	
67	C 2 b4-C 2 e6-E 2 d3	N-13'-E N-61'-W	L字状	(93.9)	0.30-0.96	0.38	10-50	U字状	人為	-	SD3-56-68-70-81, SK325-361→本跡
68	C 2 b3-C 2 d6	N-75'-W N-14'-W	弧状	(14.14)	0.50	0.24	14	U字状	人為	土師器片	SD3-80→本跡→SD67
70	D 2 b4-D 2 i4	N-2'-E	直線状	(6.00)	0.50	0.34	10	U字状	人為	-	本跡→SD67-SK382
73	D 1 e9-D 2 f1	N-73'-W	直線状	10.55	0.54	0.33	10	U字状	人為	-	
77	C 4 d6-C 4 g6	N-2'-E	直線状	13.50	0.26	0.10	14	U字状	自然	-	
79	C 1 j8-D 2 a1	N-61'-W	直線状	11.30	1.28	0.72	10-20	濠台形	人為	-	SD56-57→本跡
80	C 2 c5-C 2 d5	N-40'-W	直線状	(6.10)	0.60	0.34	10	U字状	人為	-	本跡→SD68
81	D 2 b4-D 2 f4	N-8'-E	直線状	(13.00)	0.70	0.26	15	U字状	人為	-	本跡→SD67
82	C 2 b4	N-15'-E	直線状	(3.90)	0.40	0.16	10	U字状	自然	土師器片, 須恵器片	本跡→SK326
83	F 5 a0-F 6 a1	N-55'-E	直線状	(3.80)	0.77	0.61	25	U字状	自然	土師質土器片, 陶器片	
84	F 5 a0-F 6 a1	N-59'-E	直線状	(3.90)	0.68	0.43	24	U字状	自然	-	
85	F 5 a0-F 6 a1	N-58'-E	直線状	(4.80)	0.75	0.65	10	U字状	-	-	
86	E 6 f7-E 6 g6	N-58'-E	直線状	(11.32)	0.75	0.55	27	U字状	-	-	本跡→SK422
87	E 6 g5-E 6 i4	N-50'-E	直線状	(7.42)	0.92	0.81	7	濠台形	自然	-	

(2) 井戸跡

第3号井戸跡 (第149図)

位置 調査区南部のE5h0区で、標高17.4～17.5mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第134号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径2.16mの円形で、漏斗状に掘り込まれている。遺構確認面から1.36m掘り下げたが、以下は湧水のため確認できなかった。

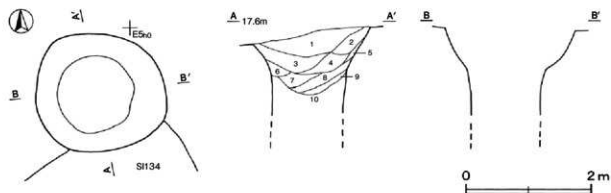
覆土 10層からなる。各層ともロームブロックを含んでおり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                  |        |                     |
|-------|------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭土粒子微量   | 6 黒褐色  | ロームブロック微量           |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量      |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土粒子微量 | 8 黒色   | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量   | 9 黒褐色  | ロームブロック少量           |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量        | 10 暗褐色 | ロームブロック中量           |

遺物出土状況 土師質土器片1点、土師器片23点、須恵器片1点が出土している。出土土器は細片のため、図示できない。

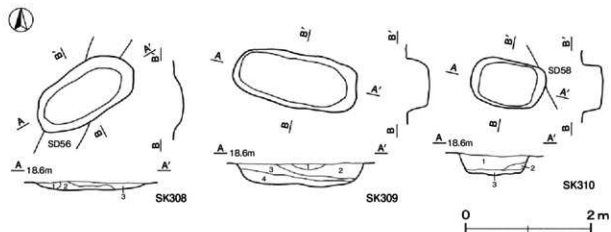
所見 時期は、重複関係から古墳時代以降と考えられるが、出土土器が細片のため不明である。



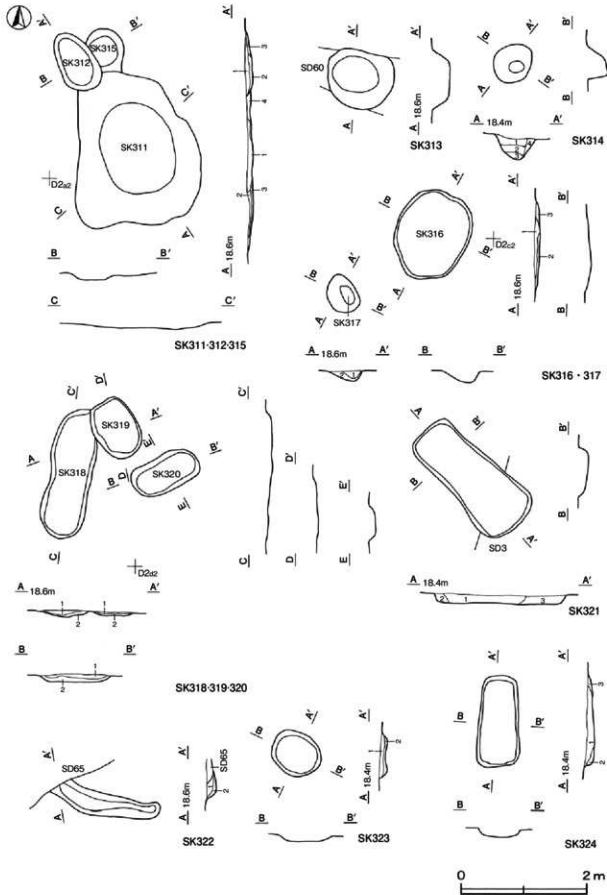
第149図 第3号井戸跡実測図

(3) 土坑 (第150～158図)

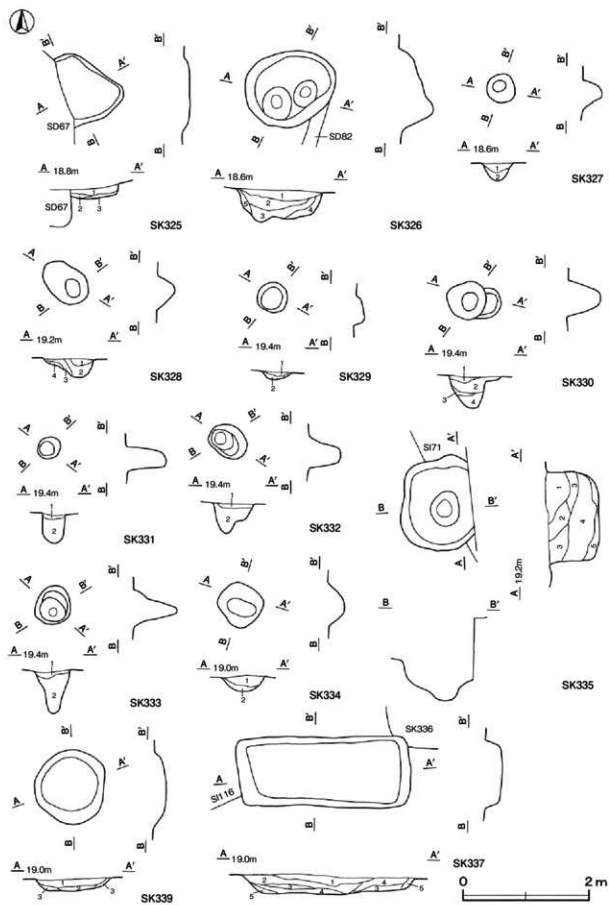
時期不明の土坑78基を確認した。以下、その他の土坑について、平面図と土層断面図で記載する。



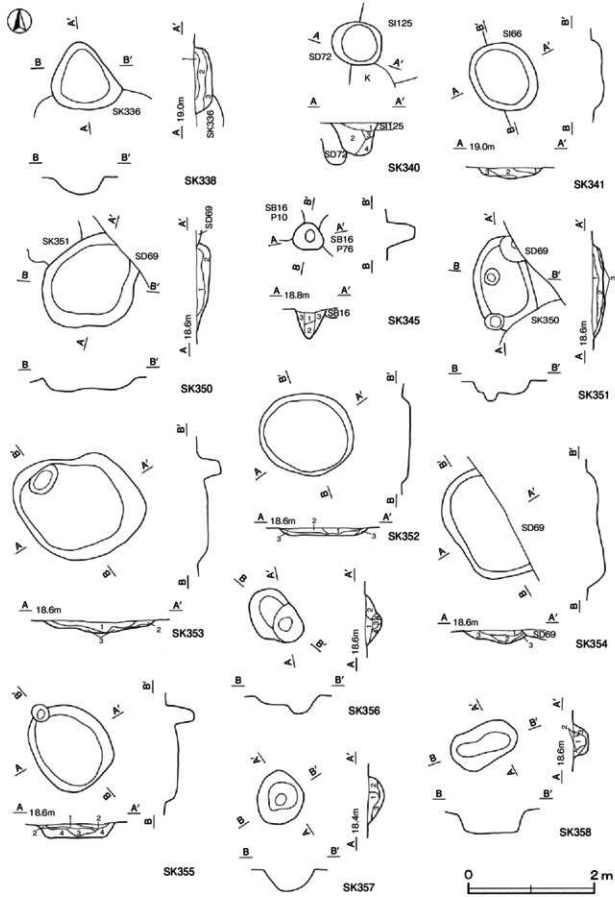
第150図 その他の土坑実測図(1)



第151図 その他の土坑実測図②

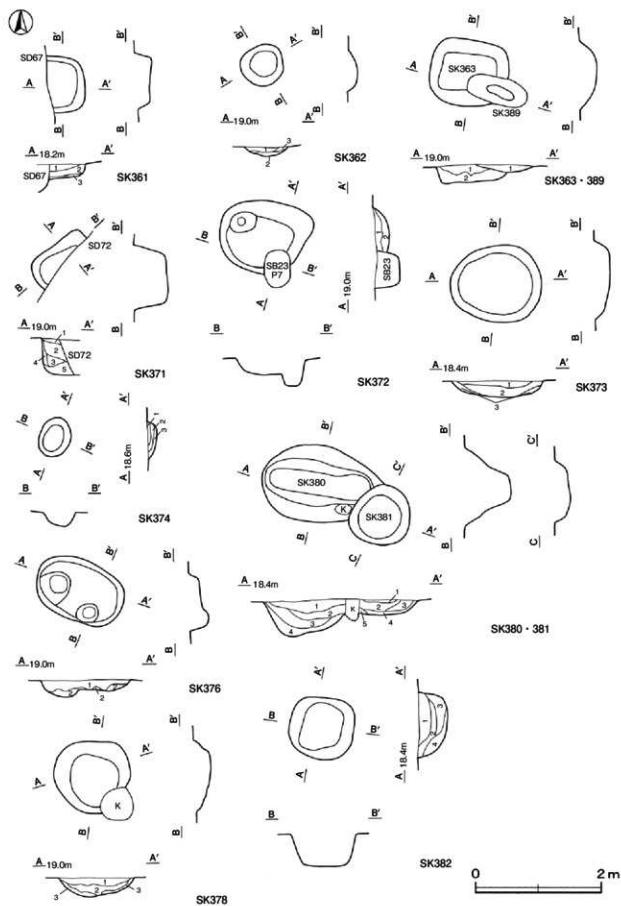


第152図 その他の土坑実測図(3)

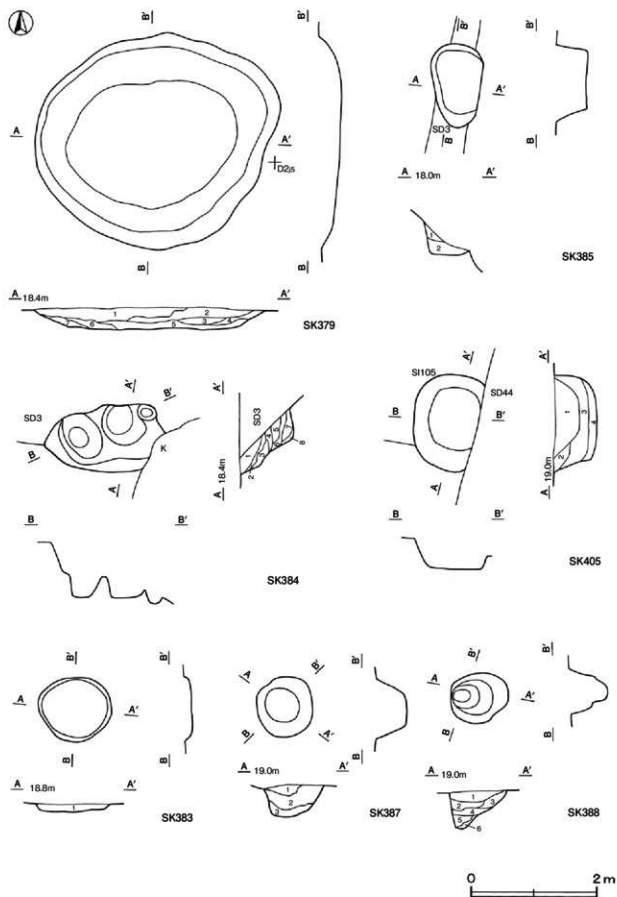


第153図 その他の土坑実測図(4)

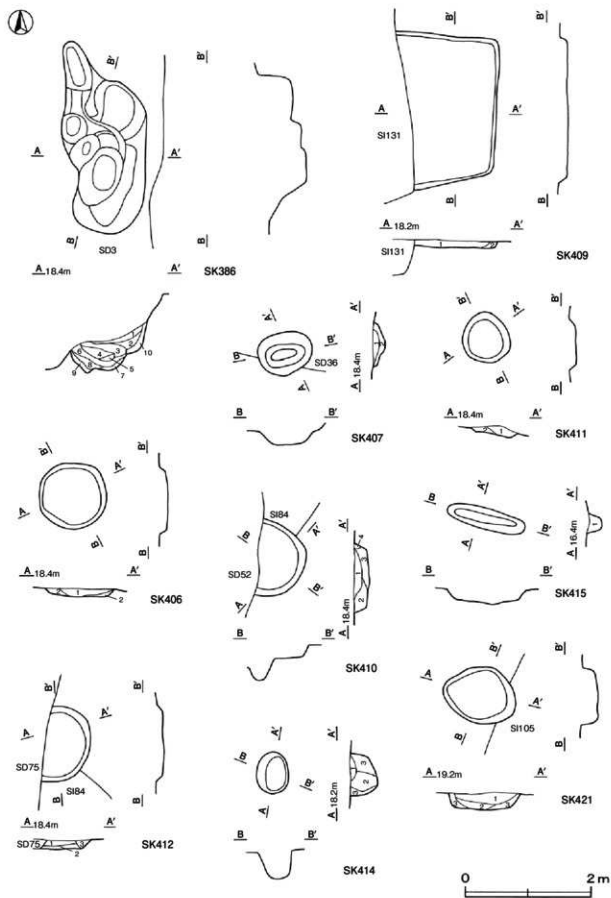




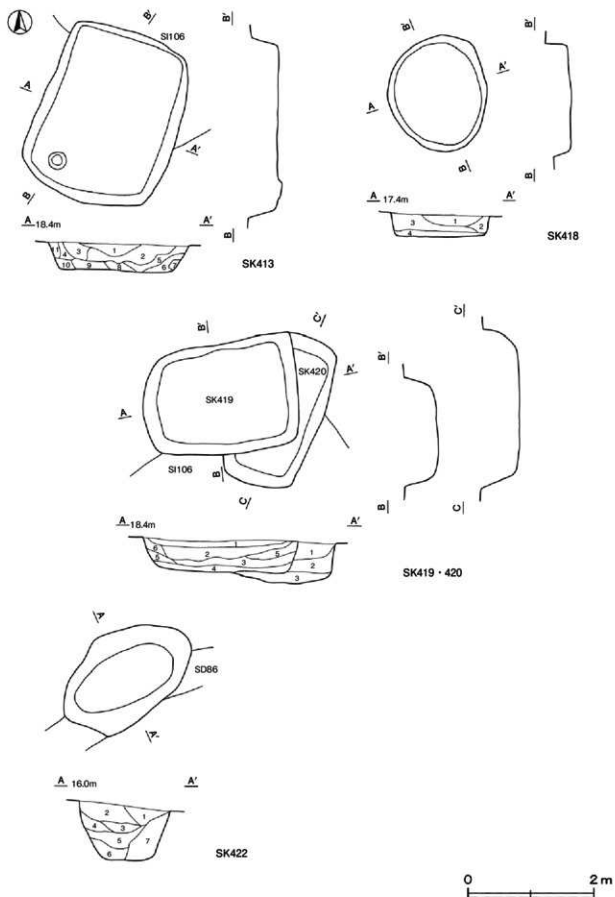
第154図 その他の土坑実測図(5)



第155図 その他の土坑実測図(6)



第156図 その他の土坑実測図(7)



第157図 その他の土坑実測図(8)

**第308号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

**第309号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量

**第310号土坑土層解説**

- 1 灰褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

**第311号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

**第312号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**第314号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 麻褐色 ロームブロック少量
- 4 陶灰色 ローム粒子中量

**第316号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

**第317号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック中量

**第318号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量

**第319号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

**第320号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

**第321号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量

**第322号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量

**第323号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

**第324号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

**第325号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

**第326号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 明褐色 ローム粒子多量
- 5 明褐色 ロームブロック中量

**第327号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

**第328号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

**第329号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

**第330号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量

**第331号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

**第332号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

**第333号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

**第334号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

**第335号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量、微土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 明褐色 ロームブロック中量

**第337号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 炭化粒子少量
- 4 暗褐色 炭化材中量、ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

**第338号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

**第339号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

**第340号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 明褐色 ロームブロック多量

## 第341号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

## 第345号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

## 第350号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

## 第351号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子中量

## 第352号土坑土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 に近い褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

## 第353号土坑土層解説

- 1 褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

## 第354号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

## 第355号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 3 に近い褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量

## 第356号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

## 第357号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

## 第358号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

## 第361号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

## 第362号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

## 第363号土坑土層解説

- 1 無暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

## 第371号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 無暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

## 第372号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

## 第373号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

## 第374号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

## 第376号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

## 第378号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

## 第379号土坑土層解説

- 1 に近い褐色 粘土ブロック多量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子中量

## 第380号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

## 第381号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量

## 第382号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

## 第383号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

## 第384号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量
- 6 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 7 黒褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量
- 8 黒褐色 粘土ブロック微量

## 第385号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 灰褐色 粘土ブロック多量

## 第386号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 に近い褐色 粘土ブロック多量
- 3 に近い褐色 粘土ブロック中量
- 4 暗褐色 粘土ブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量
- 6 灰褐色 粘土ブロック中量
- 7 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 粘土ブロック少量
- 9 灰褐色 粘土ブロック多量
- 10 暗褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量

## 第387号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土粒子少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第388号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量
- 6 褐色 ロームブロック少量

第389号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第405号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第406号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量・焼土粒子微量

第407号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量・焼土粒子微量

第409号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第410号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第411号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量

第412号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第413号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量・炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量
- 7 褐色 ローム粒子中量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量
- 9 褐色 ロームブロック中量
- 10 暗褐色 ローム粒子多量
- 11 暗褐色 ロームブロック少量

第414号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第415号土坑土層解説

- 1 黒色 粘土ブロック・ローム粒子微量

第418号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第419号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量

第420号土坑土層解説

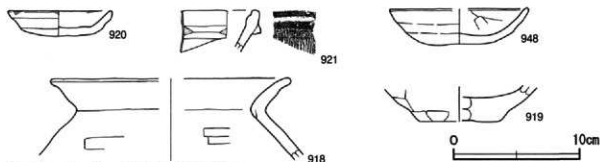
- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量

第421号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第422号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量・ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 7 褐色 ロームブロック中量



第158図 その他の土坑出土遺物実測図

第316号土坑出土遺物観察表 (第158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
920	土師質土器	小皿	8.1	2.1	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体内内・外面ナデ	覆土中	60% 口縁部遺存番号 91.57

## 第332号土坑出土遺物観察表 (第158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
921	陶器	部鉢	-	(3.3)	-	長石・石英	灰赤	普通	ナデ	覆土中	5%

## 第379号土坑出土遺物観察表 (第158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
948	土師質土器	皿	[109]	28	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部積ナデ 体部内・外面ナデ	覆土中	50%

## 第418号土坑出土遺物観察表 (第158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
918	土師器	罍	[187]	(6.4)	-	長石・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	覆土中	5%
919	土師器	罍	-	(2.8)	[6.3]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ	覆土中	5%

表12 その他の土坑一覧表

土坑番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		傾面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係(旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)(cm)	深さ(cm)					
308	C 2 h1	N-53°-E	楕円形	1.75×0.85	15	緩斜	平坦	自然	土師器片	SD66→本跡
309	C 2 g3	N-80°-W	楕円形	2.01×0.91	32	緩斜	平坦	人為	-	
310	C 2 h2	N-78°-W	楕円形	1.16×0.76	30	外傾	平坦	人為	-	SD58→本跡
311	C 2 j2	N-7°-W	不整楕円形	2.43×1.96	8	緩斜	平坦	人為	土師質土器片, 土師器片	SK315→本跡→SK312
312	C 2 j2	N-33°-W	楕円形	1.01×0.62	11	緩斜	平坦	人為	-	SK311-315→本跡
313	C 2 g3	N-64°-W	楕円形	1.10×0.92	28	外傾	平坦	-	土師器片	SD60→本跡
314	C 2 b3	N-54°-E	楕円形	0.68×0.57	30	外傾	傾状	人為	-	
315	C 2 j2	N-0°	[円形]	0.67×(0.52)	4	緩斜	平坦	-	-	本跡→SK311-312
316	D 2 e1	N-28°-E	楕円形	1.45×1.17	9	緩斜	平坦	人為	土師質土器片	
317	D 2 e1	N-23°-W	楕円形	0.53×0.47	18	緩斜	平坦	人為	-	
318	D 2 e1	N-13°-E	楕円形	2.08×0.73	11	緩斜	平坦	人為	-	本跡→SK319
319	D 2 e1	N-31°-W	楕円形	0.98×0.70	6	緩斜	平坦	人為	-	SK318→本跡
320	D 2 e2	N-62°-E	楕円形	1.10×0.58	11	緩斜	平坦	人為	-	
321	D 2 c2	N-40°-W	隅丸長方形	2.12×0.98	15	緩斜	平坦	人為	土師質土器片	SD3→本跡
322	C 2 c3	N-76°-W	[長楕円形]	(1.72)×(0.38)	17	緩斜	平坦	人為	-	本跡→SD65
323	D 1 d7	N-34°-W	楕円形	0.82×0.68	12	緩斜	平坦	人為	-	
324	D 2 f1	N-3°-E	隅丸長方形	1.44×0.69	13	緩斜	平坦	人為	-	
325	C 2 e6	N-45°-E	[隅丸方形]	1.22×(0.84)	8	緩斜	平坦	人為	-	本跡→SD67
326	C 2 g4	N-63°-E	楕円形	1.47×1.18	45-50	緩斜	凹凸	人為	土師器片	SD82→本跡
327	C 2 h4	N-0°	円形	0.46×0.44	30	緩斜	傾状	自然	土師質土器片, 須恵器片	
328	D 1 g7	N-49°-W	楕円形	0.83×0.54	30	緩斜	傾状	人為	-	
329	D 1 g7	N-0°	円形	0.48×0.48	11	緩斜	傾状	人為	-	
330	D 1 g6	N-83°-W	不定形	0.89×0.61	54	緩斜	傾状	人為	-	
331	D 1 g6	N-48°-W	円形	0.38×0.34	62	緩斜	傾状	人為	-	
332	D 1 g6	N-56°-W	円形	0.64×0.51	50	緩斜	傾状	人為	陶器片	
333	D 1 g5	N-9°-E	楕円形	0.62×0.54	70	緩斜	傾状	人為	-	
334	C 2 b7	N-0°	不整円形	0.71×0.70	23	緩斜	傾状	人為	土師器片	
335	C 3 g7	N-4°-E	[隅丸方形]	1.55×(1.16)	85	緩斜	平坦	自然	-	SD71→本跡
337	C 3 e4	N-88°-E	長方形	2.75×1.15	31	緩斜	平坦	人為	土師質土器片, 土師器片	SD116, SK336→本跡



土坑 番号	位 置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 新旧関係(旧→新)
				長径(軸)×短径(径) [m]	深さ [cm]					
338	C 3 e4	N-18°-W	隅丸台形	1.09×0.97	26	緩斜	現状	自然	-	SK336→本跡
339	C 2 西	N-0°	円形	1.18×1.13	20	緩斜	現状	自然	土師質土器片	
340	D 3 g7	N-4°-W	楕円形	0.80×0.72	50	緩斜	平坦	自然	-	SI125, SD72→本跡
341	C 3 北	N-38°-W	楕円形	1.18×1.13	20	緩斜	平坦	自然	-	SI166→本跡
345	D 3 e4	N-0°	円形	0.47×0.44	44	緩斜	平坦	人為	-	SB16→本跡
350	D 3 k2	N-50°-E	[楕円形]	1.58×1.36	22	緩斜	平坦	自然	土師器片	SK351→本跡→SD69
351	D 3 h1	N-1°-W	不定形	1.52×0.98	17	緩斜	凹凸	人為	-	本跡→SK350, SD69
352	D 3 g1	N-66°-W	円形	1.51×1.30	13	緩斜	傾斜	人為	-	
353	D 2 0	N-0°	不整形円形	1.82×1.77	17-40	緩斜	凹凸	人為	-	
354	D 3 f1	N-30°-W	[楕円形]	1.85×(0.93)	28	緩斜	平坦	人為	-	本跡→SD69
355	D 2 0	N-41°-W	楕円形	1.41×1.22	22-42	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
356	D 2 0	N-50°-W	楕円形	1.00×0.70	20-30	緩斜	凹凸	人為	-	
357	D 2 e9	N-12°-W	円形	0.85×0.76	35	緩斜	現状	人為	-	
358	D 2 e0	N-63°-E	楕円形	1.08×0.63	32	緩斜	平坦	人為	-	
361	E 2 a3	N-2°-E	[隅丸方形]	0.89×(0.61)	14	緩斜	平坦	自然	-	本跡→SD67
362	D 3 北	N-0°	円形	0.68×0.64	14	緩斜	現状	自然	土師器片	SI126→本跡
363	C 3 h1	N-87°-W	隅丸長方形	1.22×1.04	28	緩斜	平坦	人為	土師質土器片, 土師器片	本跡→SK389
371	D 3 a6	N-46°-E	[楕円形]	1.06×(0.42)	55	垂直	平坦	自然	-	本跡→SD72
372	D 3 g3	N-80°-E	不整形円形	1.50×1.17	21	緩斜	平坦	自然	-	本跡→SB23
373	D 2 0	N-80°-W	円形	1.46×1.23	25	緩斜	平坦	人為	土師質土器片, 土師器片	
374	D 2 0	N-26°-E	楕円形	0.65×0.50	23	緩斜	平坦	自然	-	
376	C 3 j1	N-66°-W	楕円形	1.46×0.97	18-30	外傾	凹凸	自然	土師質土器片, 土師器片	
378	C 3 j1	N-0°	円形	1.20×1.16	28	緩斜	現状	人為	土師質土器片, 土師器片	
379	D 2 4	N-73°-E	楕円形	3.98×3.34	34	緩斜	平坦	人為	土師質土器片, 土師器片	
380	D 2 5	N-84°-W	楕円形	1.95×1.23	53	外傾	平坦	人為	-	本跡→SK381
381	D 2 5	N-0°	円形	0.97×0.96	23	緩斜	平坦	人為	-	SK380→本跡
382	D 2 4	N-79°-W	楕円形	1.02×0.98	50	外傾	平坦	人為	土師質土器片, 土師器片	本跡→SD70
383	D 2 a9	N-77°-W	楕円形	1.19×1.06	12	緩斜	平坦	自然	-	
384	E 2 b2	N-82°-E	不定形	1.94×1.06	86	緩斜	凹凸	人為	-	SD3→本跡
385	D 2 j1	N-2°-W	楕円形	1.32×0.84	48	外傾	平坦	人為	-	
386	D 2 j2	N-14°-W	不定形	3.12×1.33	36	外傾	凹凸	人為	-	SD3→本跡
387	C 2 0	N-21°-E	円形	0.99×0.95	50	緩斜	平坦	人為	土師器片	
388	D 3 a5	N-53°-E	楕円形	0.90×0.80	72	緩斜	現状	人為	土師質土器片, 土師器片	
389	C 3 h1	N-72°-W	楕円形	0.98×0.42	11	緩斜	平坦	自然	-	SK363→本跡
405	D 4 北	N-15°-E	楕円形	1.55×1.06	65	緩斜	平坦	人為	土師器片	SI105→本跡→SD44
406	D 4 e9	N-0°	円形	1.12×1.06	12	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SIS8→本跡
407	D 4 0	N-68°-E	楕円形	0.86×0.67	22	緩斜	平坦	自然	土師器片	SD36→本跡
409	C 4 e9	N-3°-E	[長方形]	2.42×(1.60)	14	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→SI131
410	D 4 0	N-5°-E	[楕円形]	1.20×(0.72)	24	外傾	平坦	人為	-	SI84→本跡→SD52
411	D 4 0	N-25°-W	楕円形	0.81×0.73	15	緩斜	平坦	自然	-	
412	D 4 0	N-19°-E	[楕円形]	1.23×(0.70)	14	緩斜	平坦	自然	土師質土器片, 土師器片	SI84→本跡→SD75
413	C 4 g8	N-17°-E	長方形	2.82×2.25	40	外傾	平坦	人為	土師質土器片, 土師器片	SI106→本跡
414	C 4 e9	N-4°-E	楕円形	0.68×0.50	45	外傾	現状	人為	土師器片	
415	F 4 0	N-75°-W	長楕円形	1.25×0.35	25	緩斜	平坦	自然	-	
418	E 5 0	N-5°-E	楕円形	1.85×1.58	34	外傾	平坦	人為	-	
419	C 4 g9	N-84°-E	長方形	2.48×1.77	55	外傾	平坦	人為	土師質土器片, 土師器片	SI106, SK420→本跡

土坑 番号	位 置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 考 (新田階係(旧)→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
420	C 4 g9	N-22°-E	長方形	2.53×(1.19)	66	外傾	平坦	人為	土師貫土器片、土師器片	SI106→本跡→SK419
421	D 4 h8	N-73°-W	楕円形	1.19×0.91	27	外傾	平坦	自然	-	SI105→本跡
422	E 6 f7	N-53°-E	楕円形	2.30×1.42	91	外傾	平坦	人為	-	SD86→本跡

## (4) ビット群

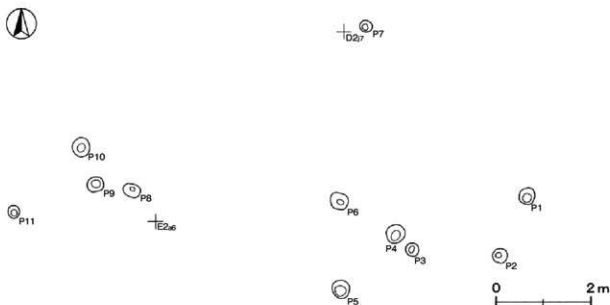
## 第10号ビット群 (第159図)

位置 調査区西部のD2j5～E2a7区で、標高18.1～18.3mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 南北6m、東西12mの範囲にビット11か所が確認された。形状は径26～42cmの円形、深さは20～58cmで、断面形はU字状である。

覆土 柱の抜き取り痕は確認できず、暗褐色土で締まりが弱い。

所見 時期及び性格は、ビットの深さや配列などに規則性がなく、出土土器もないため不明である。



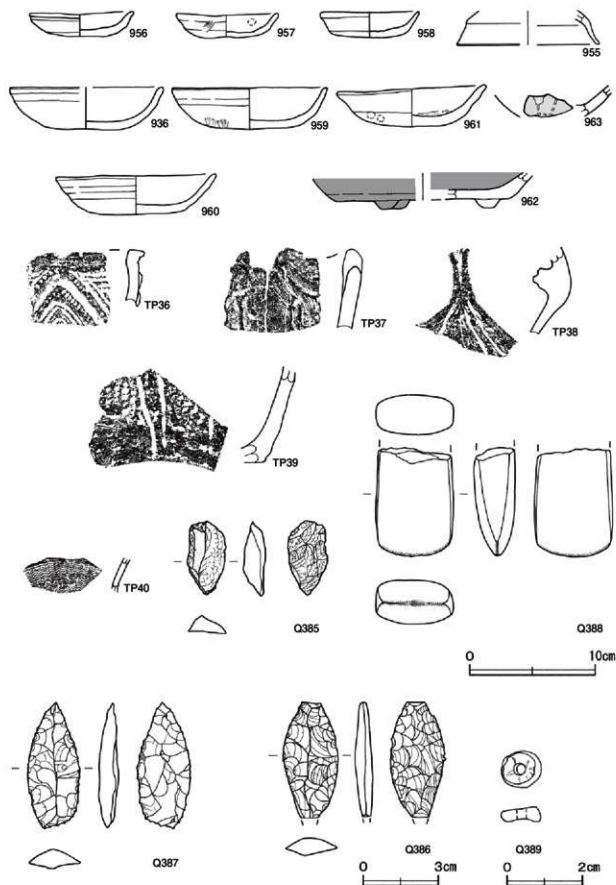
第159図 第10号ビット群実測図

## 第10号ビット群計測表 (第159図)

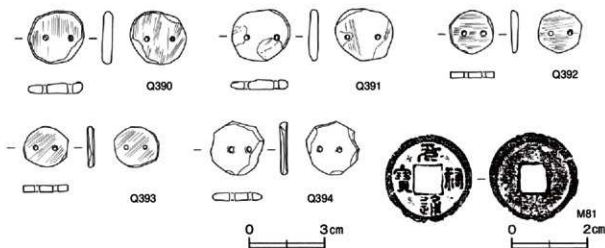
番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	34	32	34	P 5	38	37	53	P 9	36	32	20
P 2	32	30	32	P 6	40	38	38	P 10	40	37	30
P 3	29	27	30	P 7	27	24	31	P 11	26	25	26
P 4	42	38	39	P 8	37	27	29				

## (5) 遺構外出土遺物 (第160・161図)

当遺跡から出土した遺構に伴わない主な遺物について、実測図と出土遺物観察表で記載する。



第160图 遺構外出土遺物実測図(1)



第161図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表 (第160・第161図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
936	土師質土器	小皿	8.2	1.8	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナテ	SK348 覆土中	100%
955	須恵器	蓋	[11.4]	(2.7)	-	長石・石英	灰	普通	口縁部横ナテ	表採	10%
956	土師質土器	小皿	8.1	2.0	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	表採	100% PL37
957	土師質土器	小皿	8.1	1.9	-	石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	表採	100% PL37
958	土師質土器	小皿	7.8	2.1	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	表採	95%
959	土師質土器	皿	11.7	3.2	-	赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	SI120 覆土中	100%
960	土師質土器	皿	12.8	3.1	-	赤色粒子・砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	表採	60%
961	土師質土器	皿	[11.9]	3.5	-	赤色粒子・砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナテ 体部内・外面ナテ	表採	50%
962	土師質土器	香炉	-	(2.8)	-	長石・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	三足	表採	10%
963	青磁	碗	-	(2.4)	-	緻密	ナリブ灰	良好	筋漉弁文	表採	5% PL39
TP36	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	口縁部隆帯貼り付け	表採	5% PL41
TP37	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部隆帯により無文帯を区画	表採	5% PL41
TP38	縄文土器	深鉢	-	(6.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部沈線により無文帯を区画	表採	5% PL41
TP39	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	RLの単筋縄文施紋	表採	5% PL41
TP40	須恵器	甌	-	(2.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部波状文	表採	5% PL41

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q385	割片	5.9	3.1	1.5	24.7	安山岩	縦長割片 表面縁辺部に礫皮面を残す	表採	PL40
Q386	尖頭器	(4.6)	2.2	0.7	(6.40)	黒曜石	先端部欠損	SK377 覆土中	PL40
Q387	尖頭器	5.0	2.1	0.8	6.85	珪質頁岩	先端部欠損	表採	PL40
Q388	石斧	(8.7)	6.2	3.3	(295)	閃緑岩	定角式 方部一部欠損	SD3 覆土中	PL41
Q389	白玉	1.02	0.37	0.25	0.6	滑石	孔径0.25cm 側面が影らむ太鼓状 片面穿孔	SK377 覆土中	PL40
Q390	双孔円板	2.1	2.2	0.36	3.18	滑石	両面平削 斜方向の研磨 片側穿孔 孔径0.15cm	SD58 覆土中	PL40
Q391	双孔円板	3.1	2.3	0.29	2.56	滑石	両面平削 斜方向の研磨 片側穿孔 孔径0.2cm	SD58 覆土中	PL40
Q392	双孔円板	1.7	1.8	0.25	1.38	滑石	両面平削 斜方向の研磨 片側穿孔 孔径0.12cm	表採	PL40
Q393	双孔円板	1.7	1.8	0.22	1.1	滑石	両面平削 斜方向の研磨 片側穿孔 孔径0.12cm	表採	PL40
Q394	双孔円板	2.1	2.1	0.30	2.18	滑石	両面平削 斜方向の研磨 片側穿孔 孔径0.12cm	表採	PL40

番号	銭種	径	孔	厚さ	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M81	元祐通寶	2.3	0.7	0.14	2.56	1086年	銅	北宋銭 篆書 無背銭	表採	PL39

## 第4節 ま と め

### 1 はじめに

鳥名前野東遺跡は平成11～17年度まで調査を行い、平成11～13年度の調査区については茨城県教育財団文化財調査報告第191集（以下第191集）<sup>1)</sup>、平成14年度の調査区については茨城県教育財団文化財調査報告第215集（以下第215集）<sup>2)</sup>にまとめられている。今回、平成15～17年度の調査が行われたことで、遺跡全体の様相が明らかになってきた。今までに報告している遺構を整理していくと、堅穴住居跡107軒、掘立柱建物跡21棟、欄跡2条、方形周溝墓3基、方形区画堀跡1条、溝跡68条、井戸跡3基、地下式竈2基、火葬土坑5基、道路跡5条、陥穴1基、土坑335基、ピット群10か所が確認されており、旧石器時代から近世にわたるものである。そこで、今回の調査区と第191・215集で確認された遺構及び出土土器を含め、ここでは集落が営まれた古墳時代から奈良・平安時代までの集落変遷<sup>3)</sup>と中世における方形居館の変遷と性格について述べ、まとめたい。なお、年代観については、鳥名熊の山遺跡等近年の当地の土器編年研究をもとにした。

### 2 集落の変遷

#### (1) 古墳時代

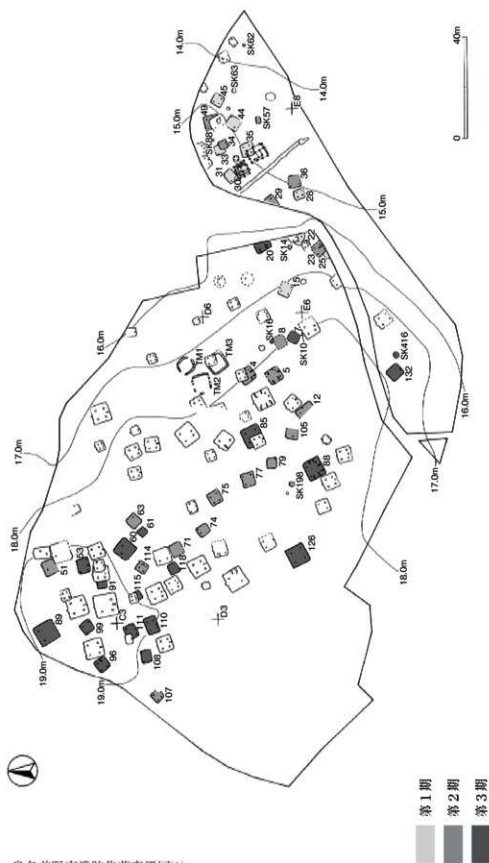
##### 第1期（4世紀中葉～後葉）（第162図）

鳥名前野東遺跡に集落が成立した時期である。ほぼ時期を同じくして鳥名熊の山遺跡、鳥名八幡前遺跡においても集落が展開されていることから、他地域からの集団的な移住と定着という事象が指摘されている<sup>4)</sup>。

本期には第191集で報告されている東部の堅穴住居跡10軒、方形周溝墓3基が該当する。中形住居跡は、第15・22・25・31・35・44・45号住居跡の7軒、小形住居跡は、第28・30・33号住居跡の3軒である。住居跡はおおむね北西方向を主軸としており、如が中央部の北西壁寄りに位置し、出入り口施設が如と向き合う南東壁際に設けられているものが一般的で、貯蔵穴は東コーナー部に構築されているものが多い。この特徴は同時期の前野遺跡<sup>5)</sup>の集落と共通する特徴であり、両遺跡が一つの集落として存在していた可能性を裏付けるものである。主な出土遺物は土師器（椀、埴、器台、高坏、壺、甕、台付甕）、土製品（球状土錘）である。本期の住居跡は東部の標高13.5～17.0mの台地裾部に位置しており、方形周溝墓が集落の西側から約30m離れた標高17.0～18.0mの地点に位置している。このことから集落は、生業の基盤である東谷田川沿いの谷津田に近い地点に、方形周溝墓は集落より標高の高い地点に造られていたと推測できる。特徴的な住居跡として、第35号住居跡は土器埋設如を構築していることがあげられる。土器埋設如は土師器甕の体部以下を埋設した如で、さらに埋設された甕の底部には他の甕の体部片が敷かれた二重構造になっている。他の住居跡の如は、床面を利用した地床如であることから特徴的な如としてとらえることができる。

##### 第2期（5世紀前半）（第162図）

第191集で堅穴住居跡16軒、土坑8基、今回の調査区では堅穴住居跡3軒が該当する。本期の集落は、第1期の東部を中心とした集落から標高17.0～19.0mと高くなる中央部へと広がり、全体に拡大している。大形住居跡は、第12号住居跡の1軒である。中形住居跡は、第4・5・8・23・29・36・49・51・63・71・74・75・77・79・105・107・114号住居跡の17軒である。また、小形住居跡は、第34号住居跡の1軒であり、中形住居跡が大部分を占めている。住居跡はおおむね北西方向を主軸としており、本期の住居には2軒の



第162図 島名前野東遺跡集落変遷図(1)

住居跡を1単位とするまとまりが見られる。東部の第34・49号住居跡、中央部の第5・8号住居跡、第77・79号住居跡、第74・75号住居跡は主軸方向を描え、約4～7mの間隔で位置しており、1単位のみとして構成されることが考えられる。単独で確認されている住居跡と合わせて10単位程度の均質な単位集団によって構成されている集落の様子がうかがえる。

主な出土遺物は土師器(坏、埴、器台、高坏、壺、甕、瓶、埴器台)、土製品(球状土錘、支脚)、石器(砥石)、石製品(勾玉、白玉、紡錘車、双孔円板、剣形模造品)である。本期の出土遺物の特徴として滑石製品が第4・5・49・77号住居跡から出土していることがあげられる。同時期の近隣の集落である元宮本前山遺跡からは石製模造品の工房として使用されていた住居跡も確認されており、石製模造品をもとにした交流が推測される<sup>8)</sup>。

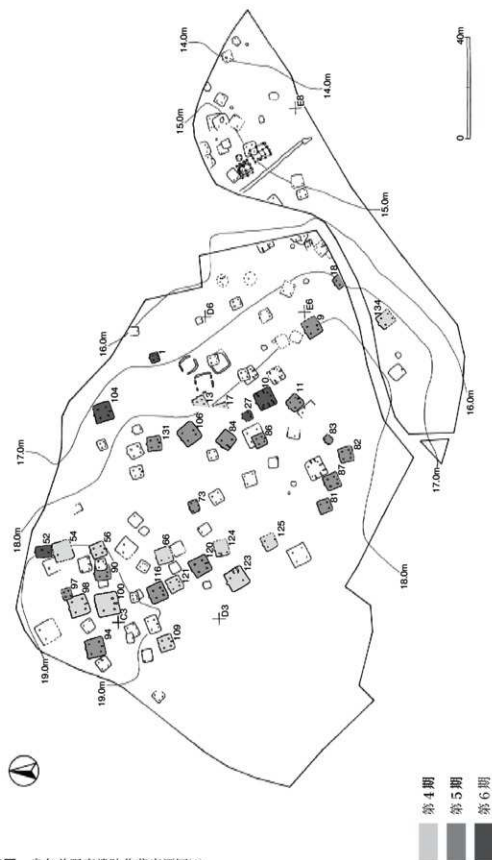
#### 第3期(5世紀後半)(第162図)

第191集で竪穴住居跡8軒、土坑1基、第215集で竪穴住居跡3軒、今回の調査区では竪穴住居跡7軒、土坑1基が該当する。大形住居跡は、第88・89・126号住居跡の3軒である。中形住居跡は、第7・20・53・60・61・85・96・99・108・110・111・118・132号住居跡の13軒である。小形住居跡は、第91・115号住居跡の2軒である。主な出土遺物は、土師器(坏、碗、埴、高坏、壺、甕、瓶)、土製品(支脚)、石製品(勾玉、管玉、白玉、双孔円板、剣形模造品)、ガラス製品(小玉)、炭化米である。本期も滑石製品が第20・85・88・126号住居跡から出土している。またガラス製小玉が第60・96・126号住居跡の3軒から出土している。

本期においても2軒の住居跡を1単位とするまとまりが北部において見られる。第60・61号住居跡、第53・91号住居跡、第89・99号住居跡は主軸方向を描え、約4～7mの間隔で位置しており、1単位のみと考えられる。第108・110・111号住居跡は北西部に位置し、第110号住居跡は長軸と短軸の差が約2mあり、各住居の形状が長方形である共通点を持っている。南部には約20mの間隔において3軒の大形住居跡が位置している。第88号住居跡は面積が56㎡を超える大形住居で、竪と竪が併設され、初期竪の形態を示している。床面から剣形模造品、双孔円板、管玉、白玉35個が出土した。第126号住居跡は面積が58㎡を超える大形住居で、床面からガラス小玉、双孔円板、剣形模造品とともに、102個の白玉が南西コーナー部の床面に集中して出土していることから、住居廃絶時に伴う祭祀行為が行われた可能性が考えられる。また、石製模造品を製作する過程で使用されたと考えられる砥石(Q259)や転用砥石として使用された土師器(793)も出土している。2軒の住居跡はほぼ同じ主軸方向であるが、出土土器や第88号住居跡が竪を持つ形態であることからわずかな時期差があり、第126号住居跡から第88号住居跡への作り替えが行われたと推測することができる。これらの2軒の大形住居跡は、出土遺物から祭祀的な性格を強く持っているとともに、当遺跡の有力者層の存在を想定させる住居跡と考えられる。

#### 第4期(6世紀前半)(第163図)

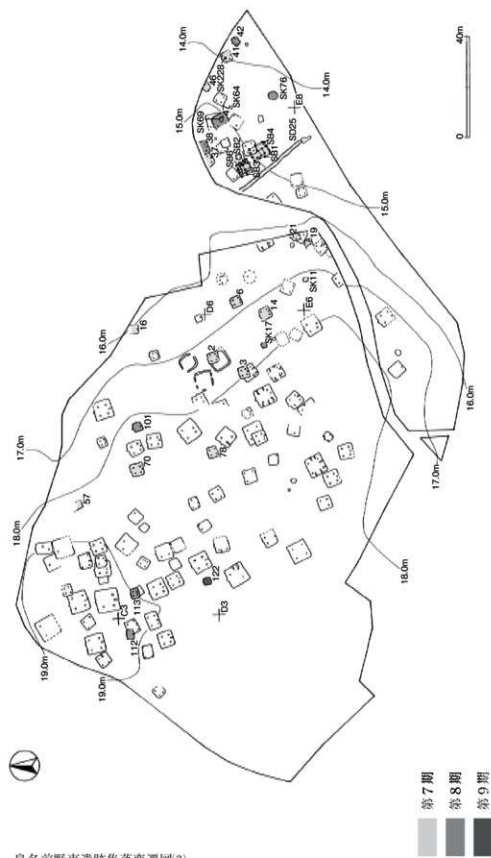
第191集で竪穴住居跡5軒、第215集で竪穴住居跡2軒、今回の調査区では竪穴住居跡6軒が該当する。大形住居跡は、第98・100・123号住居跡の3軒であり、中形住居跡は第13・17・54・56・66・109・121・124・125・134号住居跡の10軒である。主な出土遺物は、土師器(坏、碗、高坏、鉢、壺、甕、瓶、手捏土器)、土製品(勾玉、小玉、土玉、羽口)、石製品(白玉、紡錘車)、鉄製品(釘)、炭化種子である。住居跡はおおむね北西方向を主軸としており、竪が北壁中央部、貯蔵穴が北東コーナー部に構築され、主柱穴が4か所確認できる住居跡が多い。出入り口施設は南壁際中央に設けているものが一般的であり、第56・98・100・109号住居跡ではビット2か所を確認した。これらの住居跡は掘り込みが深いことから階段状の出入り



第163図 島名前野東遺跡集落変遷図(2)







第164図 島名前野東遺跡集落変遷図(3)

想定できる。掘立柱建物跡では重複関係から、掘立柱建物である第2号掘立柱建物跡を、総柱建物の第3号掘立柱建物跡が掘り込んでいることが判明している。第2号掘立柱建物跡は3×2間の掘立柱建物で、願箱を収納した「屋」と考えられる。第3号掘立柱建物跡は2×2間の総柱建物で、穀桶を納めた「倉」と考えられる。この時期に集落の成立とともに、東谷田川沿いに新たに水田が開かれたことが想定されることから、その収穫物を収納したものと考えられる。倉庫と考えられる掘立柱建物跡の存在は、律令体制の中で開拓集落として成立したこの時期の集落の性格を表付けるものと考えられる。

#### 第8期（8世紀後半）（第164図）

第191集で竪穴住居跡3軒、今回の調査区では竪穴住居跡3軒が該当する。第47号住居跡は1辺が約6mの規模の中形住居跡である。小形住居跡は、第38・42・101・112・113号住居跡の5軒である。本期を持って集落が消滅する傾向は、鳥名前野遺跡と共通である。河内郡のこの時期の集落の変遷については、9世紀以降も存続していく「継続型集落」と、この時期に消滅していく「短期型集落」に分類されている<sup>2)</sup>。本遺跡は「短期型集落」の分類に入るものであり、地域の拠点集落として継続していく鳥名熊の山遺跡に周辺の集落が吸収されていく可能性を指摘できる。

#### 第9期（9世紀）（第164図）

小形住居跡である第122号住居跡の1軒が該当する。出土遺物は土師器（坏、甕、瓶）、須恵器（坏、甕）である。遺跡内には、他に本時期の遺構は確認されていない。この後、13世紀に方形居館が成立するまで空白期間となる。

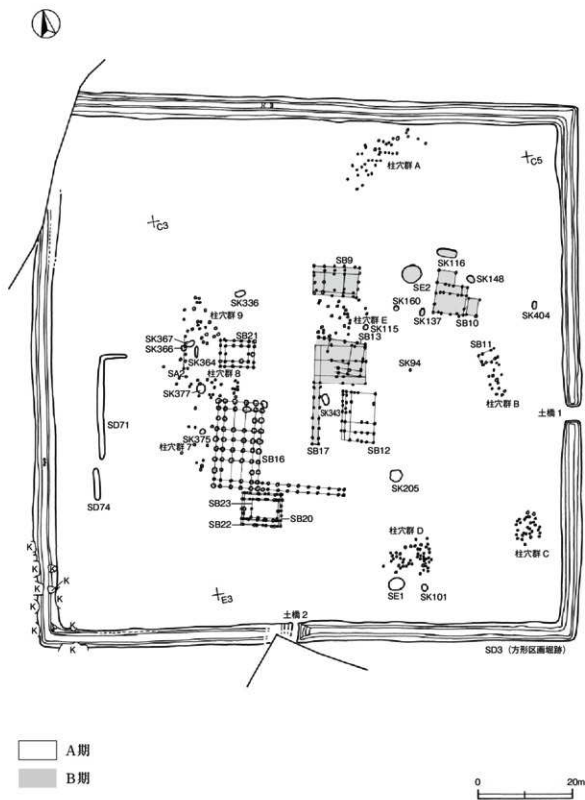
### 3 中世

今回の調査で、中世の方形居館跡（西館）の全容が明らかになり、1町四方の堀に囲まれた中に主屋と考えられる掘立柱建物跡が確認された。ここでは、方形居館跡（西館）を中心として、遺構の変遷や性格について検討したい。

#### (1) 西館A期（第165・166図）

西館の成立期である。1町四方の堀の中に第16号掘立柱建物跡を中心として規格性の高い掘立柱建物群が存在する。第3号溝跡（方形区画堀跡）、第16・20・21・22・23号掘立柱建物跡、第2号欄跡、第1号井戸跡、第71・74号溝跡、第101・205・336・343・364・366・367・375・377号土坑、第7～9号ビット群が該当する。

第16号掘立柱建物跡は桁行9間、梁行5間の総柱建物跡で、面積は190㎡と方形居館内で最大である。南妻には、桁行10間、梁行1間の中門廊の施設が付属している。これらの特徴から他の掘立柱建物跡よりも上位の上屋構造を持つ方形居館の主屋と考えられる。また、身舎の中央部の北妻から2間目の2か所と南妻から2間目の2か所には柱穴が確認されていない。このことから上屋構造を考えると、広間が作られていた可能性が想定できる。第16号掘立柱建物跡の中門廊の施設は、接続している主屋の桁行の長さとはほぼ等しい約18.0m（60尺）の長さである。この時期の寝殿造の系譜をひく建物、小野正敏氏により検討されている<sup>3)</sup>。同時期の中門廊を持つ館跡では、『法然上人給伝』にある美作因幡間時因館の中門廊が2間×1間、鎌倉市今小路西遺跡<sup>4)</sup>の南屋敷寝殿の中門廊が東南の2間×1間の突き出し部と想定されている。また、県南地域の中門廊を持つ建物跡としては、12世紀後葉と推定されるつくば市小泉館下層建物跡が挙げられる。小泉館下層建物跡では東側の主屋に、二本の廊下状の部分で7間×2間の中門廊と考えられる建物がつながっている。これらの館跡と比較すると第16号掘立柱建物跡の10間×1間の中門廊の



第165図 西館 全体図

施設の長さは特徴的である。さらに、第16号掘立柱建物跡の中門廊の施設は梁行が1.35m（4.5尺）と狭いことから、上屋構造を考えると、南平は板扉などで仕切られていたが、母屋に面する北平は開口されており見通しのきく空間が想定される。第16号掘立柱建物跡は桁行方向をN-13°-Eとする東面する建物で、北妻の延長線上約63m（210尺）には、第1号土橋跡が存在している。第16号掘立柱建物跡の南妻からは中門廊の施設が伸びており、中門廊の施設の先端から堀までの距離は約45m（150尺）である。

第21号掘立柱建物跡は第16号掘立柱建物跡の北側約6.5m（22尺）に位置し、桁行3間、梁行2間の側柱式の身舎に四面庇又は縁が付属した建物跡で、桁行方向をN-75°-Wとする東西棟である。第21号掘立柱建物跡の身舎の東妻と第16号掘立柱建物跡の身舎の西平は柱筋が合っている。このことから、第16・21号掘立柱建物跡は位置関係が計画的に決められており、主屋に対する「脇殿」的な性格を持っている建物と推定できる。

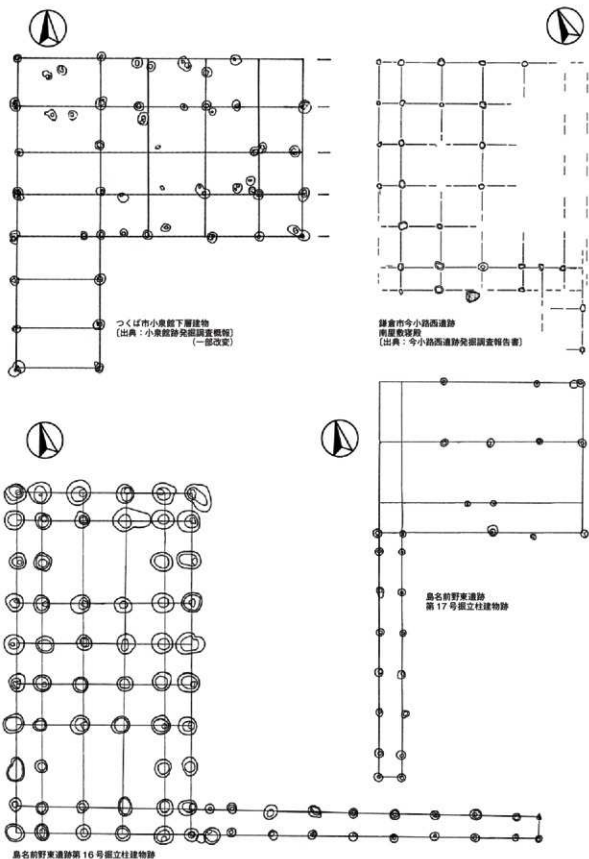
第20・22・23号掘立柱建物跡は、第16号掘立柱建物跡の南側のほぼ同じ場所に位置している。第23号掘立柱建物跡から第22号掘立柱建物跡へ、さらに第20号掘立柱建物跡へと、3回にわたり建て替えが行われたと推測される。建て替えにより南北に庇がついて規模が大きくなった第22号掘立柱建物跡は、第16号掘立柱建物跡と軒を接するようになることから、廊でつながっていた可能性が考えられる。中門廊の施設とともに主屋の南妻につながることを考えると侍邸的な機能が想定できる。

この時期の方形居館は、東側に最初から土橋として掘り残された第1号土橋跡を正門とし、門を入ると整地された広場が広がっている。その正面に主屋である第16号掘立柱建物跡を中心に主従関係を確認するための儀礼的空間としての「ハレ」の空間が広がっていたと考えられる。それに対し、掘立柱建物群の西側には、第1号堀跡との間に区画溝と考えられる第71・74号溝跡、第364・366・367・375・377号土坑、第7～9号ピット群が位置している。土坑とピット群の性格は明らかではないが、日常的空間としての「ケ」の空間が広がっていたと考えられる。

本期の遺物は、掘立柱建物跡から数点と方形区画堀跡の覆土下層から多量に出土している小皿・皿類が中心で、出土土器構成比率の95%を占める。小皿・皿類は手捏ね成形で丸底の器形のものが大半を占める。小皿の口径は7.4～8.4cm、皿の口径は11.5～13.3cmで、口縁部に2段ナデが入る。川村満博氏の分類<sup>2)</sup>によるⅡ期の範疇に入るものと考えられる。また、第22号掘立柱建物跡からは常滑産玉縁口緑壺（852）が出土しており、6b型式と考えられる。時期は、これらの出土土器から、13世紀後半から14世紀初頭と考えられる。

## (2) 西館B期（第165図）

南面する第17号掘立柱建物跡を中心として第9・10・13号掘立柱建物跡、第2号井戸跡、第94・115・116・137・148・160・404号土坑が該当する。第17号掘立柱建物跡は桁行5間、梁行3間の総柱建物跡で、桁行方向をN-78°-Eとする東西棟である。西妻には、桁行7間、梁行1間の中門廊の施設が付属しており、長さは129mで第16号掘立柱建物跡の約3分の2である。これらの特徴から南を正面とする時期の方形居館の主屋と考えられる。第17号掘立柱建物跡の西妻の延長線上に南の入口である第2号土橋跡が位置している。中門廊の施設の先端から第2号土橋跡までは、約39m（130尺）である。第17号掘立柱建物跡の北約9m（30尺）には、第9号掘立柱建物跡が位置している。第9号掘立柱建物跡は桁行5間、梁行4間の桁行方向をN-79°-Wとする東西棟である。広間的な間取りを持つことから対屋的な機能を持つと考えられる。第9号掘立柱建物跡の東16.5m（55尺）には第10号掘立柱建物跡が位置している。第10号掘立柱建物跡は第2号井戸跡が西約3.6mに位置しており、竈屋の可能性が考えられる。第11～13号掘立柱建



第166図 中門廊の施設を有する掘立柱建物跡 (S=1/200)

物跡は桁行方向や位置関係が合わないために、A・B期の想定からはずしてあるが、同時期に短期間で機能していた可能性も考えられる。

この時期の館は、南側の第2号土橋跡を正門とし、門を入ると整地された広場が広がっている。その正面に主屋である第17号掘立柱建物跡を中心に公的空間としての「ハレ」の空間が広がっていたと考えられる。それに対し、北側には日常的空間としての「ケ」の空間が広がっていたと考えられる。ここには、第404号土坑が位置し、同時期の小皿・皿類が出土している。出土土器はA期と同様に土師質土器小皿・皿が中心である。口縁部に2段ナデを有しているものが多く、川村編年のII期に入る。出土土器からはA期との時期差を見つけることは難しく、13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。遺構から時期差を考えると、この時期の正面の入り口と考えられる第2号土橋跡は最初木橋が架けられ、その後、版築地業により土橋に作り替えられており、ロームを掘り残して構築している第1号土橋跡との相違点が見られる。また、主屋と考えられる第17号掘立柱建物跡は、規模が小さい上に柱筋の通りが悪く、方形居館の成立時から主屋として機能していたとは考えにくい。これらのことから、B期は、A期に続く短期的な時期であると想定される。

### (3) 方形居館期以後 (165図・付図1)

西館が廃絶した後、方形居館とその周辺は大きく性格を変えていく。15世紀にはいと、西館の東約20mに東館が成立する。東館は第4号溝によって方形に区画されており、一辺約50mの区画内に第7・8号掘立柱建物跡が確認されている。第4号溝跡の南には第6・9号溝が平行して延びており、通路的な区画を構成している。通路の西の延長線上には第1号土橋跡が位置しており、さらに第1号土橋跡から道路が延びていたと考えられる。この時期には、堀の機能は失われているが、第1号土橋跡が通路として使用されていた可能性が推測される。方形居館の堀跡は一部埋戻されている部分もあったと推定されるが、完全に埋まっているわけではなかったと想定される。第1号土橋跡から北に向かって、方形区画堀跡と平行して第52・54号溝が延び、堀と溝に囲まれた通路的な区画を構成している。第52・54号溝は堀のコーナー部と平行して西方向に延びている。この部分に小規模な側柱建物の第14・15号掘立柱建物跡が位置している。

この時期には方形居館の南東部に第1号土橋跡と第2号土橋跡を入口として第36・72号溝に囲まれた方形の墓域が成立している。第72号溝は第368・370・371号土坑の3基の火葬土坑を掘り込んで成立する。墓域内には第1号竪穴状遺構、第1・2号地下式竈が確認されている。第36・72号溝の間には掘り残し部分があり、西からの入口と考えられる。墓域の北西コーナー部の外側には第35・46号溝が平行して延びており、通路的な区画を構成している。通路は方形区画堀跡の北の入口に向かっており、この時期にもこの場所が通路として使用されていたと想定できる。方形区画堀跡の覆土内から白磁口瓦枕(613)が出土しており、この時期の土器と考えられる。

### (4) 西館の性格について

西館の主屋と考えられる第16・17号掘立柱建物跡が中門廊の施設を持つ構造は、県内では当遺跡を含む筑波地域に見られるものである。小野正敏氏は「東国では、鎌倉期においては、これらの寝殿造りの系譜と考えられる発掘例を探しても、これまで筑波と鎌倉のトップクラスの例にしか確認されていない」<sup>13)</sup>としており、本館は、鎌倉の幕府勢力との繋がりも想定される館であると考えられる。

また、第16号掘立柱建物跡は、柱穴内に礎盤石を有することから、他の掘立柱建物跡より上位の上屋構造を持つことが想定できる。県南地域における柱穴内に礎盤石を持つ建物は、つくば市梶内山遺跡の第3・5・6・9号掘立柱建物跡<sup>14)</sup>、つくば市小泉館跡2～4期の掘立柱建物跡<sup>15)</sup>、神出遺跡の第9号掘立柱建物跡<sup>16)</sup>、土浦市神明遺跡の第11・12号掘立柱建物跡<sup>17)</sup>が確認されている。また、礎石建物としてはつく

表13 県南地域の柱穴内に礎盤石を持つ掘立柱建物跡

番号	遺跡名	遺構名	桁行方向	柱間幅 (桁×礎)	礎幅 (m)	面積 (㎡)	構造	桁行位置 (m)	東西位置 (m)	柱穴平面型	深さ (cm)	主な出土遺物	時期	備考 (所在地)
1	島名前野東遺跡	SB16	N-13°-E	9×5	15.01×6.42 15.91×9.16	96.36 190.41	礎柱 (西面表) 礎柱・礎石	1.36~ 2.30	1.30~ 2.16	円形、楕円形	16~68	土師質土器(小皿・皿)・ 礎石・小刀	13世紀後半~ 14世紀前半	つくば市島名
2	梶内山遺跡	SB3	N-73°-W	7×4	14.70×8.10	119.0	礎柱 (北面表)	2.00~ 2.10	2.00~ 2.10	円形、楕円形	24~48	土師質土器(小皿・皿)・ 陶器片(滑石製)・礎石	14世紀前半	つくば市梶内
3	梶内山遺跡	SB5	N-24°-E	4×2	8.90×4.20	37.4	礎柱	1.70~ 2.00	2.00~ 2.20	円形、楕円形	35~55	礎石	14世紀前半以降	*
4	梶内山遺跡	SB6	N-56°-E	2×1	2.06×2.00	6(1)	礎柱	1.50~ 1.97	2.00~ 2.30	円形、楕円形	23~58	礎石	14世紀前半以降	*
5	梶内山遺跡	SB9	N-3°-E	2×1	4.00×3.30	14.9	礎柱	2.00~ 2.30	3.30	円形、楕円形	26~49	礎石	14世紀前半以降	*
6	神出遺跡	SB9	N-2°-W	5×4	10.56×8.40	88.70	礎柱	2.10	2.10	円形、楕円形	15~42	陶器片(滑石製)・礎石	-	土浦市宮名
7	神明遺跡	SB11	N-86°-W	3×3	6.16×4.20	25.87	礎柱 (北面表)	1.20~ 1.92	1.30~ 1.80	円形、楕円形	23~45	元色滑石製・礎石	13世紀中葉~ 13世紀後半	土浦市宮名
8	神明遺跡	SB12	N-89°-W	3×3	6.14×4.20	25.79	礎柱 (北面表)	1.31~ 1.34	1.21~ 1.80	円形、楕円形	13~43	礎石	13世紀中葉~ 13世紀後半	*

ば市日向庵<sup>28</sup>、竜ヶ崎市長峰城跡の第1号虎口跡<sup>29</sup>が挙げられる。その中でも当遺跡の第16号掘立柱建物跡は最大級の面積を持つことから、公的機能を有する建物であったことが想定される。

西館の時期については、多量に出土した土師質土器小皿・皿や常滑産玉緑口緑磁などの出土土器から、13世紀後半から14世紀前半の短い期間の中で機能していたことが考えられる。13世紀の前半、当遺跡の所在する地域は「田中荘」として小田氏の勢力下に入っていたものと推定されている。その後、弘安8(1285)年の霜月騒動の中で小田氏の勢力が一時衰退する中で、田中荘は北条得宗家の勢力下に入ったとされる<sup>30</sup>。その時期に成立する西館は、北条得宗家の勢力下において田中荘を管理する機能を持つ「荘園政所」的な性格を持っていたものと考えられる。

堀の中から大量に発見される小皿・皿は「儀礼関係の確認」のために用いられたものであり、北条得宗家の勢力下で新しく生まれた支配体制を在地勢力に確認するための儀式に使用されたと推測される。使用された皿の胎土は、赤褐色系と灰白色系の2種類に大別できる。これは「京かわらけ」の「赤土器」・「白土器」の技法の流れを汲むものであると考えられる<sup>31</sup>。これらの土器は、当遺跡と京都や鎌倉の中央勢力との関係を確認できるものであると考えられるが、京都では赤土器・白土器が量的に伯仲する様相を呈しているのに対し、西館で確認された出土土器では約1:9の割合で灰白色系の皿が多く、赤褐色系の皿は少量である。

古代の集落が途絶えているこの地域に館が作られた理由については、島名熊の山遺跡との関連を考えた。島名熊の山遺跡は古墳時代、奈良・平安時代を通じて地域の拠点集落として継続し、中世に入ると土塁と堀を巡らした妙徳寺が開山されたことや、遺跡内の墓坑や地下式竈から和鏡4面、短刀が出土していることから、在地領主層ないし地方武士団の台頭が検討されている。この在地勢力を抑え、かつ新支配体制に組み込みながら田中荘の経営を行うために本遺跡の場所が選ばれたと考える。また、西館の東側には東谷田川があり、水上輸送を管理できる絶好の地であることも大きな理由であろう。当遺跡の北東、東谷田川と蓮沼川の合流点には「江戸」の地名があるが、地名や地形からこの地点周辺に津が設けられていた可能性を指摘したい。また、上流に位置している島名熊の山遺跡にも津があることが想定されており、島名熊の山遺跡周辺の取積物を運搬する水上輸送も管理できるのがこの地であったと考えられる。

元弘3(1333)年に鎌倉幕府が滅亡する中で北条得宗家の勢力は消滅するが、この時期に西館の機能が失われていくのは象徴的である。本遺跡から館の規模に相当する陶磁器類などの遺物がほとんど出土しないのは、幕府滅亡という大きな政治的変動の中で、この地域から北条得宗家の勢力が衰退することと関連があるのではないかと推測される。西館の盛衰は鎌倉時代末期から南北朝の動乱の時代にかけての時代背景と関連しており、当遺跡は地域の歴史の一端を垣間見ることが出来る貴重な遺跡といえる。



註

- 1) 寺門千壽 田原康司 梅澤貴司 「鳥名前野東遺跡 鳥名境松遺跡 谷田部遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第191集 2002年3月
- 2) 飯泉達司 「鳥名前野東遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第215集 2004年3月
- 3) 住居跡の規模の分類は1辺が7m以上の住居跡を大型住居跡、1辺が4～7mの住居跡を中型住居跡、1辺が4m以下の住居跡を小型住居跡とした。
- 4) 稲田義弘 「鳥名熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第190集 2002年3月
- 5) 稲田義弘 「前野遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第175集 2001年3月
- 6) 高野裕憲 「本宮本前山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第265集 2006年3月
- 7) 稲田義弘 「鳥名熊の山遺跡の様相について」『古代地方官衙周辺における集落の様相～常陸国河内郡を中心として』 茨城県考古学協会2005年2月
- 8) 註1に同じ
- 9) 佐々木義則 「河内郡の集落様相」『古代地方官衙周辺における集落の様相～常陸国河内郡を中心として』 茨城県考古学協会 2005年2月
- 10) 小野正敏 「中世武士の館、その建物系譜と景観～東国の事例を中心として」『考古学と中世史研究 1 中世の系譜 東と西、北と南の世界』 高志書院 2004年7月
- 11) 河野真知郎 宮田真 瀬田哲夫 清水菜穂 「今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書」 今小路西遺跡発掘調査団 1990年
- 12) 川村満博 「茨城県内出土の非ロクロ成形かわかけ編年案」『領域の研究～阿久津久先生還暦記念論集～』 2003年4月
- 13) 註10に同じ
- 14) 川村満博 島田和宏 「観内山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第199集 2003年3月
- 15) 山本賢一郎 大関武 「小泉館跡～発掘調査概報～」 茨城県つば市教育委員会 1989年3月
- 16) 黒澤春彦 桐谷優 高野浩之 土生附治 長谷川秀久「東出・神出・中居遺跡」 土浦市教育委員会 1999年10月
- 17) 酒井清治 駒澤大学考古学研究会「神明遺跡（第5次調査）」土浦市総合運動公園建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第9集 土浦市教育委員会 2005年3月
- 18) 増田精一他 「日向遺跡～昭和54・55年度発掘調査概報」 筑波町教育委員会 1981年
- 19) 小澤重雄 「長峰城跡（長峰遺跡・長峰古墳群）」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第184集 2002年3月
- 20) 谷田部の歴史編さん委員会 「谷田部の歴史」 谷田部町教育委員会 1975年9月
- 21) 中井淳史 「(弱い技術)としての中世土師器生産」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～ 発表要覧集』 全国シンポジウム 「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」 実行委員会 2005年9月

参考文献

- ・高橋一夫 広瀬和雄 「集落の形態」『古墳時代の研究』 2 集落と豪族居館 雄山閣 1994年6月
- ・石井進 「鎌倉時代の常陸国における北条氏所領の研究」『茨城県史研究』 15 茨城県史編さん委員会
- ・嶋崎祐輔 「筑波山周辺に宗教世界」『中世東国の世界』 北関東 高志書院 2003年12月
- ・『古代常陸国シンポジウム～常陸国風土記・国府・郡家』 古代常陸国シンポジウム実行委員会 2006年11月
- ・川村満博 「茨城県南部を中心に見た12世紀後半～15世紀のロクロ成形かわかけについて」『研究ノート』 12号 2003年6月
- ・『特別展 茨城の絵巻～一湯型絵から横山大観まで～』 茨城県立歴史館 1989年9月
- ・石橋充 広瀬幸一郎 「史跡 小田城跡～第48次調査（本丸跡確認調査Ⅳ）概要報告～」 つば市教育委員会 2004年3月

# 写 真 図 版

島 名 境 松 遺 跡

島 名 前 野 東 遺 跡



島名境松遺跡全景（南東から）



中央部完掘状況

PL2



第41号住居跡  
完掘状況



第41号住居跡  
遺物出土状況



第42号住居跡  
完掘状況

第43号住居跡  
完掘状況



第44号住居跡  
完掘状況



第45号住居跡  
完掘状況



PL4



第 710 号 土 坑  
完 掘 状 况



第 746 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况



第 1 号 溝 跡  
完 掘 状 况



SK41-196



SK41-197



SK746-210



SK746-211



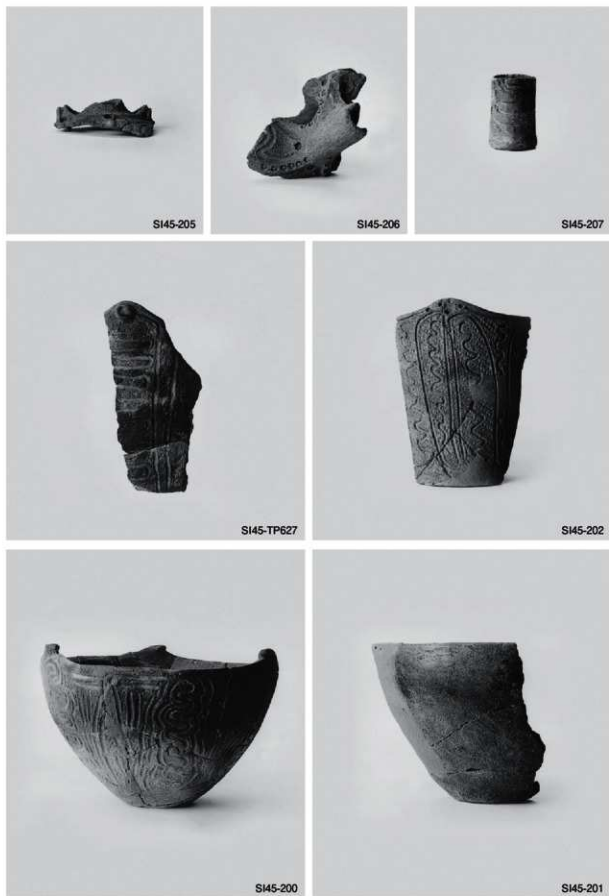
SK746-208



SK746-209

第41号住居跡，第746号土坑出土土器

PL6



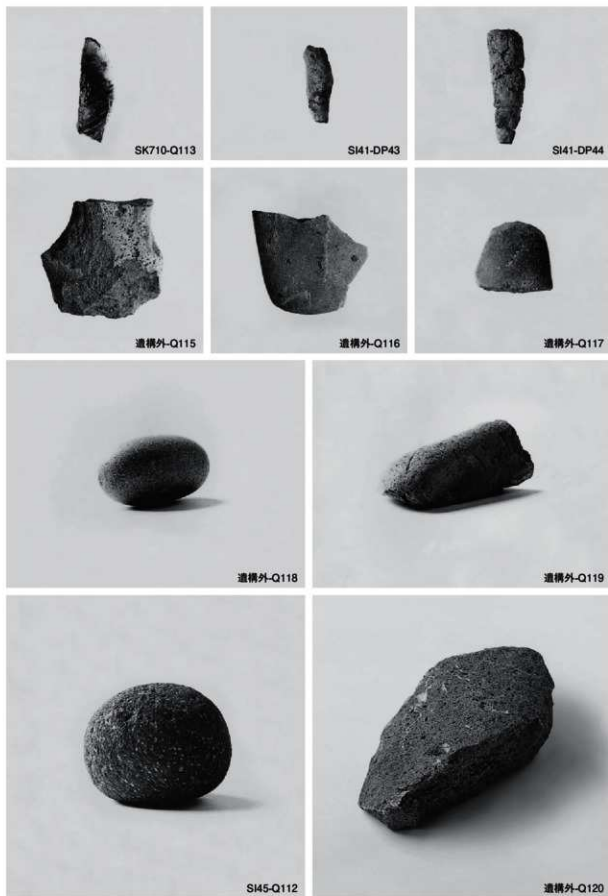
第45号住居跡出土土器





繩文土器

PL8



石器・石製品，土製品



平成15年度調査区完掘状況（北から）



平成16年度東区完掘状況（南から）

PL10



平成17年度調査区完掘状況（西から）



第3号溝跡（方形区画堀跡）土層断面（南中央から）

第71号住居跡  
第335号土坑  
完掘状況



第85号住居跡  
遺物出土状況



第105号住居跡  
遺物出土状況



PL12



第107号住居跡  
完掘状況



第108号住居跡  
完掘状況



第110号住居跡  
完掘状況

第111号住居跡  
完掘状況



第114号住居跡  
遺物出土状況



第115号住居跡  
遺物出土状況



PL14



第118号住居跡  
完掘状況



第126号住居跡  
完掘状況



第132号住居跡  
完掘状況



第66号住居跡  
完掘状況



第84号住居跡  
完掘状況



第84号住居跡  
遺物出土状況



PL16



第86号住居跡  
完掘状況



第106号住居跡  
完掘状況



第109号住居跡  
完掘状況



第116号住居跡  
遺物出土状況



第120号住居跡  
完掘状況



第120号住居跡  
遺物出土状況

PL18



第121号住居跡  
完掘状況



第123号住居跡  
完掘状況



第123号住居跡  
遺物出土状況



第124号住居跡  
完掘状況



第124号住居跡  
遺物出土状況



第131号住居跡  
完掘状況

PL20



第131号住居跡  
遺物出土状況



第134号住居跡  
遺物出土状況



第101号住居跡  
完掘状況



第112号住居跡  
完掘状況

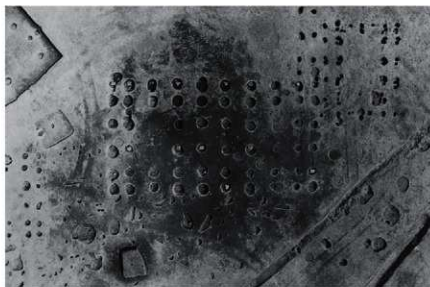


第113号住居跡  
完掘状況



第122号住居跡  
完掘状況

PL22



第16号掘立柱建物跡  
完掘状況



第16号掘立柱建物跡  
(中門廊の施設)  
完掘状況



第16号掘立柱建物跡  
確認状況





第17号掘立柱建物跡  
(中門廡の施設)  
完掘状況



第21号掘立柱建物跡  
完掘状況



第20・22・23号  
掘立柱建物跡  
完掘状況

PL24



第3号溝跡(方形区画堀跡) 完掘状況 (南中央から)



第3号溝跡(方形区画堀跡) 完掘状況 (南西から)



第58・69号溝跡完掘状況 (南東から)



第67号溝跡完掘状況 (南西から)

第3号溝跡  
(方形区画堀跡)  
ピット完掘状況



第3号溝跡  
(方形区画堀跡)  
遺物出土状況(南部)



第3号溝跡  
(方形区画堀跡)  
土層断面(Gライン)



PL26



第71号溝跡  
遺物出土状況



第74号溝跡  
遺物出土状況



第10号ビット群  
完掘状況

第 416 号 土 坑  
完 掘 状 况



第 336 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况



第 342 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况



PL28



第343号土坑  
遺物出土状況



第349号土坑  
完掘状況



第365~367号土坑  
遺物出土状況



PL30

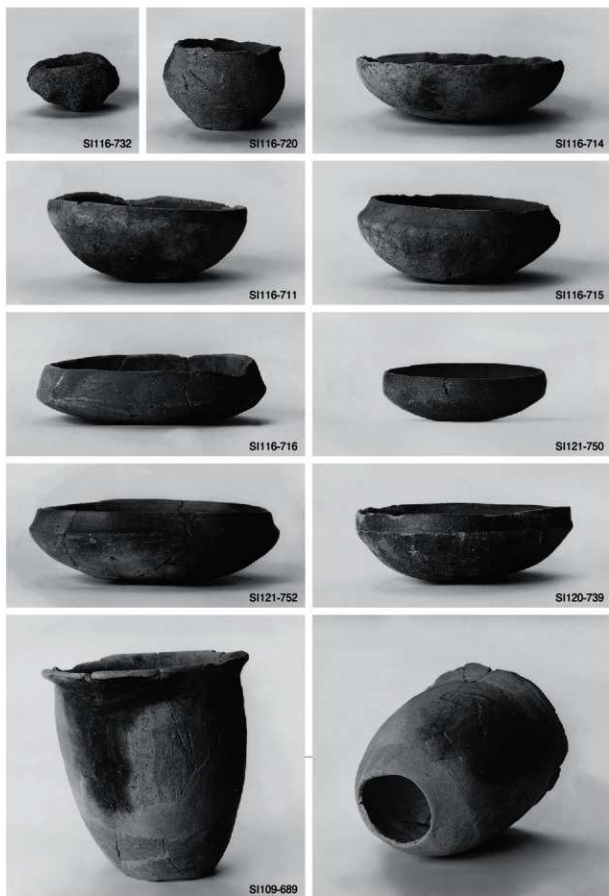


第85・106・110・126号住居跡出土土器





PL32



第109·116·120·121号住居跡出土土器



PL34



第123・124・125号住居跡出土土器

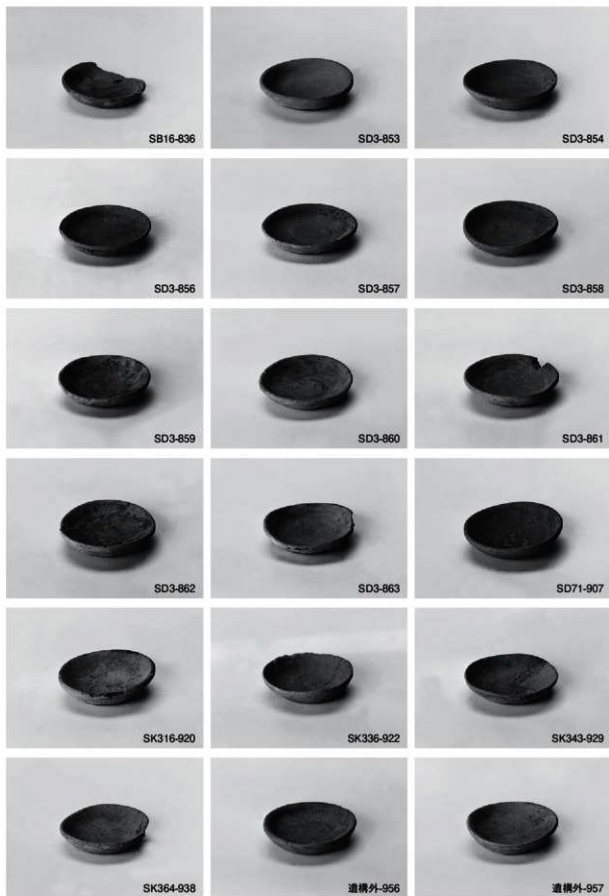


第123号住居跡出土土器

PL36



第125・131号住居跡出土土器



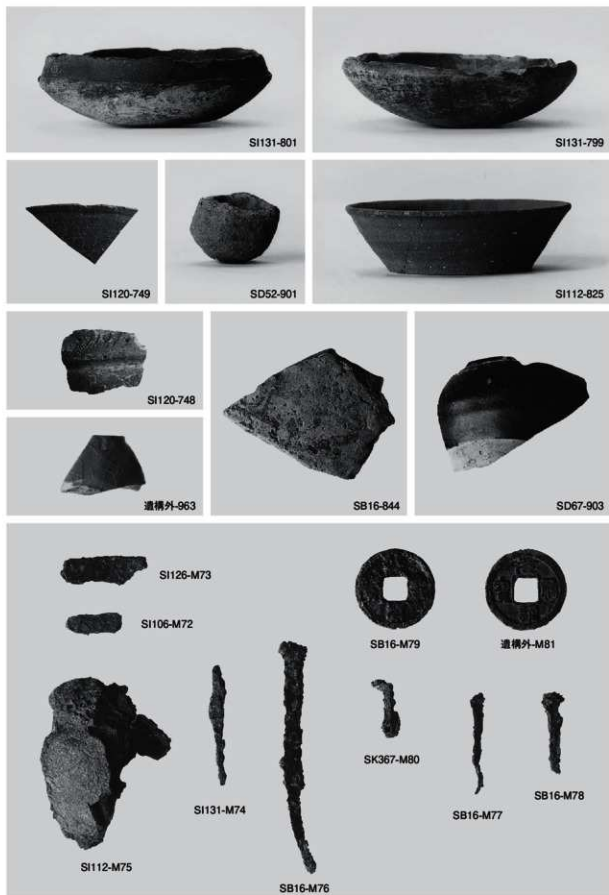
土師質土器 小皿

PL38



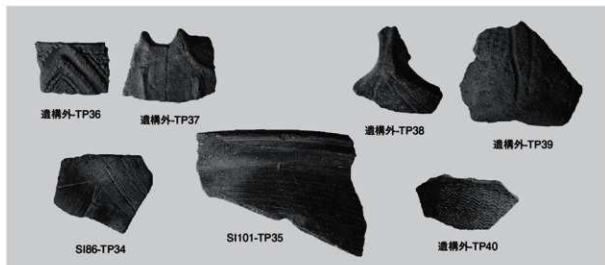
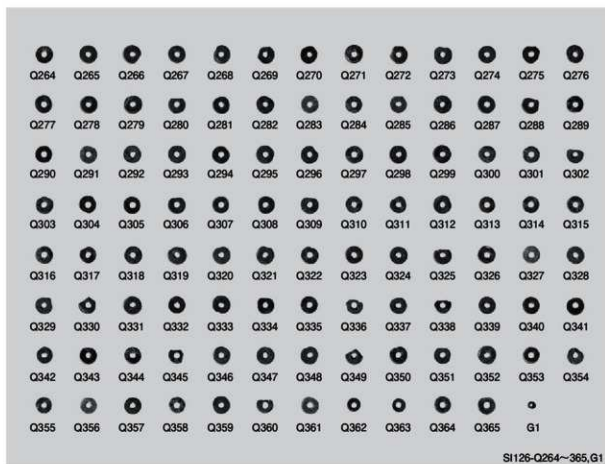
土師質土器 皿





土師器，須恵器，墨書土器，陶磁器，金属製品





縄文土器, 土師器, 須恵器, 石器, 石製品, ガラス製品

PL42



第16号掘立柱建物跡礎盤石

茨城県教育財団文化財調査報告第281集

**島名境松遺跡  
島名前野東遺跡**

島名・福田坪一体型特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ

平成19(2007)年3月19日 印刷

平成19(2007)年3月23日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587

印刷 株式会社 あけほの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号  
TEL 029-227-5505